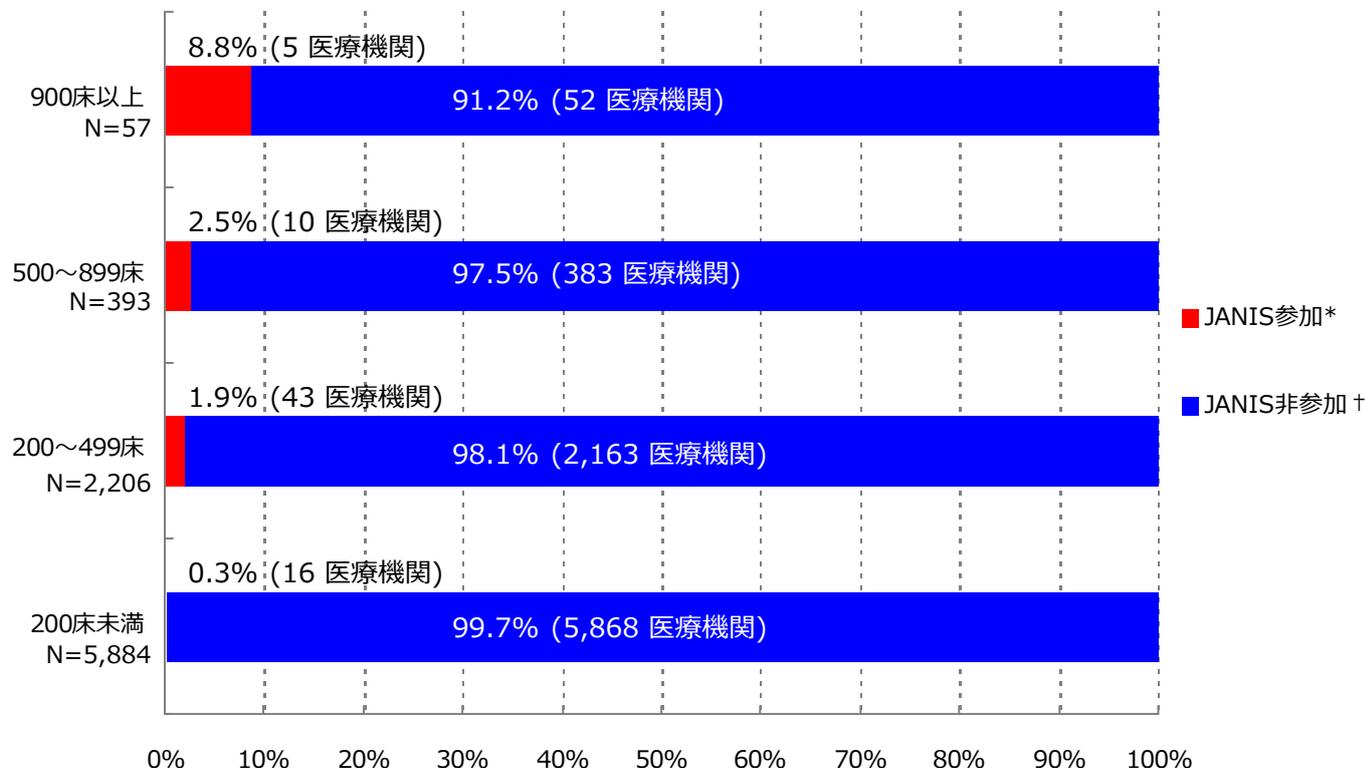




### 1. 集計対象医療機関数(74医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |
|----------|-----------------|---|
| 900床以上   | 57              | 5 ( 8.8% )                              |
| 500～899床 | 393             | 10 ( 2.5% )                             |
| 200～499床 | 2,206           | 43 ( 1.9% )                             |
| 200床未満   | 5,884           | 16 ( 0.3% )                             |
| 病床数不明    | -               | 0 ( - )                                 |
| 合計       | 8,540           | 74 ( 0.9% )                             |

† 平成25年医療施設 (動態) 調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 74        | 29,508 | 18,702<br>(35,726) |
| 尿検体    | 73        | 11,111 | 5,876<br>(8,969)   |
| 便検体    | 73        | 8,215  | 3,744<br>(7,048)   |
| 血液検体   | 73        | 26,355 | 3,249<br>(3,669)   |
| 髄液検体   | 45        | 982    | 65<br>(78)         |
| その他    | 71        | 13,143 | 6,619<br>(11,585)  |
| 合計     | 74        | 89,314 | 38,255<br>(67,075) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

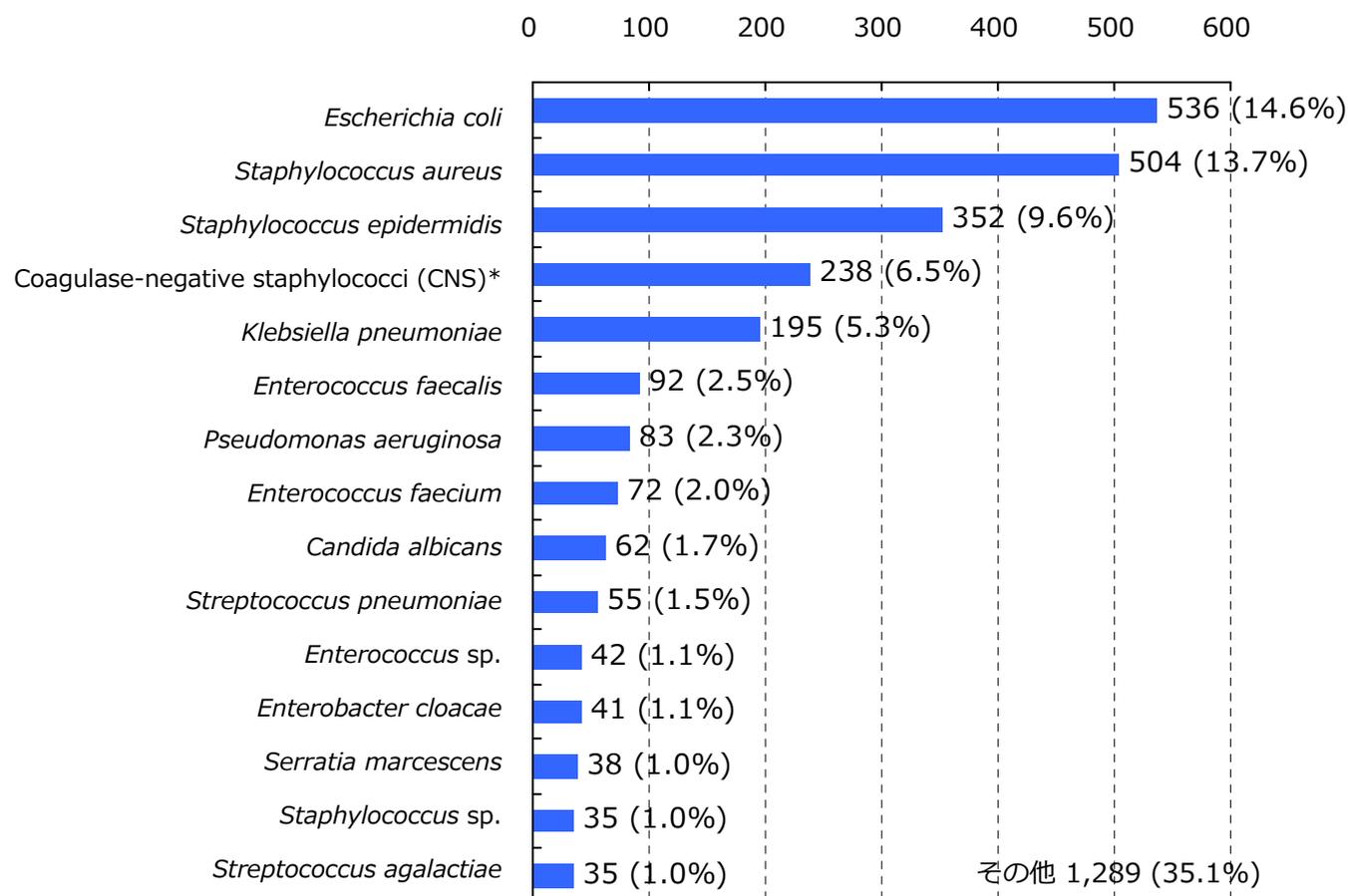
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=3,669)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

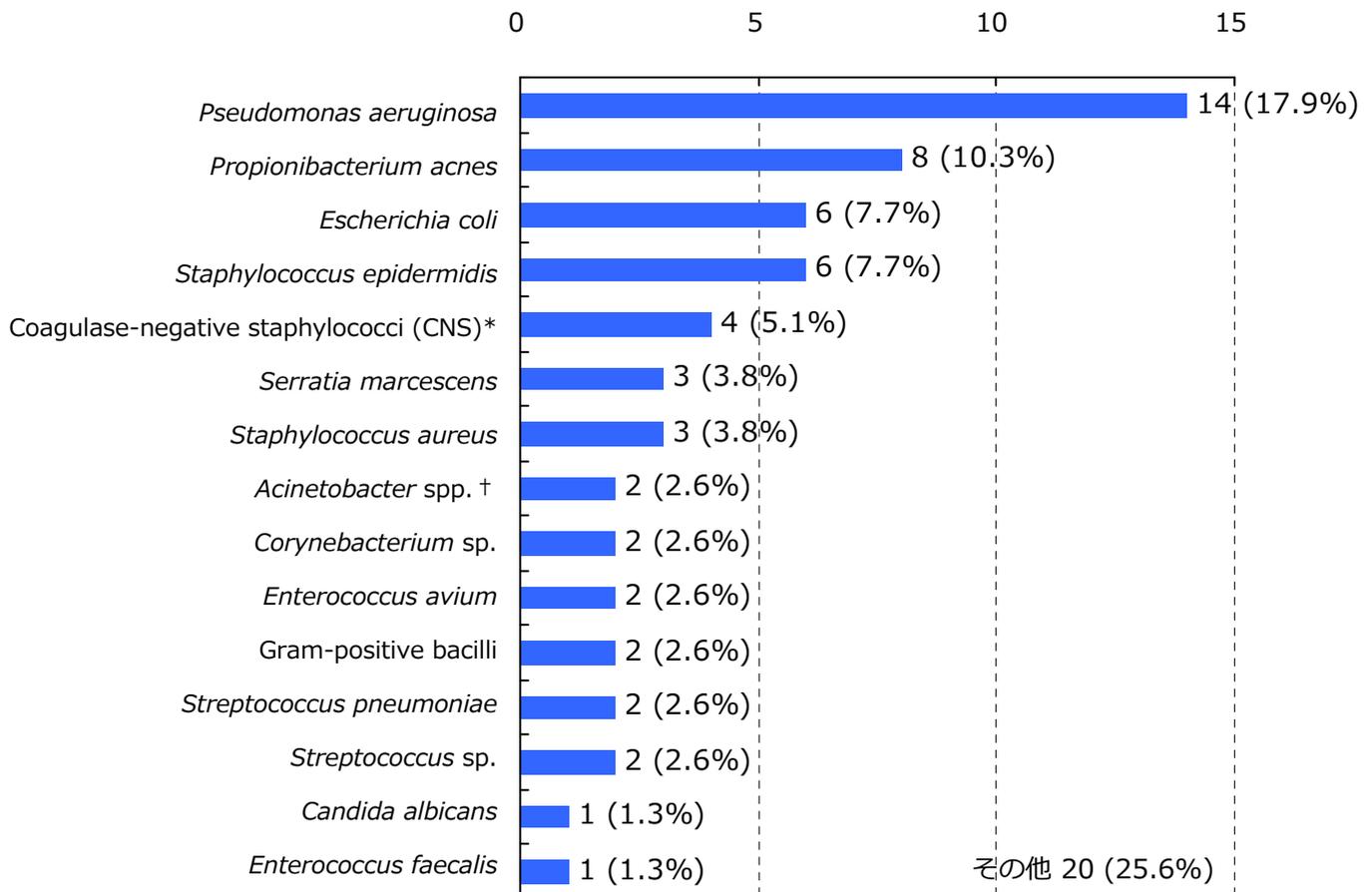
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=78)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数                | 31,986人                |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 3,047人<br>(9.53%)      | 0.00 10.13 30.56        |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 33人<br>(0.10%)         | 0.00 0.00 3.50          |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 254人<br>(0.79%)        | 0.00 0.22 5.53          |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 20人<br>(0.06%)         | 0.00 0.00 0.85          |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 1人<br>(0.00%)          | 0.00 0.00 0.94          |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 126人<br>(0.39%)        | 0.00 0.00 3.13          |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 303人<br>(0.95%)        | 0.00 0.63 6.06          |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 194人<br>(0.61%)        | 0.00 0.06 5.65          |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 859人<br>(2.69%)        | 0.00 2.05 15.61         |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 1,450人<br>(4.53%)      | 0.00 4.70 20.41         |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

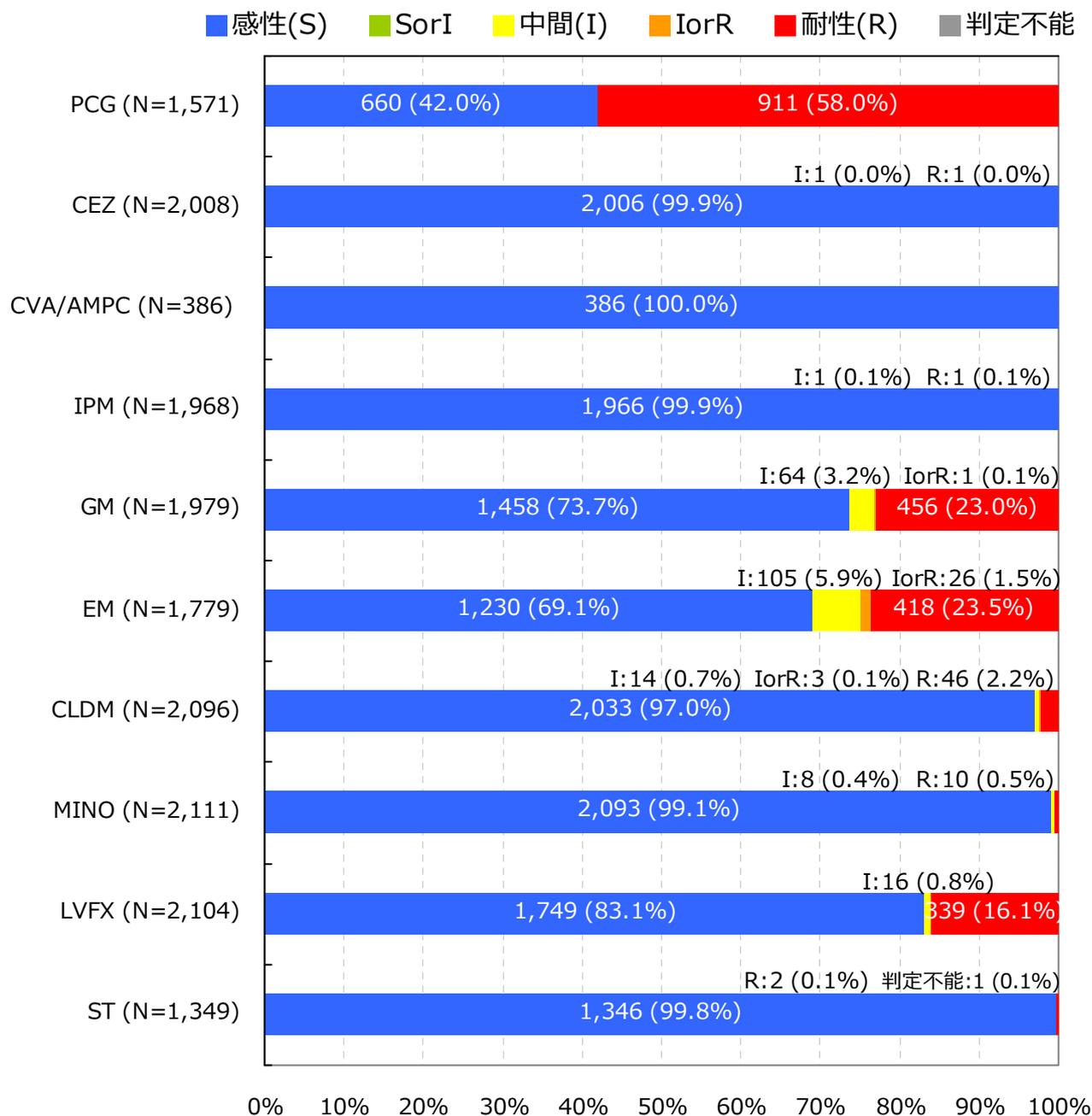
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

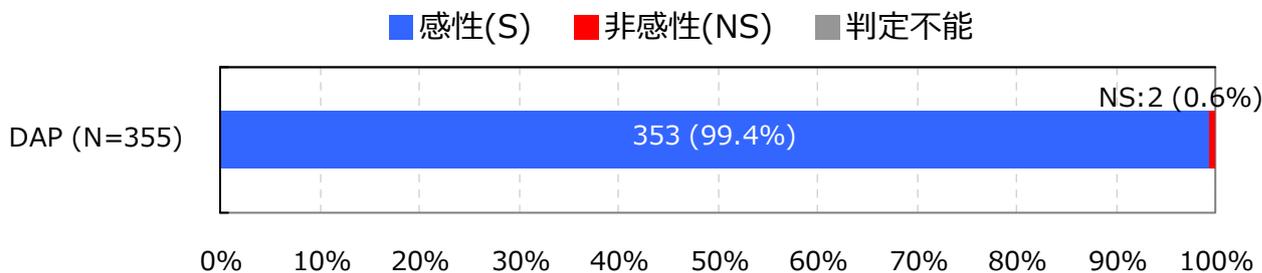
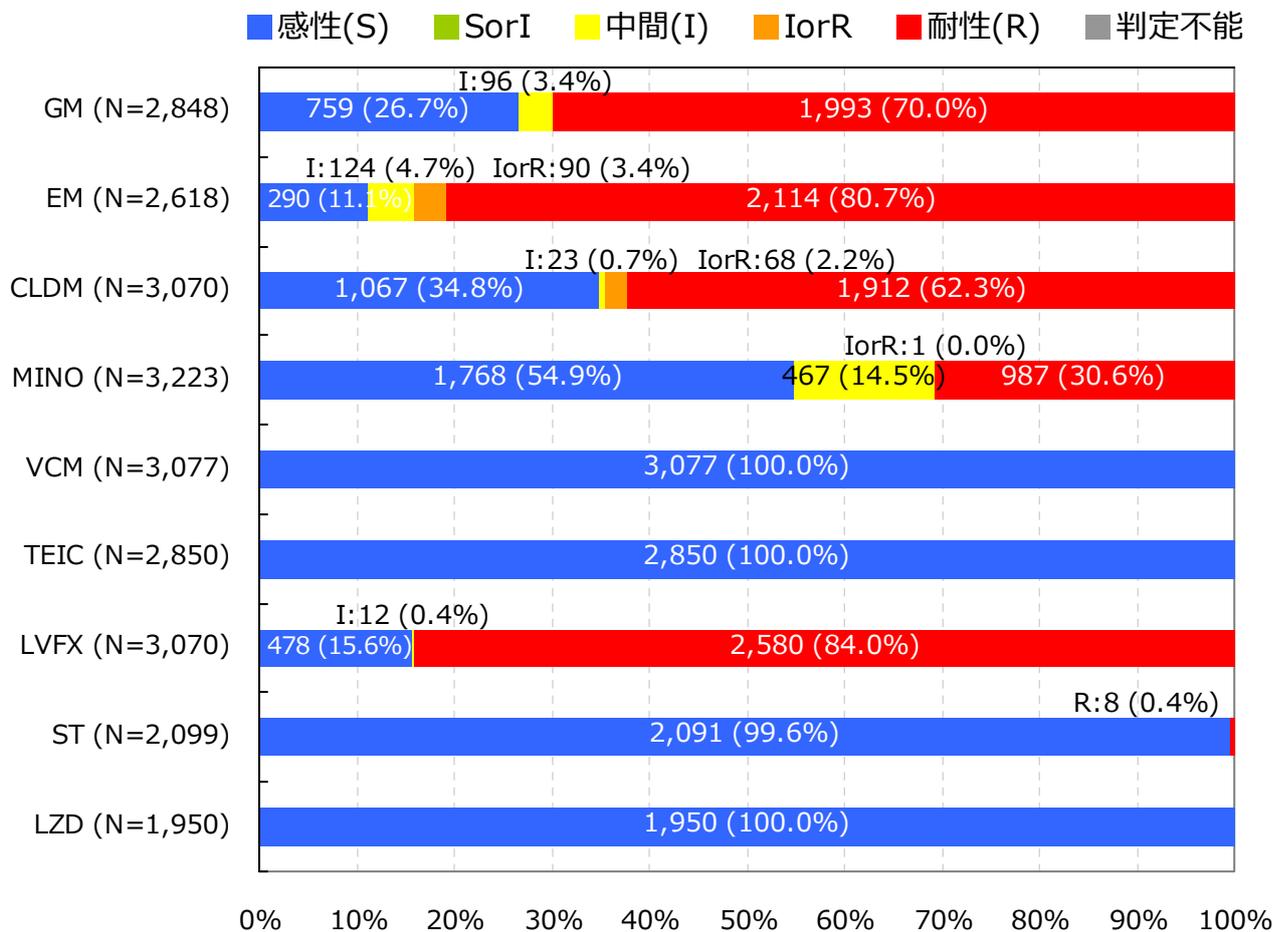
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

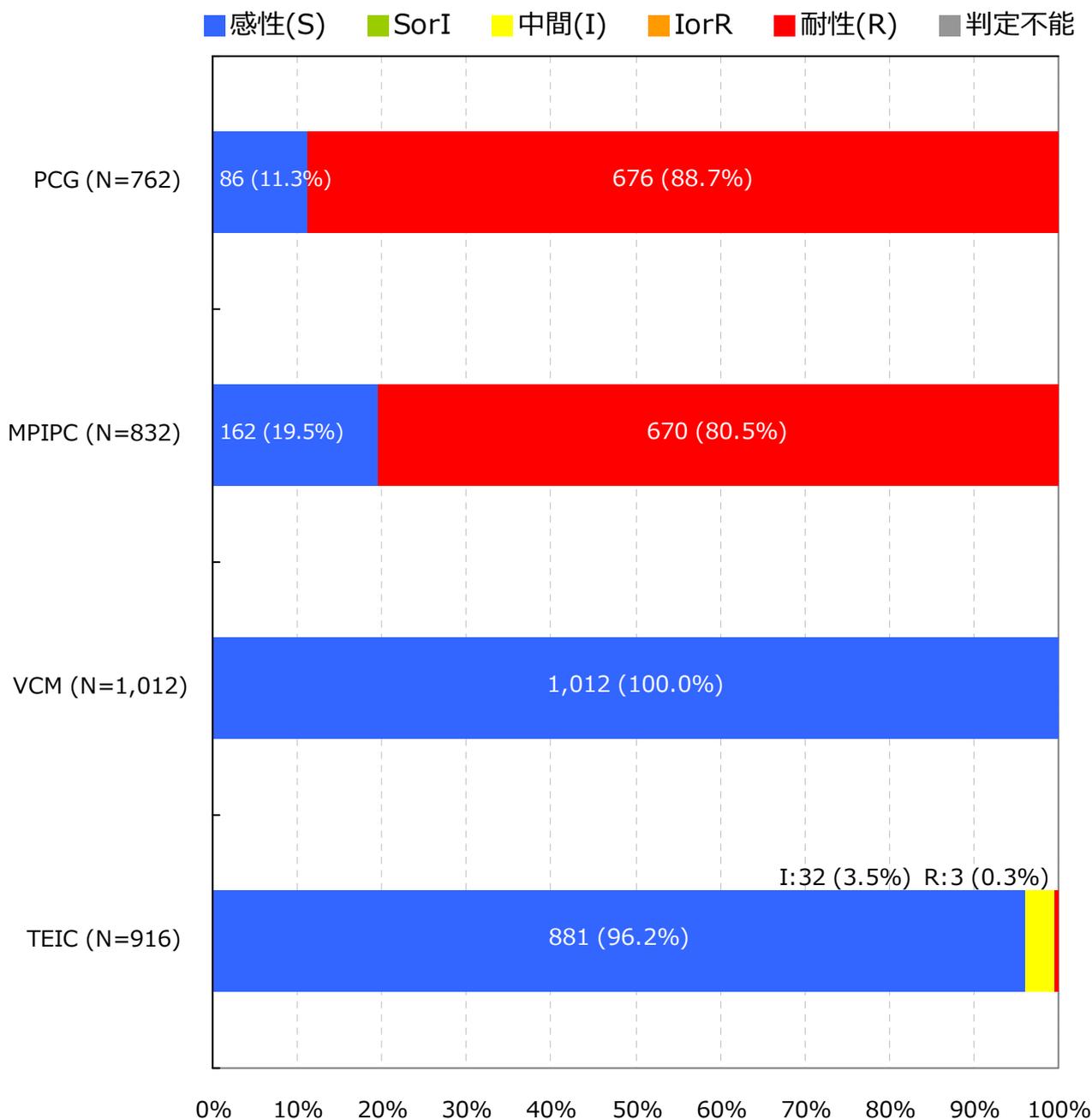
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

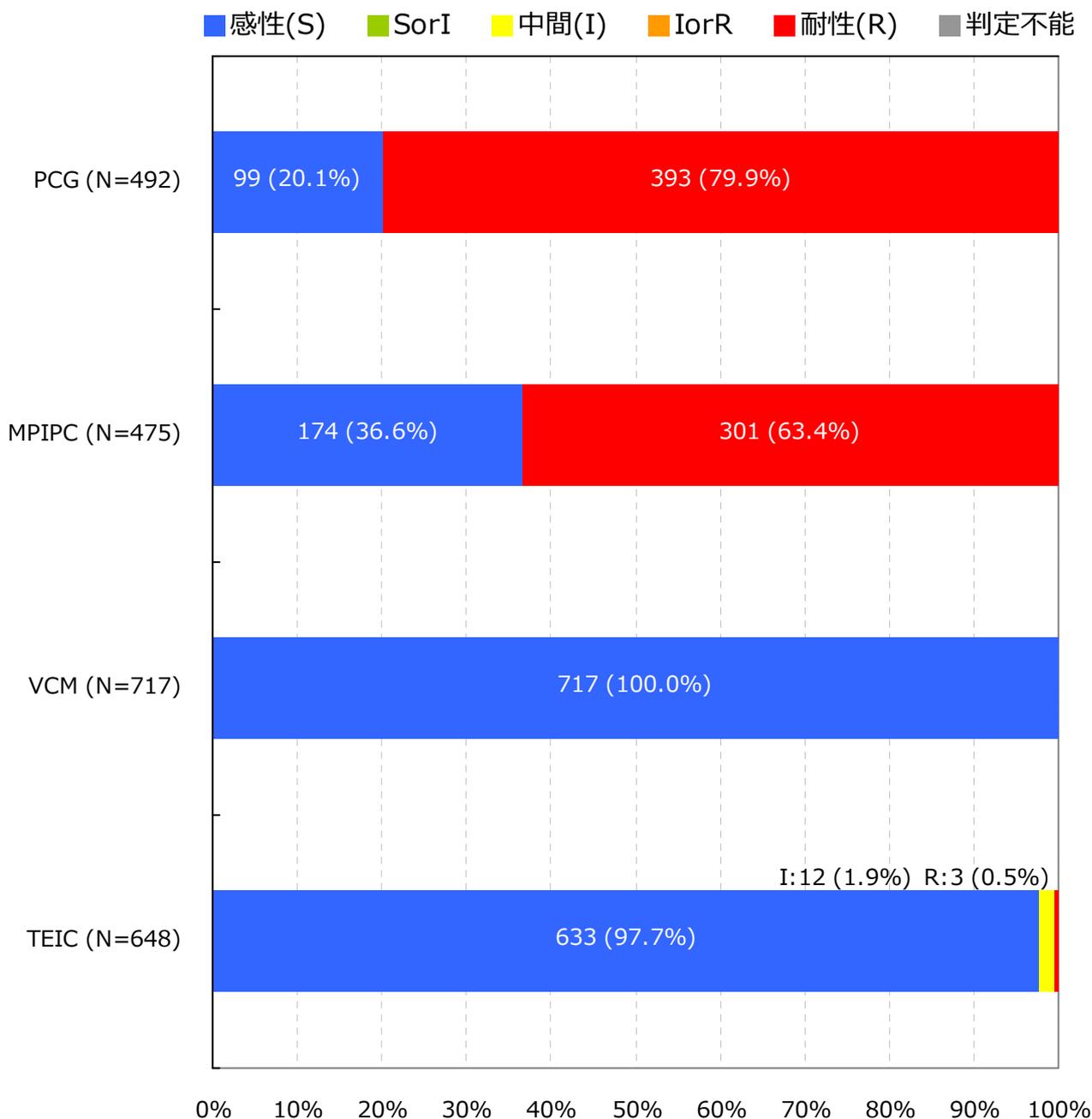
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

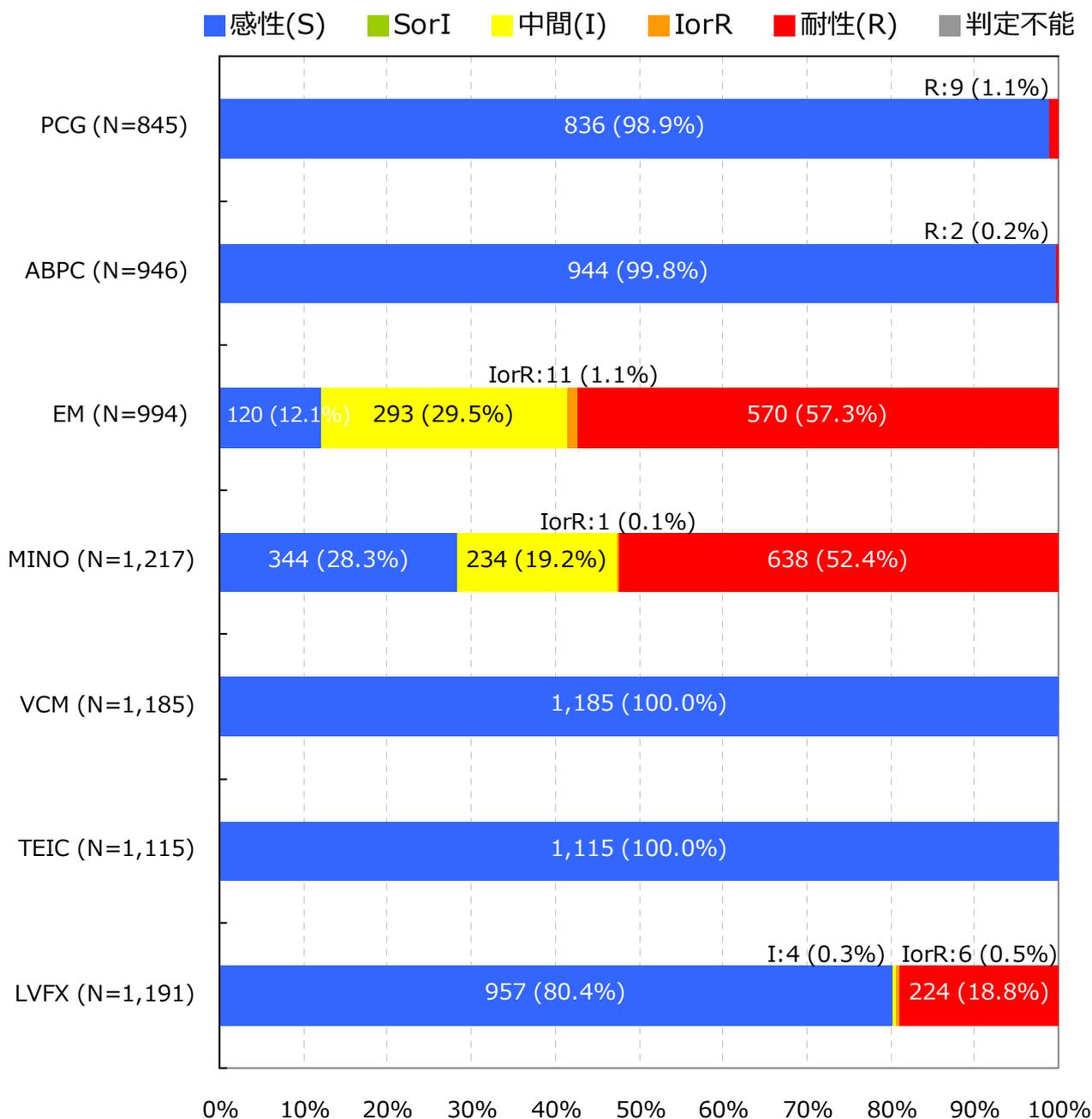
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

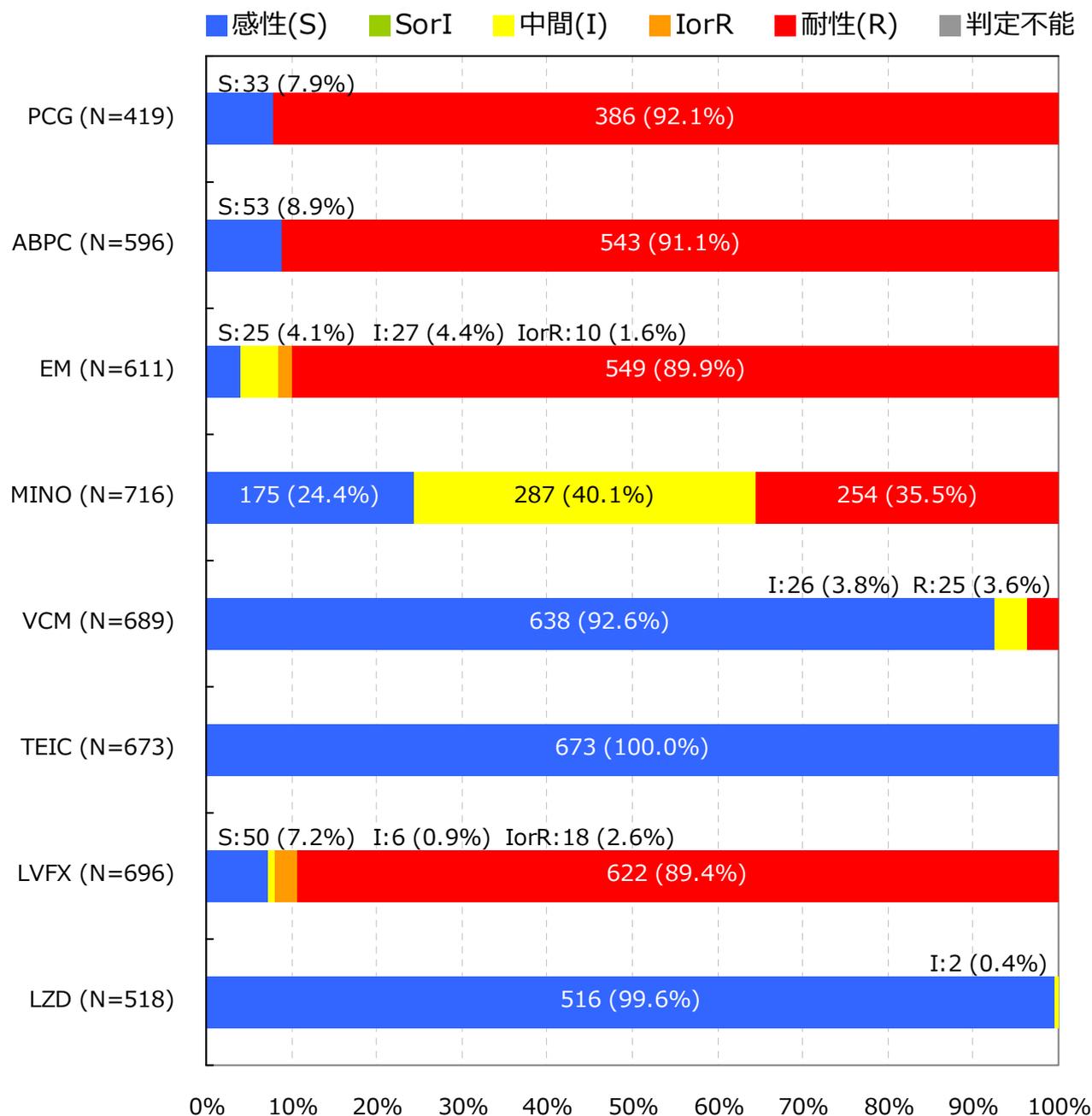
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

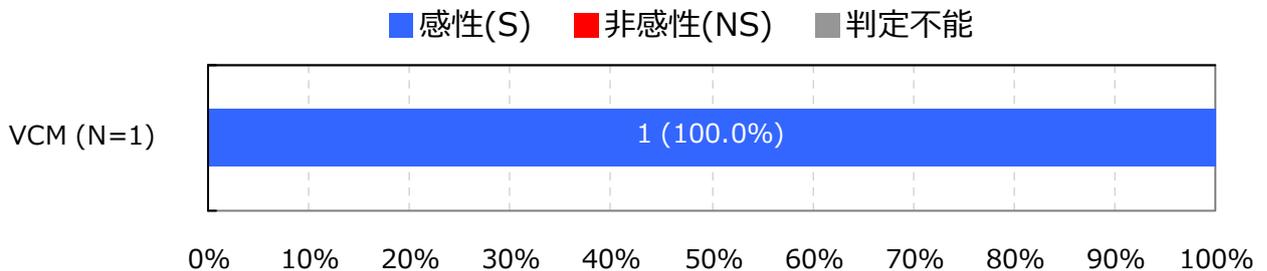
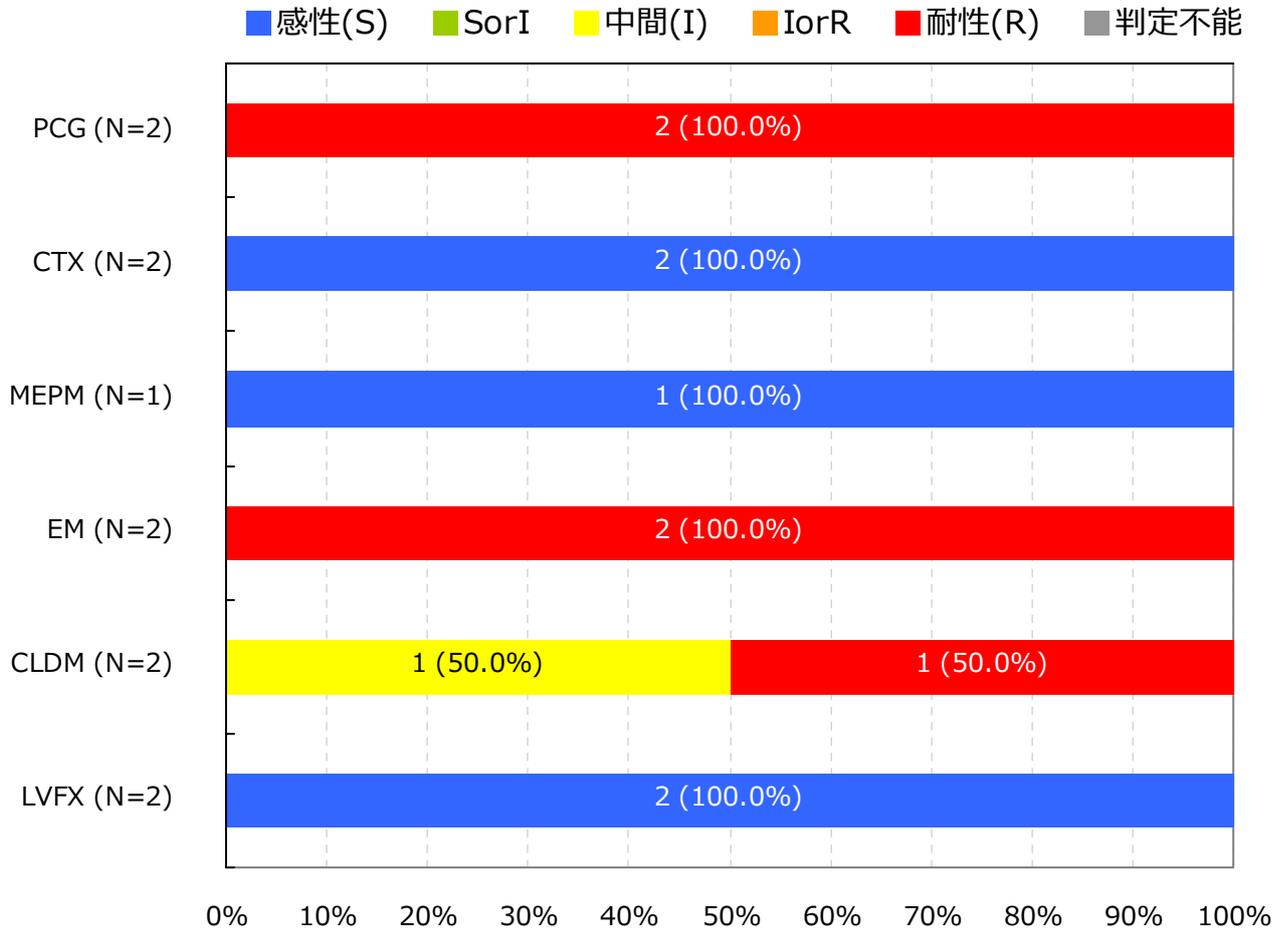
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



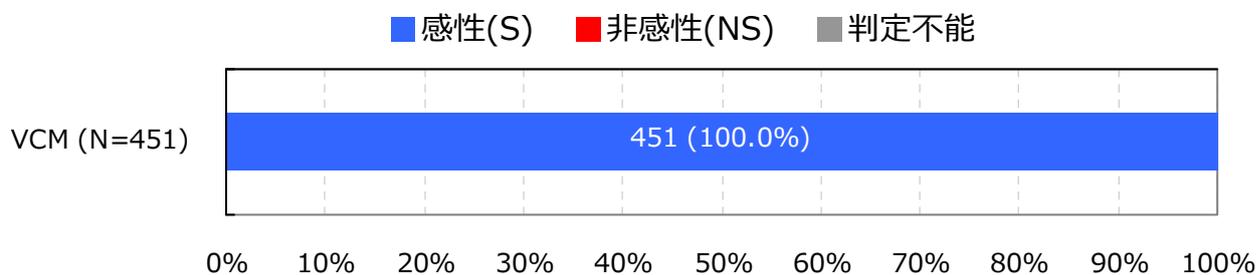
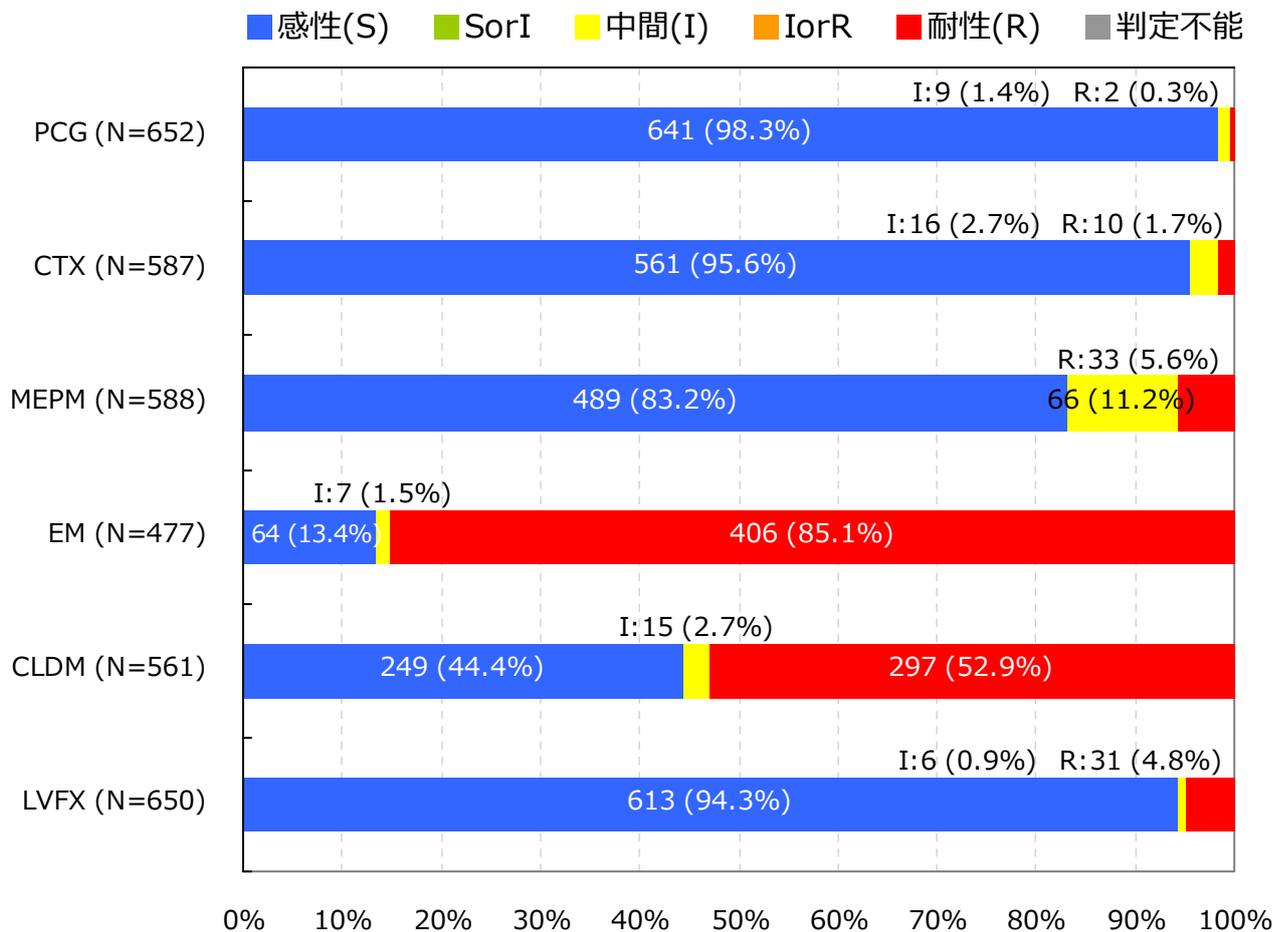
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

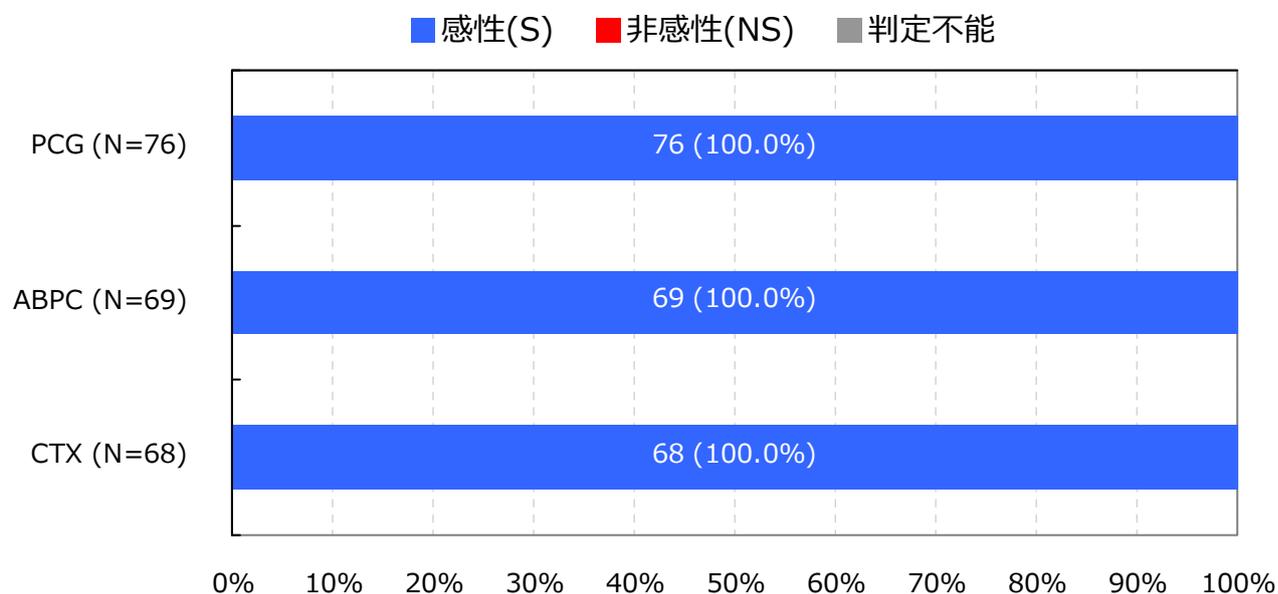
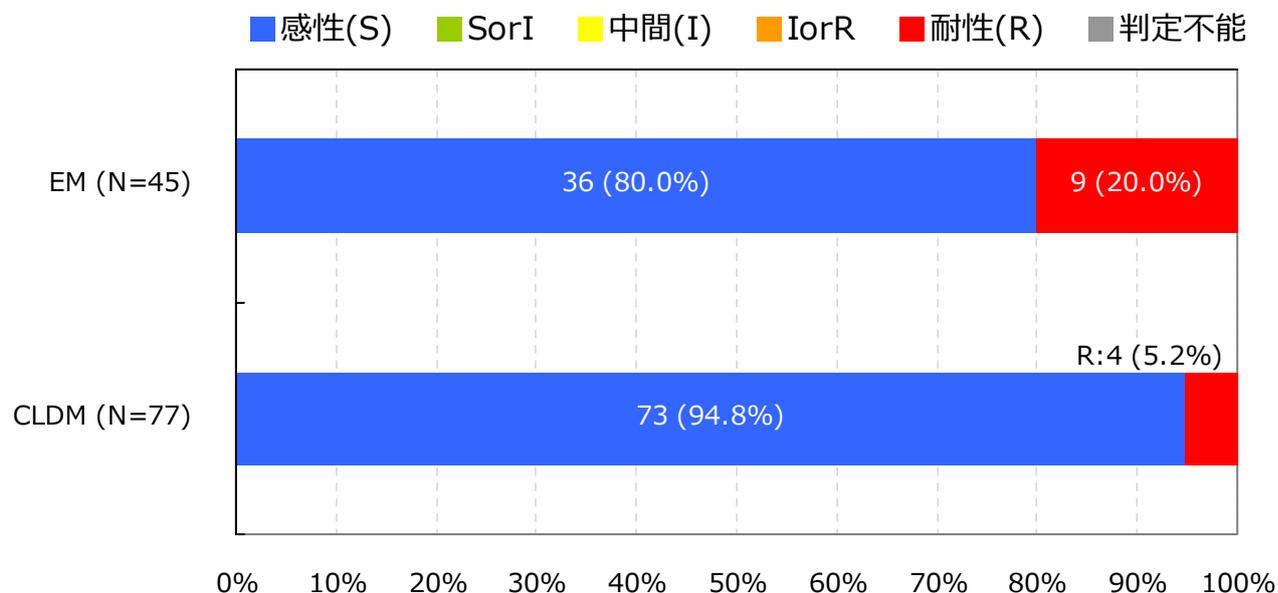
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

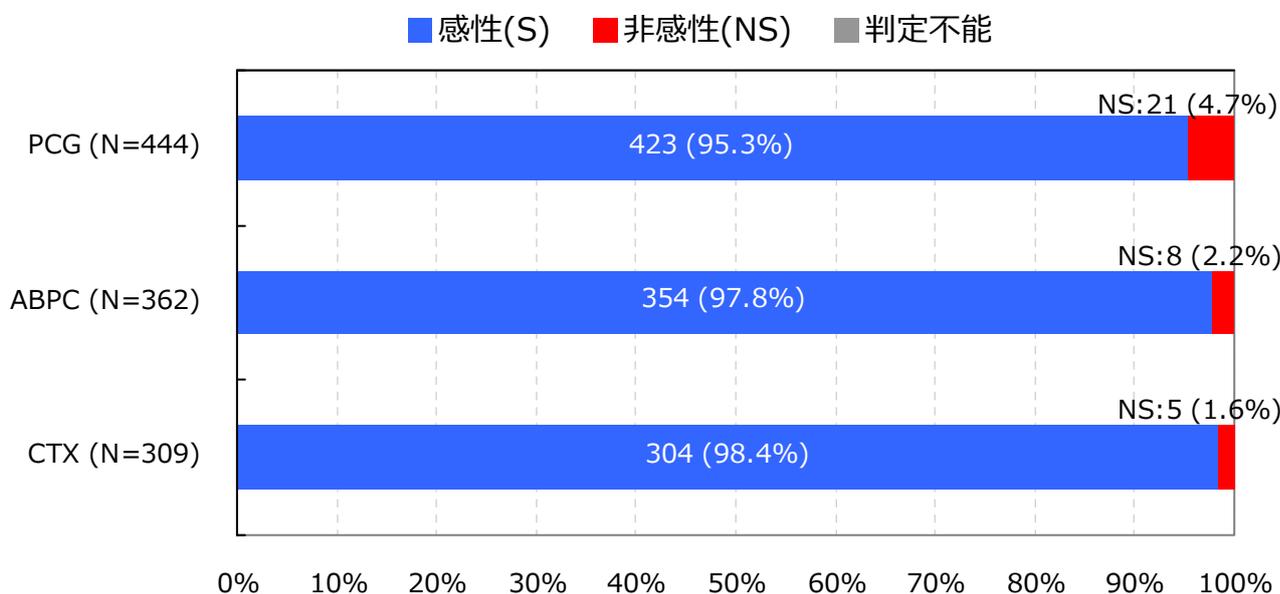
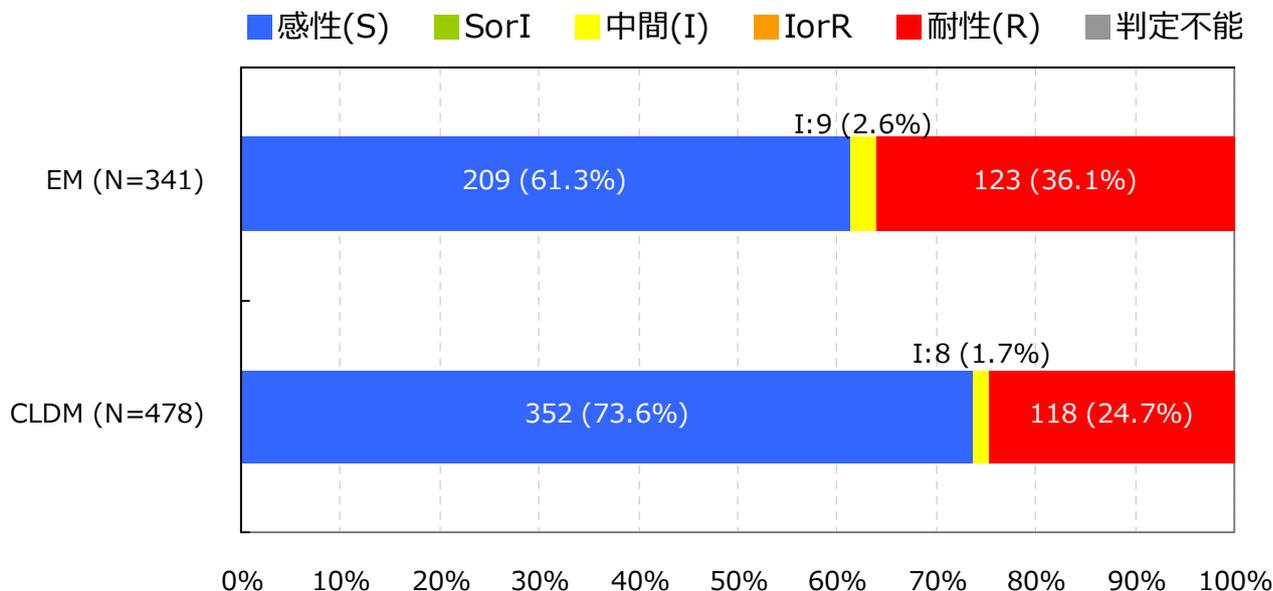
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

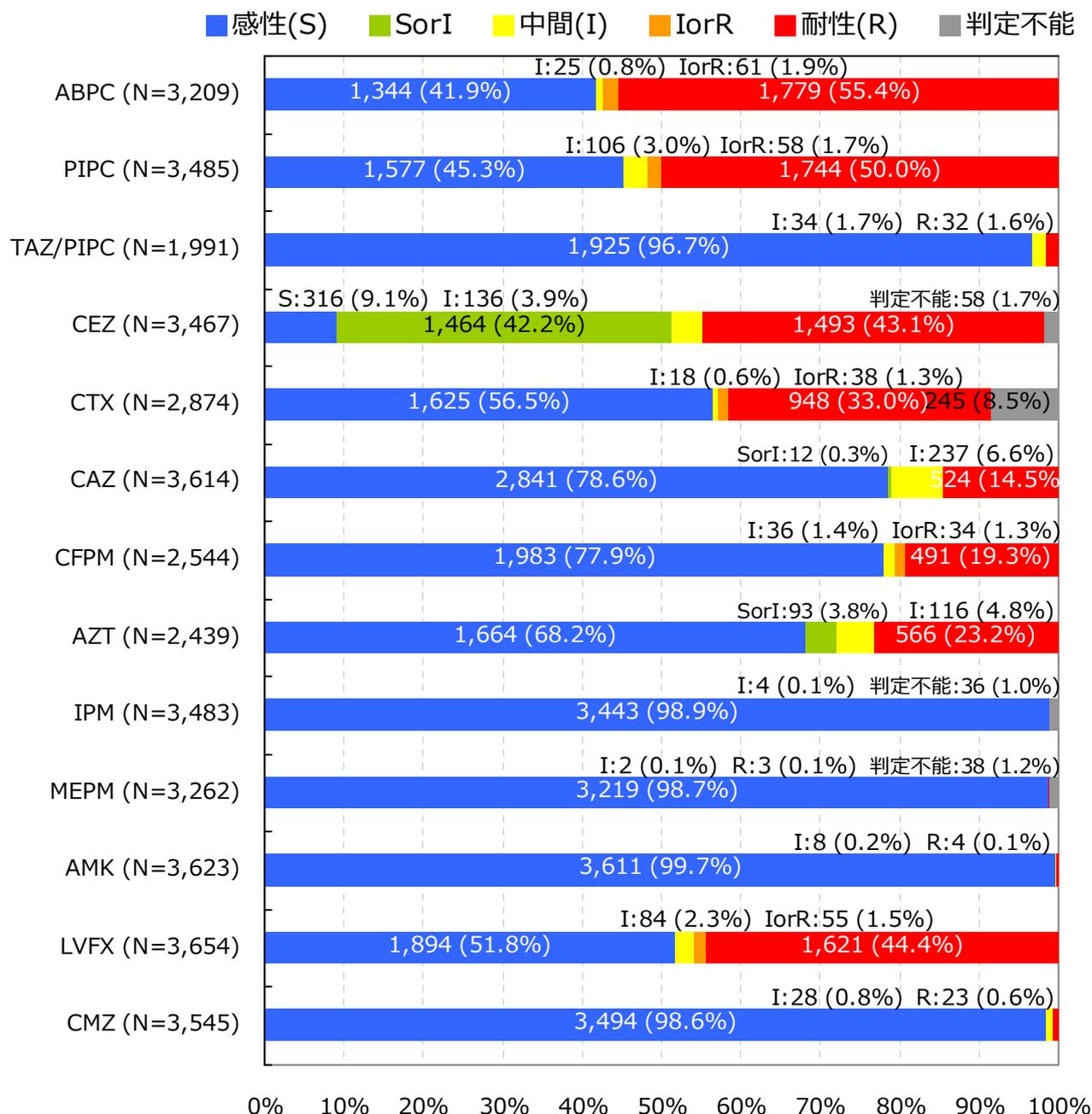
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

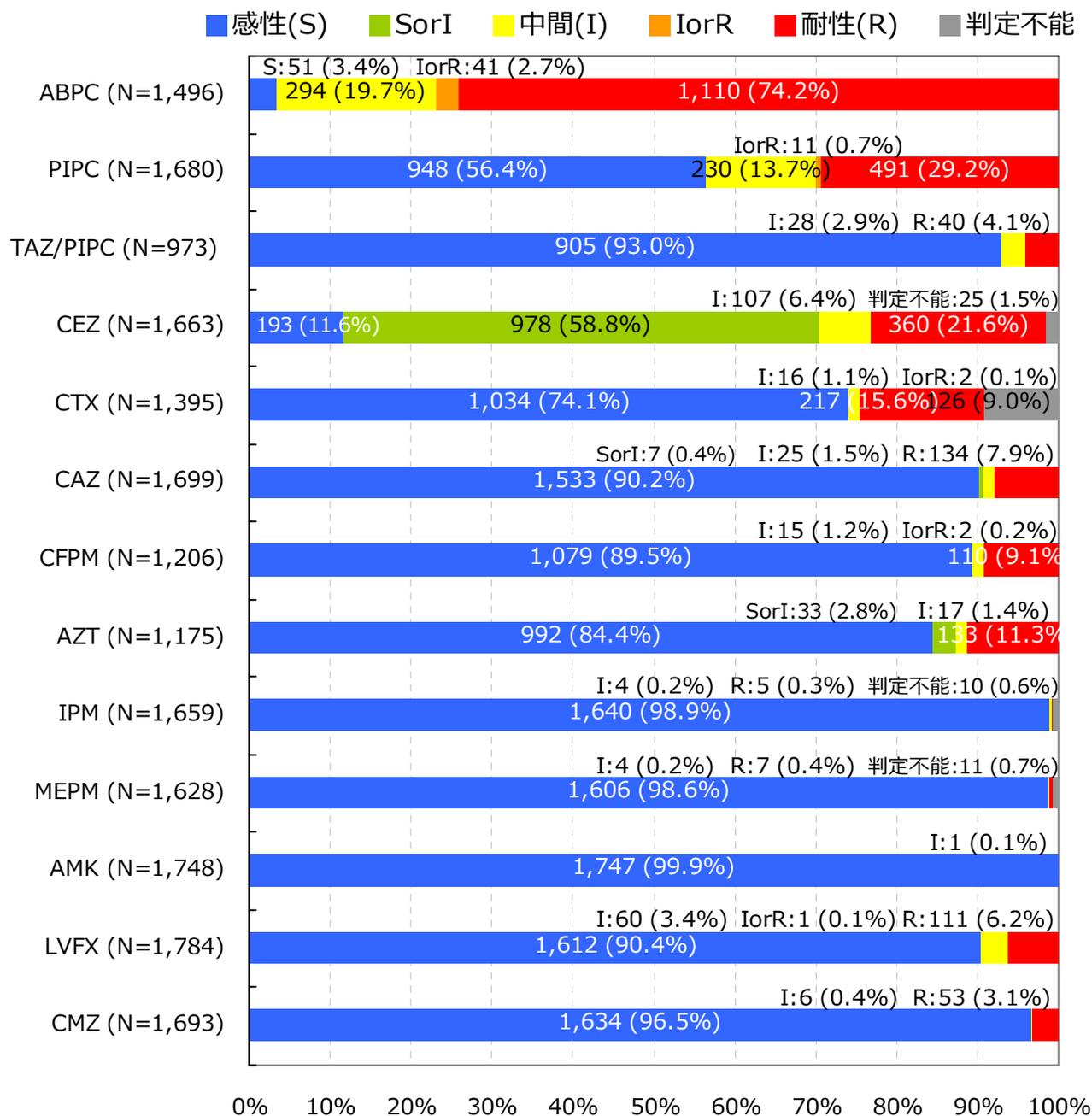
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

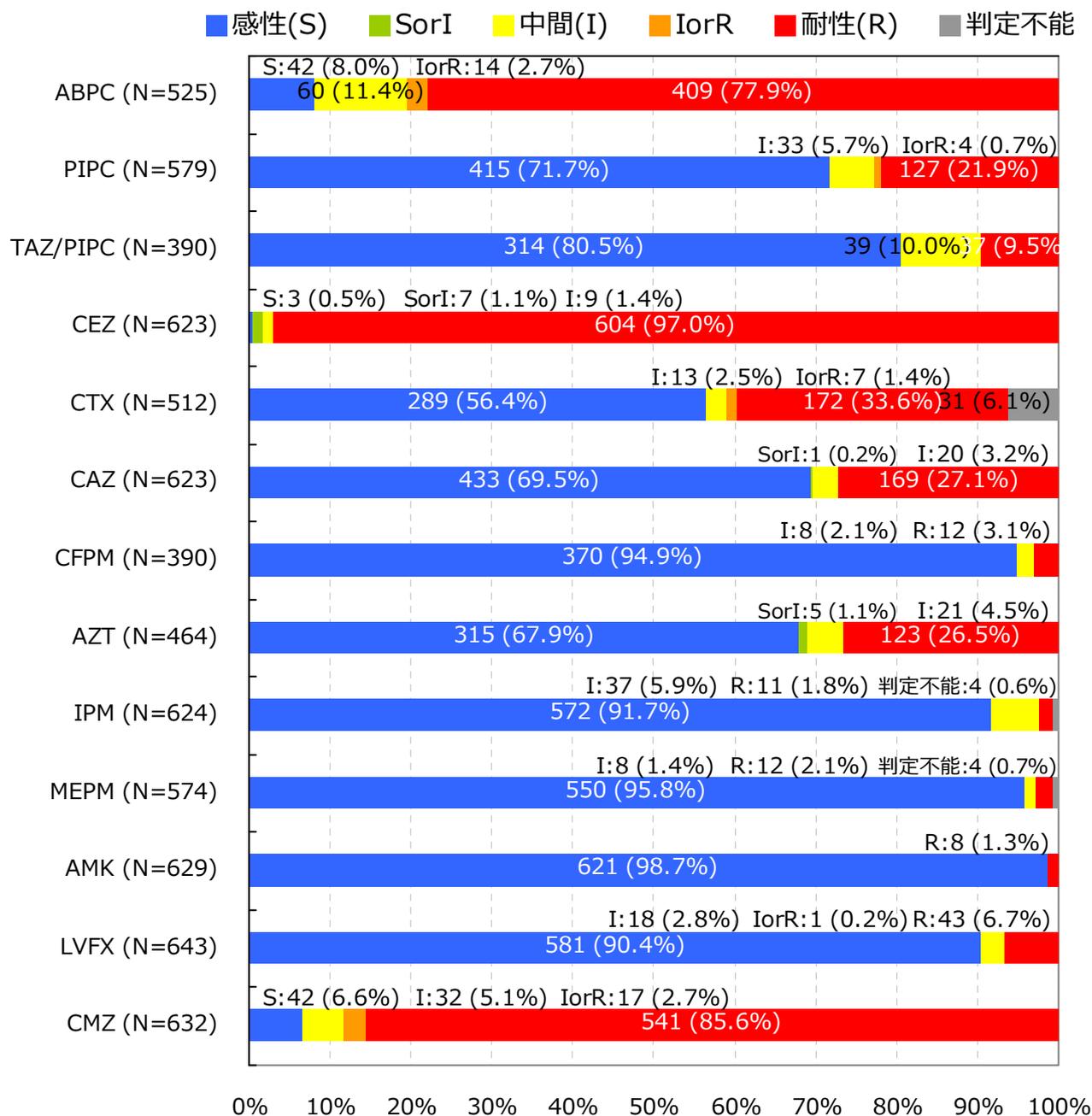
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

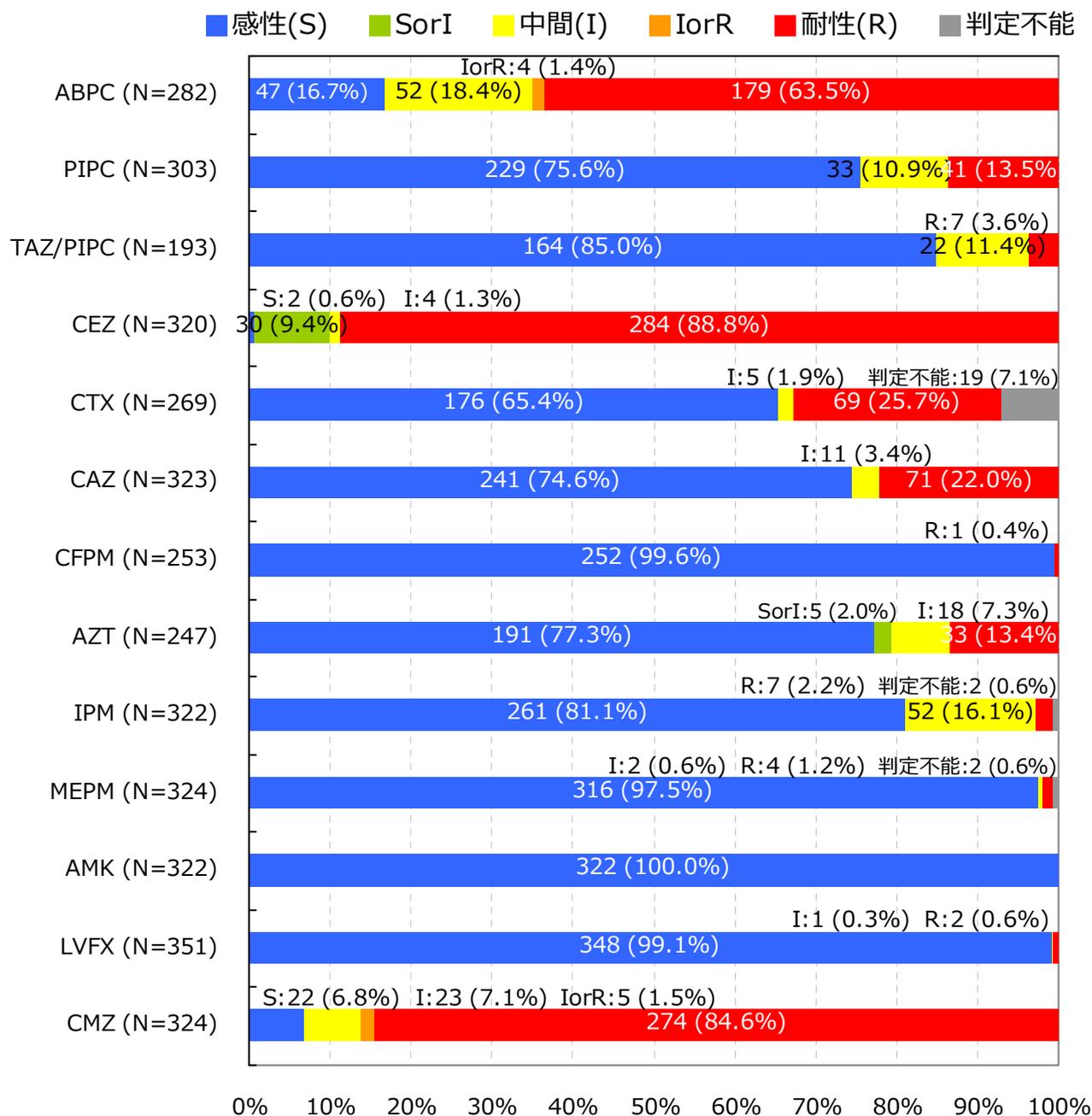
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

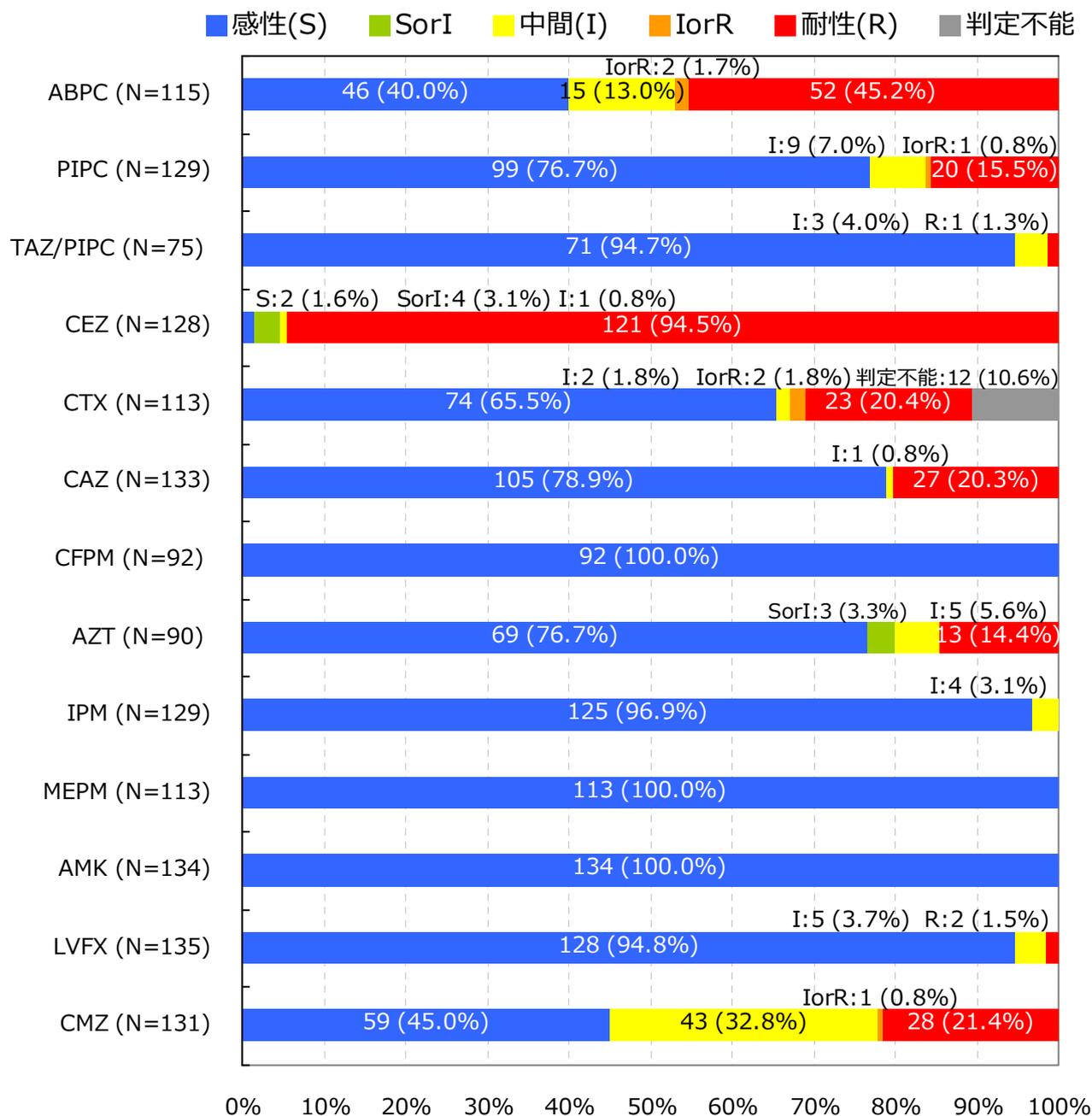
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

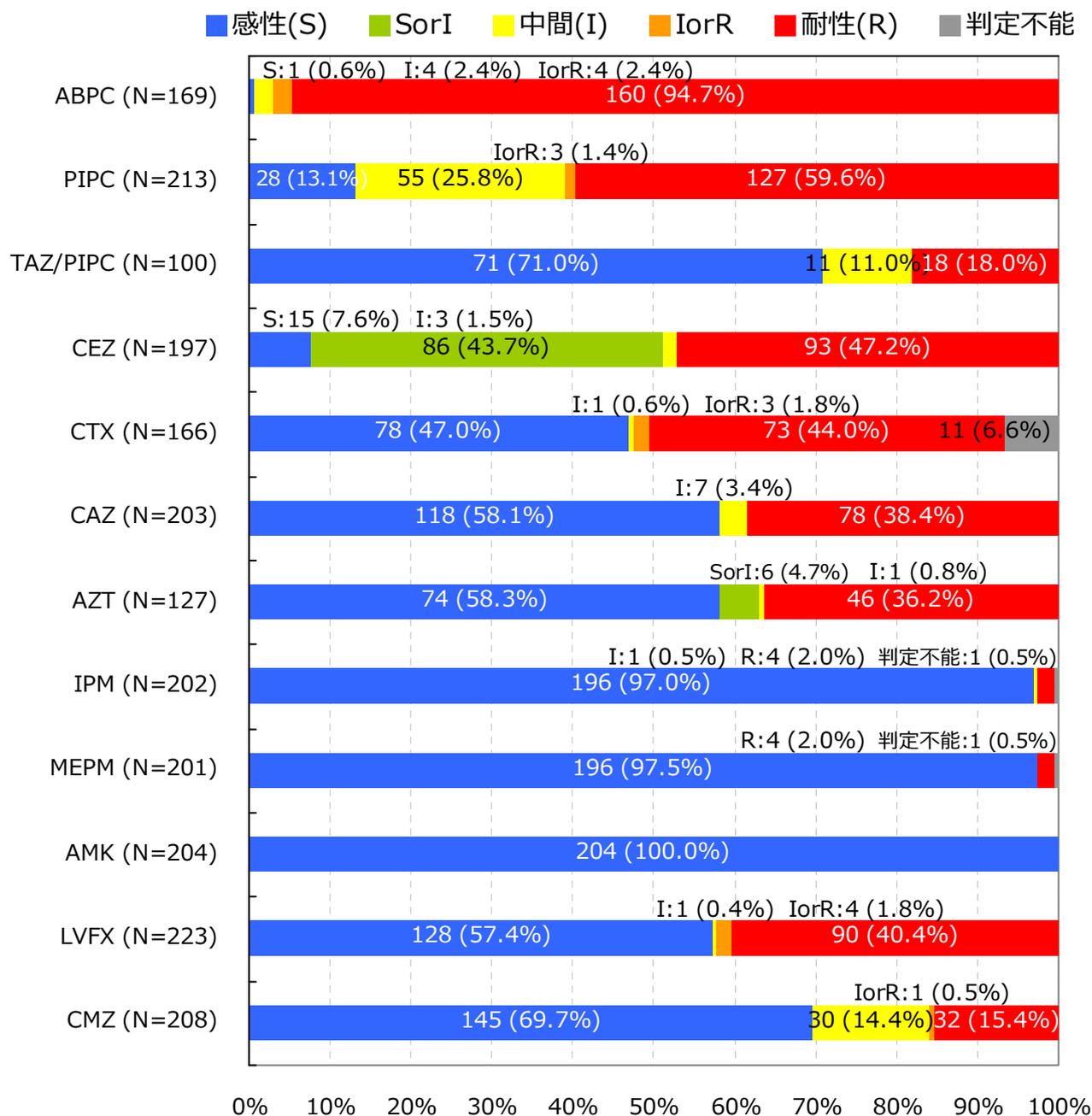
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

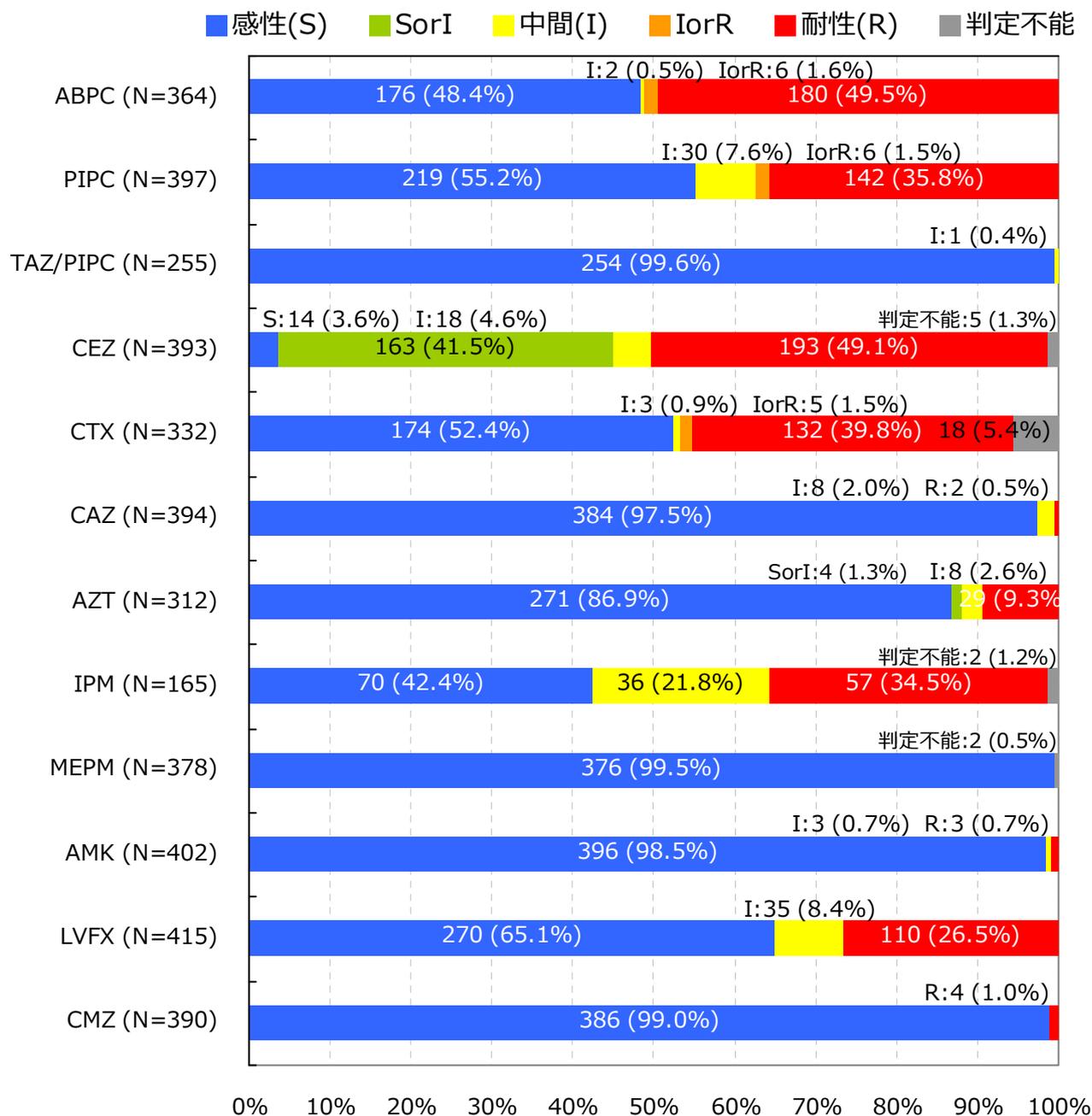
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

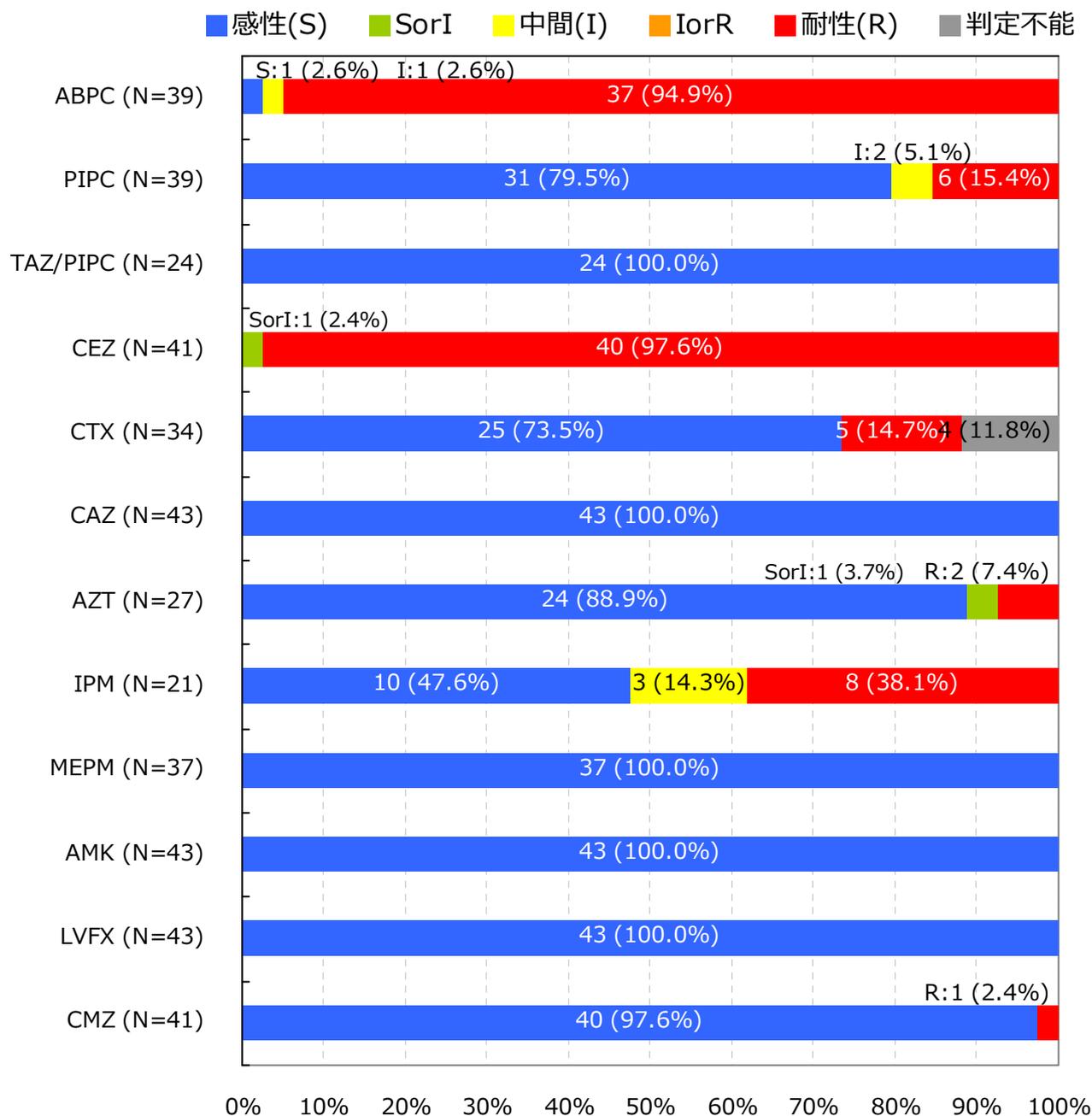
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

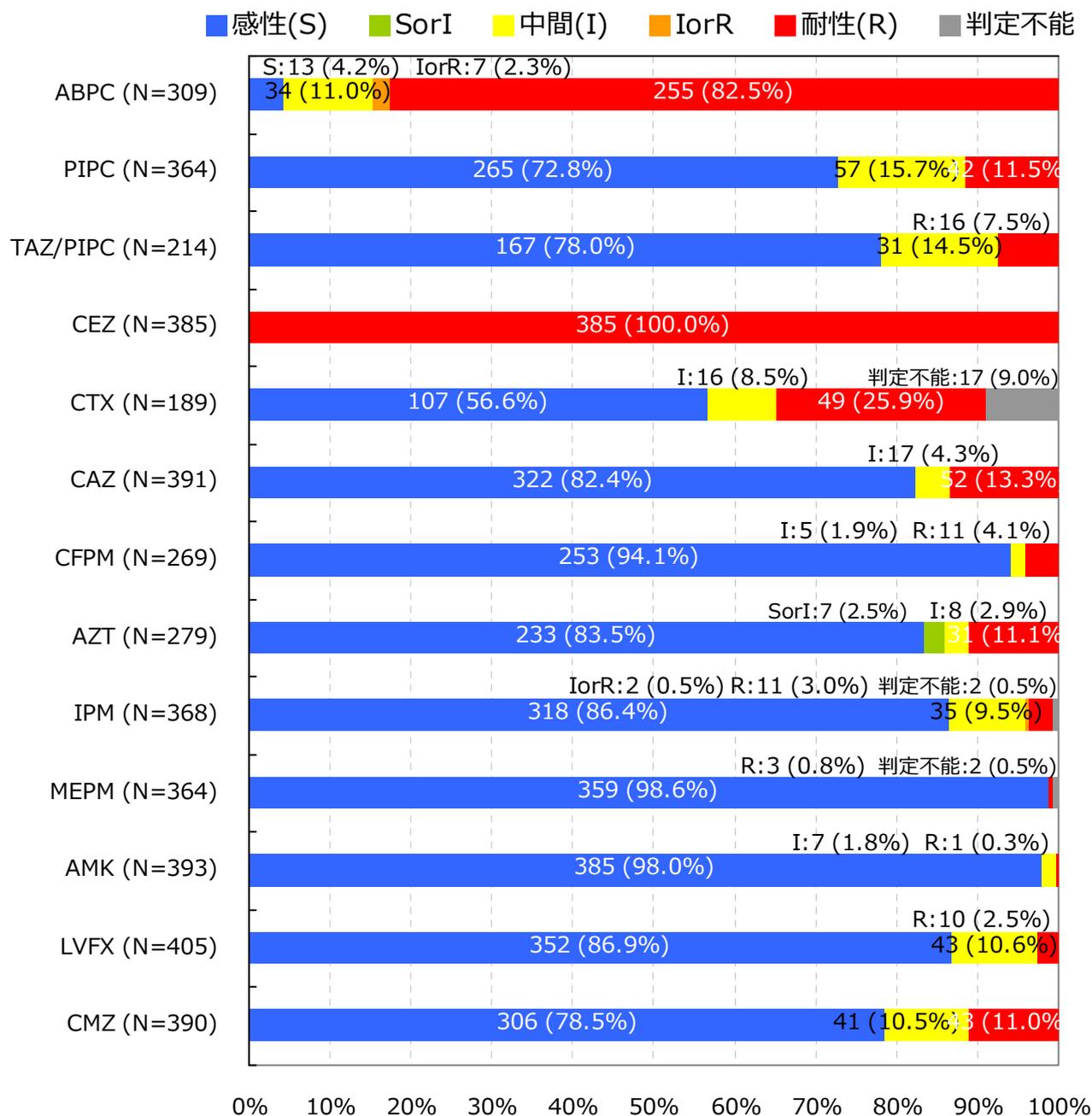
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

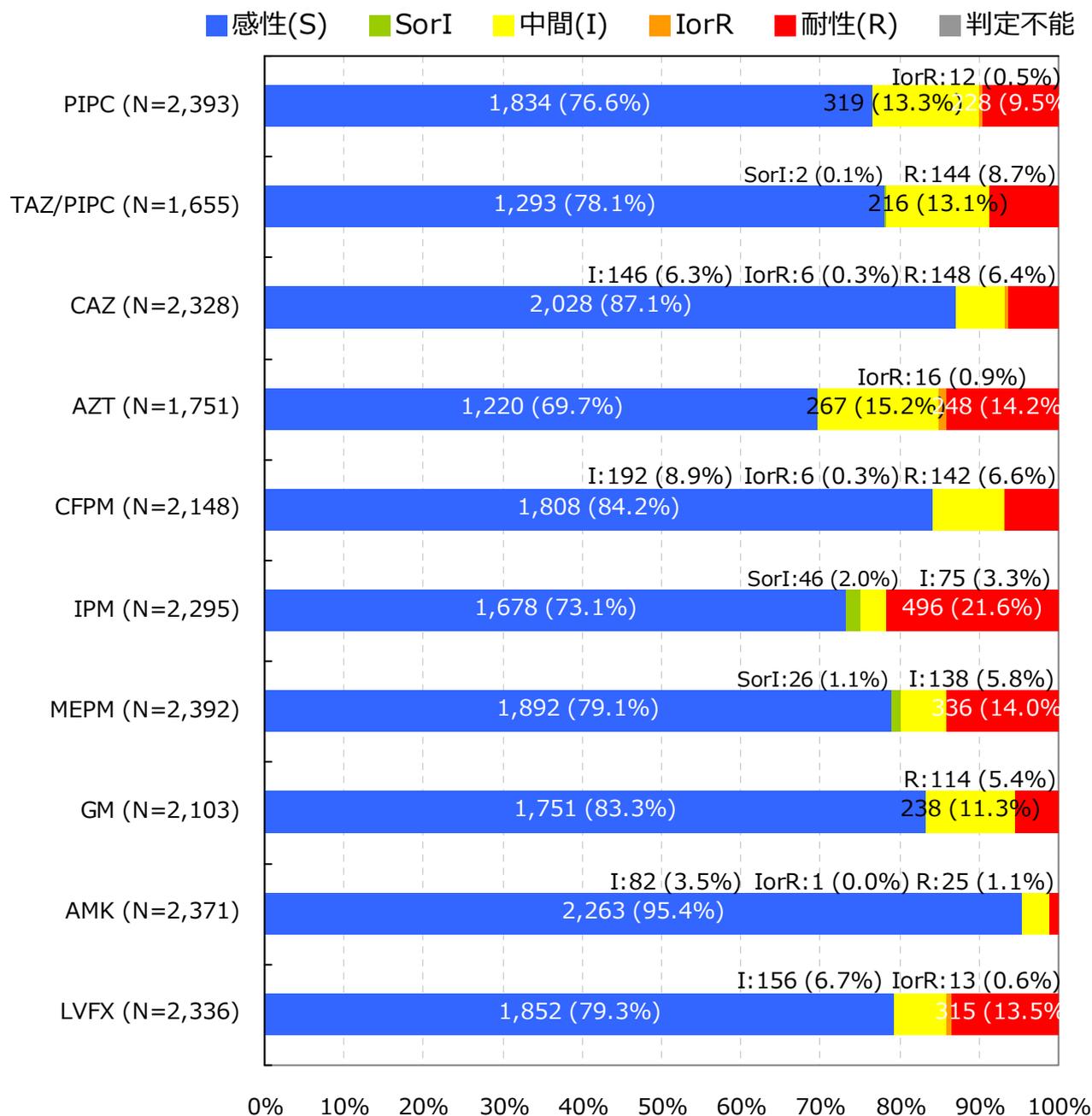
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

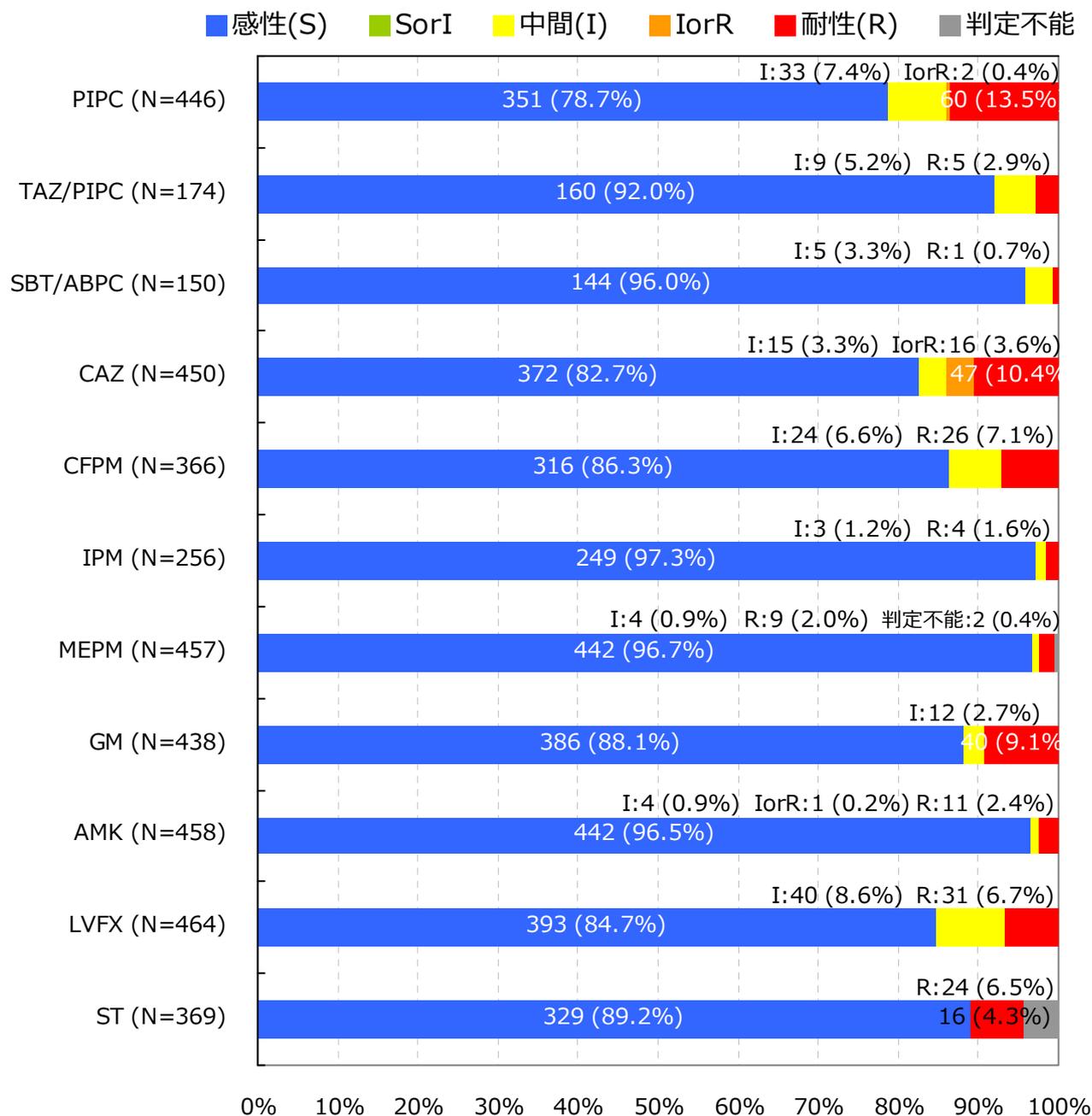
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

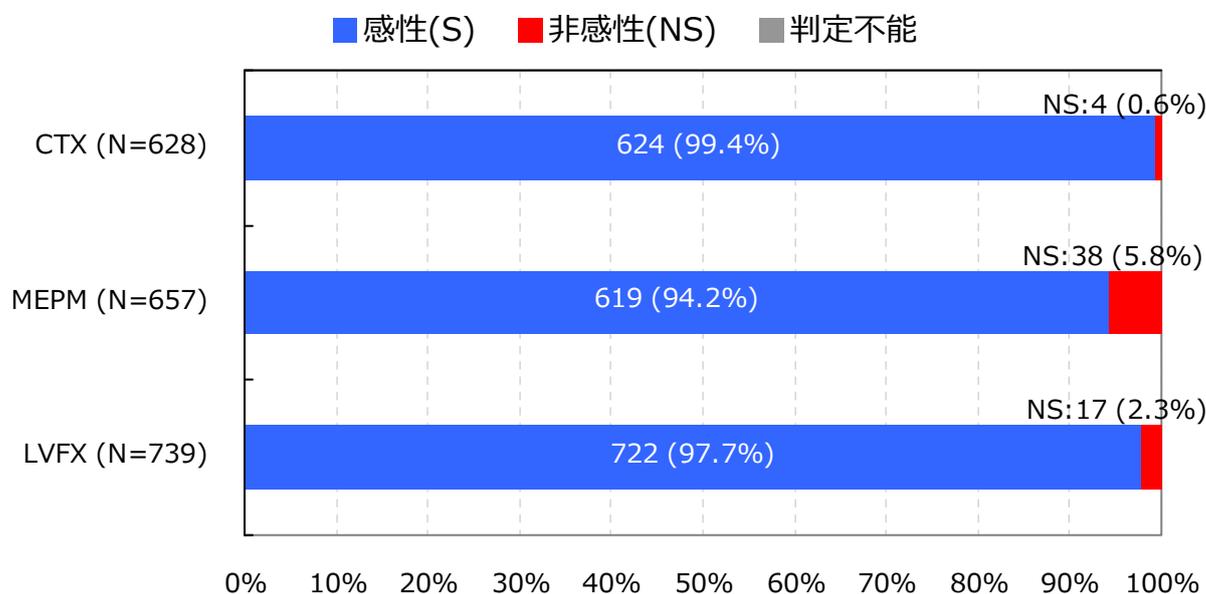
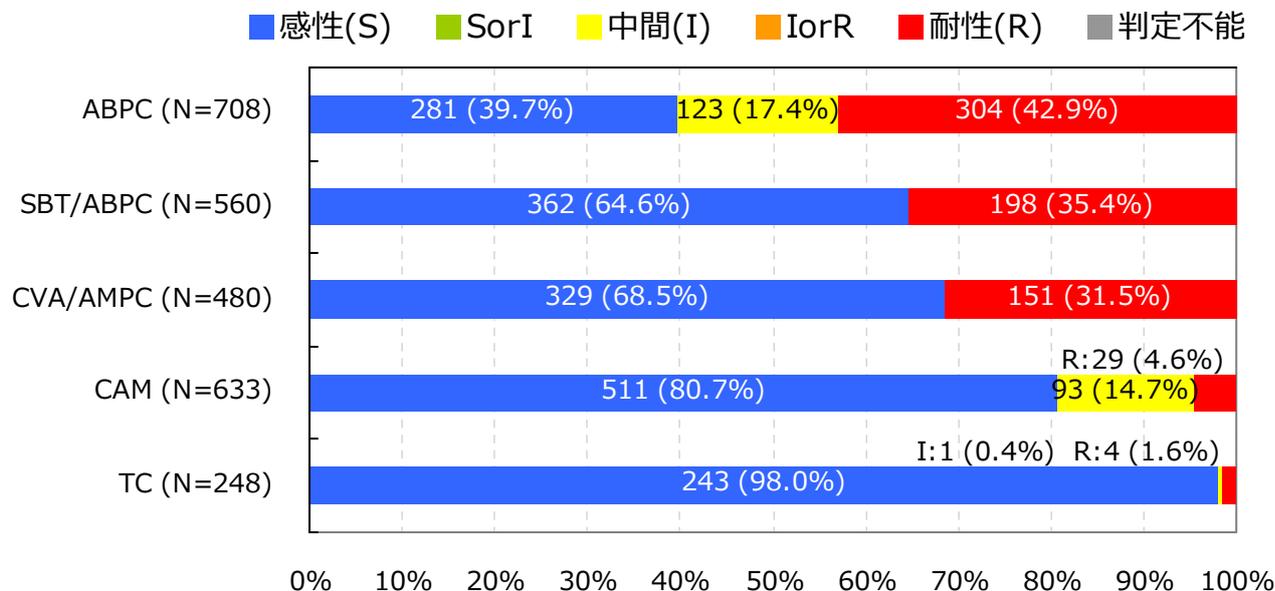
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC ≥4μg/ml  | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM ≥16μg/ml   | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・選択培地で VRE と確認された菌<br>注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く   | VCM ≥16μg/ml †   | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG ≥0.125μg/ml †  | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM ≥16μg/ml †、<br>MEPM ≥16μg/ml †<br>2. AMK ≥32μg/ml †<br>3. NFLX ≥16μg/ml、<br>OFLX ≥8μg/ml、<br>LVFX ≥8μg/ml、<br>LFLX ≥8μg/ml、<br>GFLX ≥8μg/ml、<br>CFX ≥4μg/ml | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM ≥16μg/ml †、<br>MEPM ≥16μg/ml †<br>2. AMK ≥32μg/ml †<br>3. LVFX ≥8μg/ml、<br>CFX ≥4μg/ml、<br>GFLX ≥8μg/ml   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM ≥2μg/ml †<br>2. IPM ≥2μg/ml † かつ<br>CMZ ≥64μg/ml   | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM ≥16μg/ml †<br>MEPM ≥16μg/ml †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX ≥4μg/ml<br>CAZ ≥16μg/ml  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値  | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|---|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX ≥4μg/ml<br>CAZ ≥16μg/ml   | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX ≥16μg/ml、<br>OFLX ≥8μg/ml、<br>LVFX ≥8μg/ml、<br>LFLX ≥8μg/ml、<br>GFLX ≥8μg/ml、<br>CFX ≥4μg/ml | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

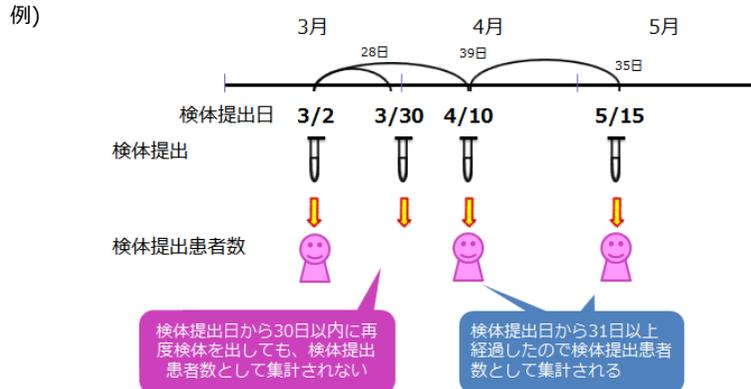
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



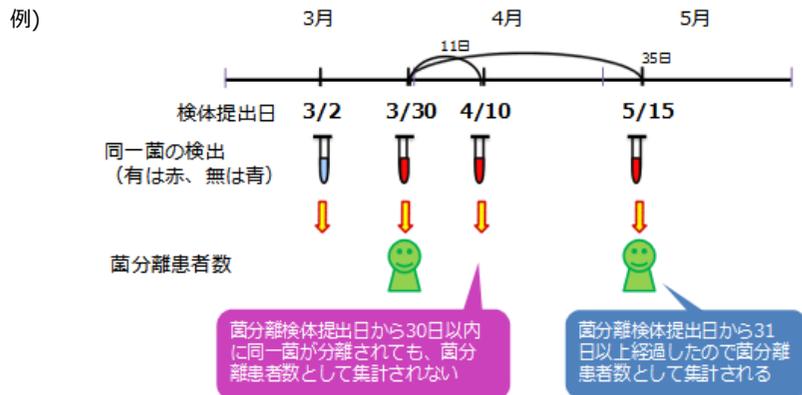
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



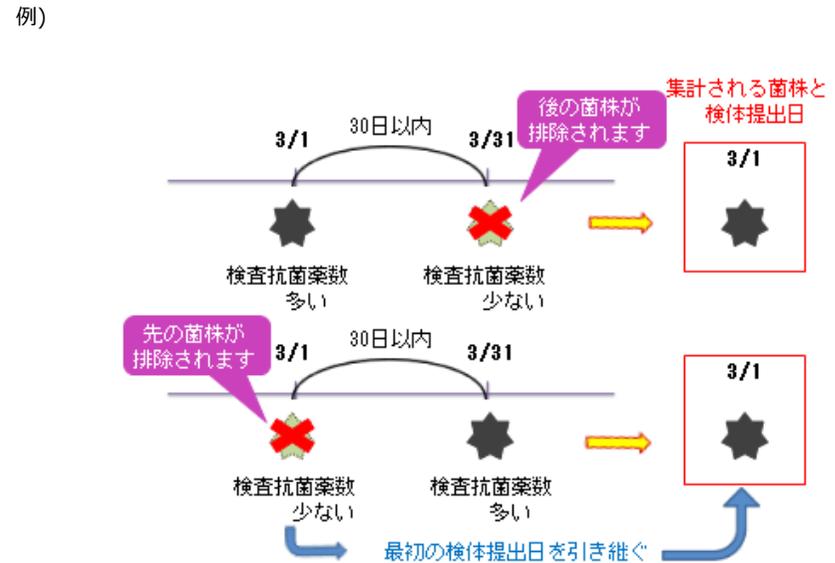
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

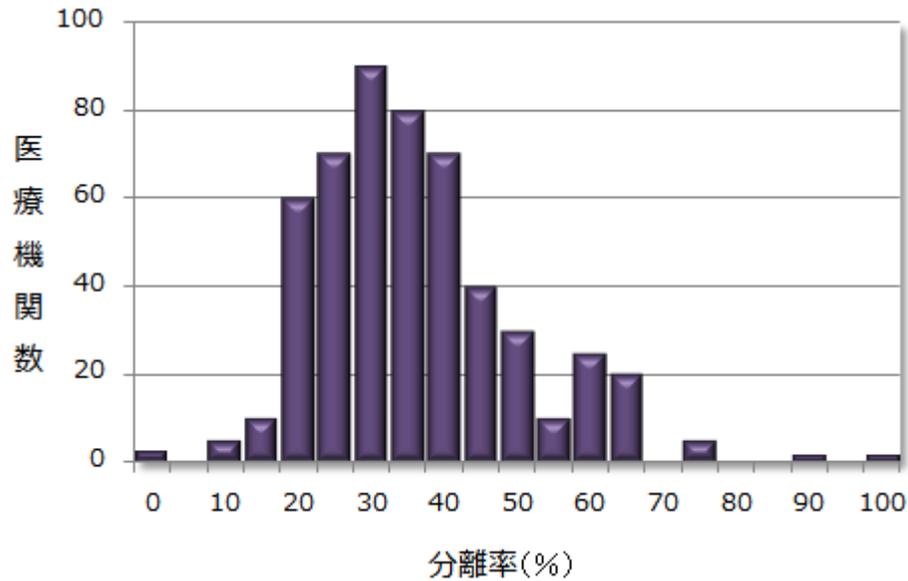
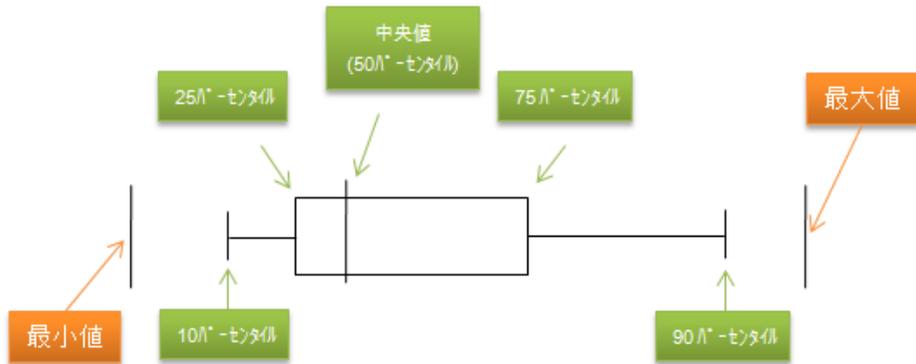
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

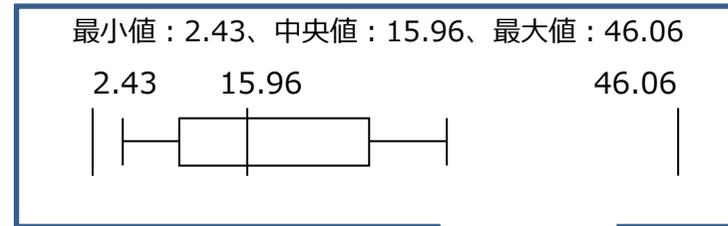
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

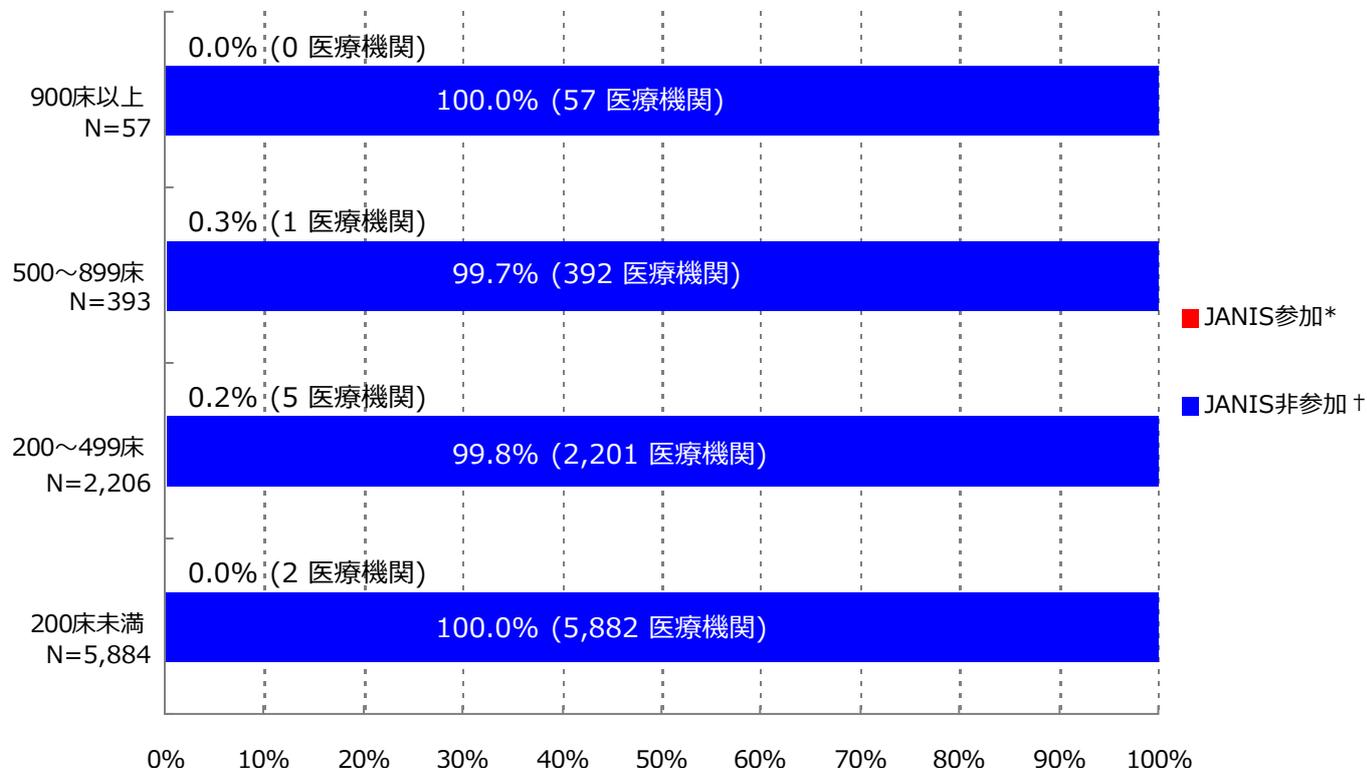
2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |



### 1. 集計対象医療機関数(8医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |          |
|----------|-----------------|---|----------|
|          |                 | 医療機関数                                   | 割合       |
| 900床以上   | 57              | 0                                       | ( 0.0% ) |
| 500～899床 | 393             | 1                                       | ( 0.3% ) |
| 200～499床 | 2,206           | 5                                       | ( 0.2% ) |
| 200床未満   | 5,884           | 2                                       | ( 0.0% ) |
| 病床数不明    | -               | 0                                       | ( - )    |
| 合計       | 8,540           | 8                                       | ( 0.1% ) |

† 平成25年医療施設（動態）調査を参照した

(佐賀県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数   | 陽性検体数<br>(分離菌数)  |
|--------|-----------|-------|------------------|
| 呼吸器系検体 | 7         | 2,870 | 2,154<br>(5,261) |
| 尿検体    | 7         | 1,070 | 595<br>(938)     |
| 便検体    | 7         | 418   | 242<br>(471)     |
| 血液検体   | 7         | 2,671 | 250<br>(273)     |
| 髄液検体   | 7         | 171   | 19<br>(20)       |
| その他    | 7         | 2,360 | 989<br>(1,749)   |
| 合計     | 7         | 9,560 | 4,249<br>(8,712) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

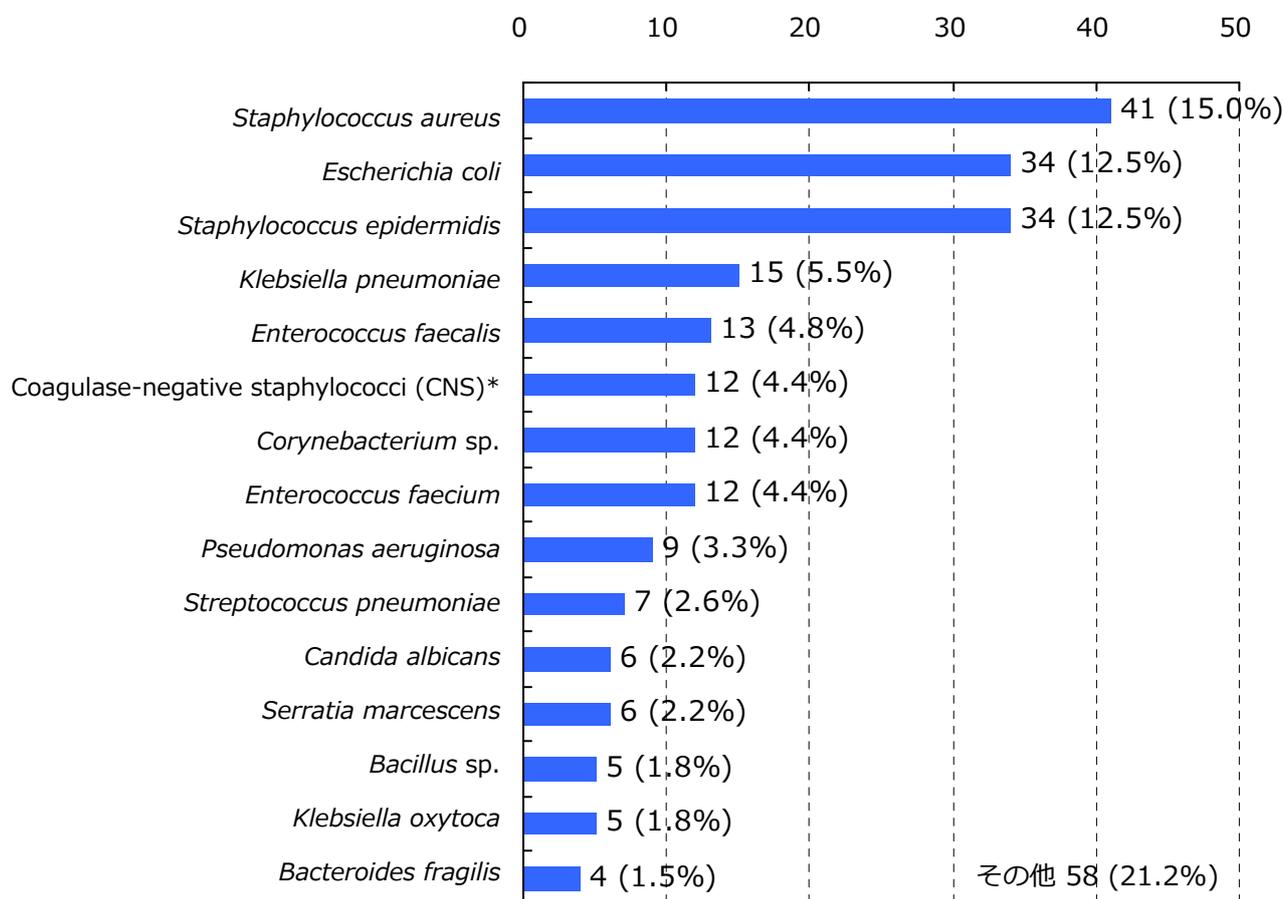
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=273)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

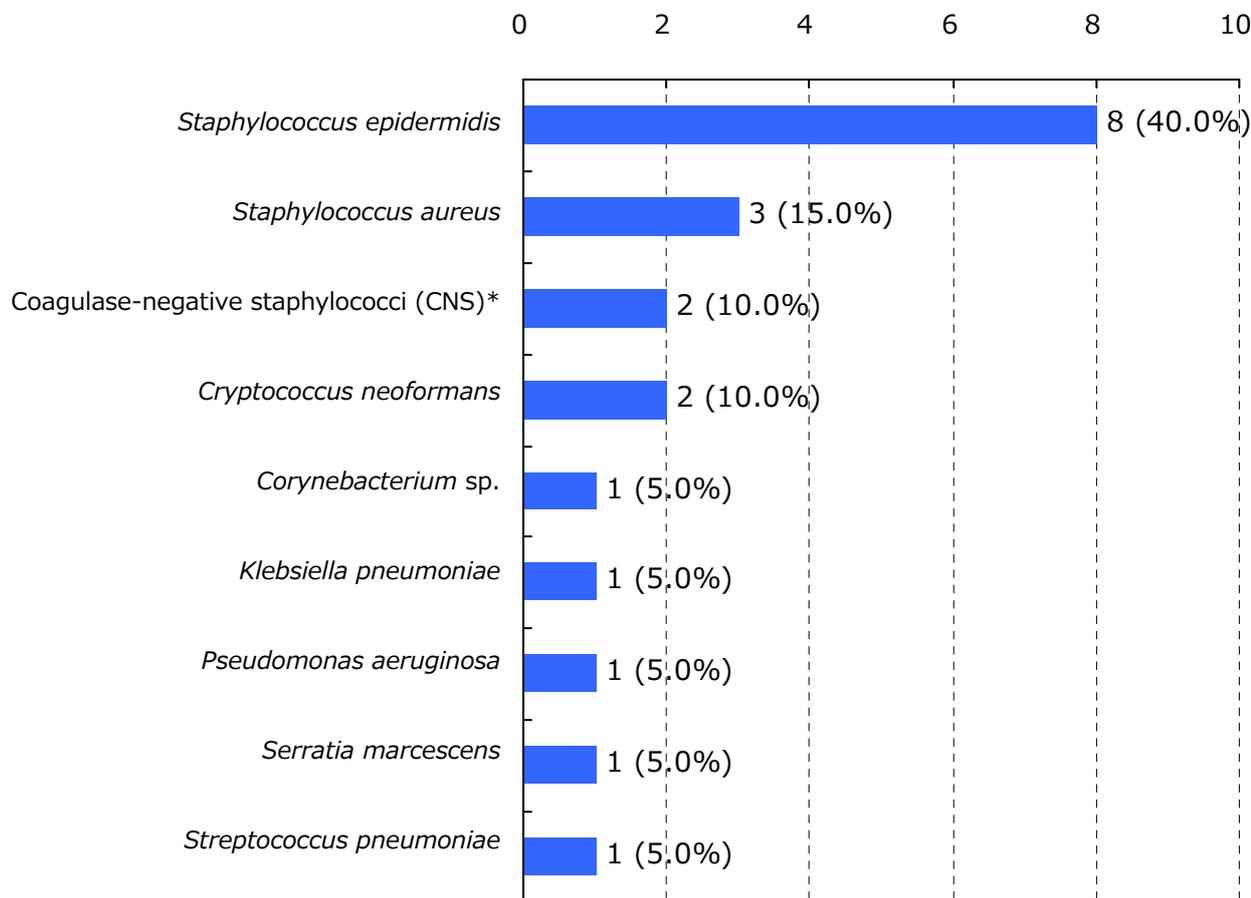
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=20)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

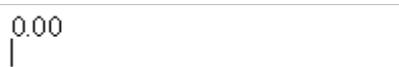
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数                | 3,291人                 |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 372人<br>(11.30%)       | 5.96 9.83 28.00<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 45人<br>(1.37%)         | 0.00 1.13 3.34<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 1人<br>(0.03%)          | 0.00 0.00 0.28<br>    |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>             |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 8人<br>(0.24%)          | 0.00 0.00 1.44<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 16人<br>(0.49%)         | 0.00 0.25 1.99<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 18人<br>(0.55%)         | 0.00 0.14 4.32<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 56人<br>(1.70%)         | 0.00 1.77 13.67<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 128人<br>(3.89%)        | 0.00 3.69 10.33<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

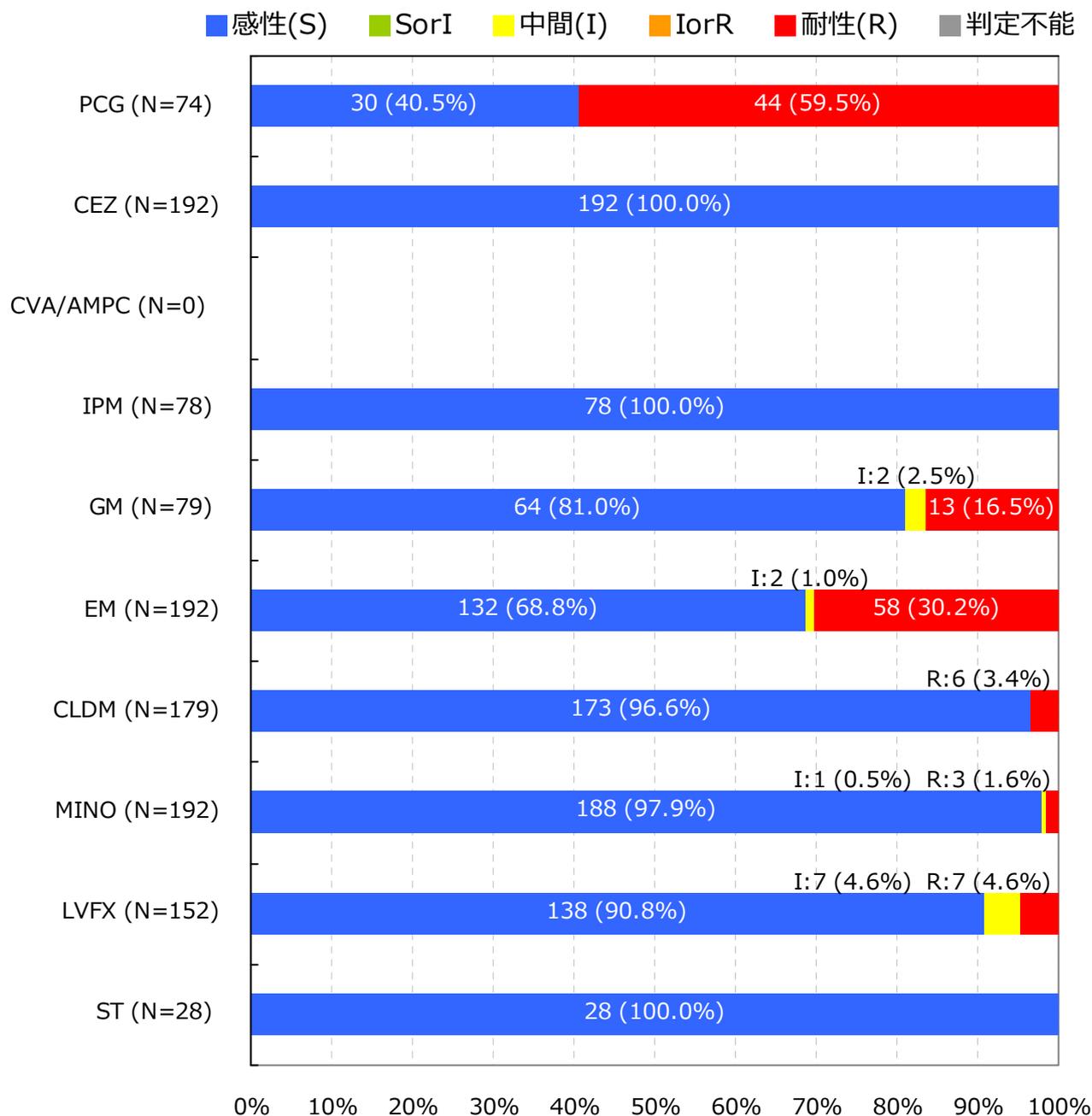
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

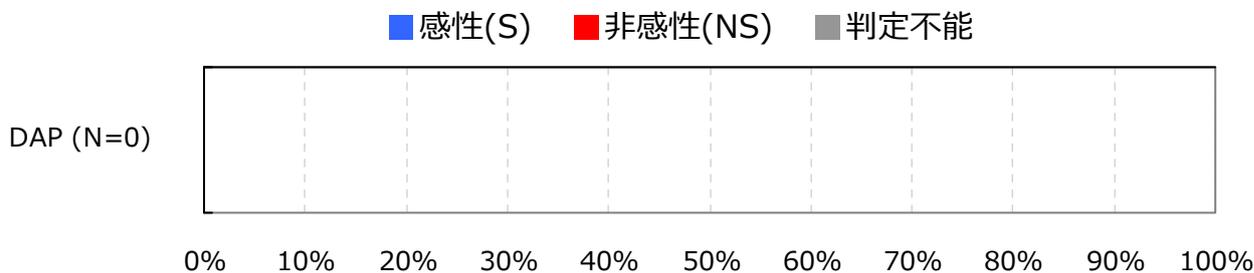
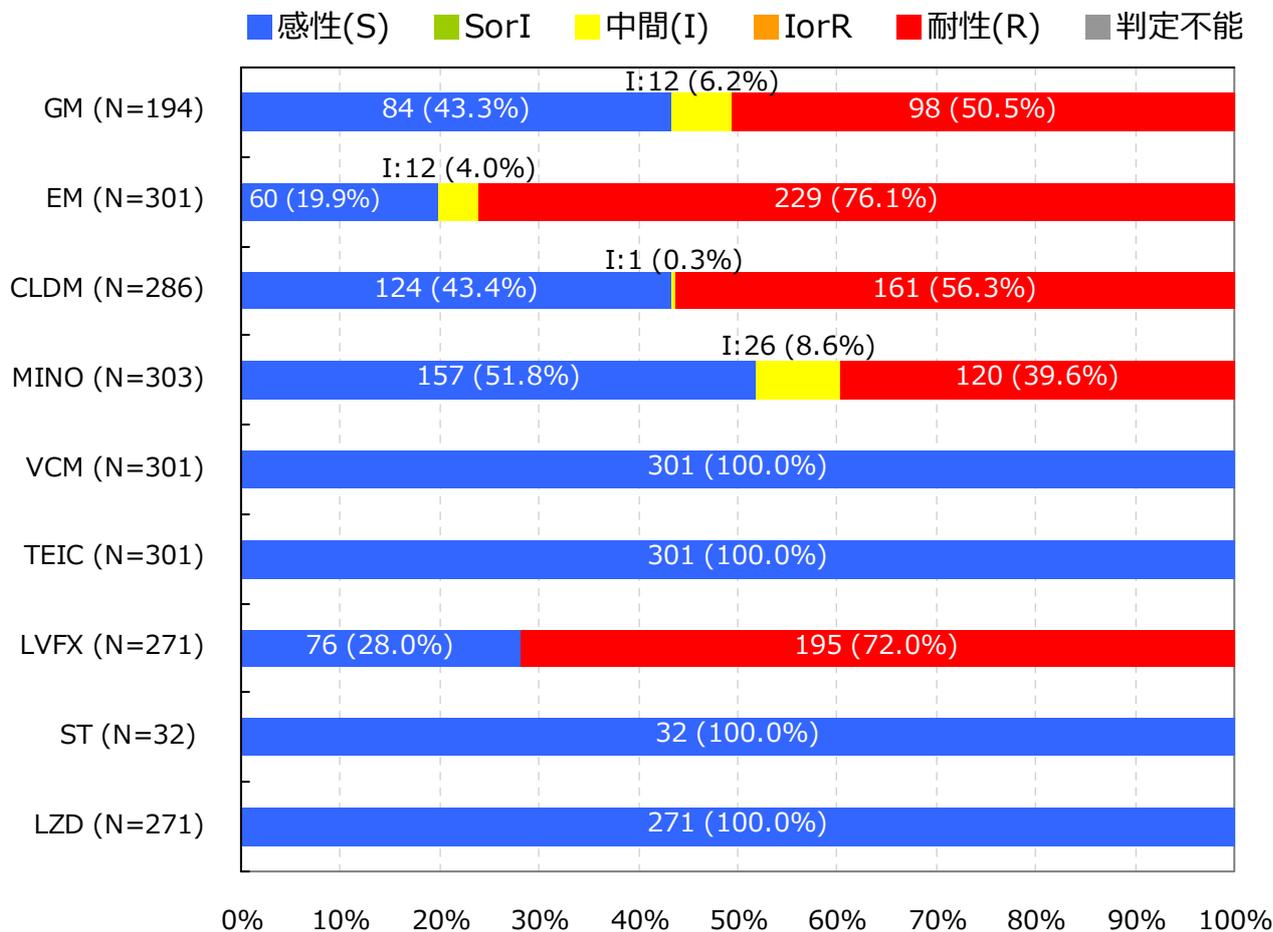
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

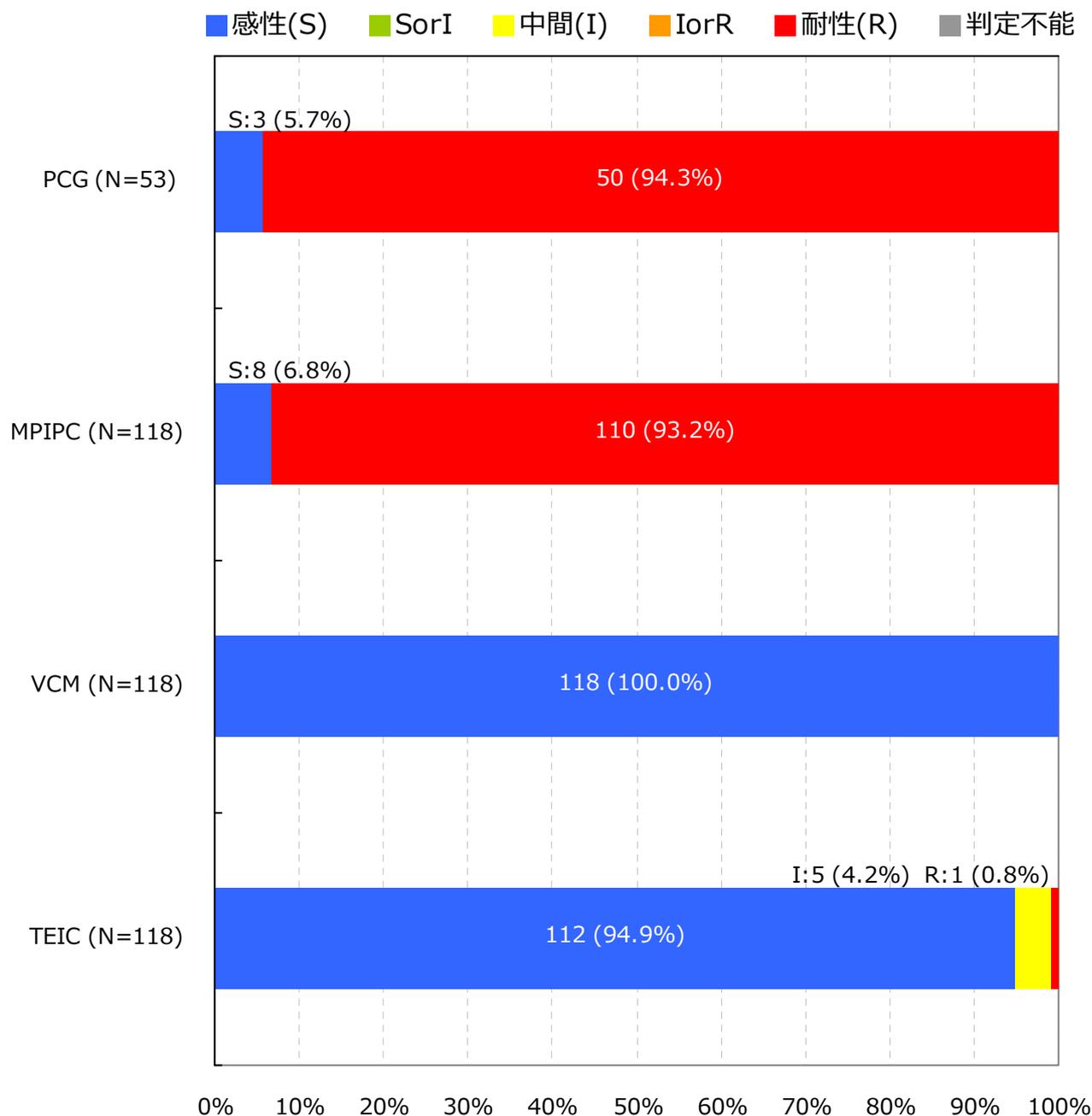
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

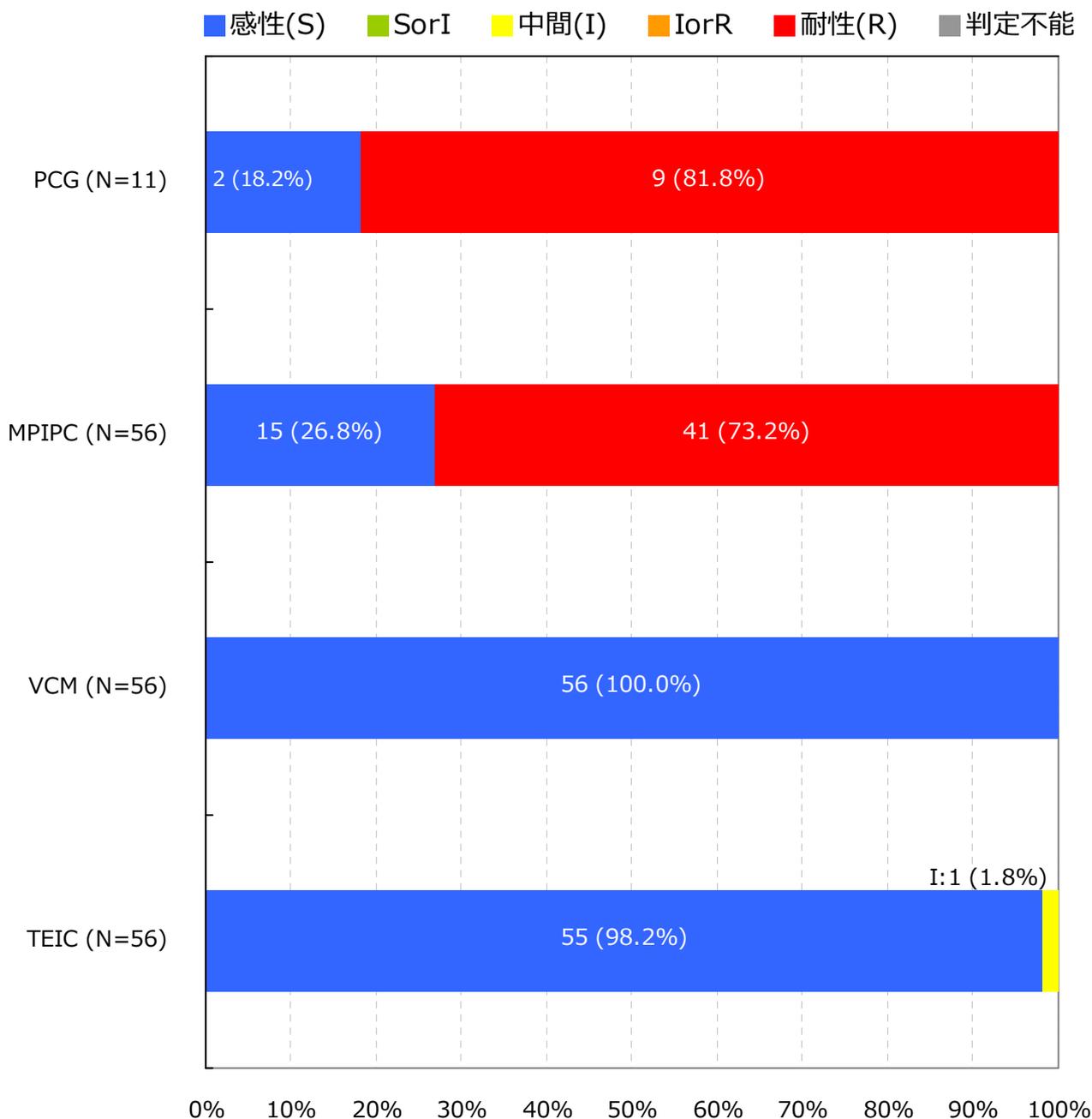
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



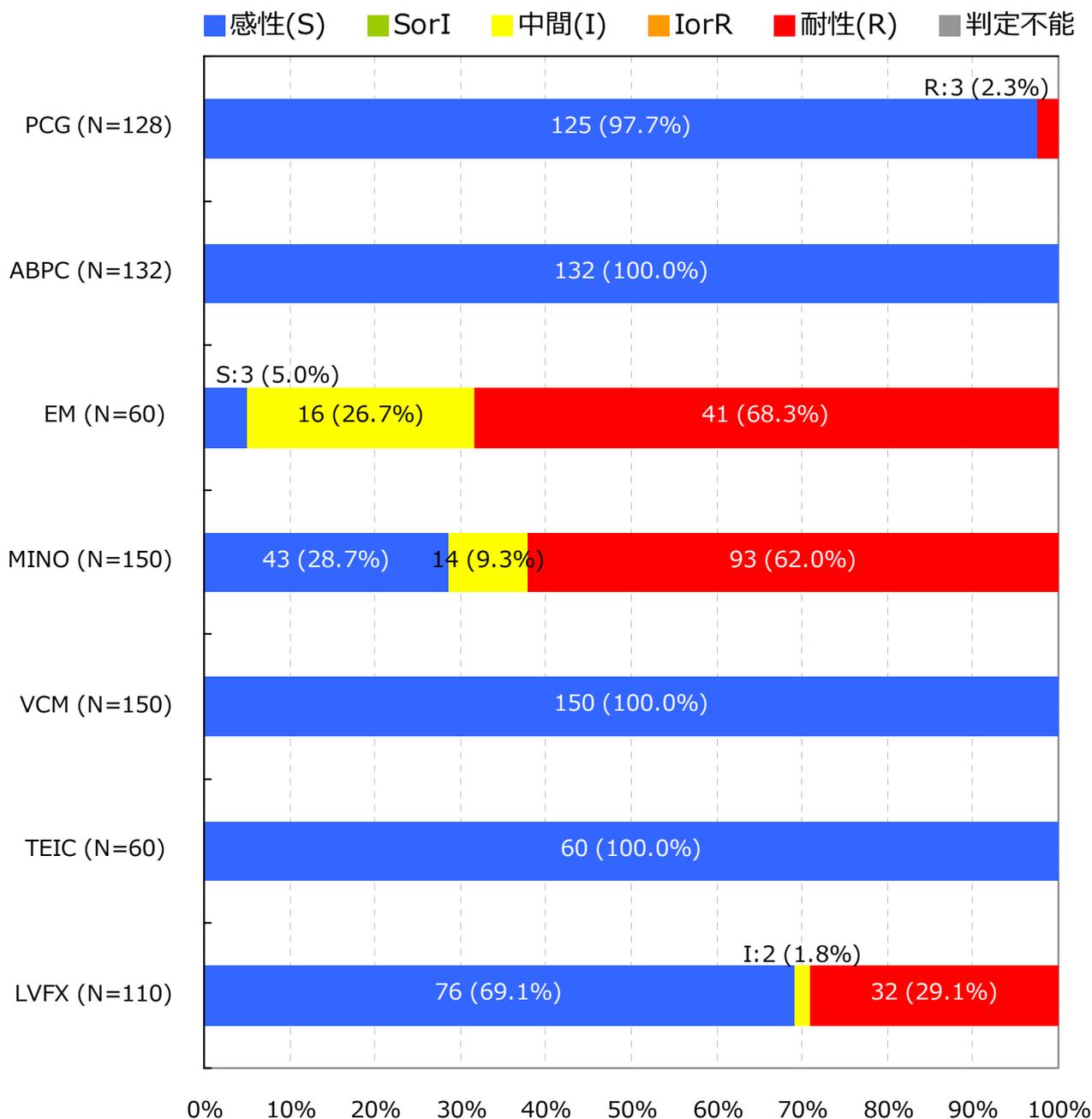
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

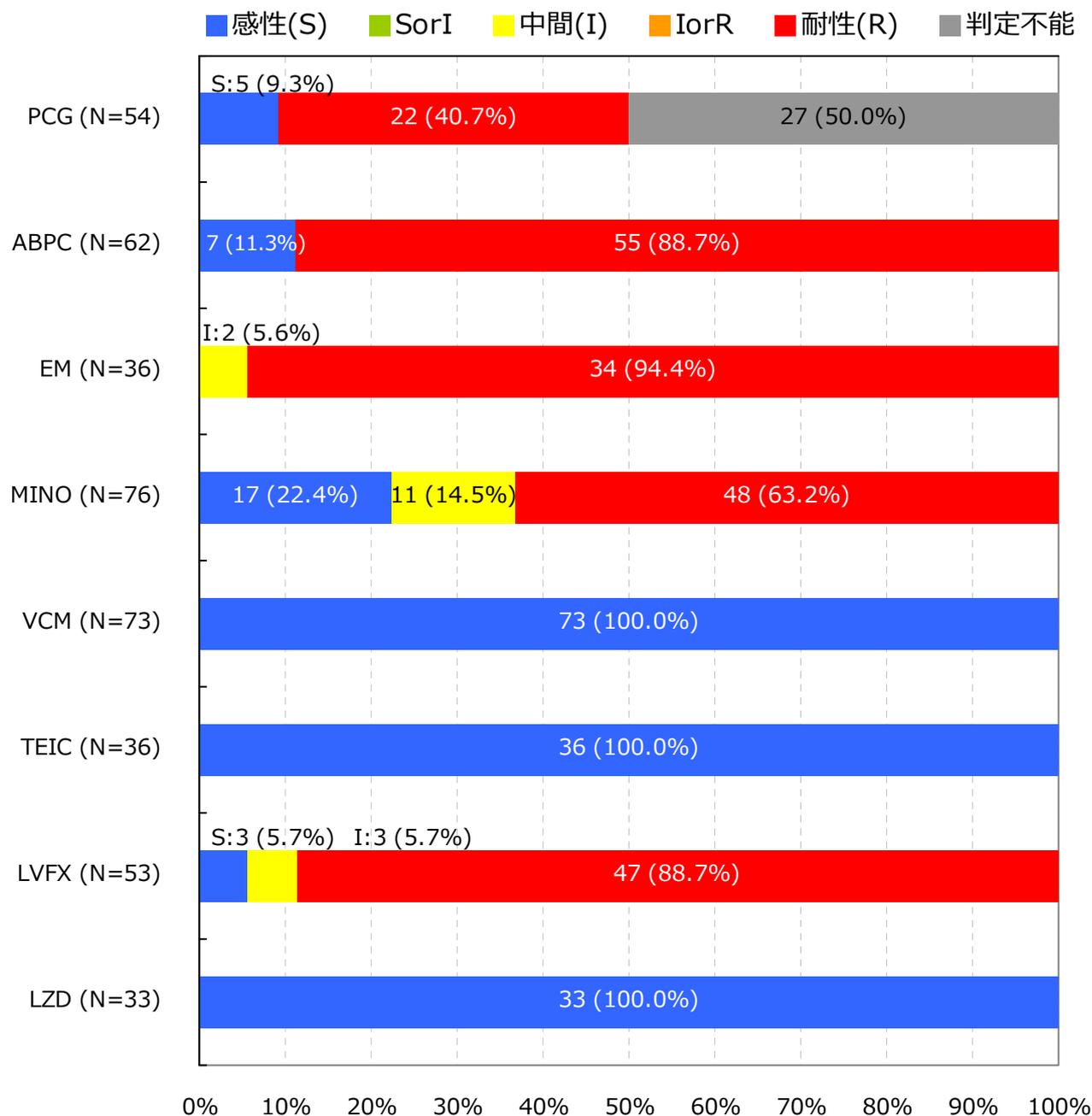
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

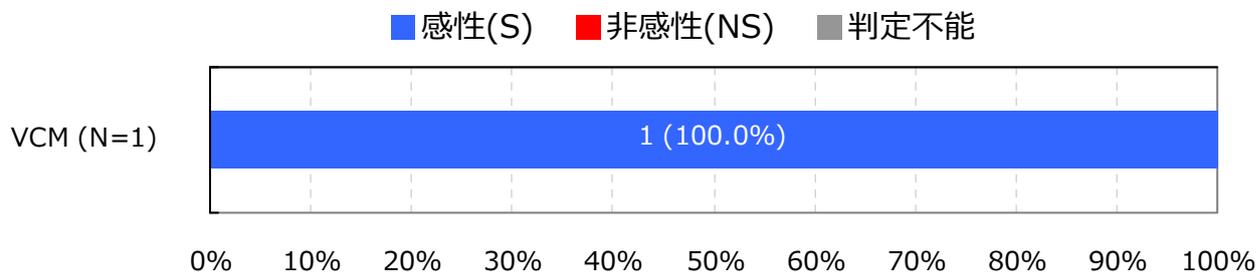
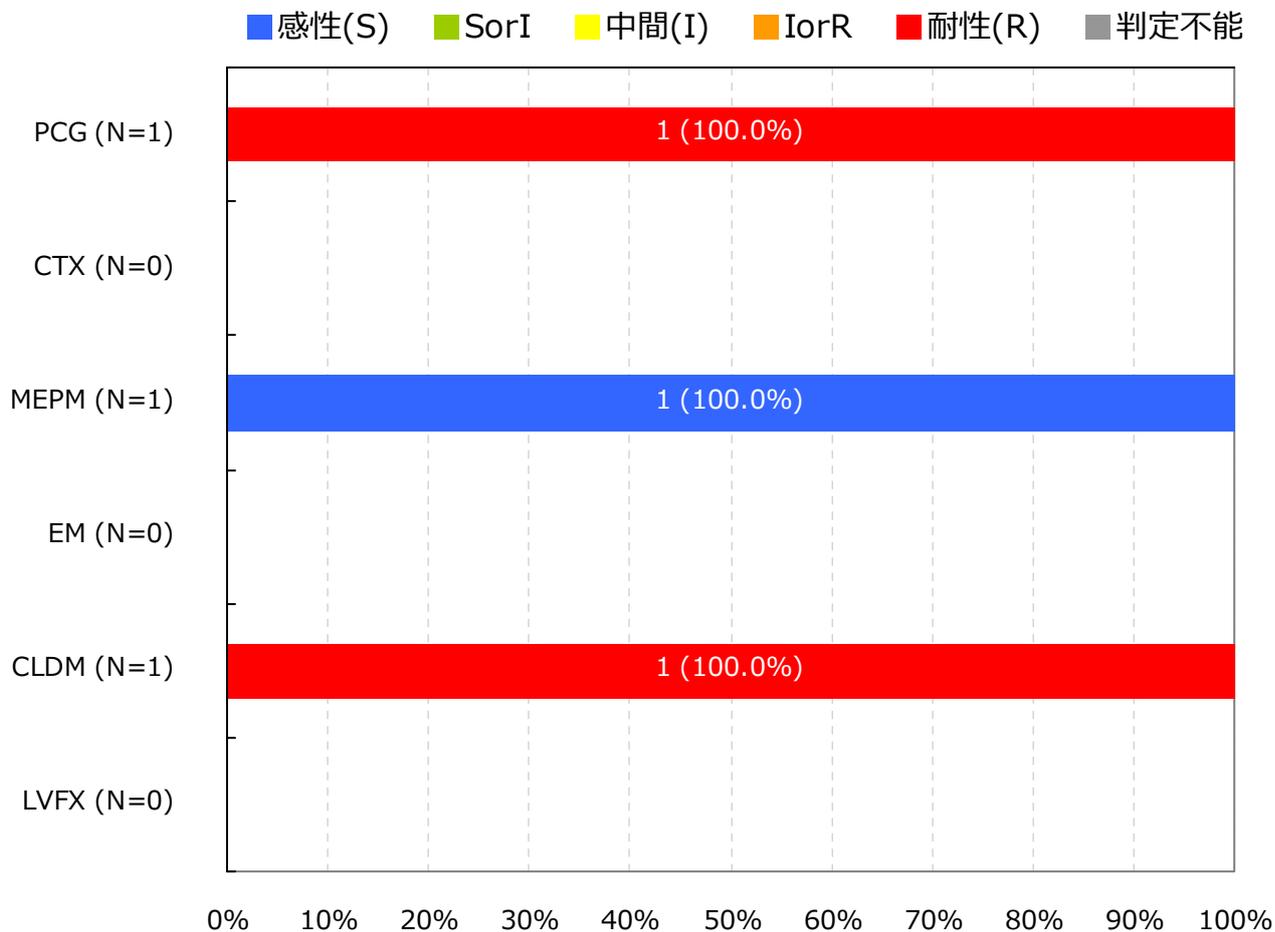
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

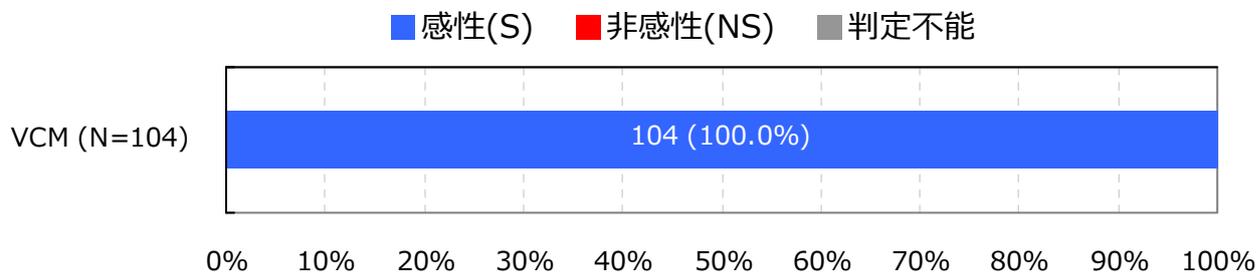
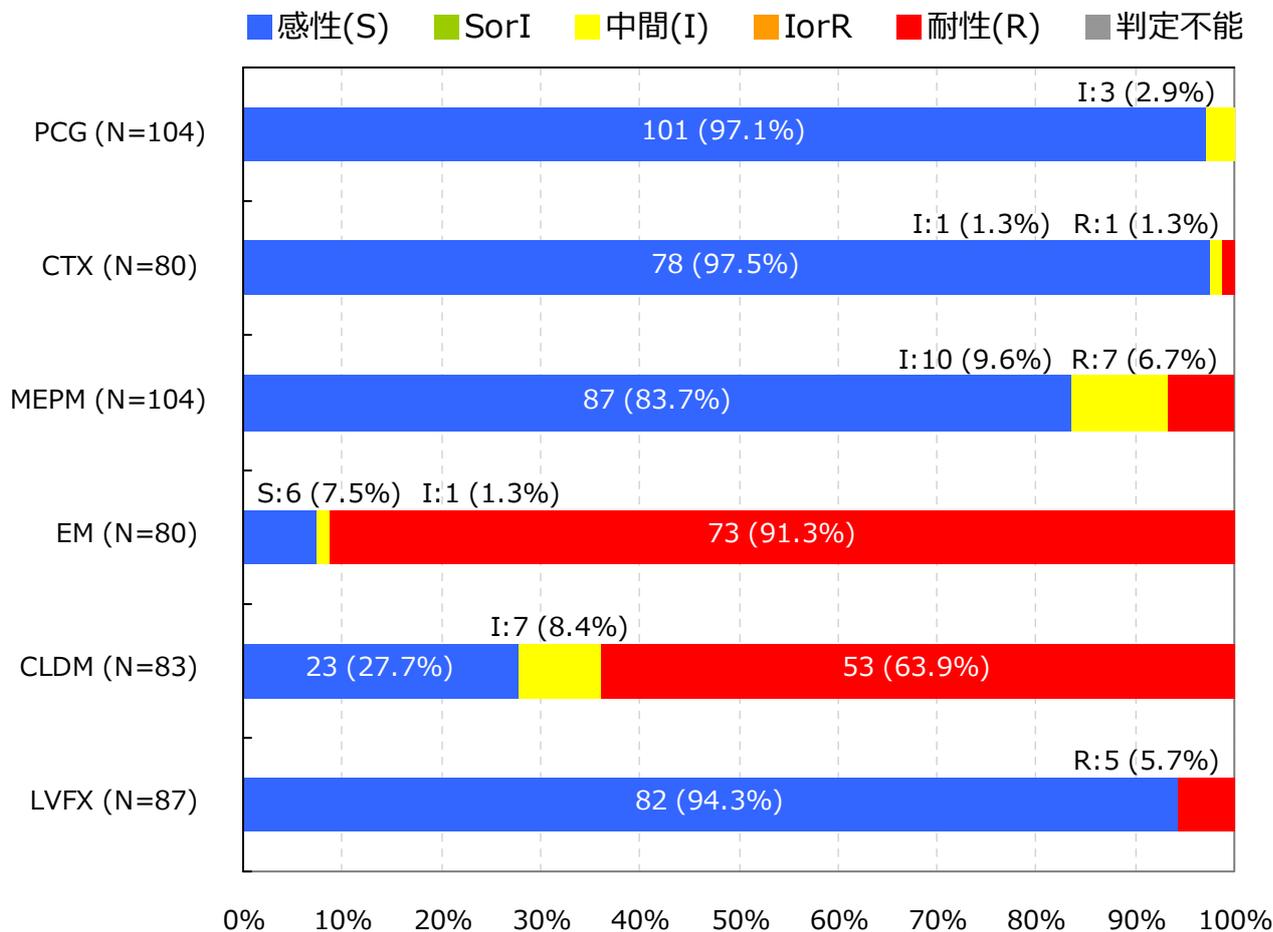
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

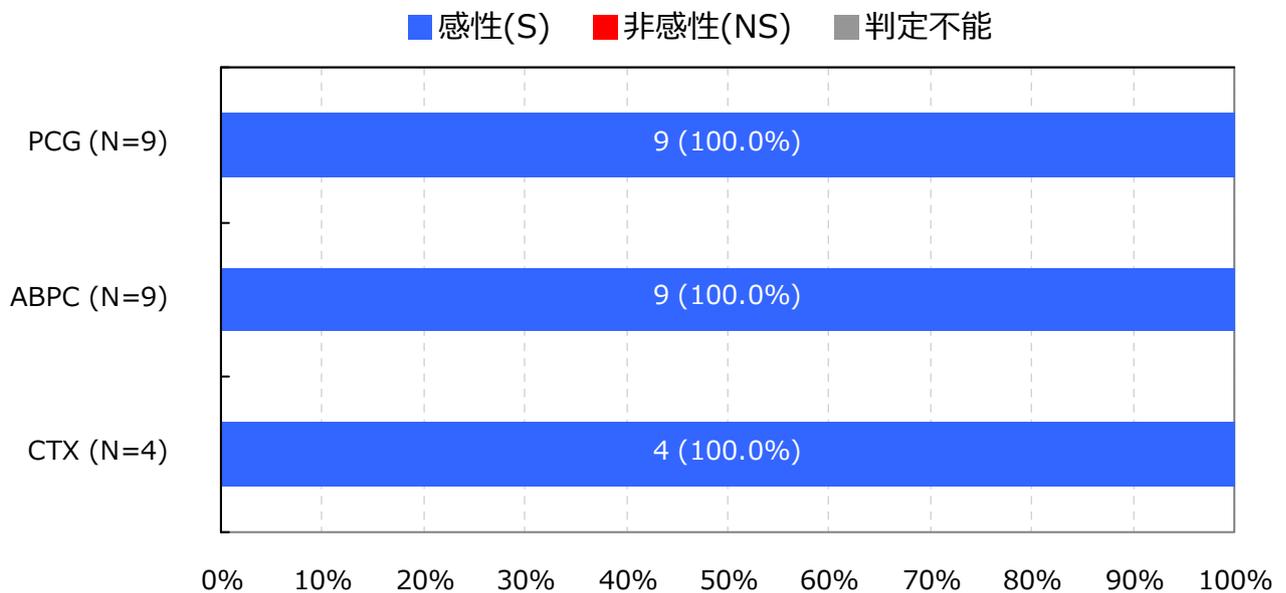
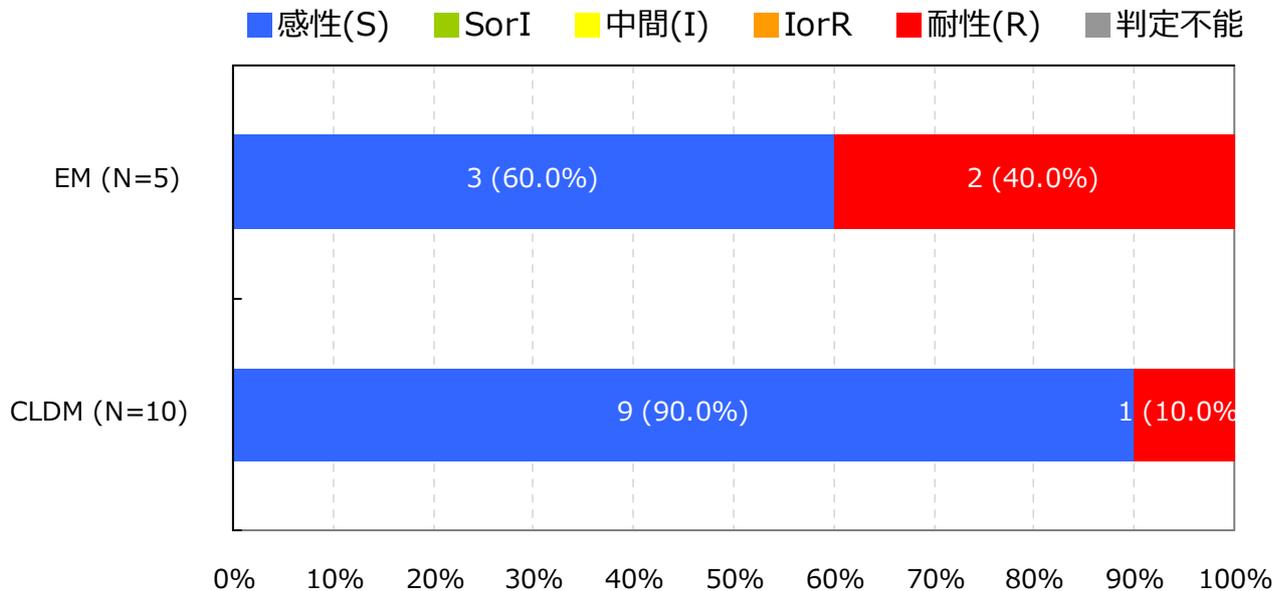
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



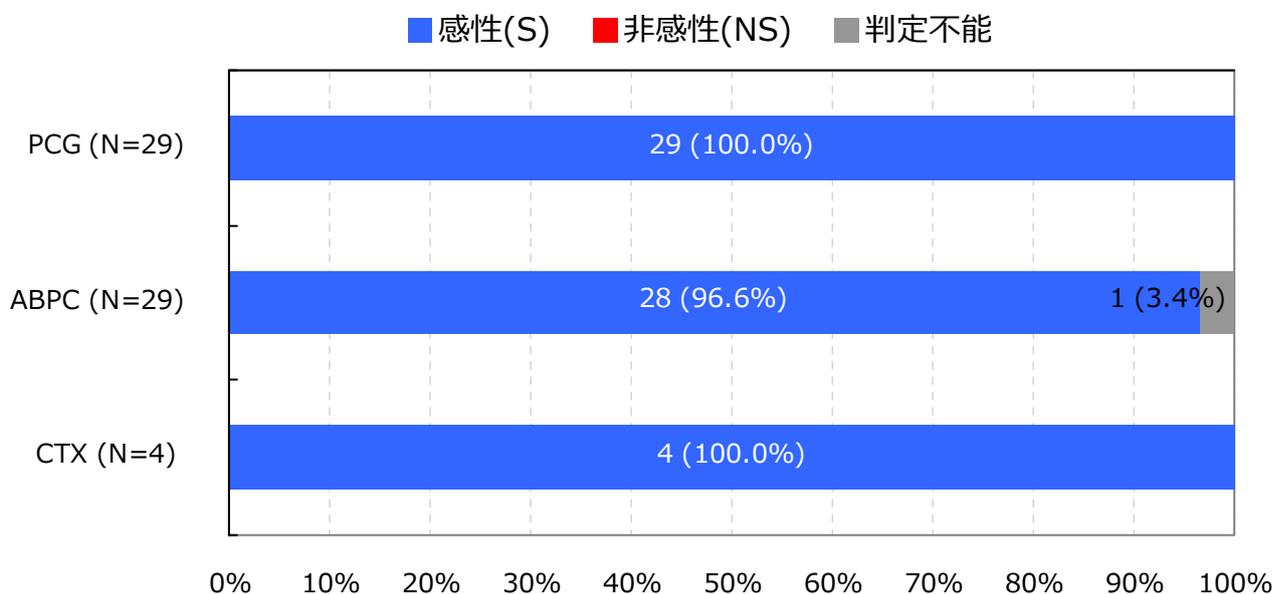
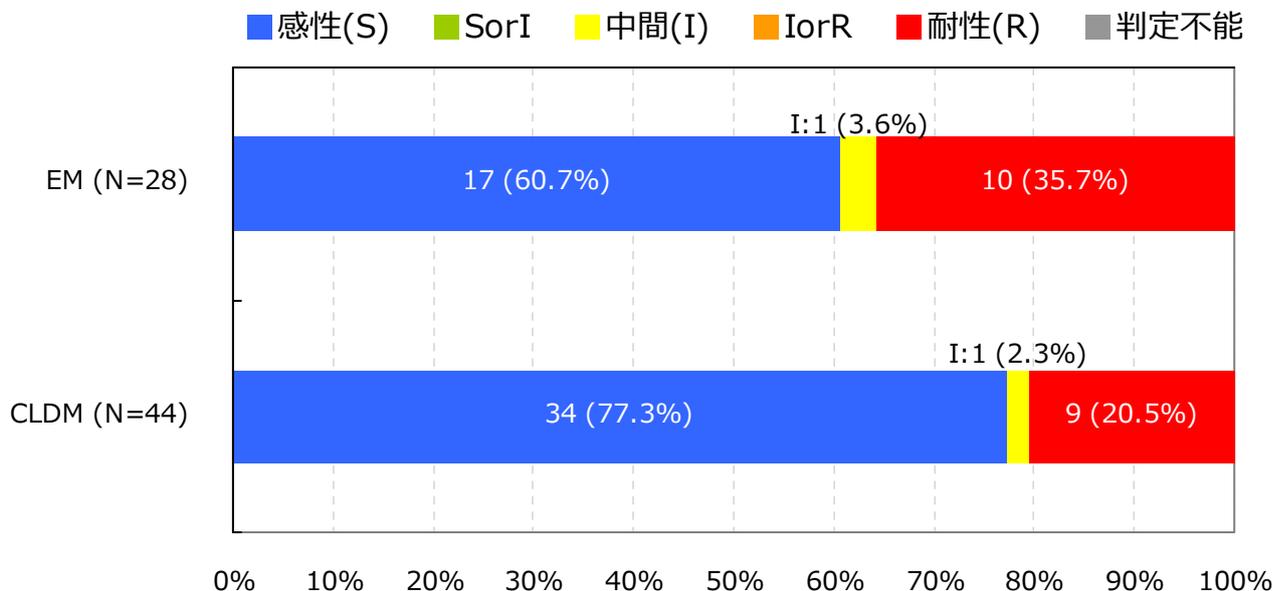
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

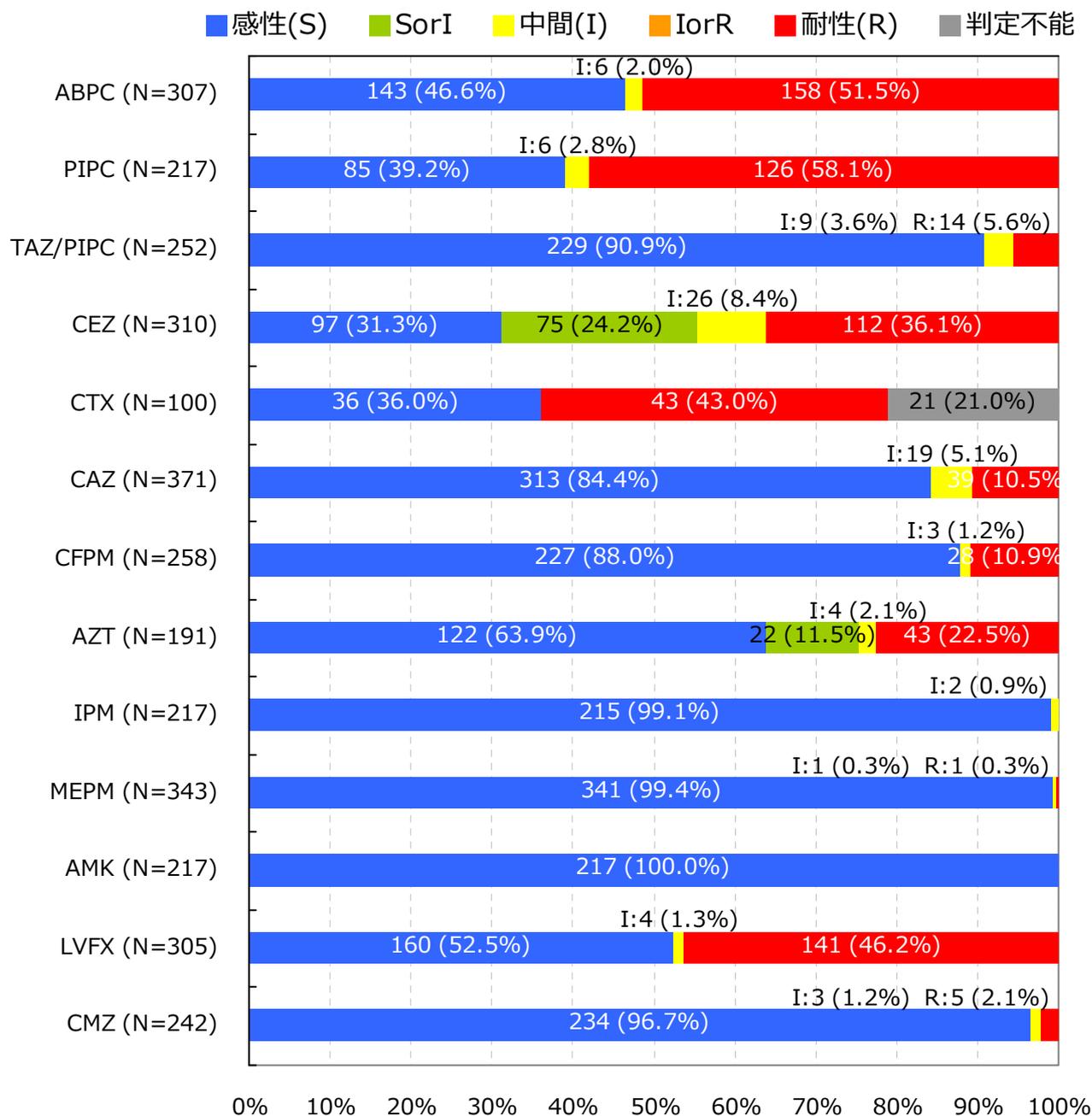
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

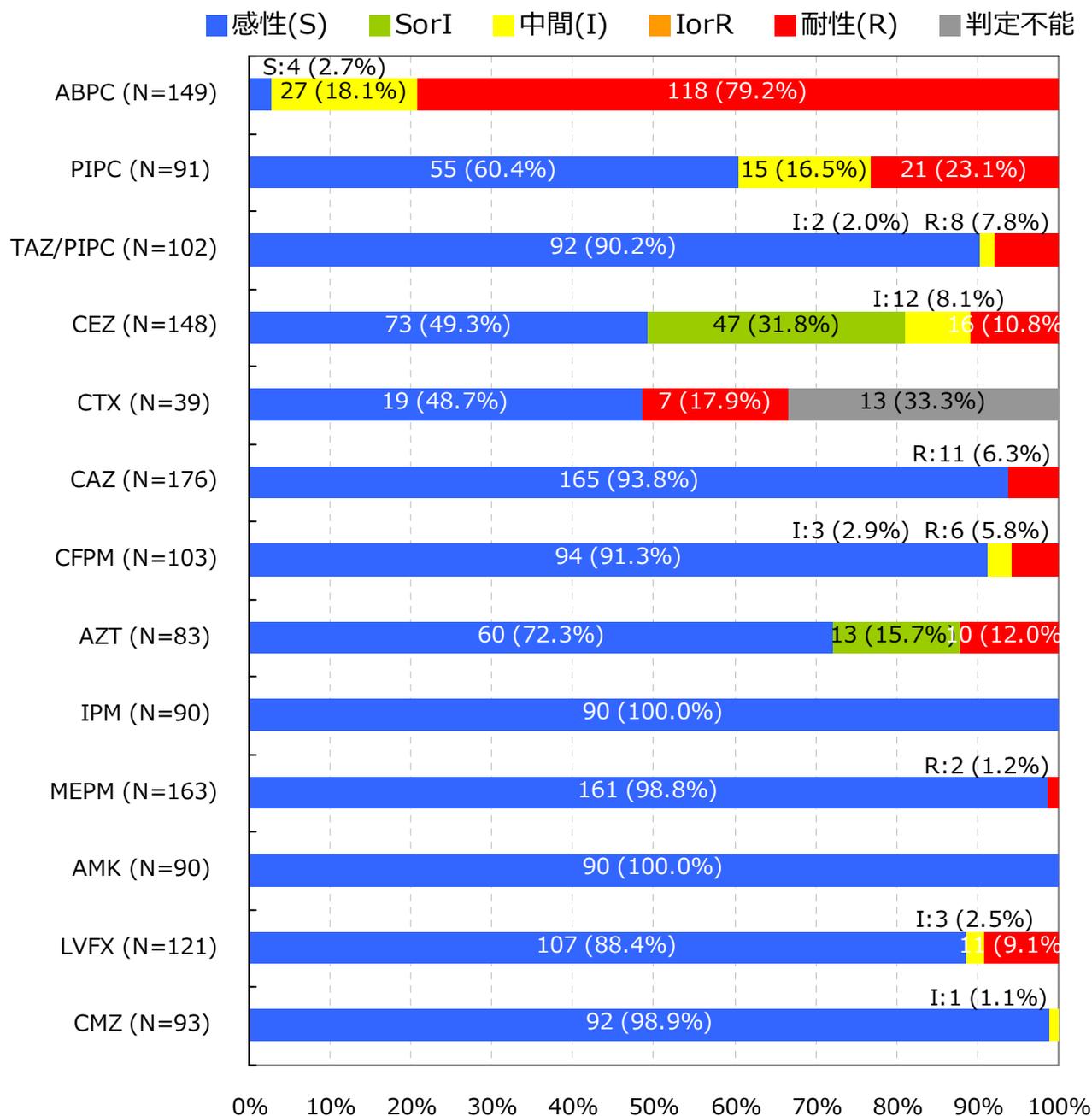
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

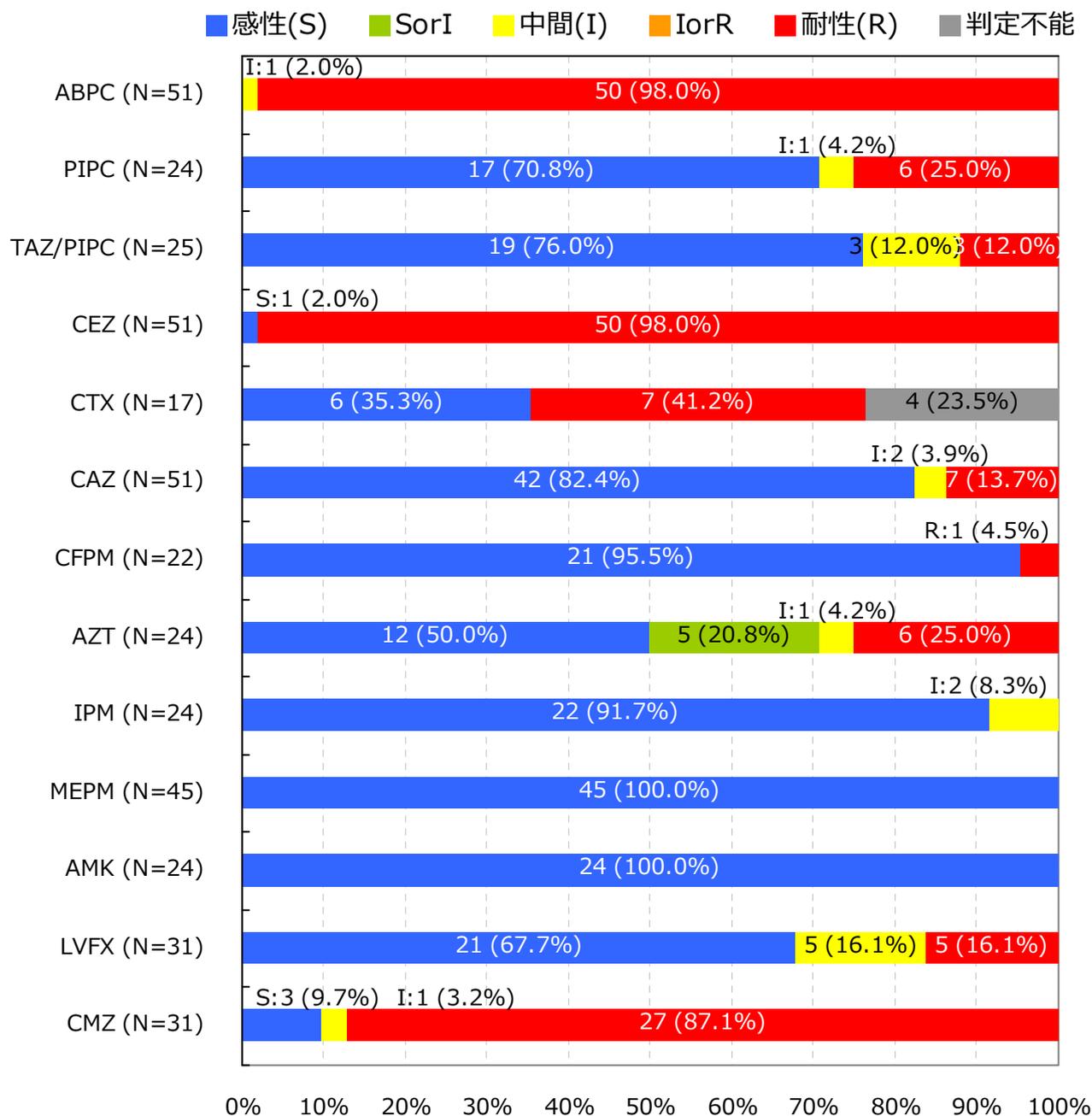
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

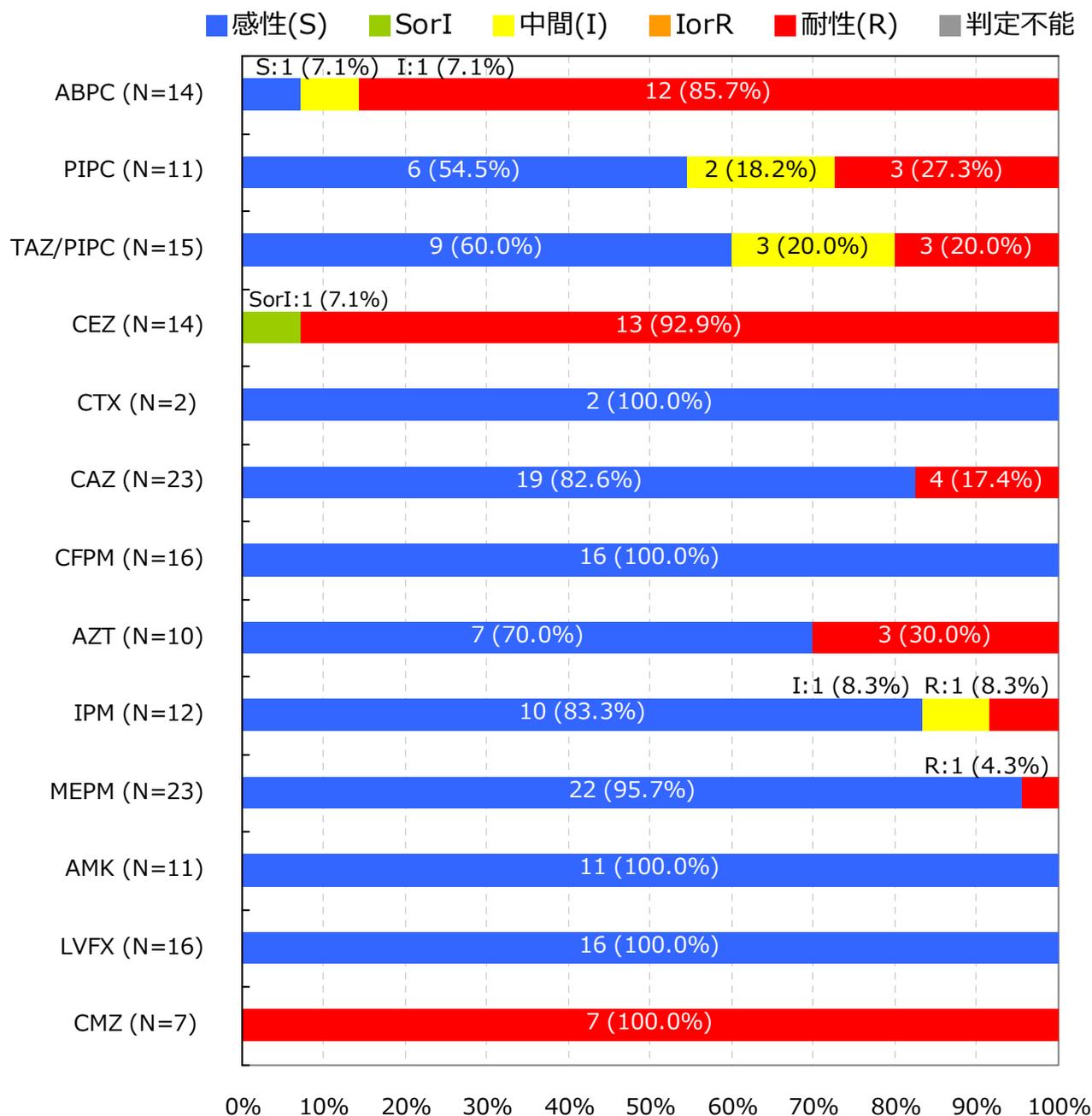
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

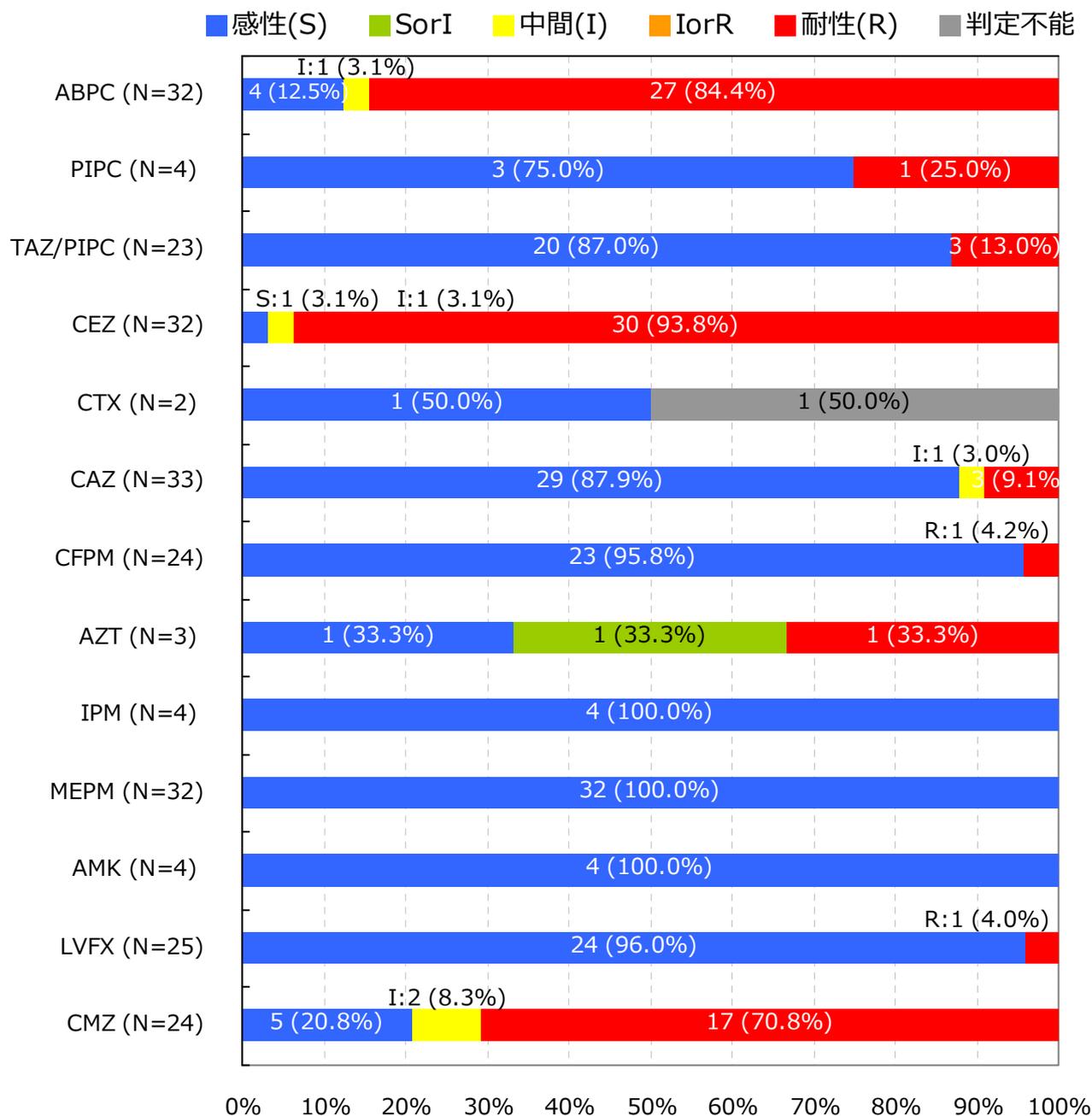
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

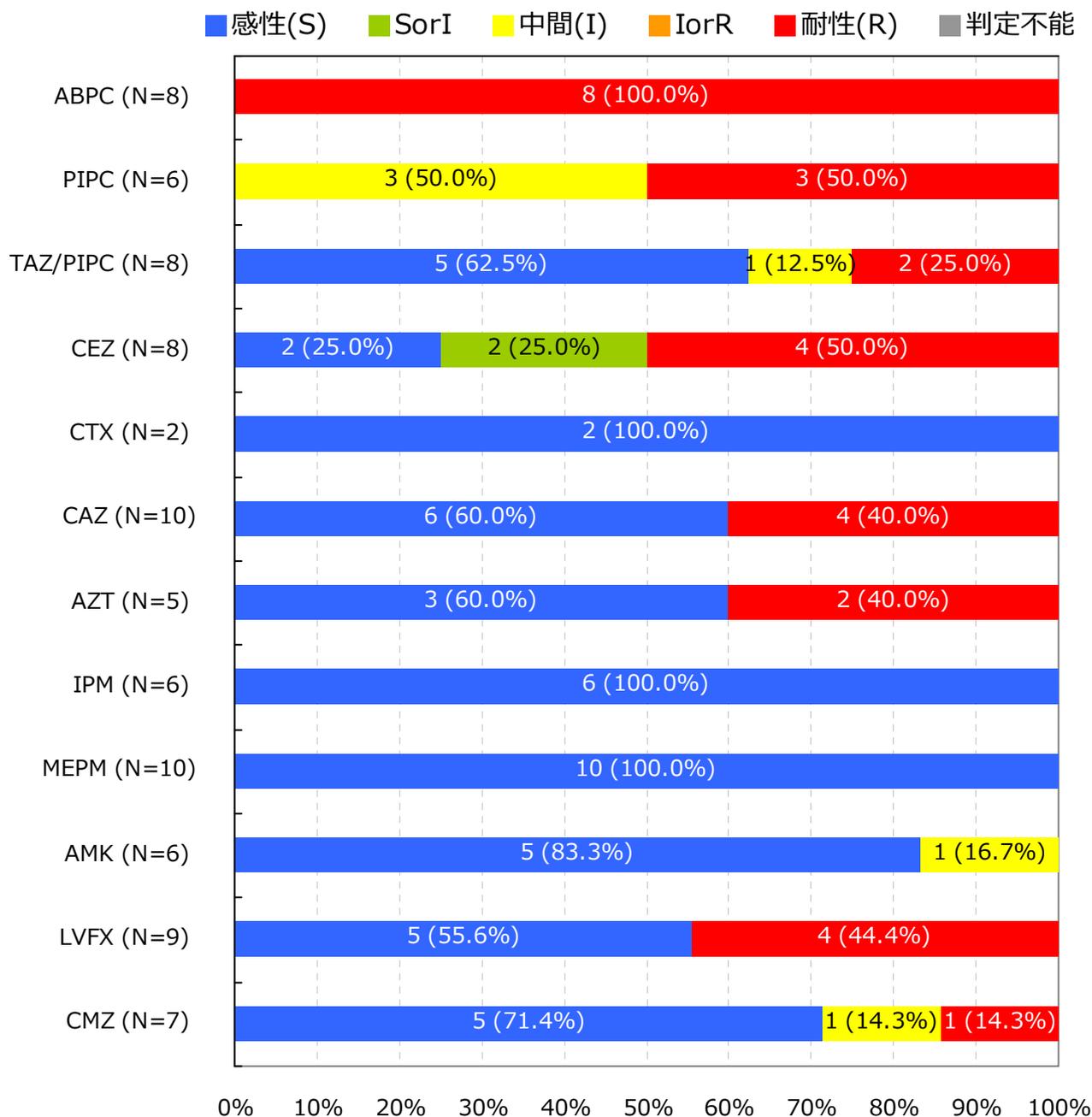
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

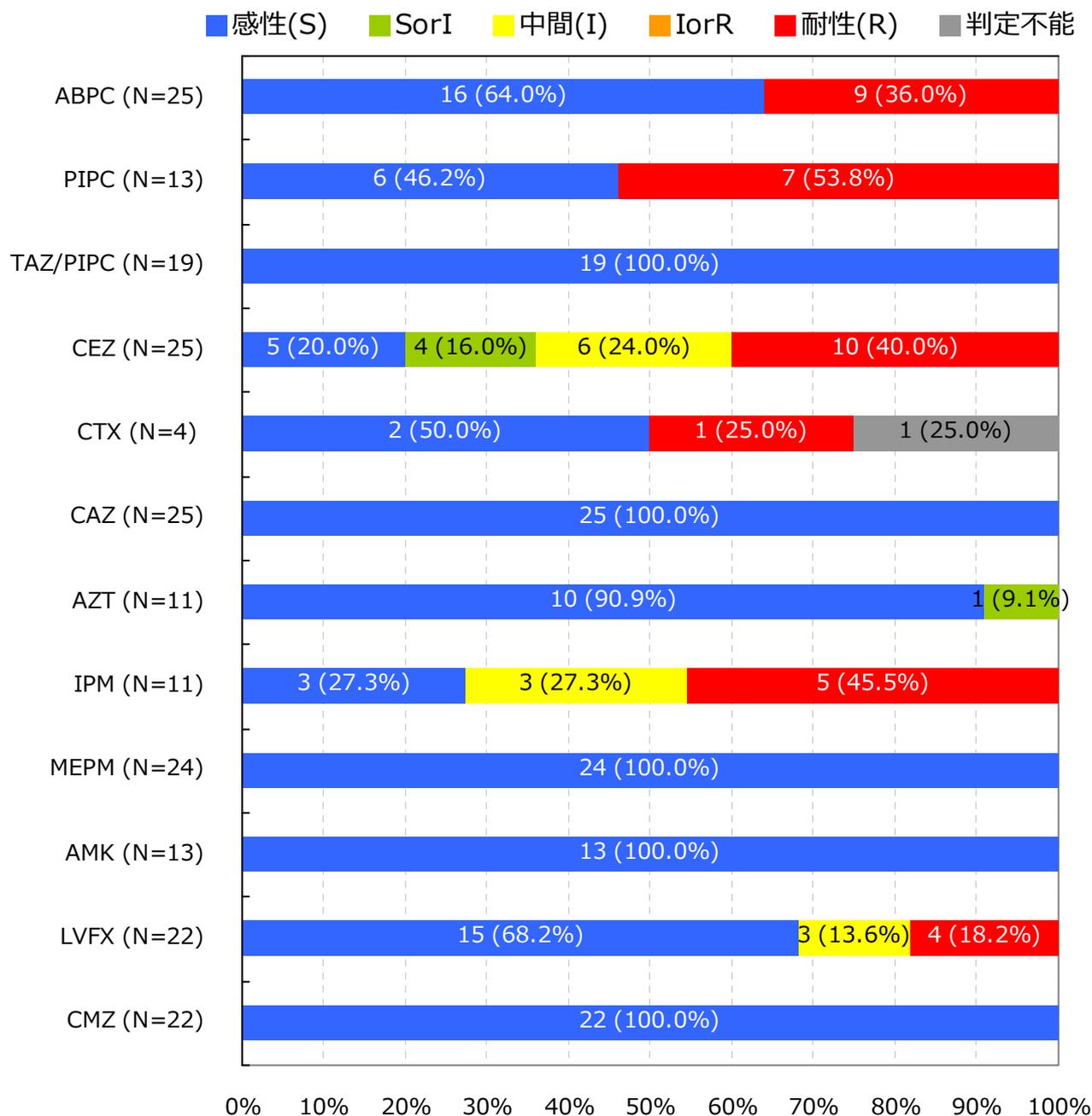
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

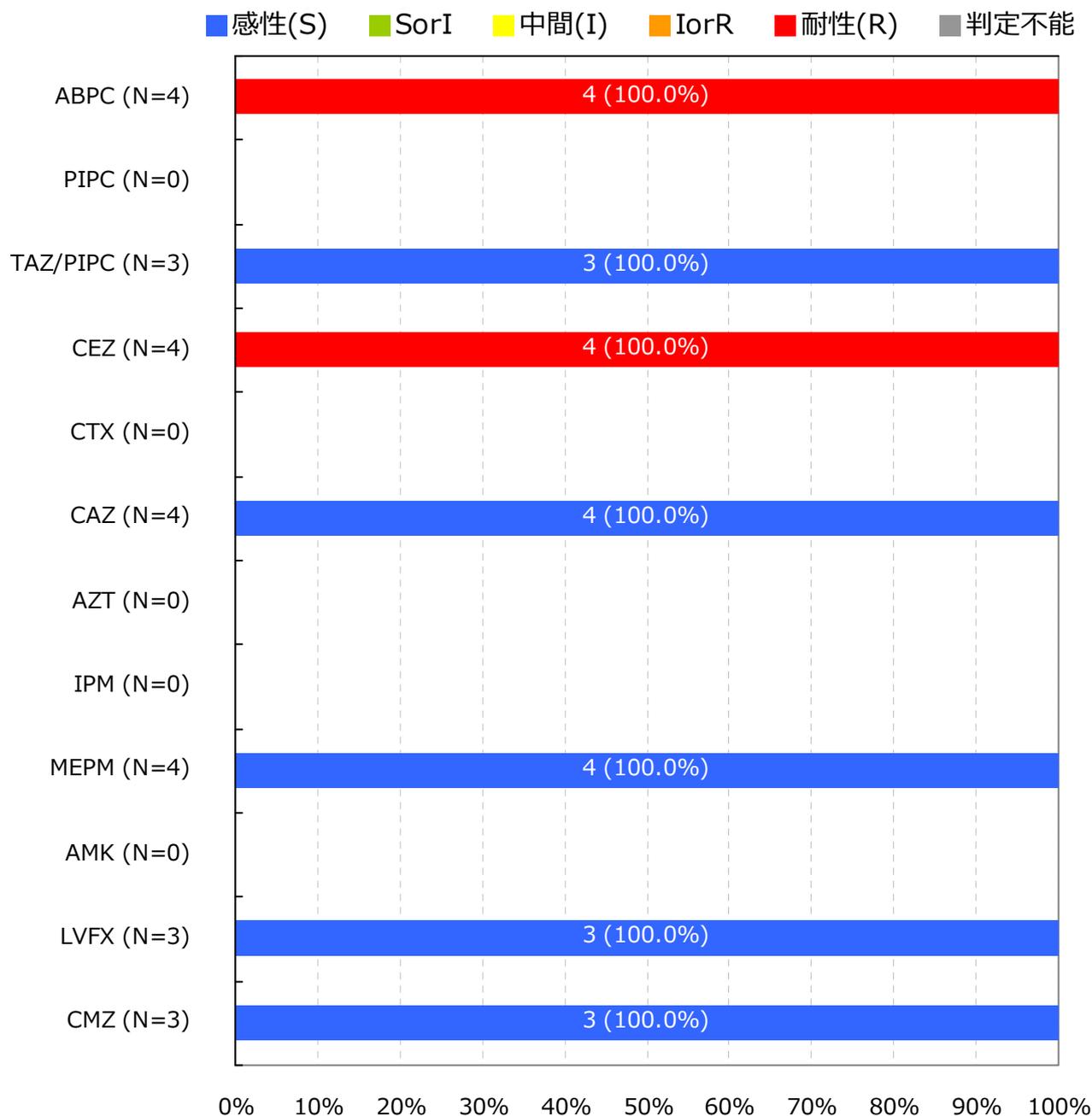
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

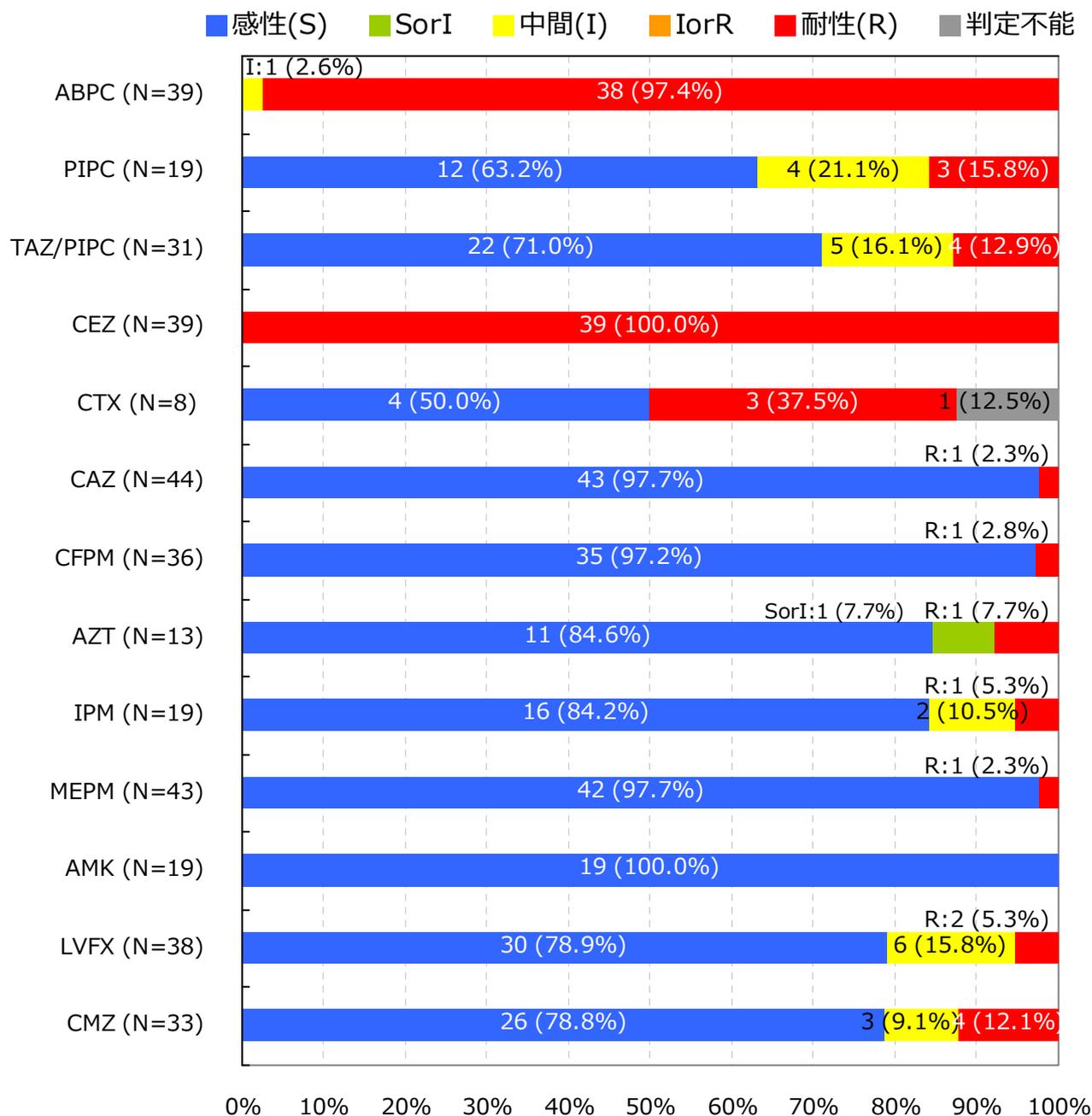
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

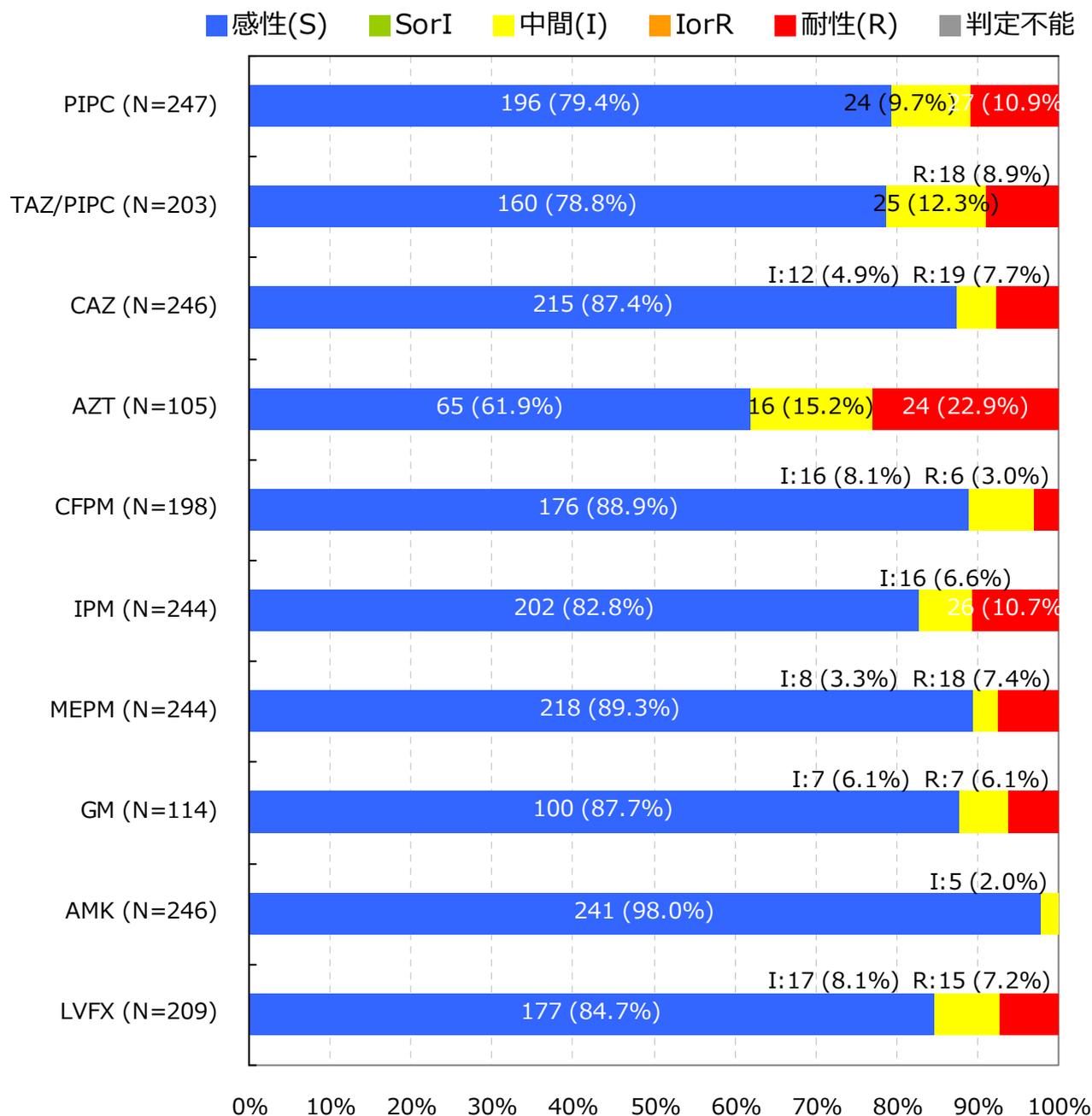
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

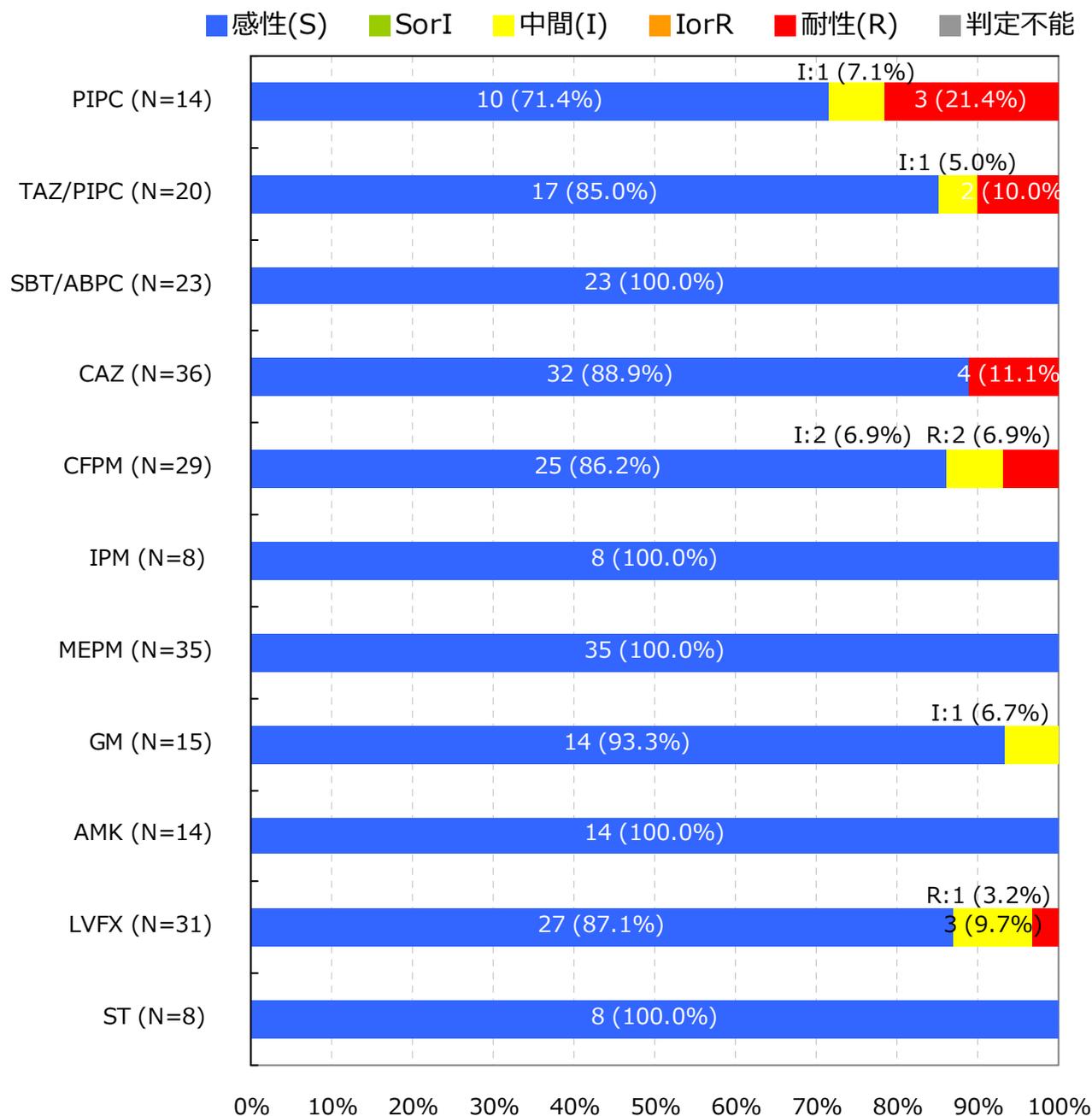
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

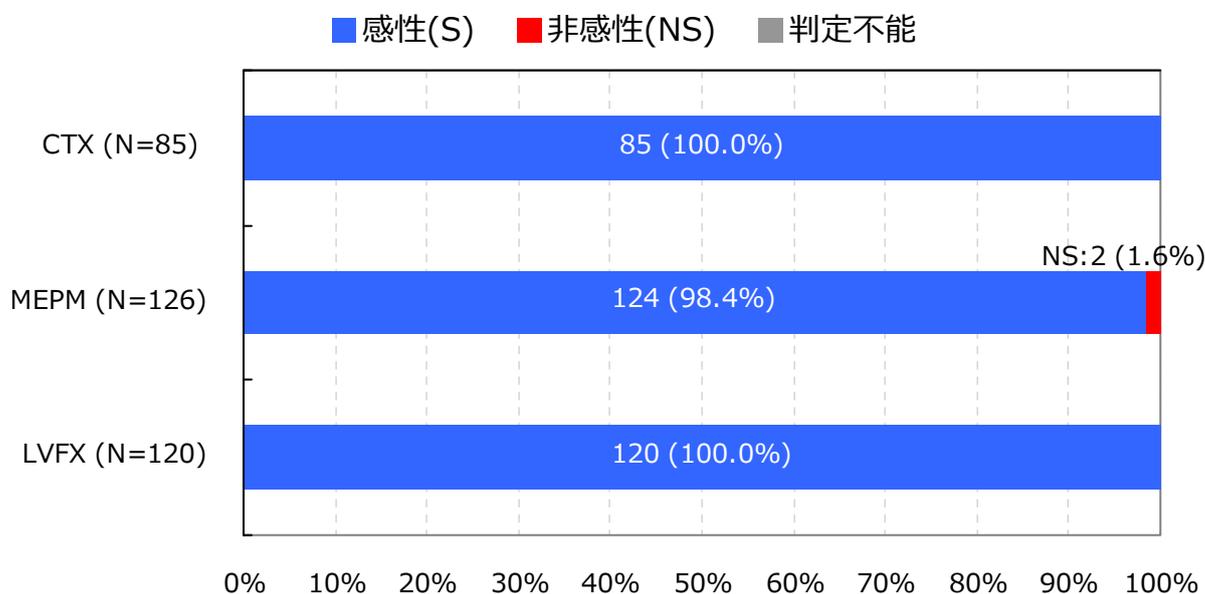
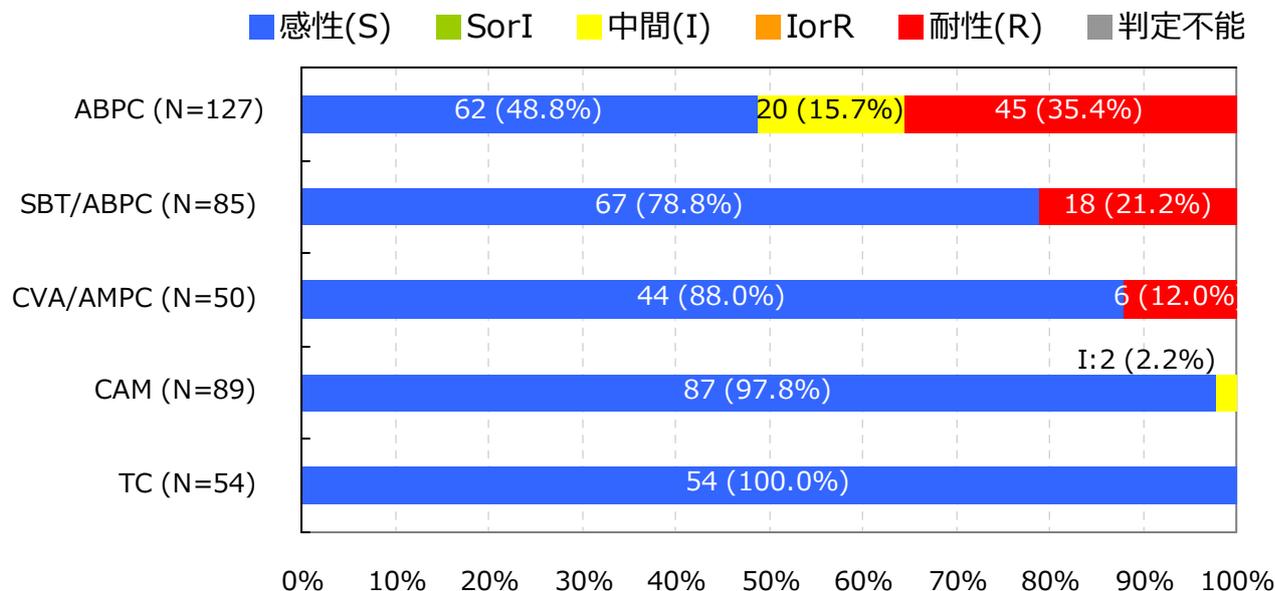
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペナム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペナム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペナム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペナム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

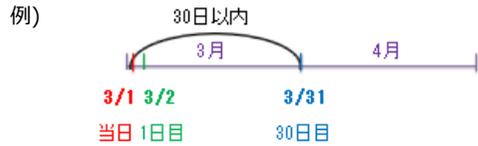
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

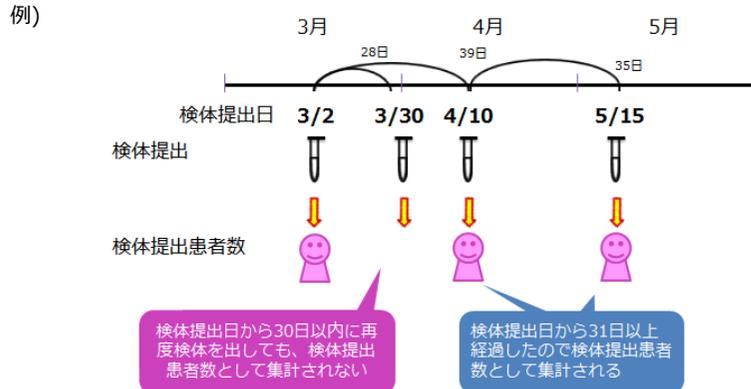
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



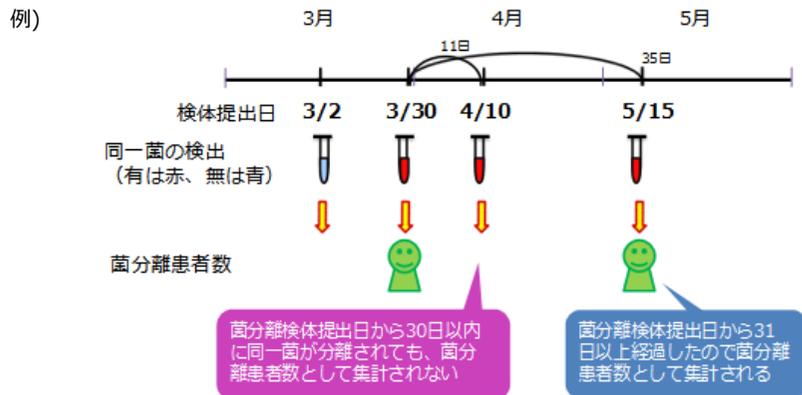
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



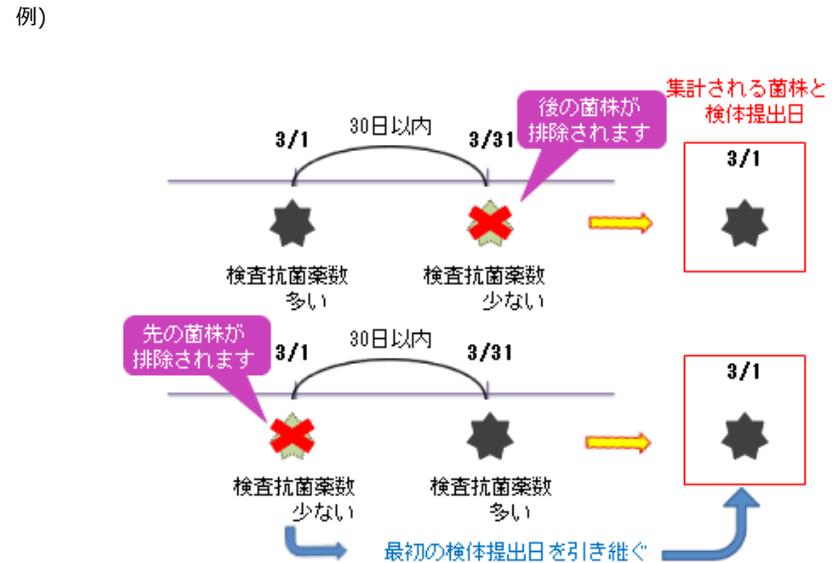
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

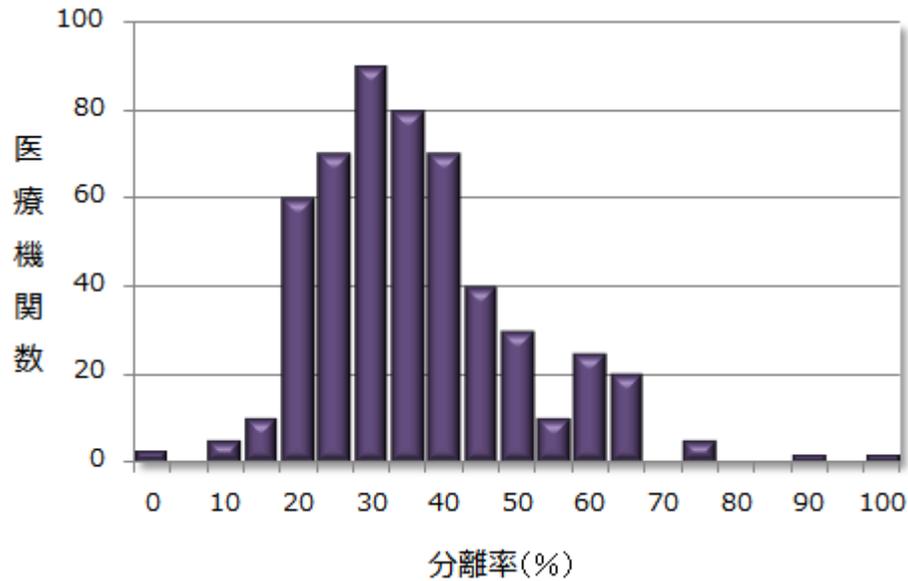
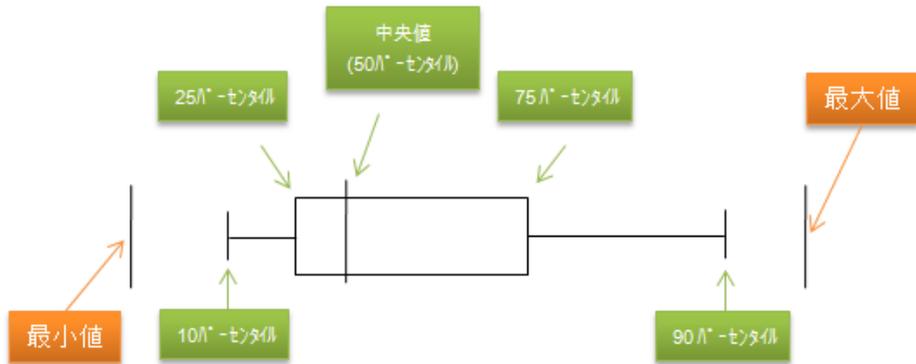
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

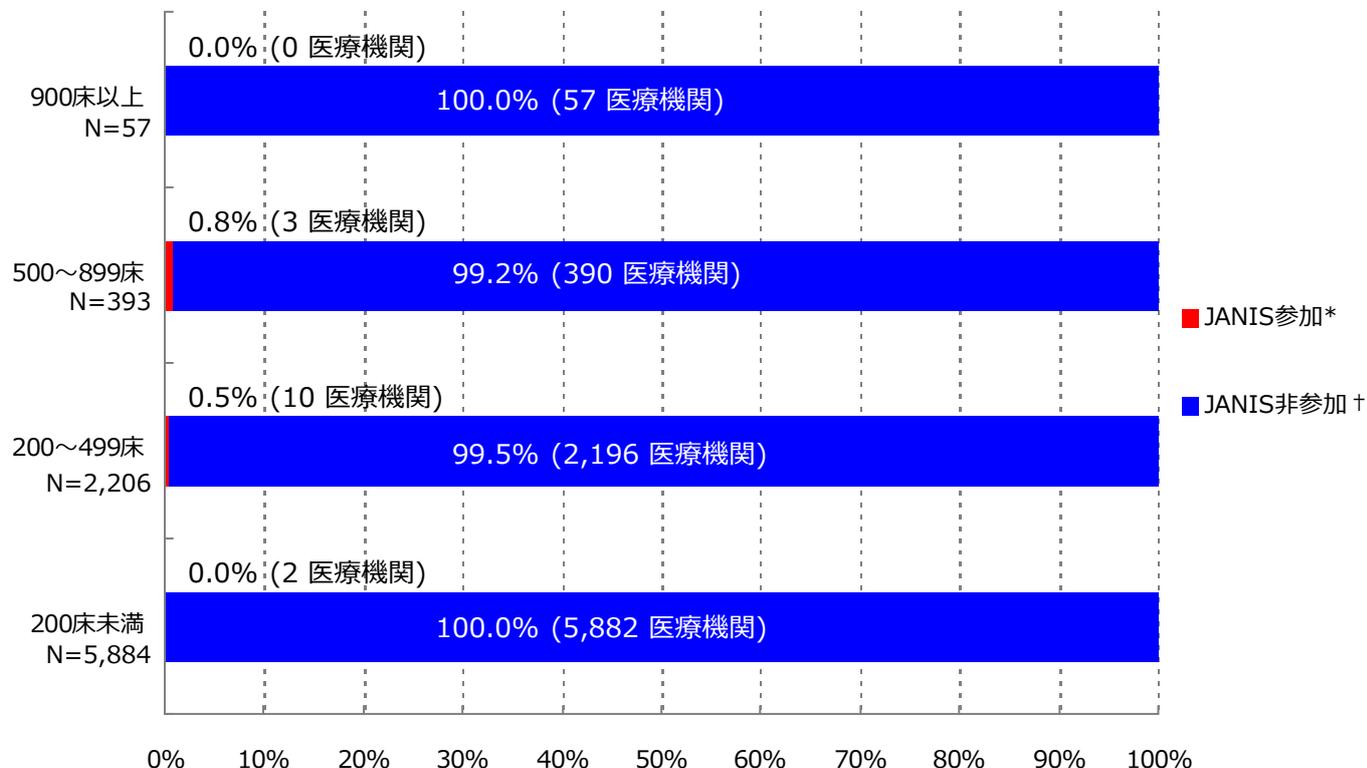
2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |



### 1. 集計対象医療機関数(15医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |
|----------|-----------------|---|
| 900床以上   | 57              | 0 ( 0.0% )                              |
| 500～899床 | 393             | 3 ( 0.8% )                              |
| 200～499床 | 2,206           | 10 ( 0.5% )                             |
| 200床未満   | 5,884           | 2 ( 0.0% )                              |
| 病床数不明    | -               | 0 ( - )                                 |
| 合計       | 8,540           | 15 ( 0.2% )                             |

† 平成25年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)   |
|--------|-----------|--------|-------------------|
| 呼吸器系検体 | 15        | 5,135  | 2,713<br>(4,997)  |
| 尿検体    | 15        | 1,809  | 1,036<br>(1,441)  |
| 便検体    | 14        | 907    | 544<br>(931)      |
| 血液検体   | 15        | 5,198  | 686<br>(897)      |
| 髄液検体   | 13        | 193    | 17<br>(20)        |
| その他    | 15        | 2,616  | 1,475<br>(2,413)  |
| 合計     | 15        | 15,858 | 6,471<br>(10,699) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

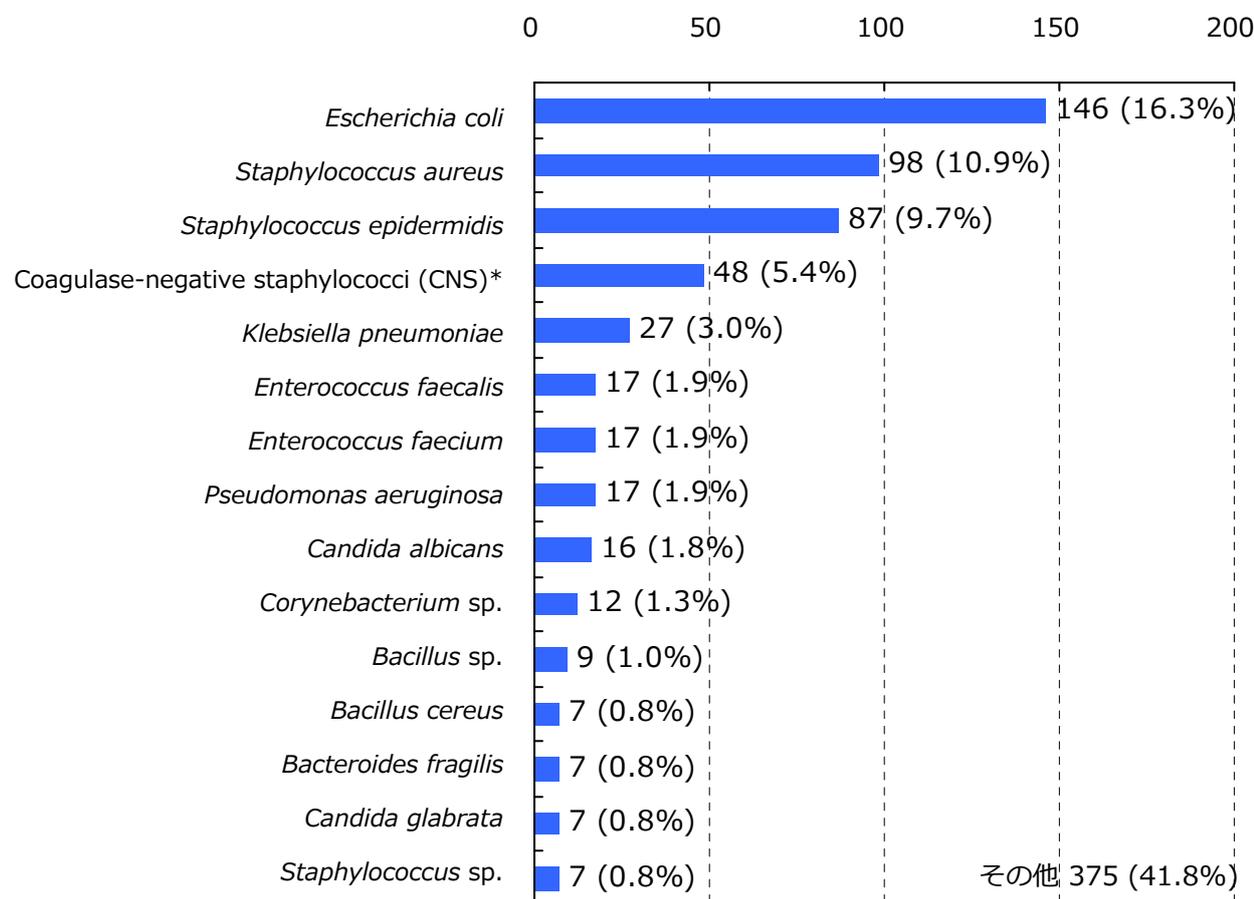
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=897)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

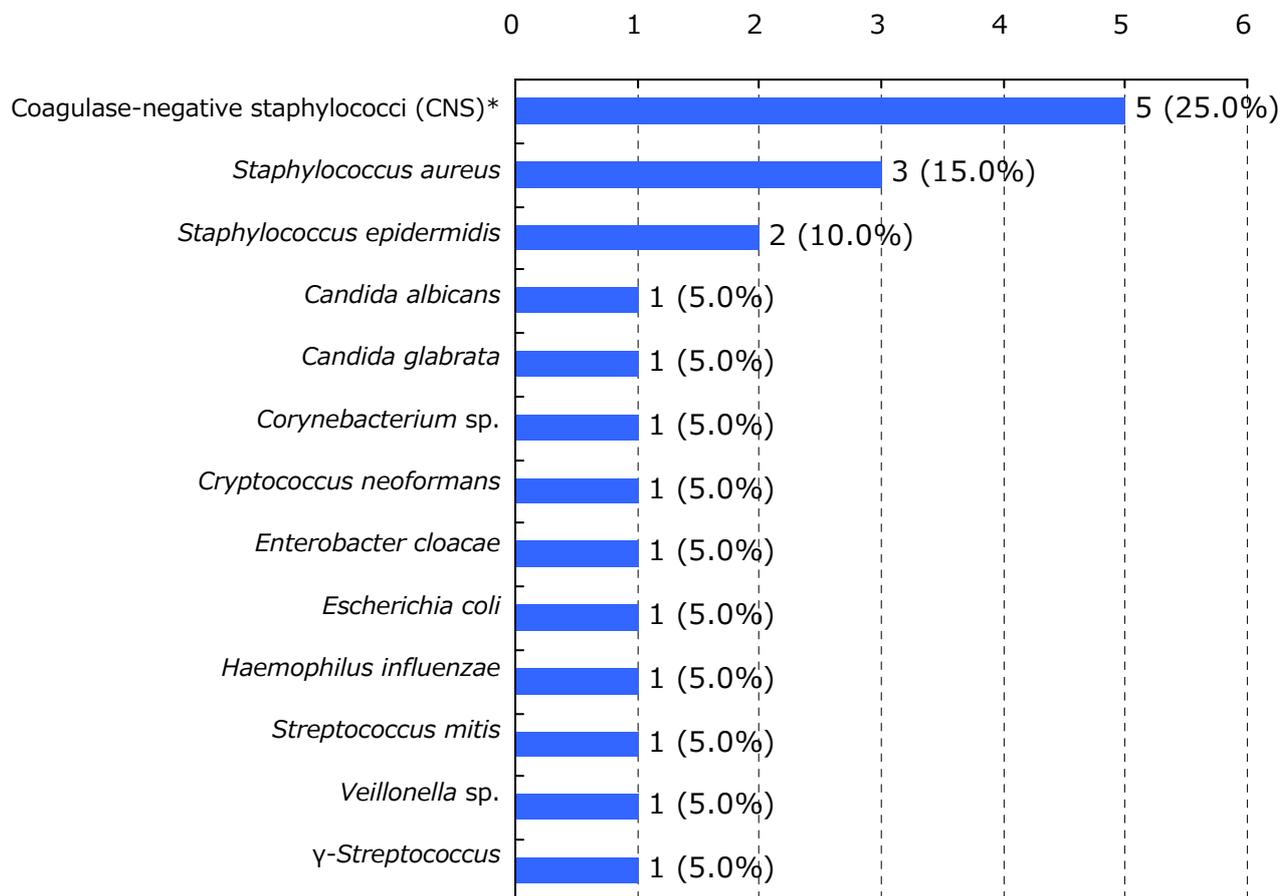
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=20)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

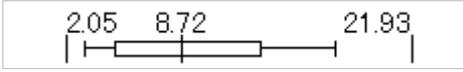
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布  |
|------------------------|------------------------|--|
| 検体提出患者数                | 6,192人                 |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 473人<br>(7.64%)        | 2.05 8.72 21.93<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>              |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 28人<br>(0.45%)         | 0.00 0.32 2.61<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 2人<br>(0.03%)          | 0.00 0.00 0.46<br>   |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>            |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 17人<br>(0.27%)         | 0.00 0.00 0.83<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 58人<br>(0.94%)         | 0.00 0.56 2.63<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 7人<br>(0.11%)          | 0.00 0.00 0.88<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 136人<br>(2.20%)        | 0.00 2.28 11.11<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 241人<br>(3.89%)        | 0.00 4.41 15.63<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

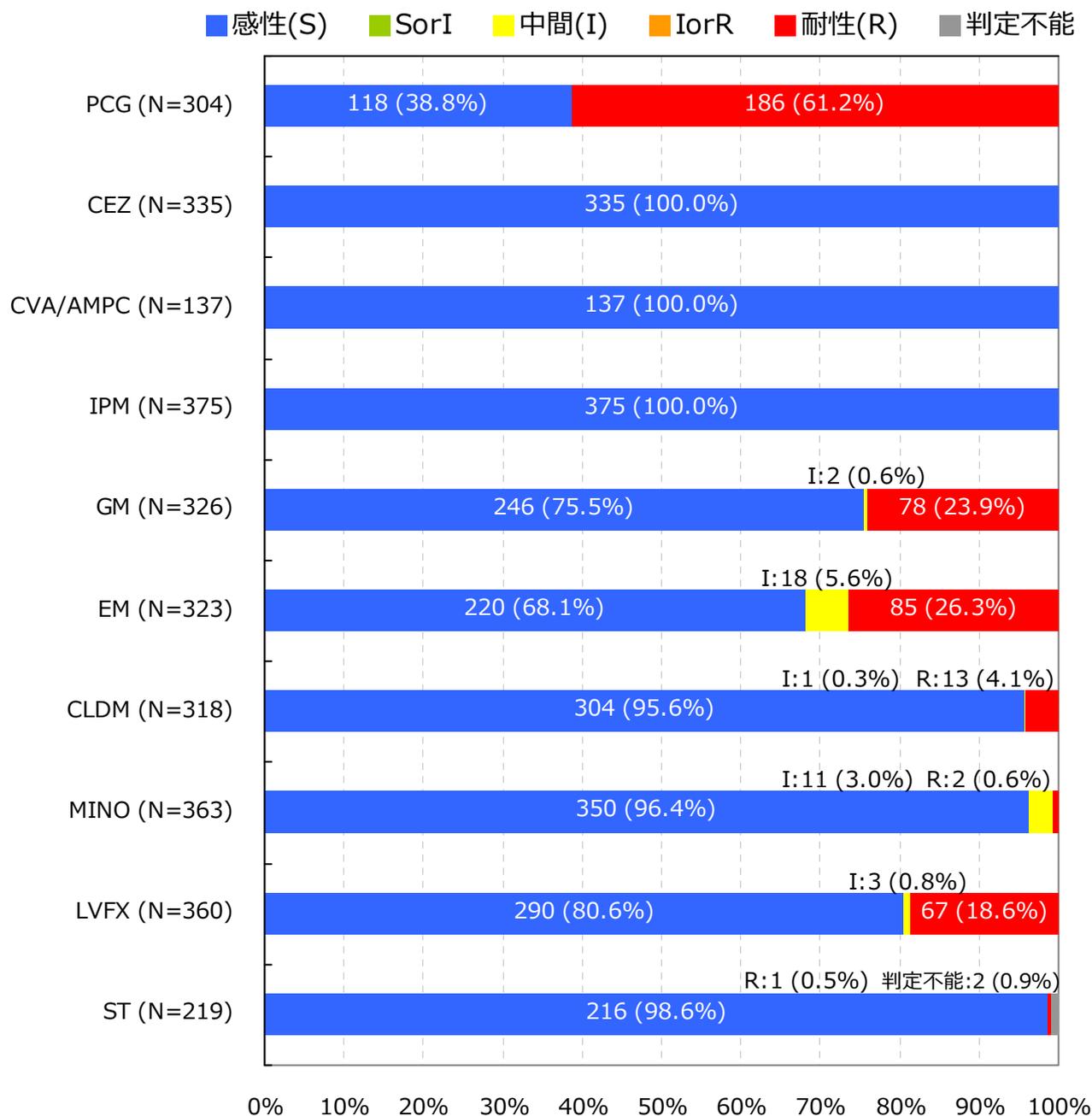
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

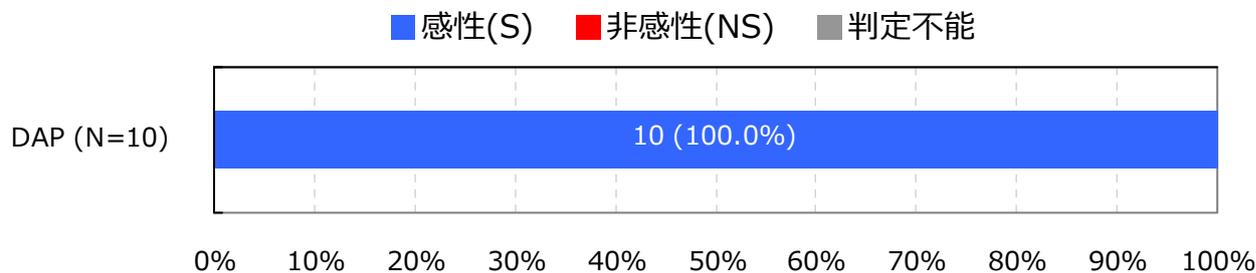
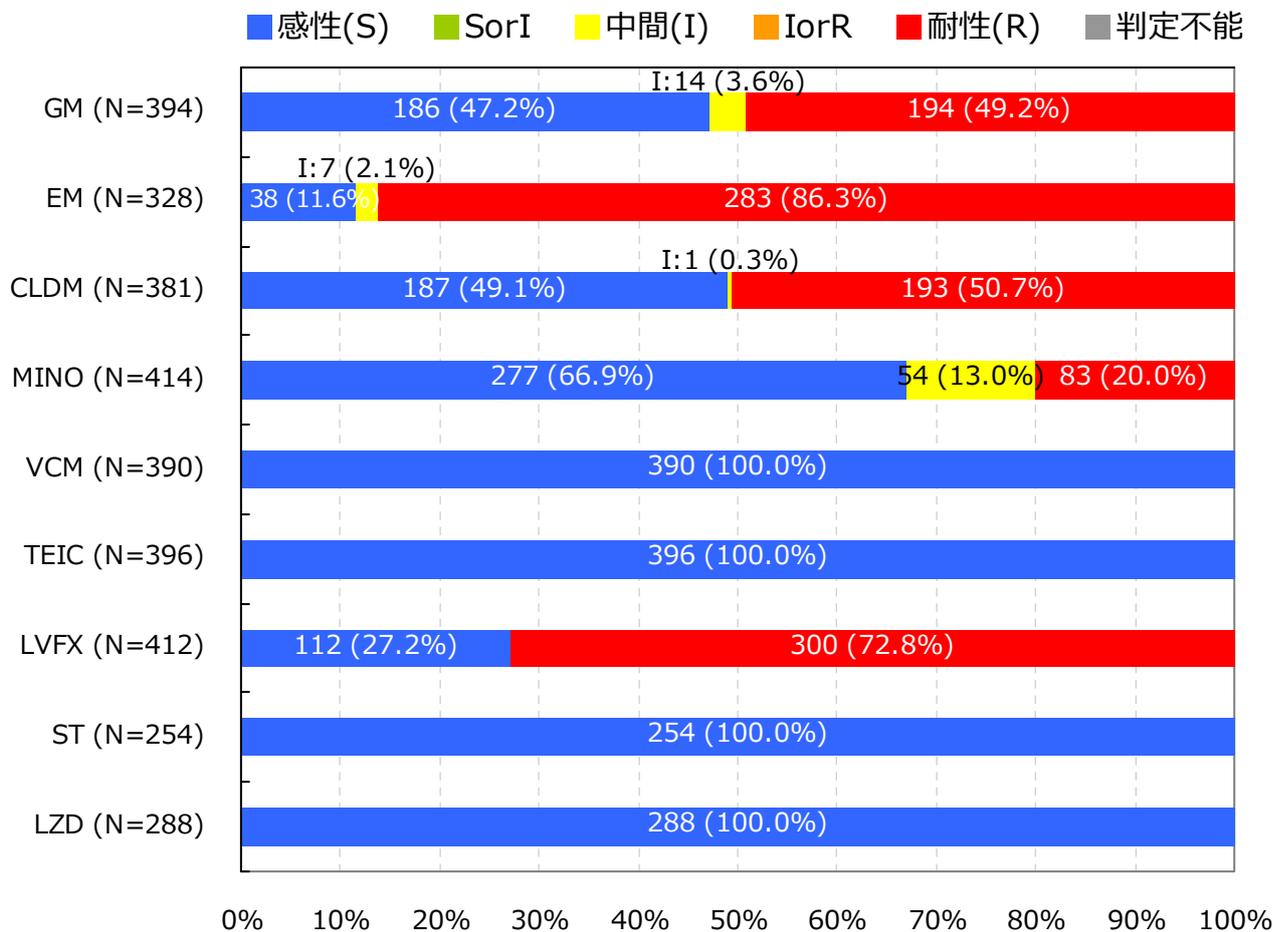
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

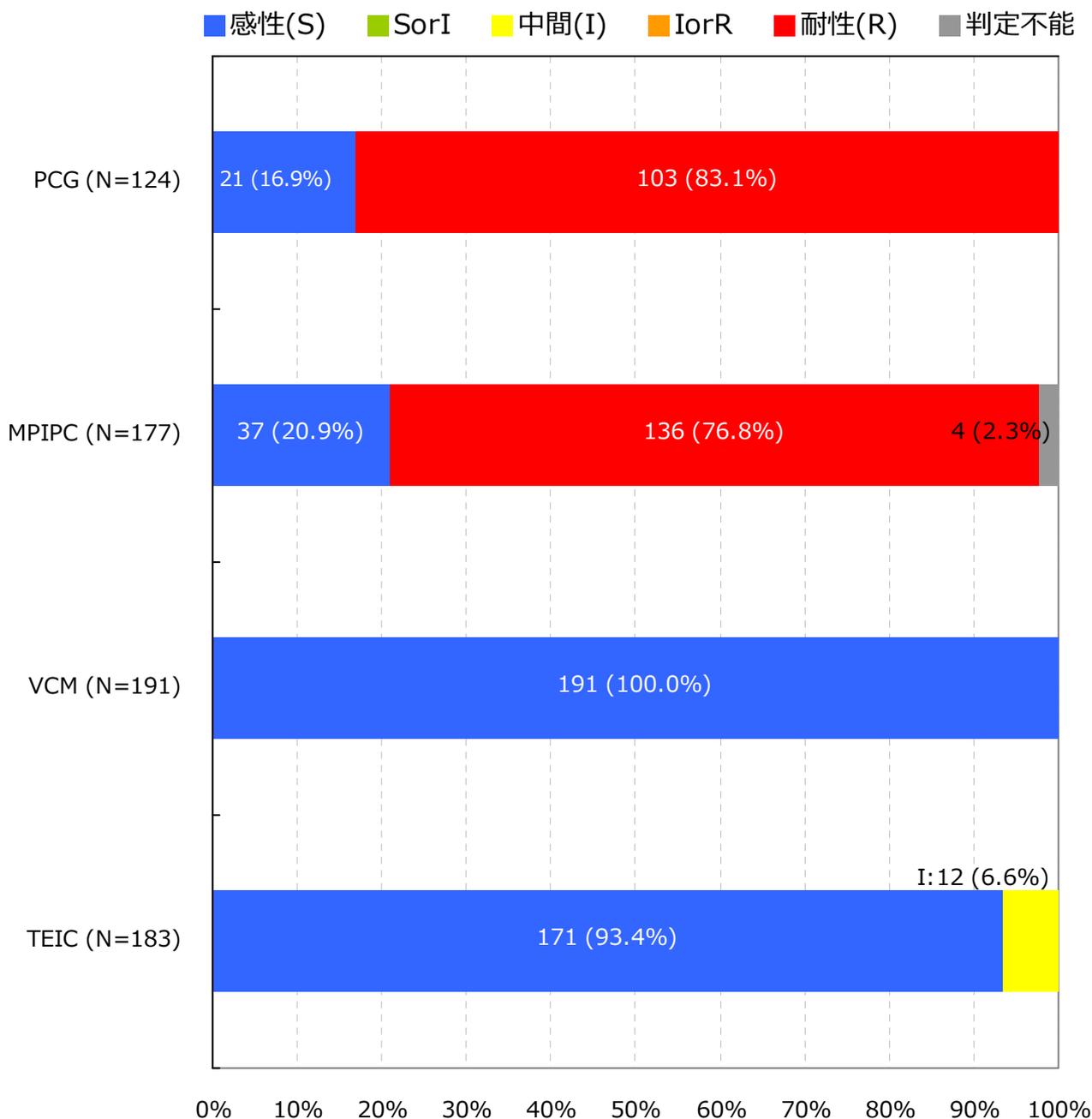
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

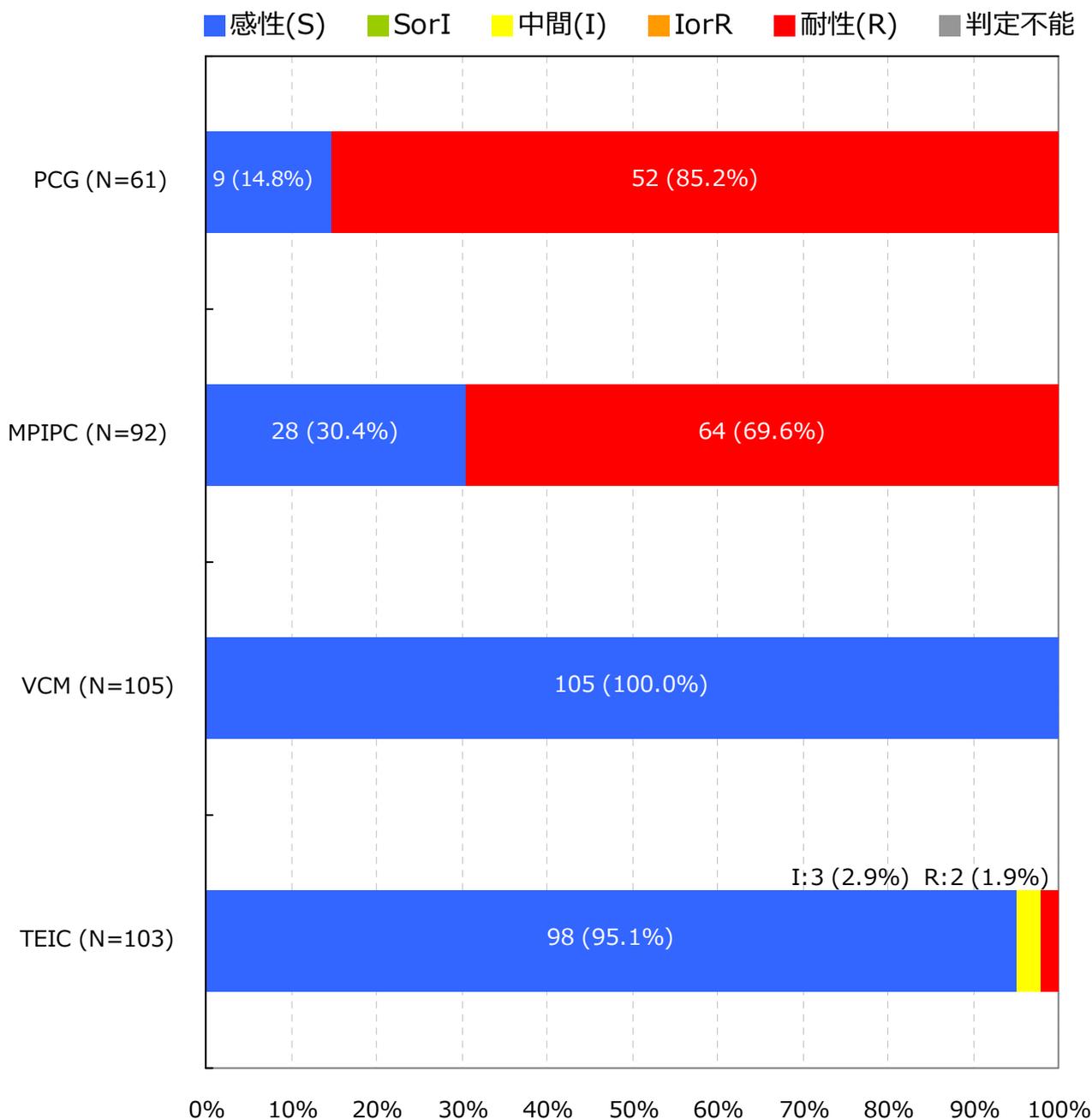
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

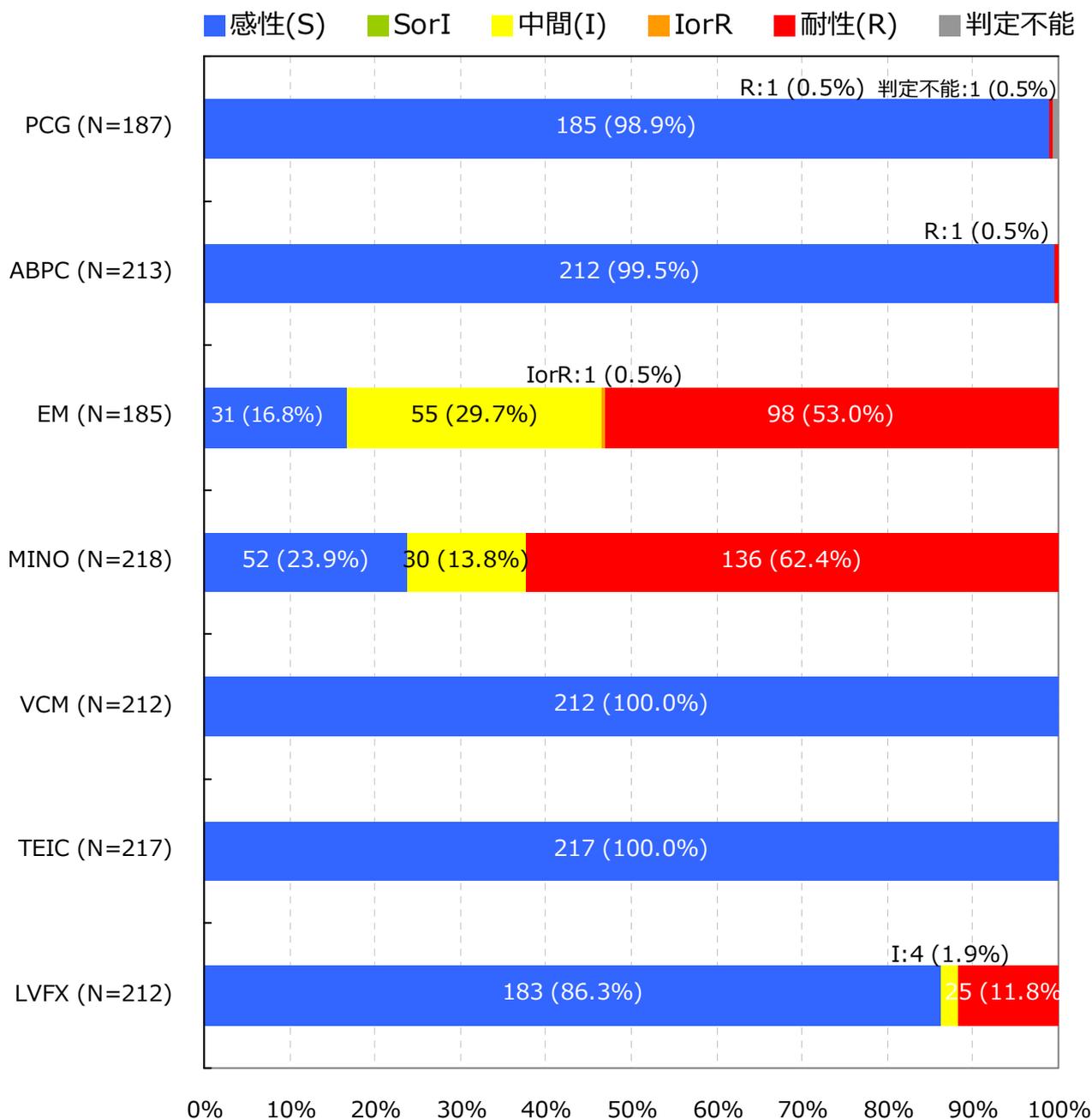
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

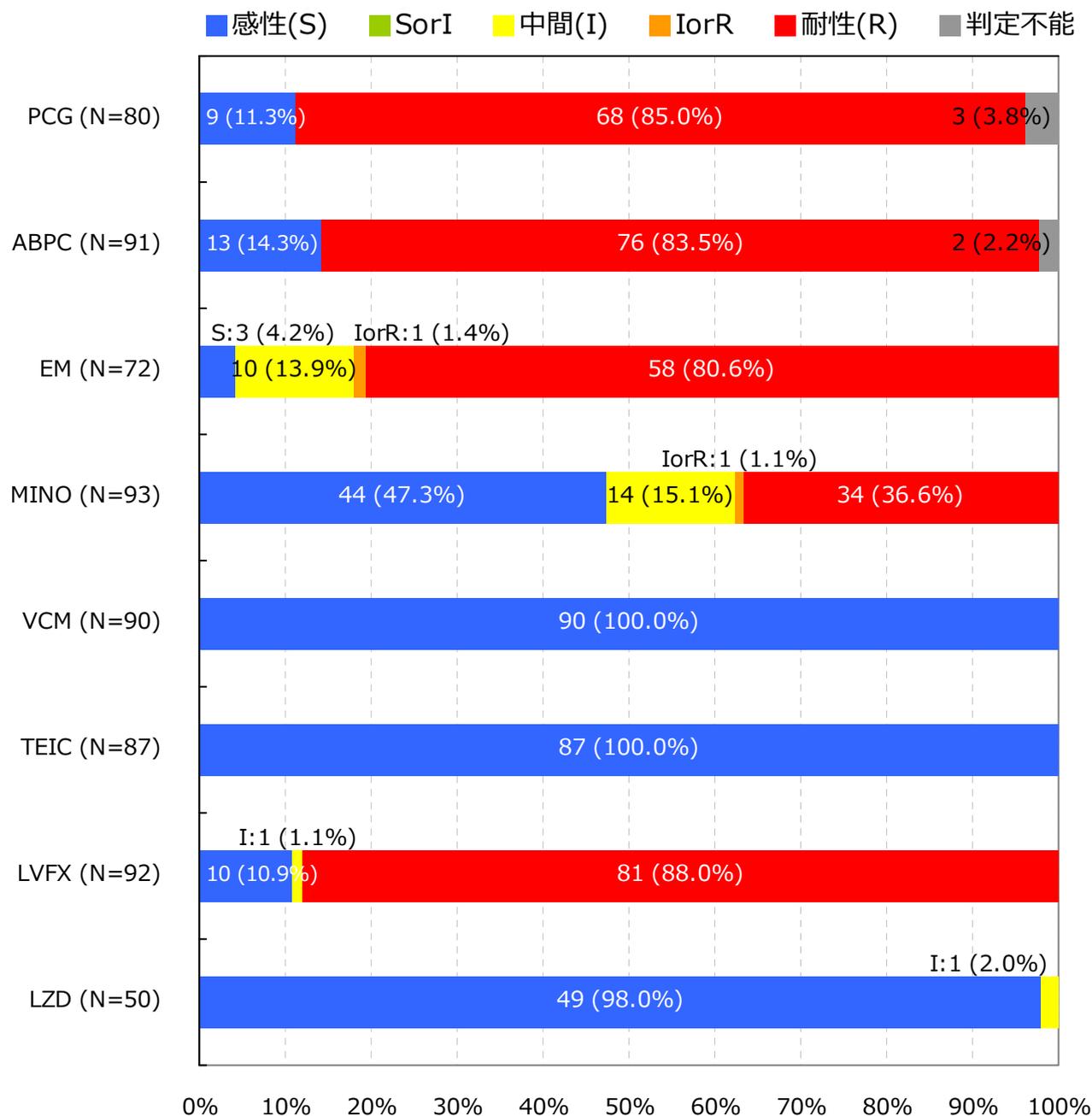
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

(長崎県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

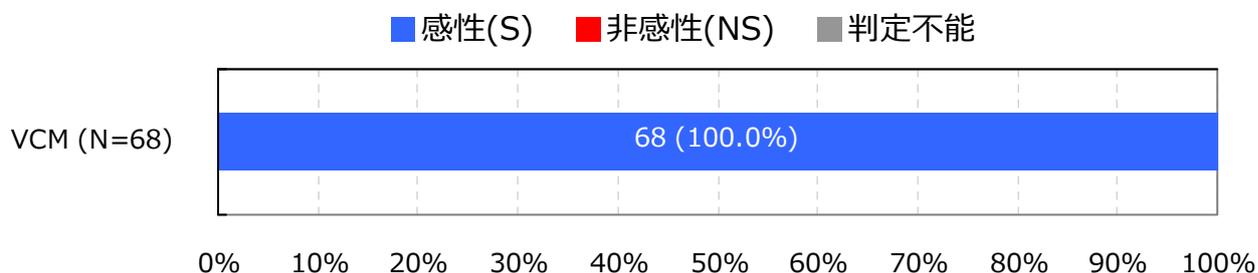
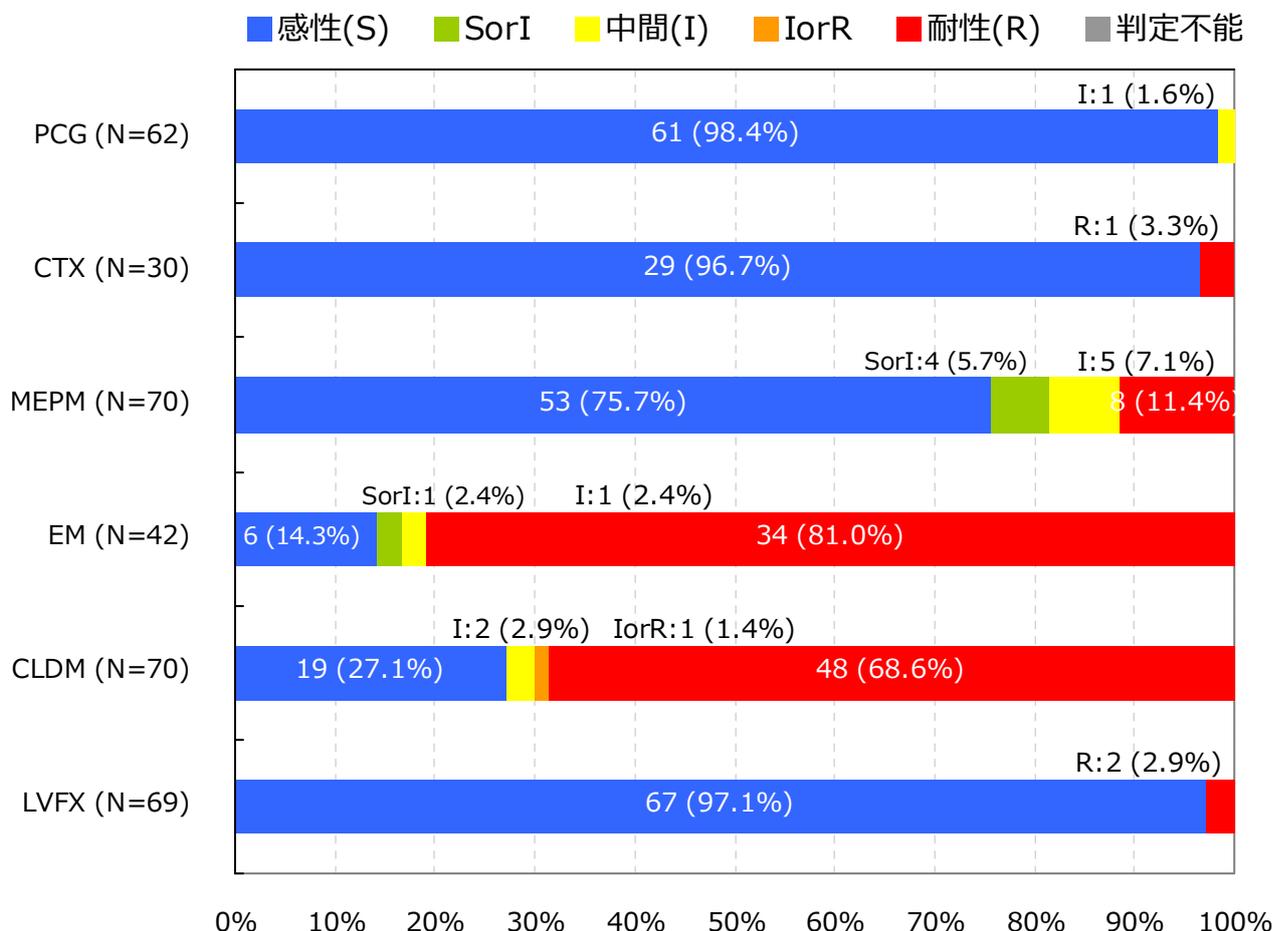
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

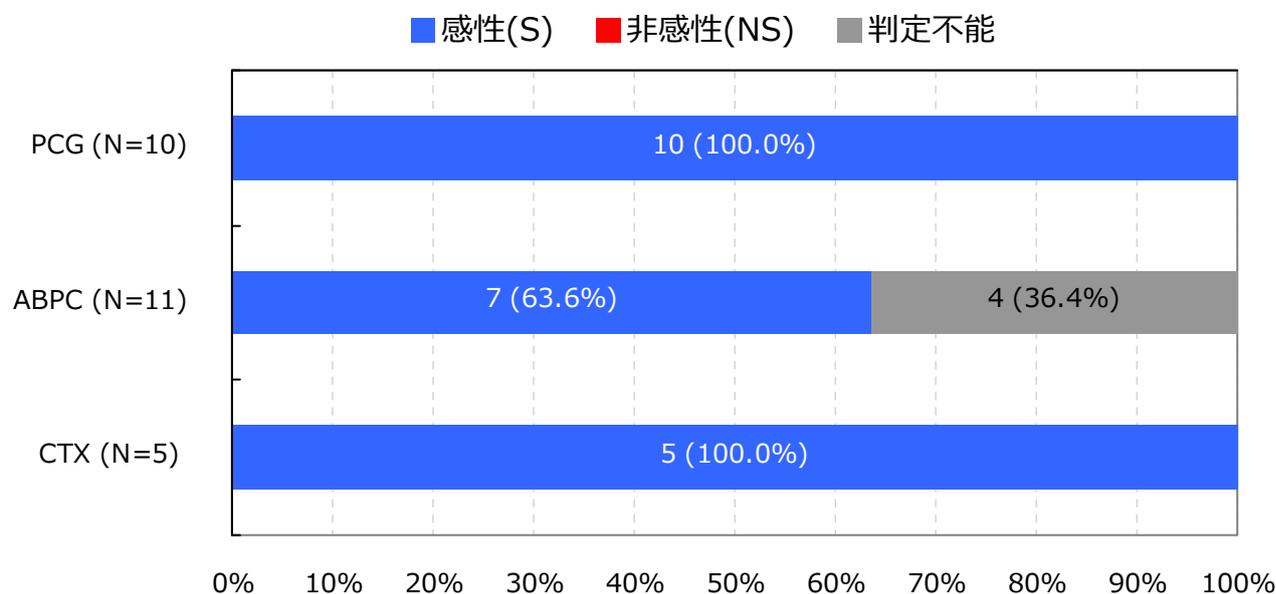
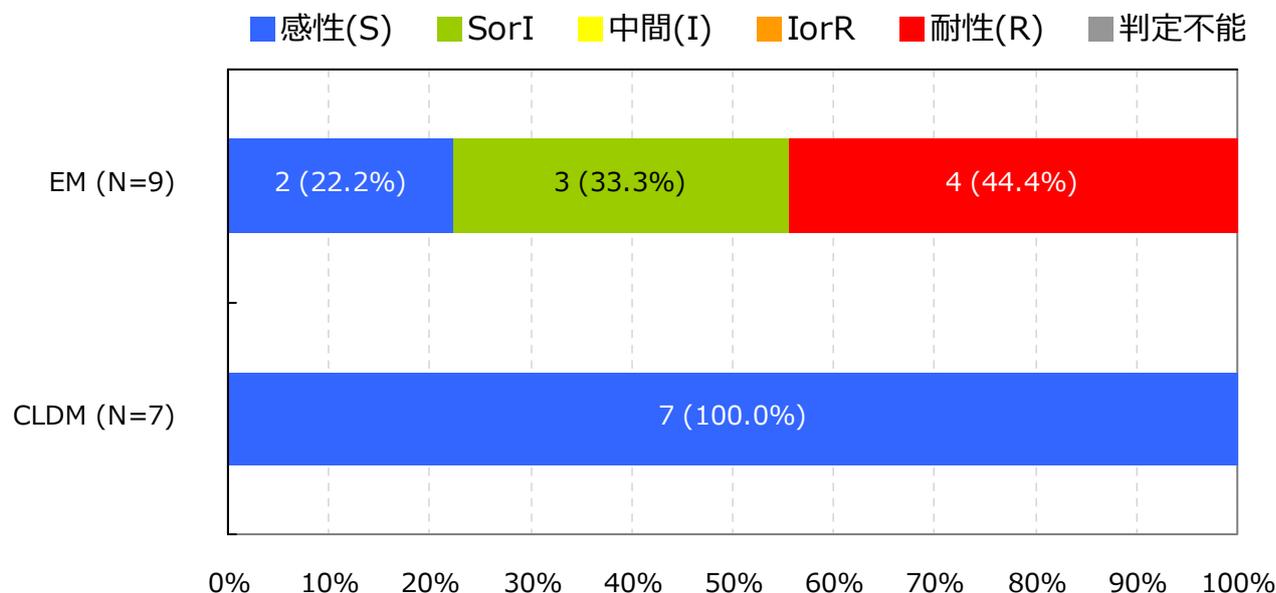
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

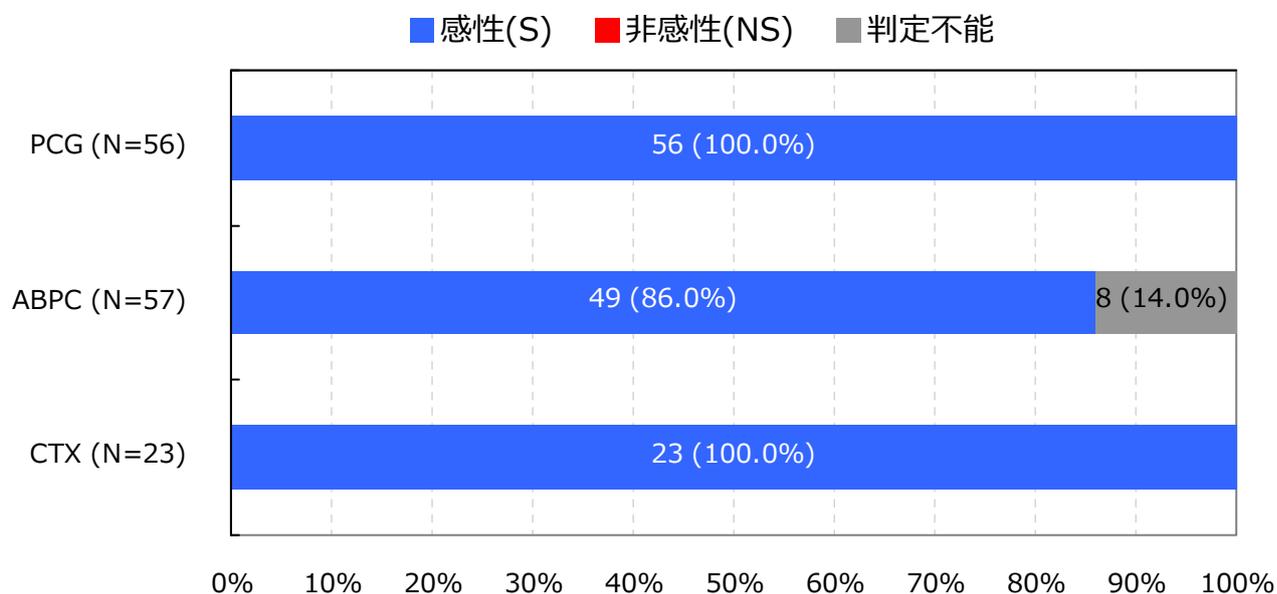
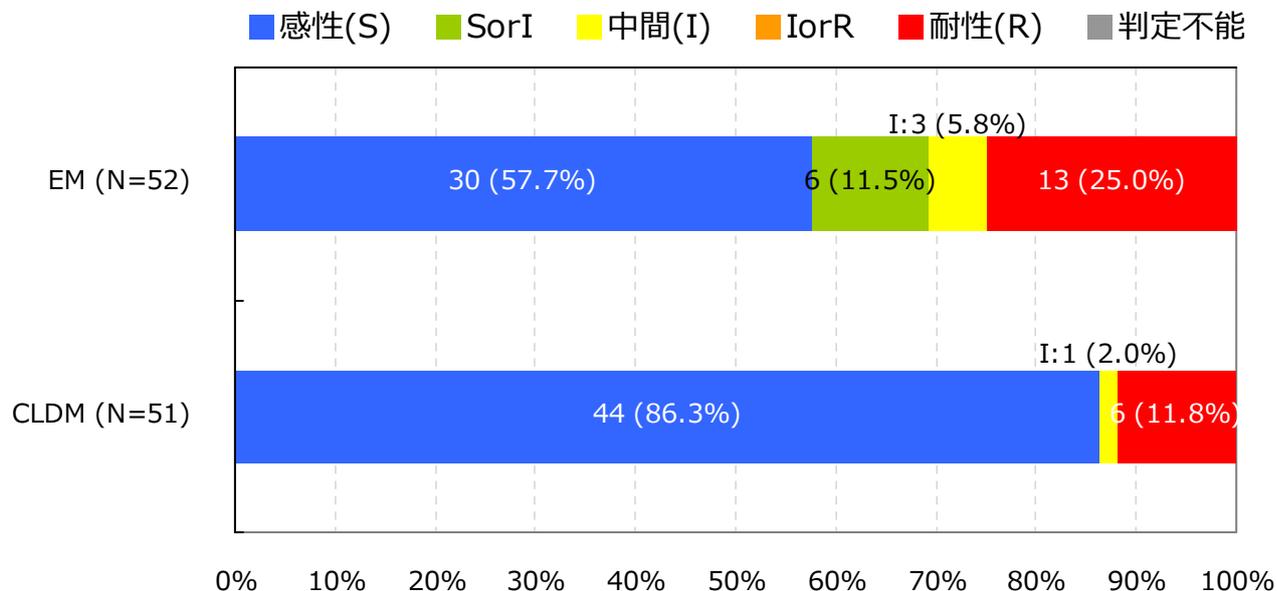
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

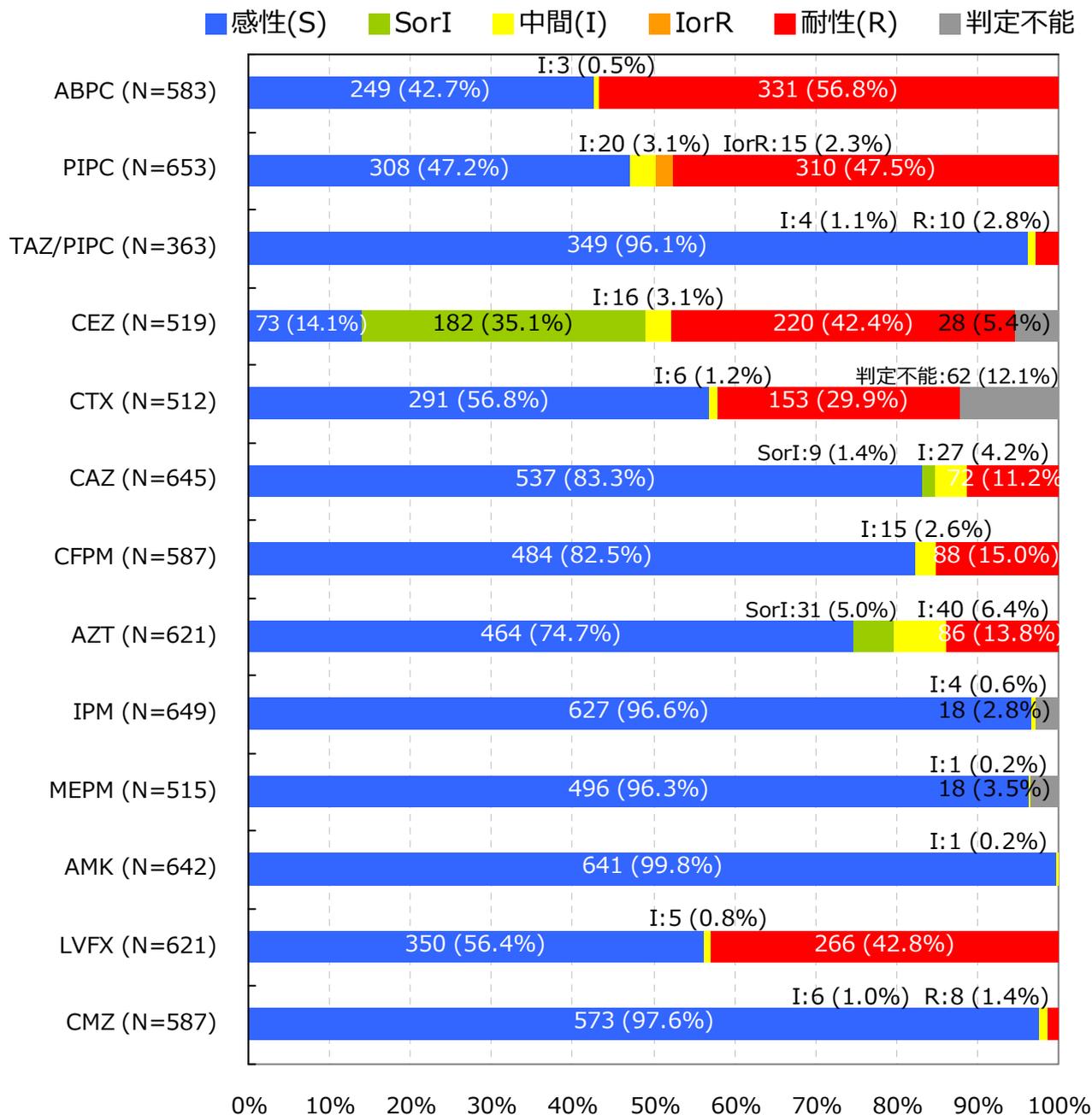
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

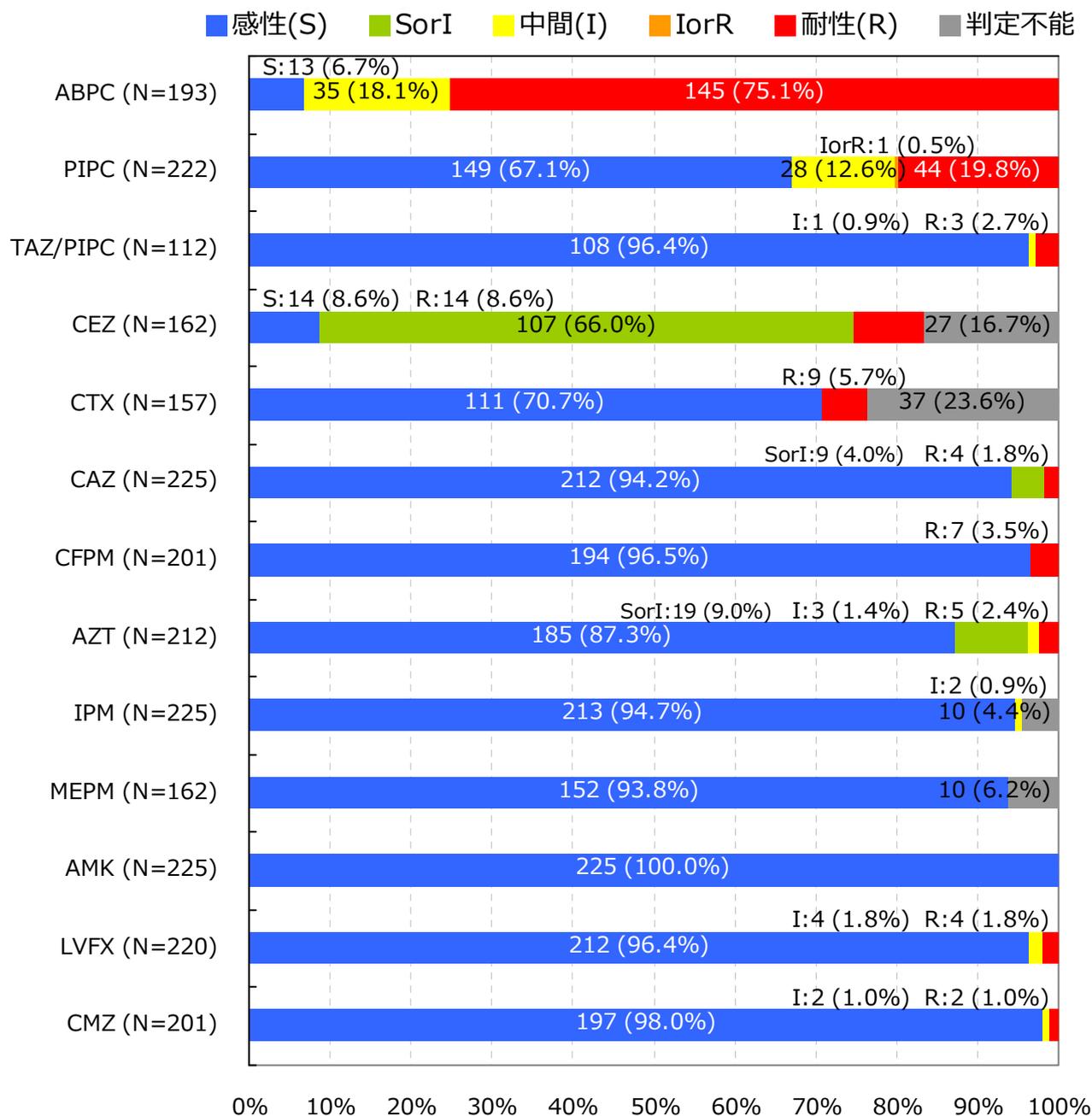
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

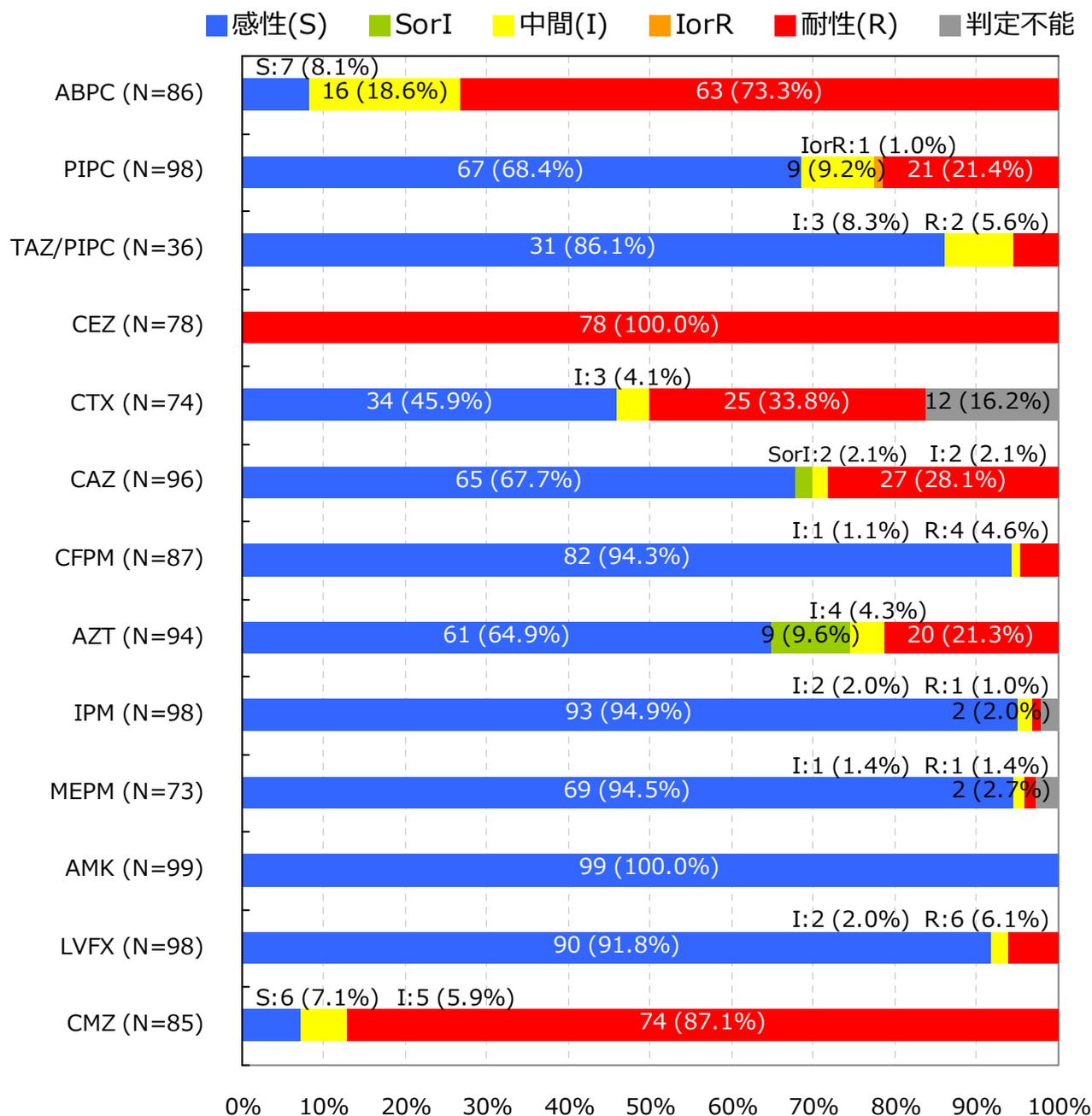
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

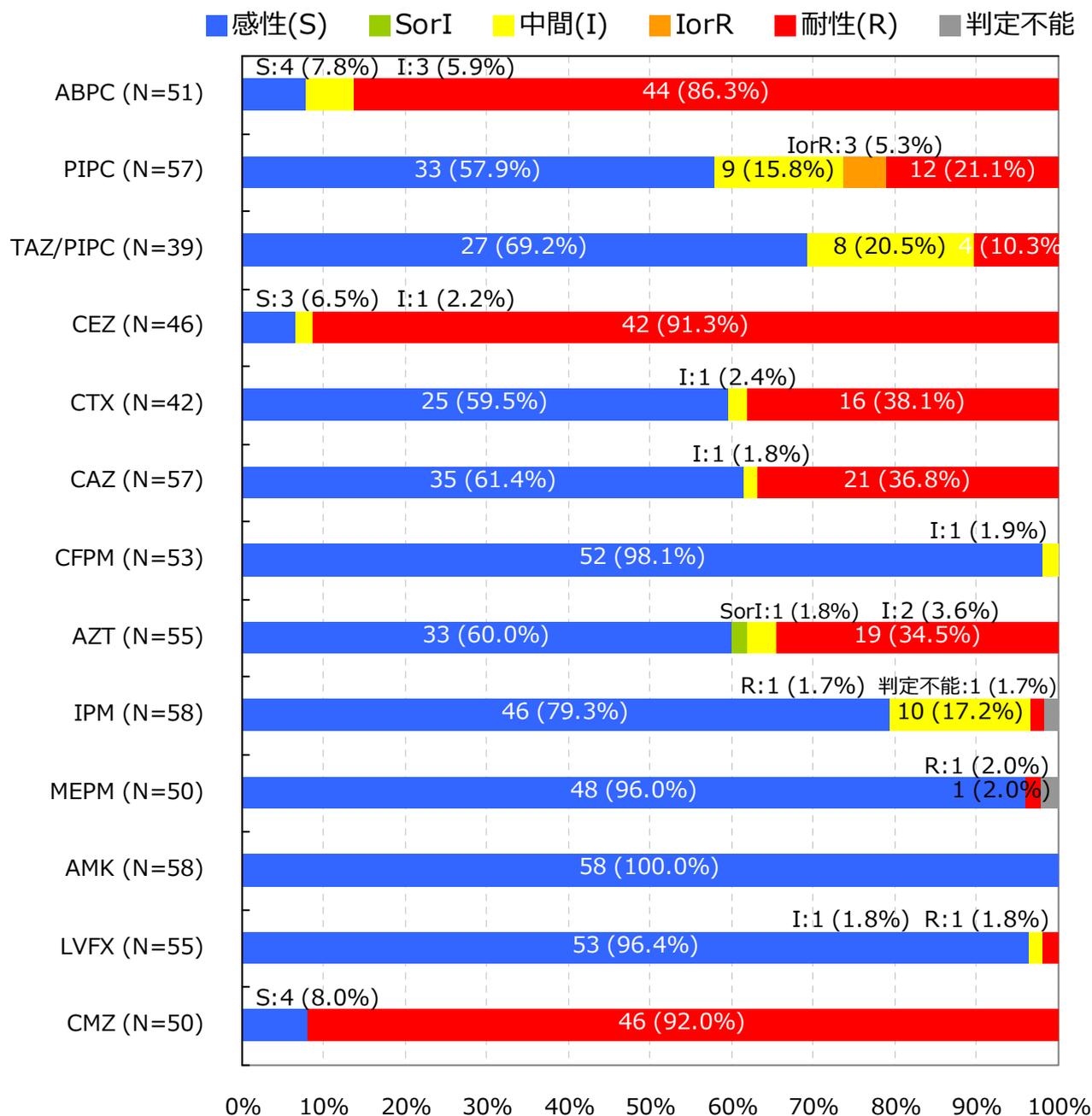
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

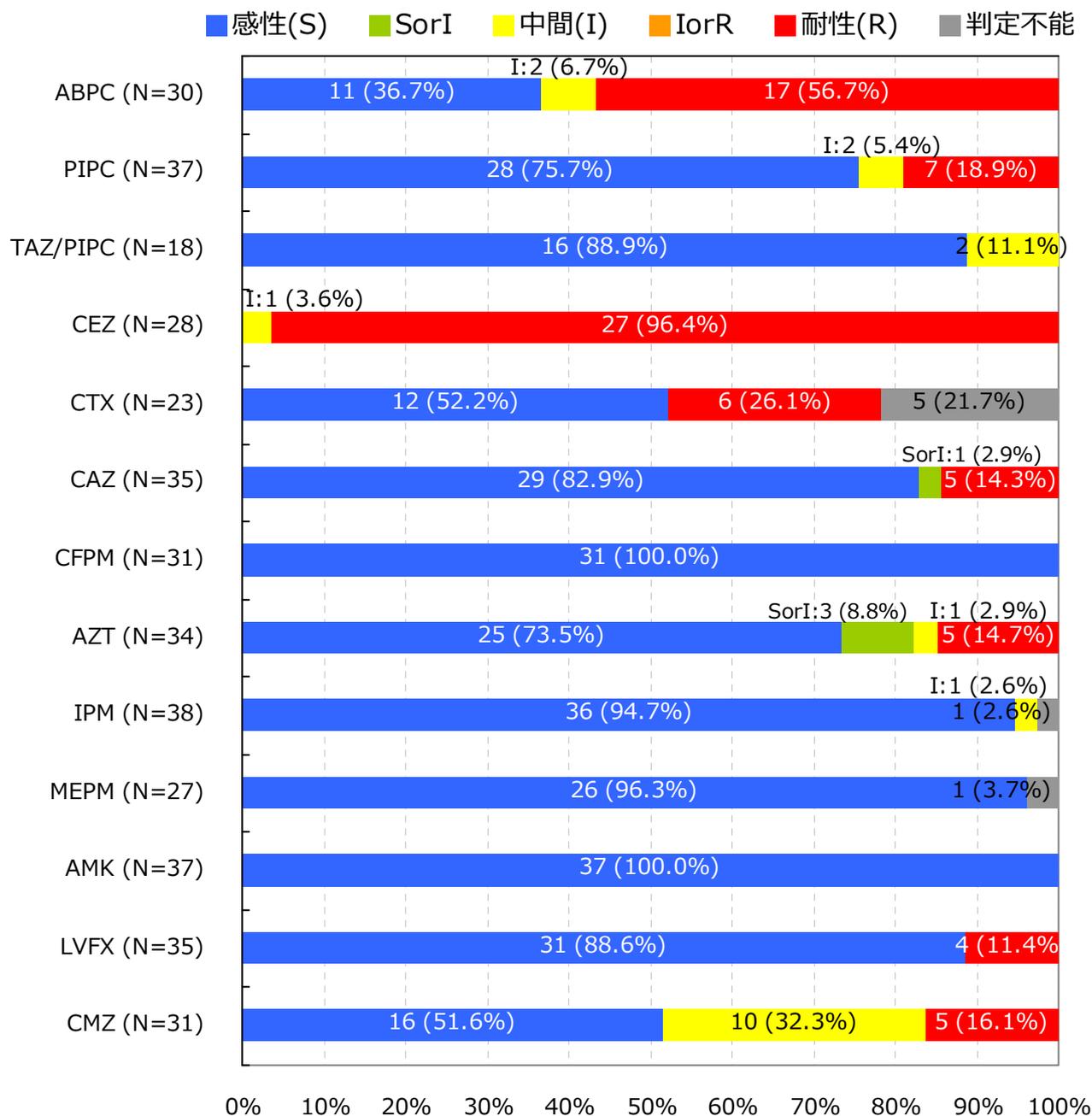
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

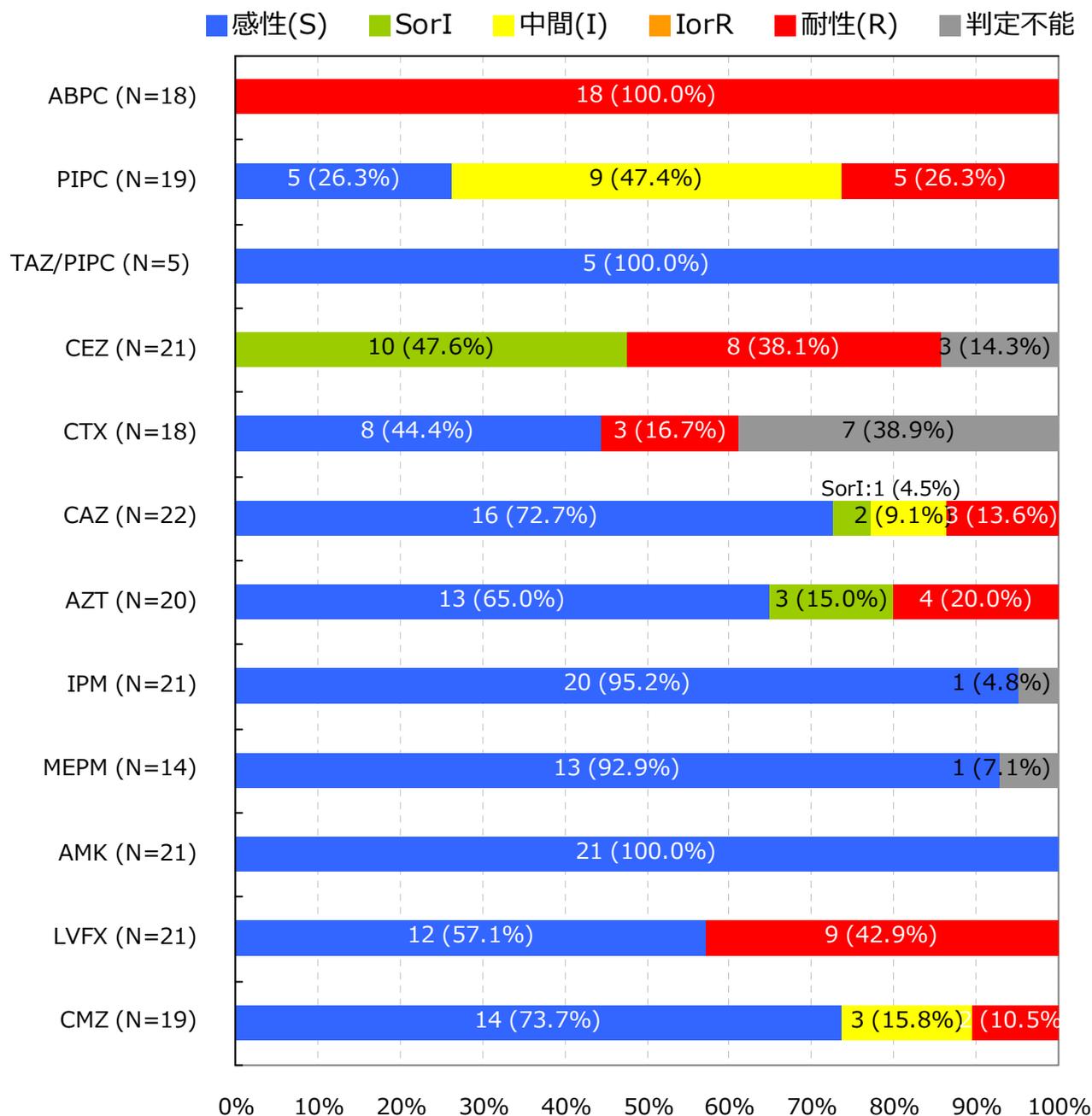
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

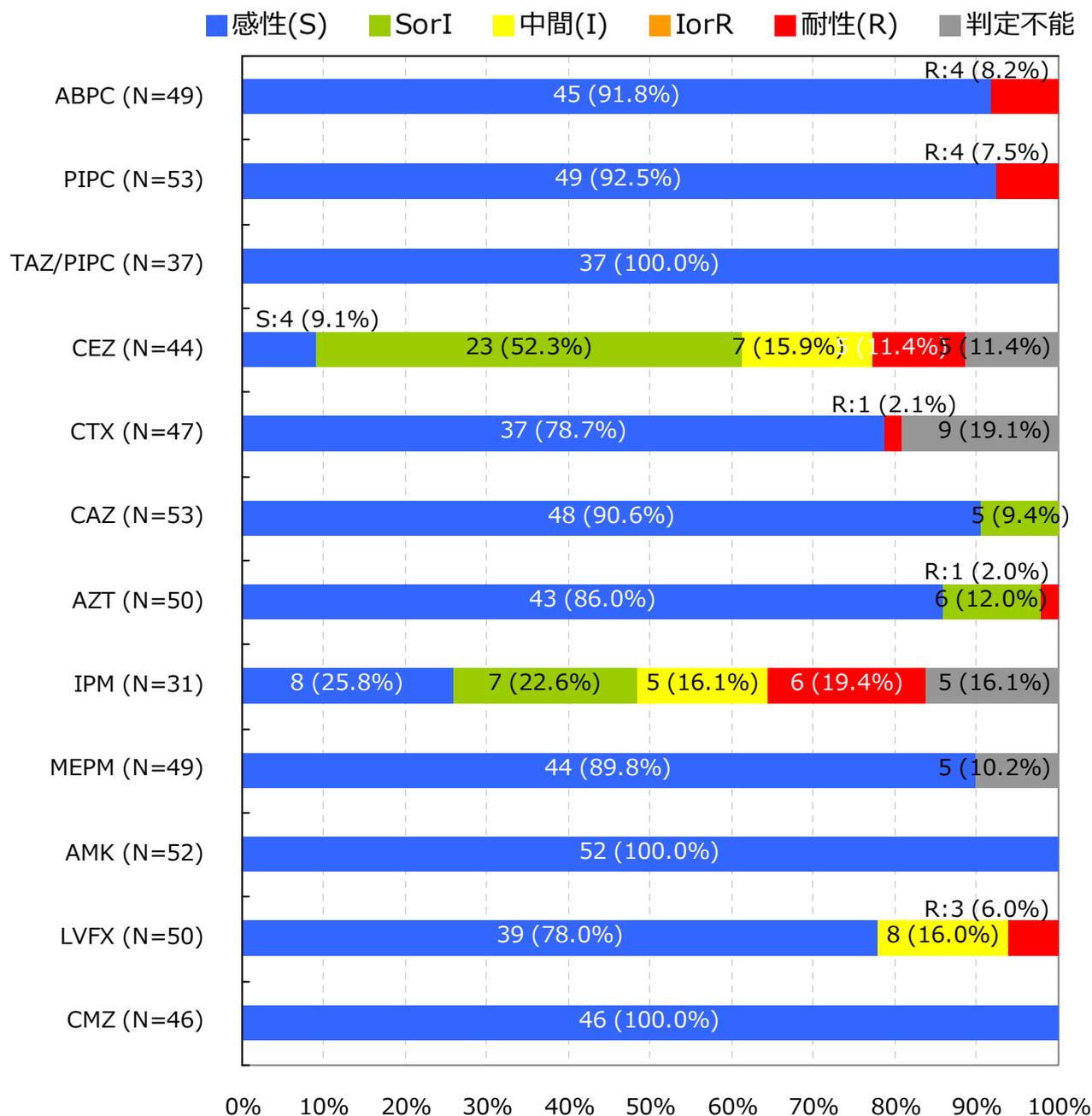
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

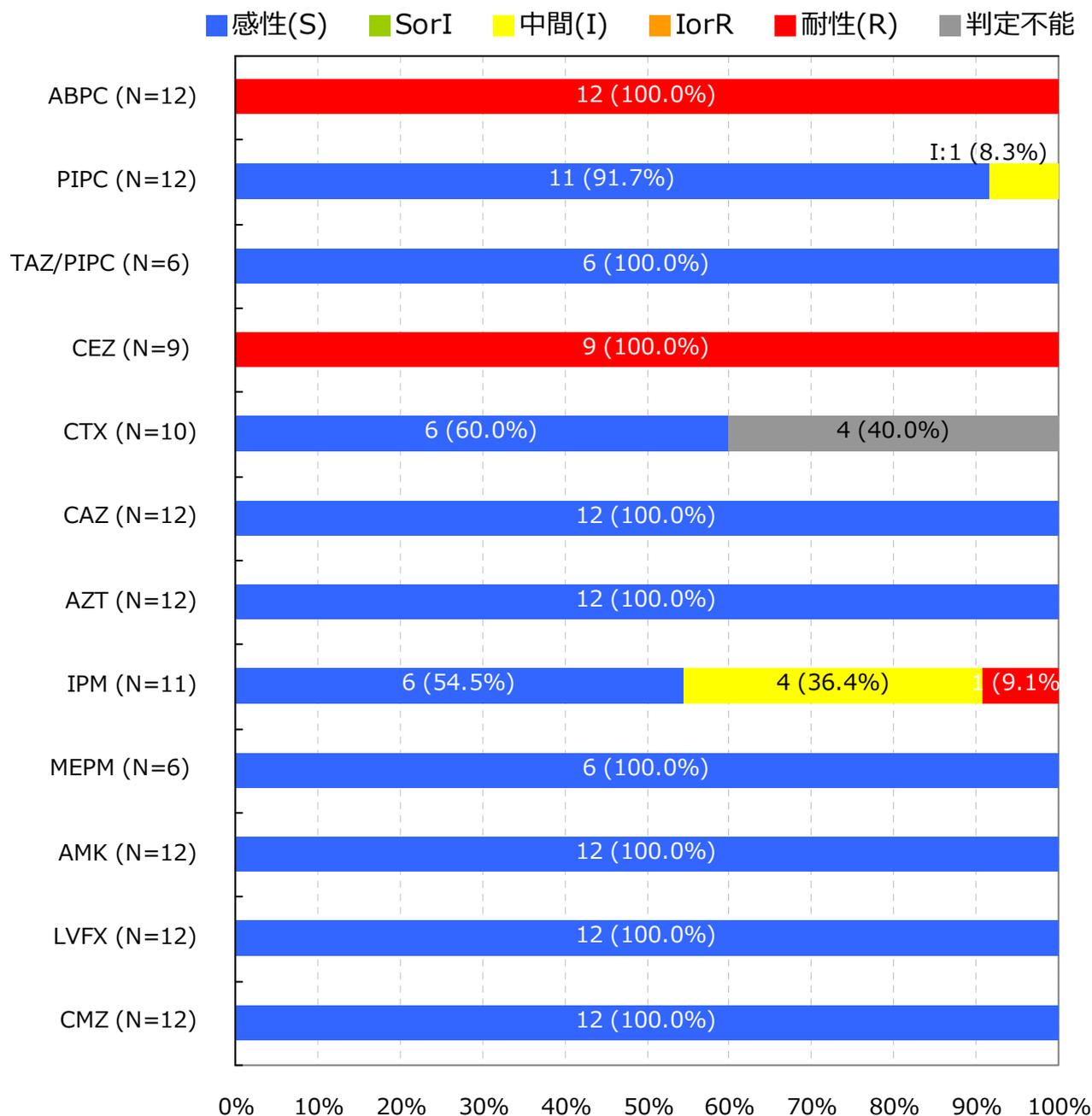
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

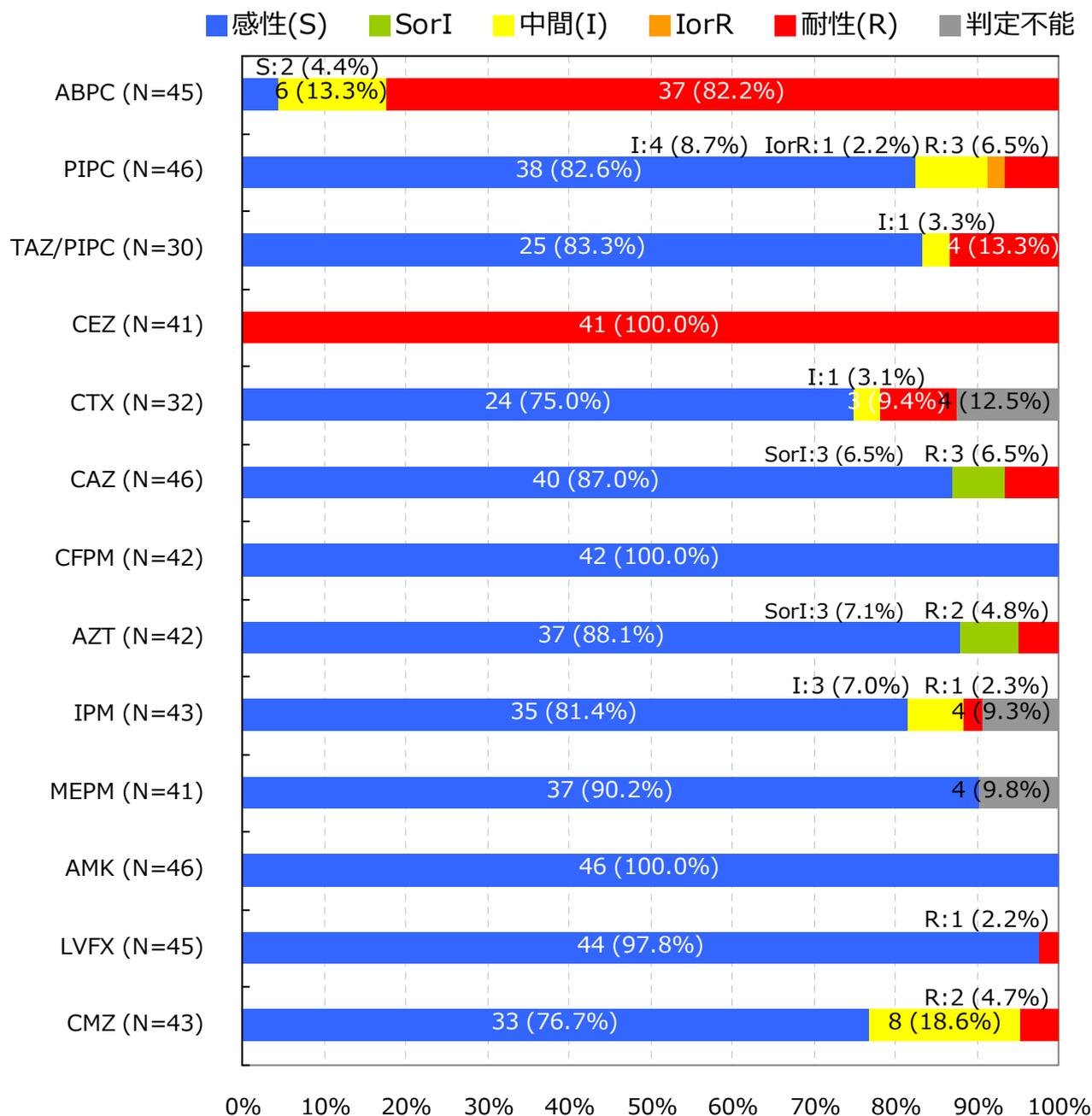
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

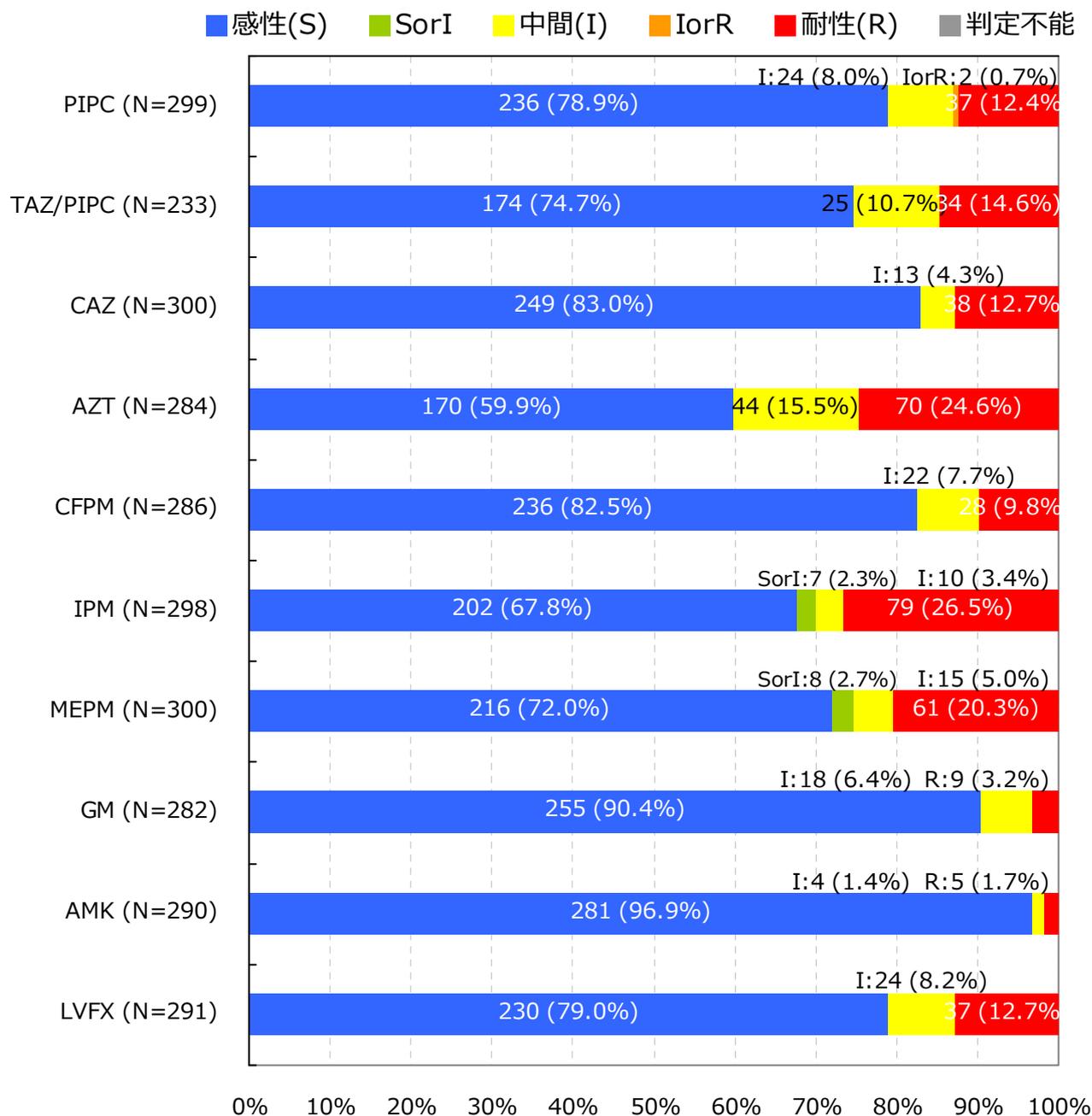
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

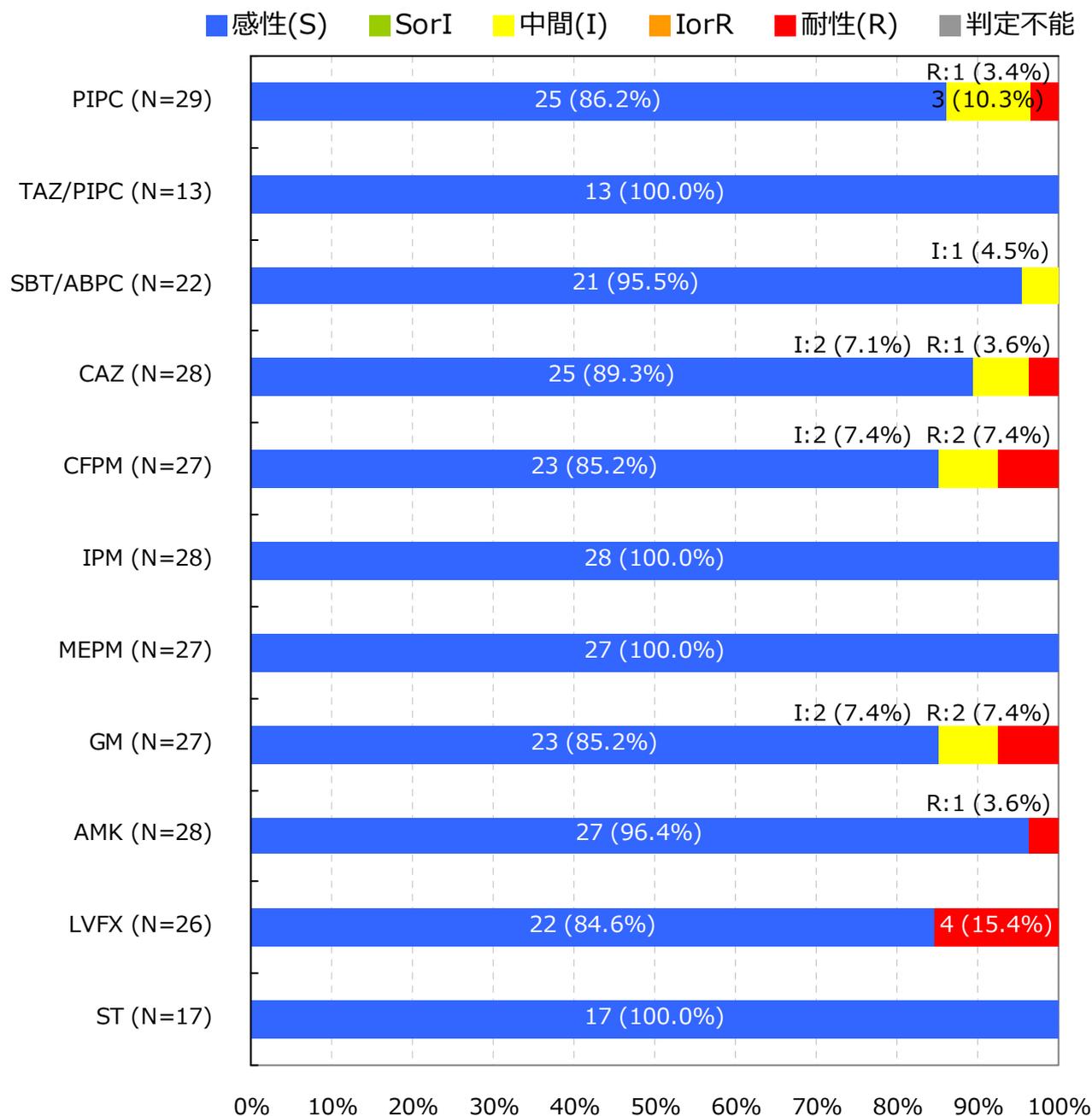
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

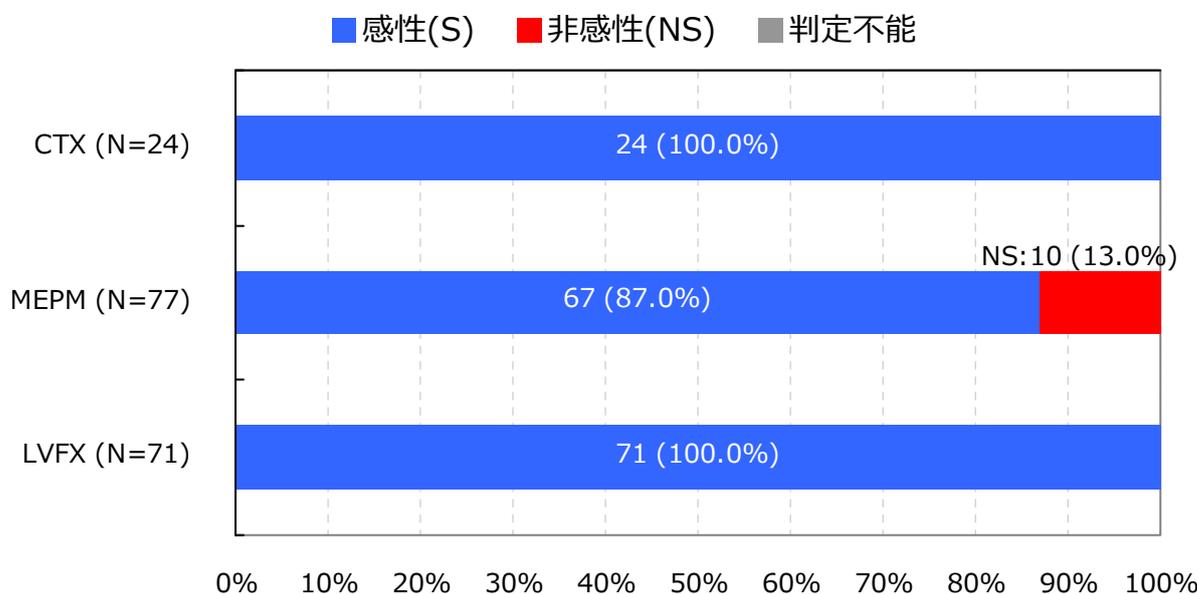
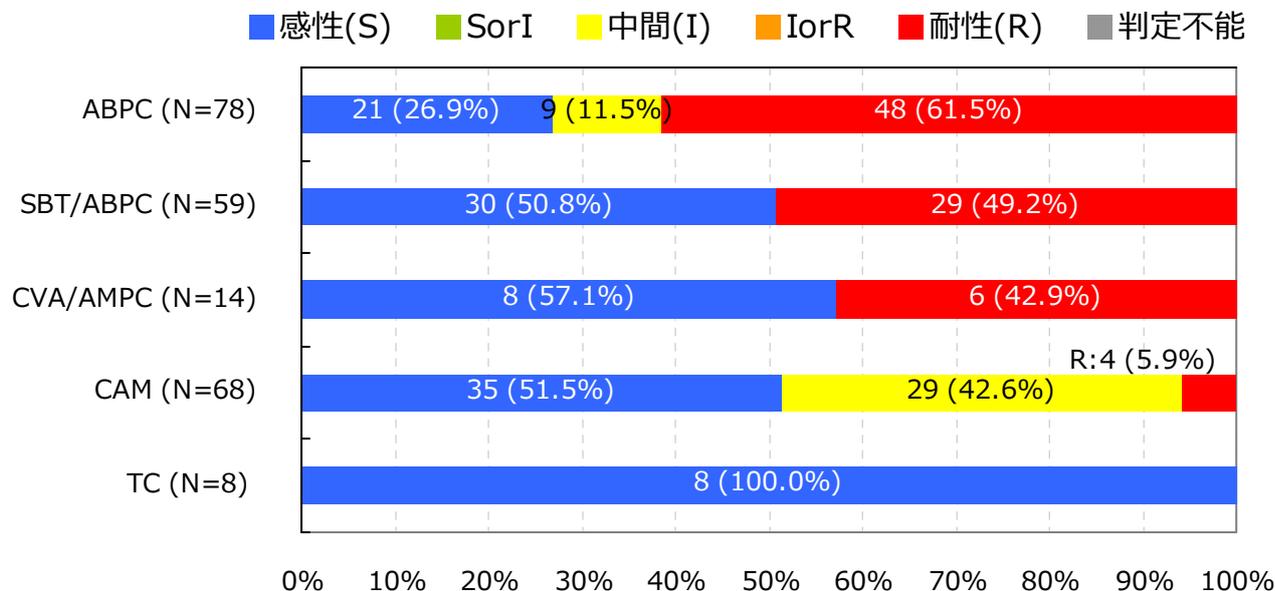
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

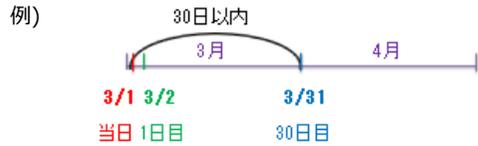
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

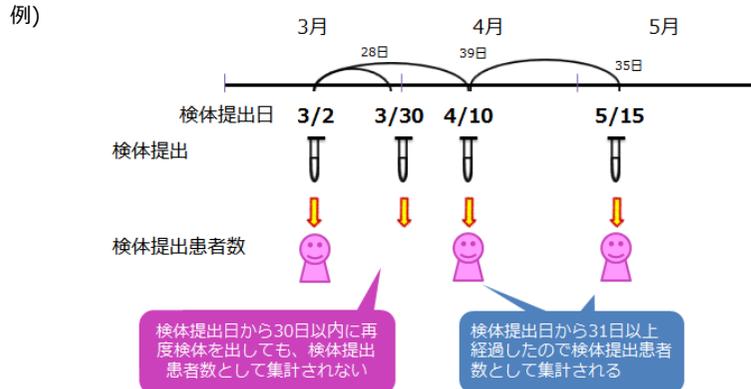
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



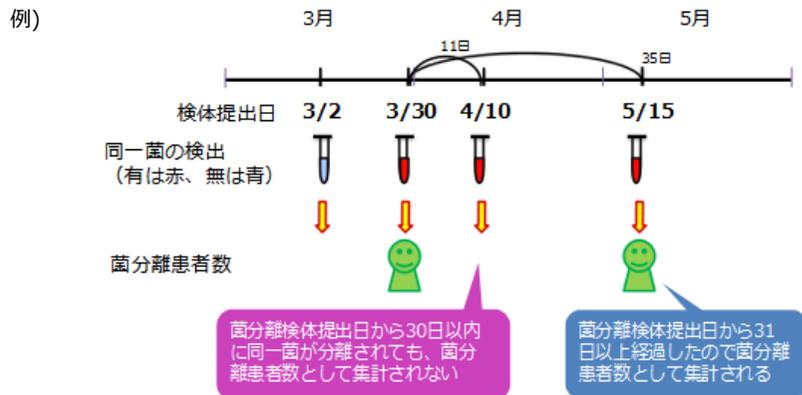
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



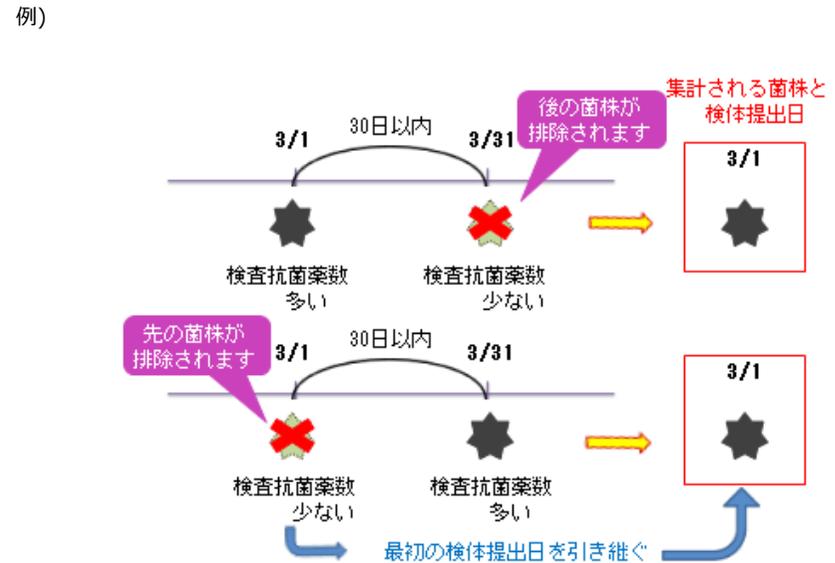
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

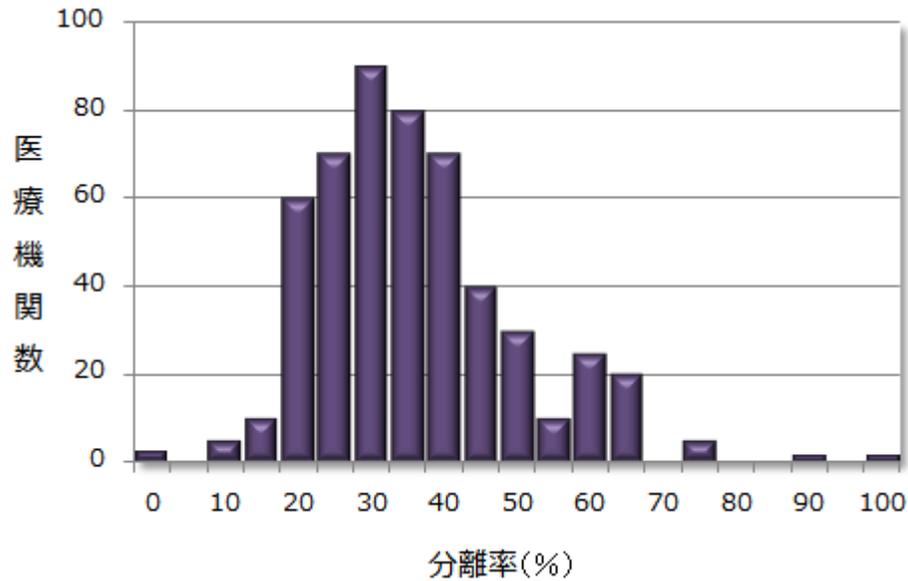
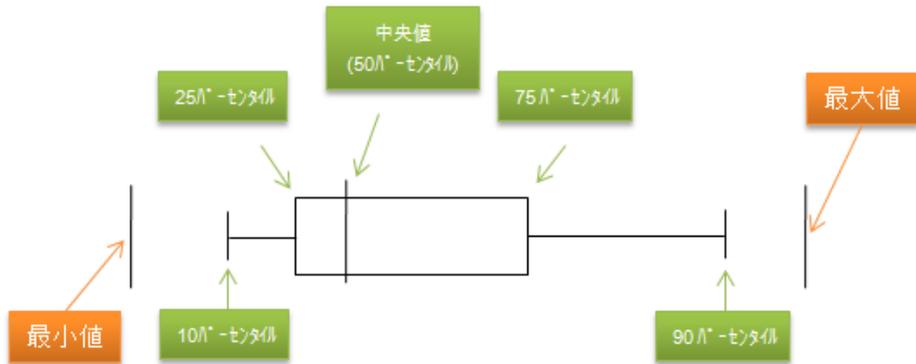
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

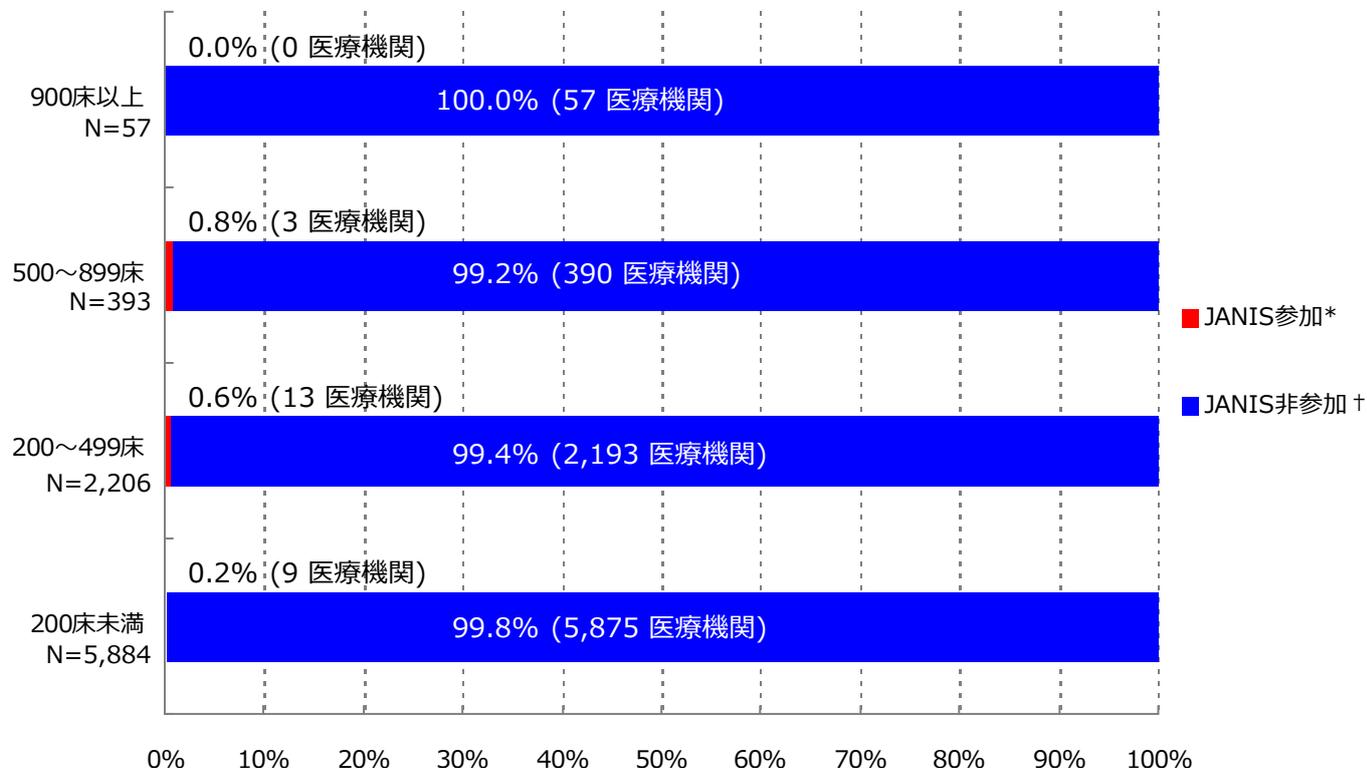
2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |



### 1. 集計対象医療機関数(25医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |          |
|----------|-----------------|---|----------|
|          |                 | 数                                       | 割合       |
| 900床以上   | 57              | 0                                       | ( 0.0% ) |
| 500～899床 | 393             | 3                                       | ( 0.8% ) |
| 200～499床 | 2,206           | 13                                      | ( 0.6% ) |
| 200床未満   | 5,884           | 9                                       | ( 0.2% ) |
| 病床数不明    | -               | 0                                       | ( - )    |
| 合計       | 8,540           | 25                                      | ( 0.3% ) |

† 平成25年医療施設（動態）調査を参照した

(熊本県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門



## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 25        | 7,299  | 4,887<br>(11,400)  |
| 尿検体    | 25        | 3,532  | 2,069<br>(3,081)   |
| 便検体    | 23        | 2,952  | 925<br>(1,973)     |
| 血液検体   | 25        | 7,737  | 878<br>(959)       |
| 髄液検体   | 14        | 244    | 20<br>(22)         |
| その他    | 25        | 4,137  | 2,034<br>(3,813)   |
| 合計     | 25        | 25,901 | 10,813<br>(21,248) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

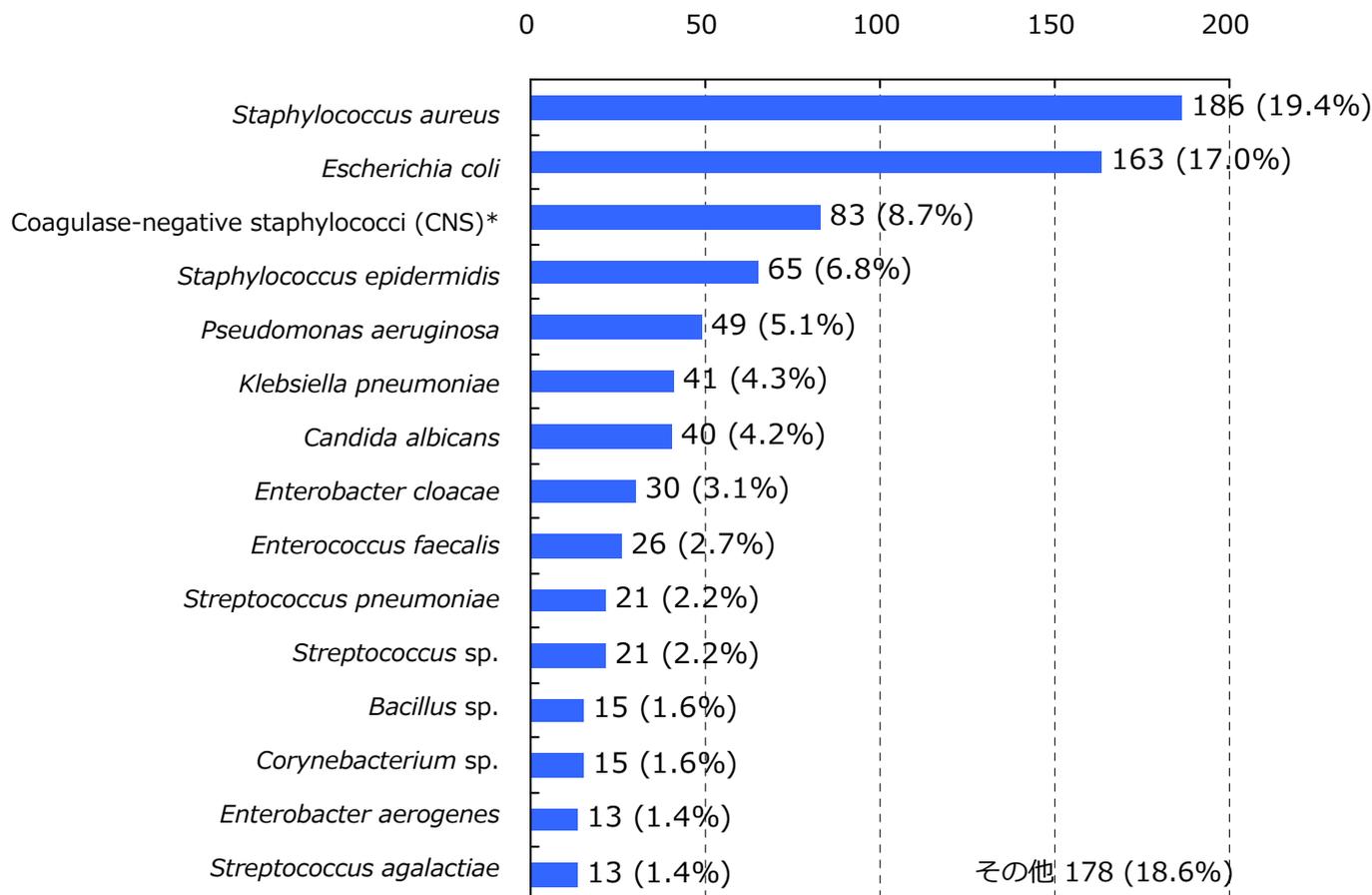
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=959)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

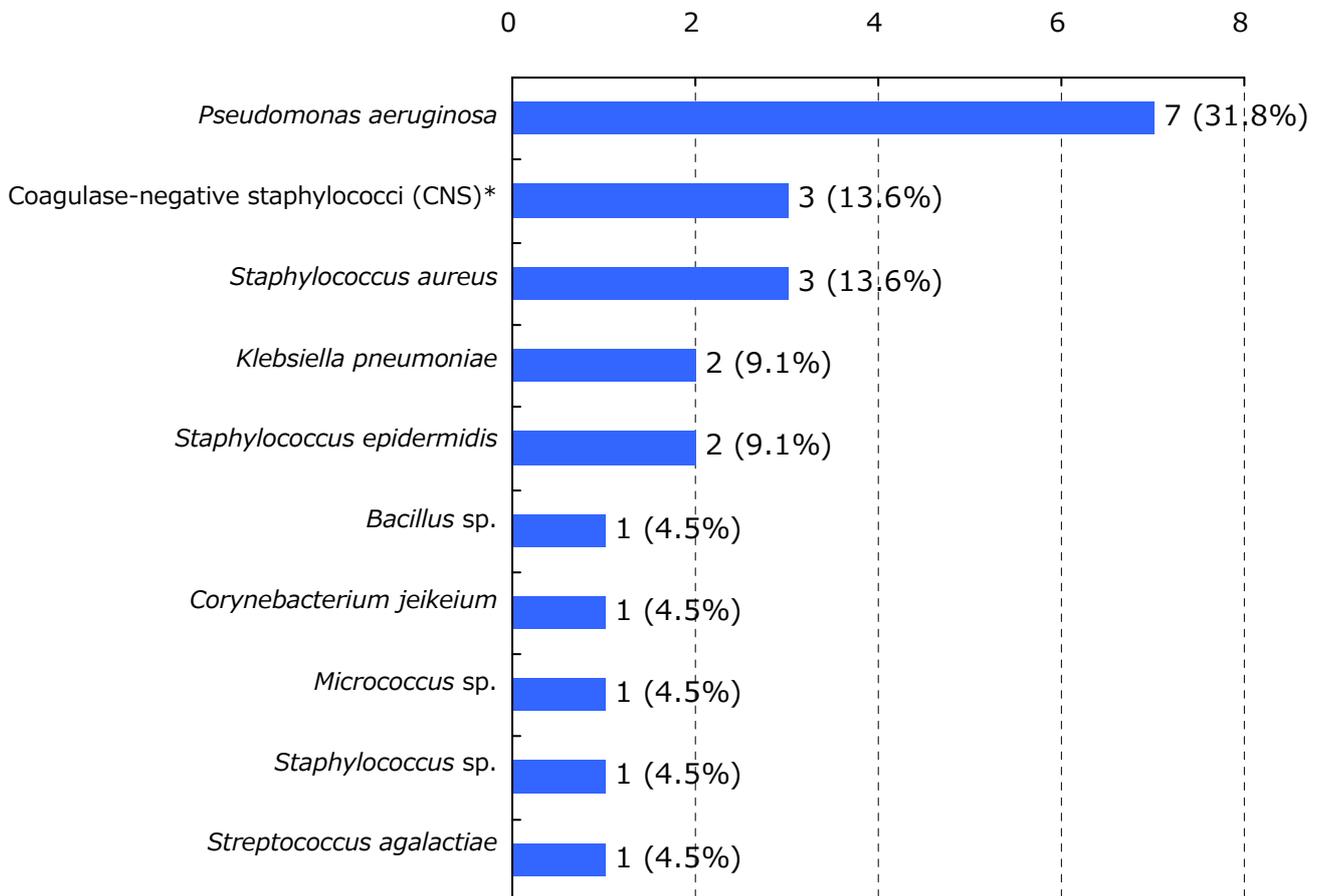
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=22)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

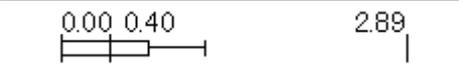
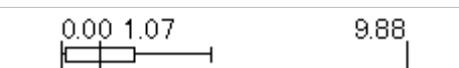
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率 † | 集計対象医療機関の<br>分離率 ‡(%)の分布   |
|------------------------|-------------------------|--|
| 検体提出患者数                | 9,400人                  |  |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 727人<br>(7.73%)         | 0.00 6.91 28.13<br>   |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)           | 0.00<br>              |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)           | 0.00<br>              |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 50人<br>(0.53%)          | 0.00 0.40 2.89<br>    |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 3人<br>(0.03%)           | 0.00 0.00 0.74<br>   |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)           | 0.00<br>            |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 29人<br>(0.31%)          | 0.00 0.00 1.08<br>  |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 126人<br>(1.34%)         | 0.00 1.07 9.88<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 42人<br>(0.45%)          | 0.00 0.12 3.96<br>  |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 251人<br>(2.67%)         | 0.00 2.47 17.05<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 419人<br>(4.46%)         | 0.00 4.49 25.00<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

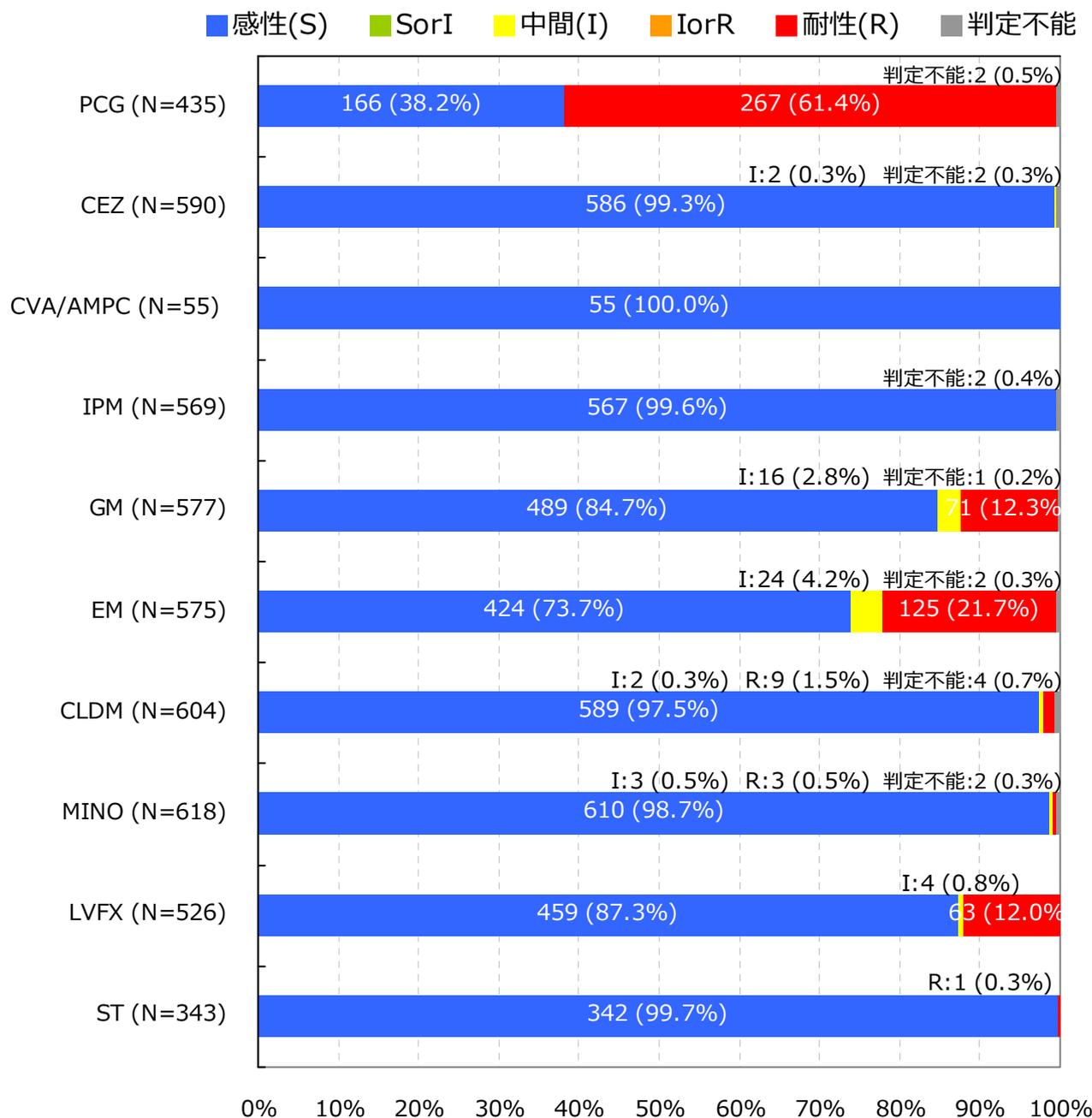
‡全体の分離率

$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{¶分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

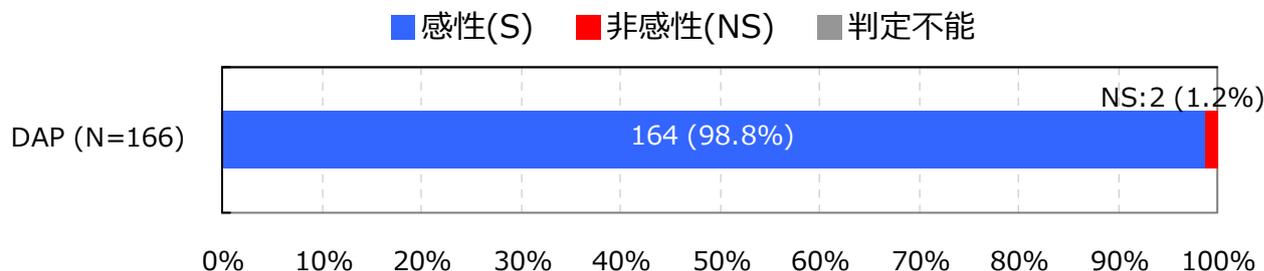
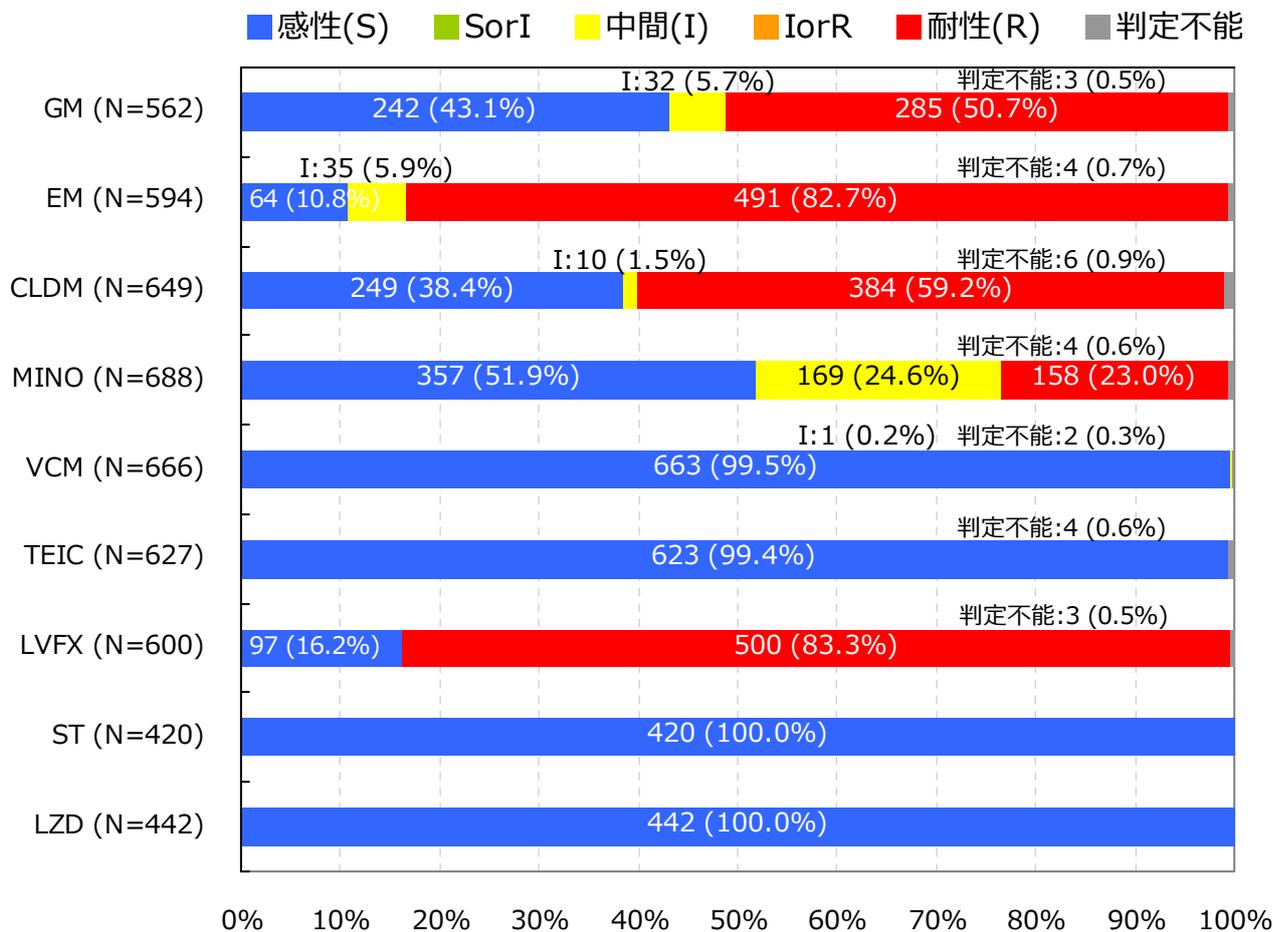
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

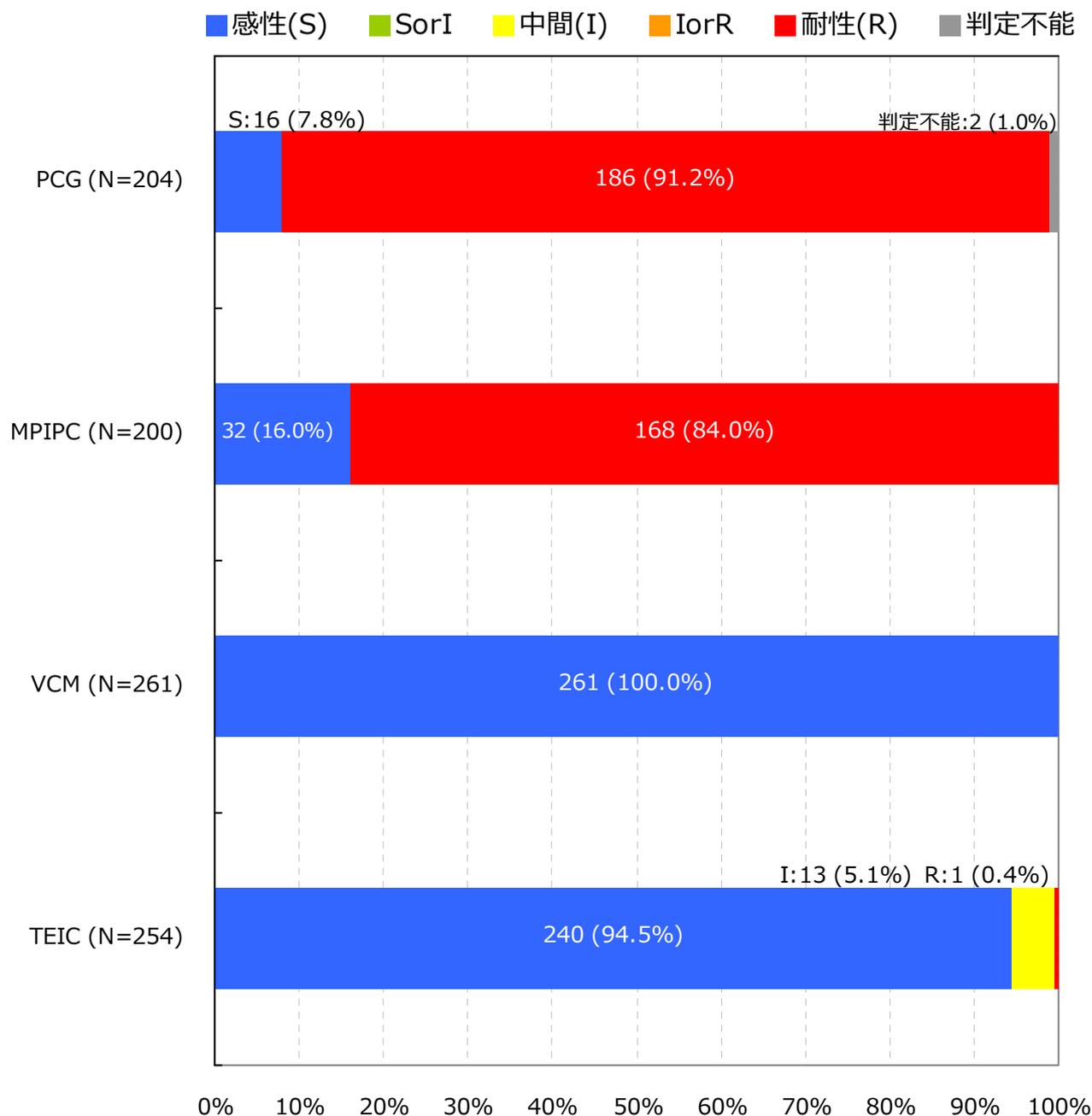
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

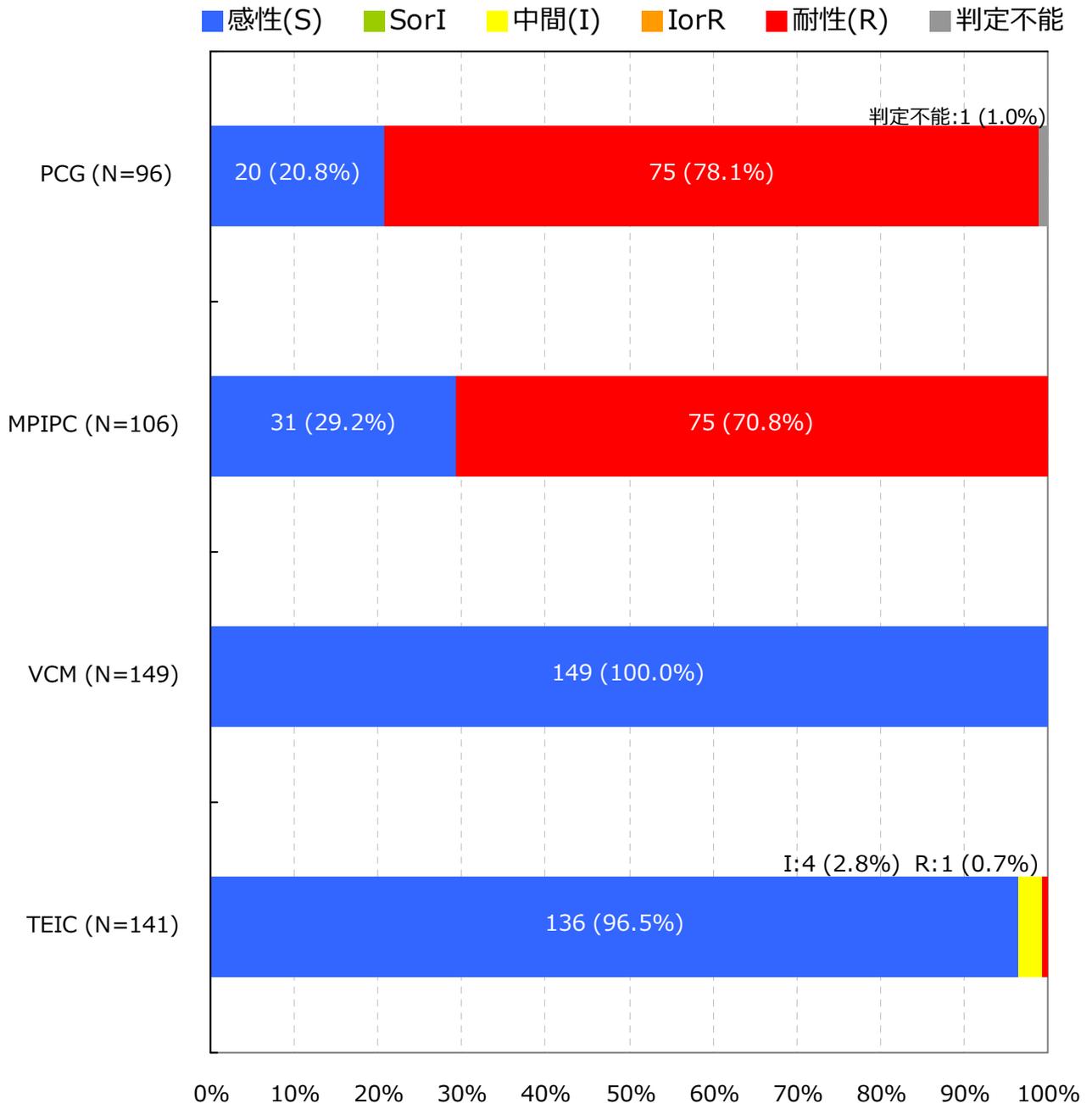
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



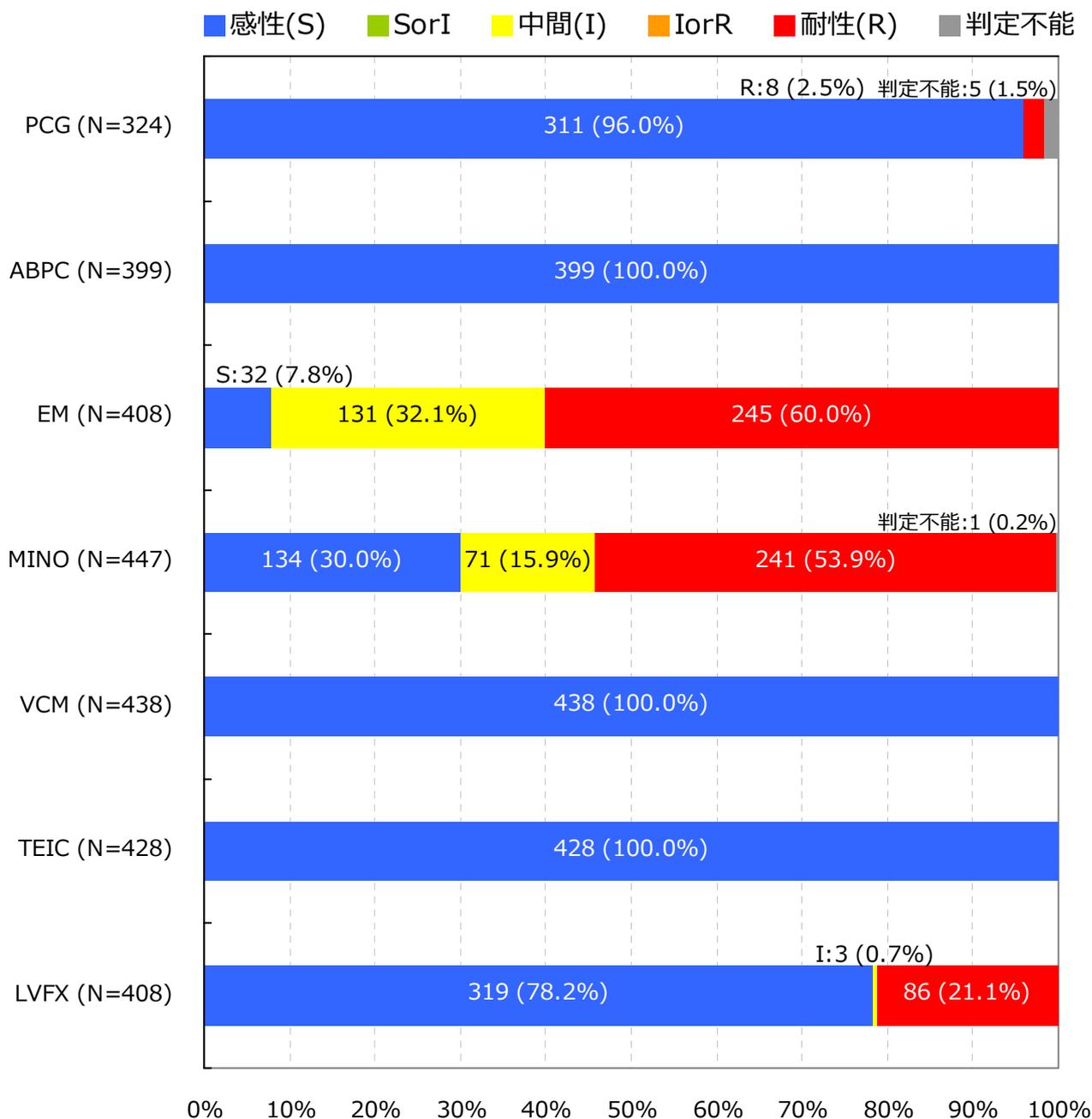
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

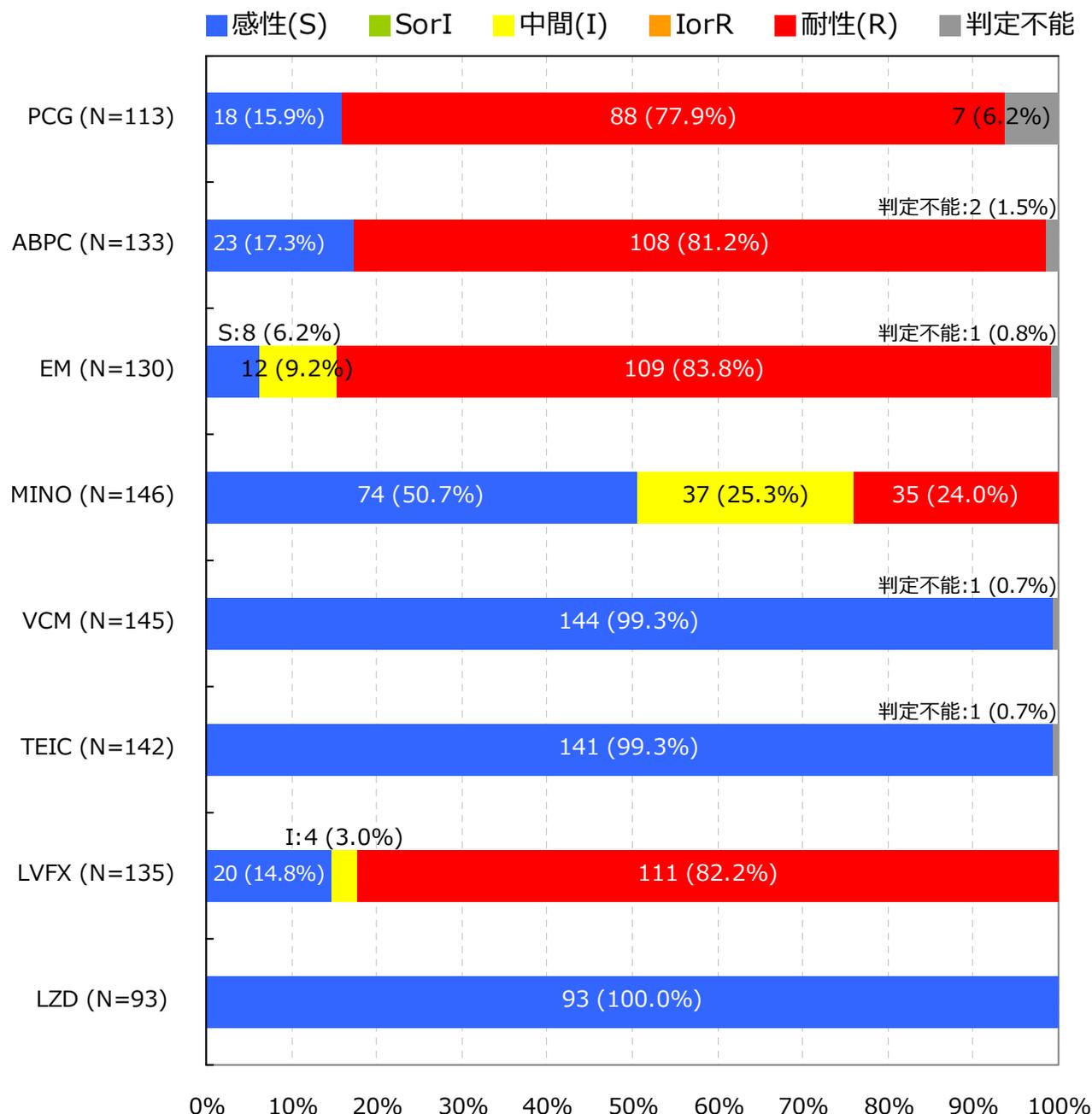
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(熊本県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

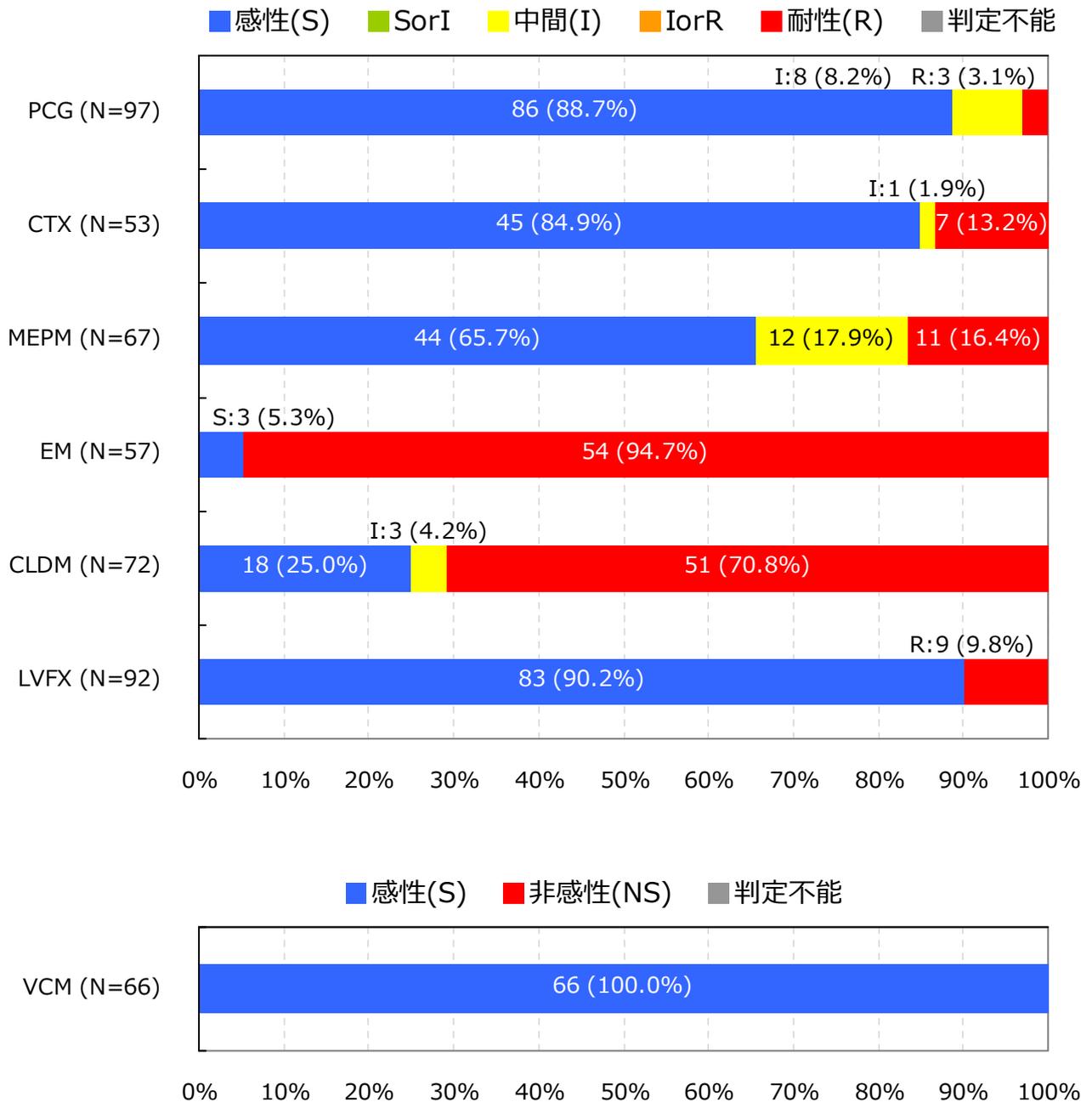
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



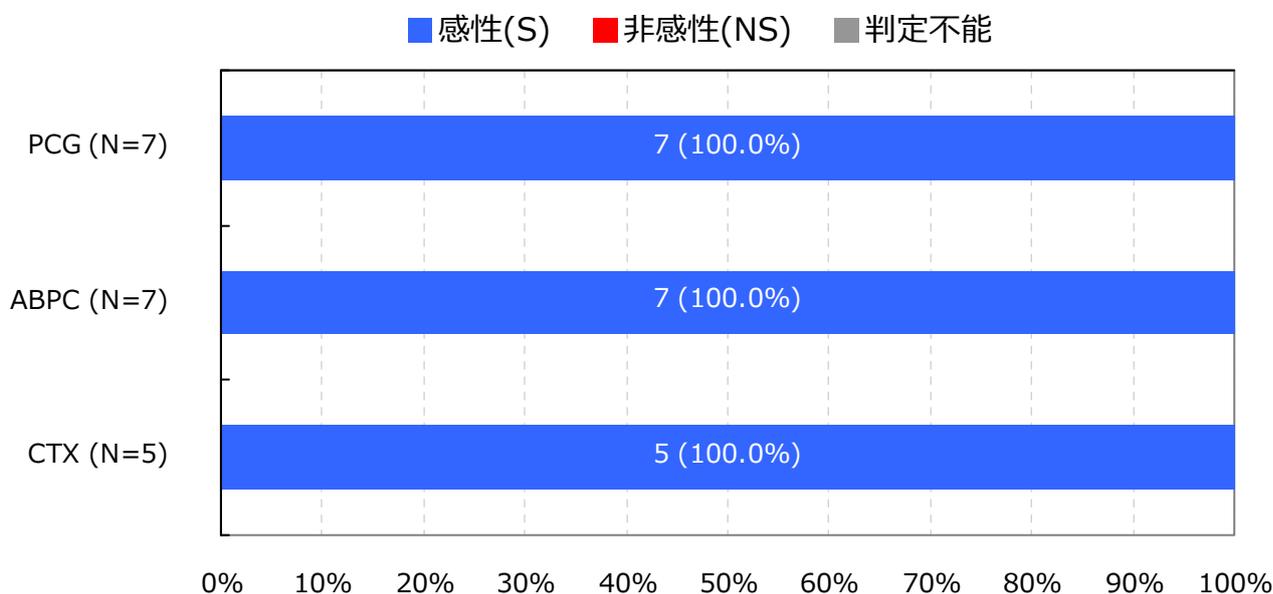
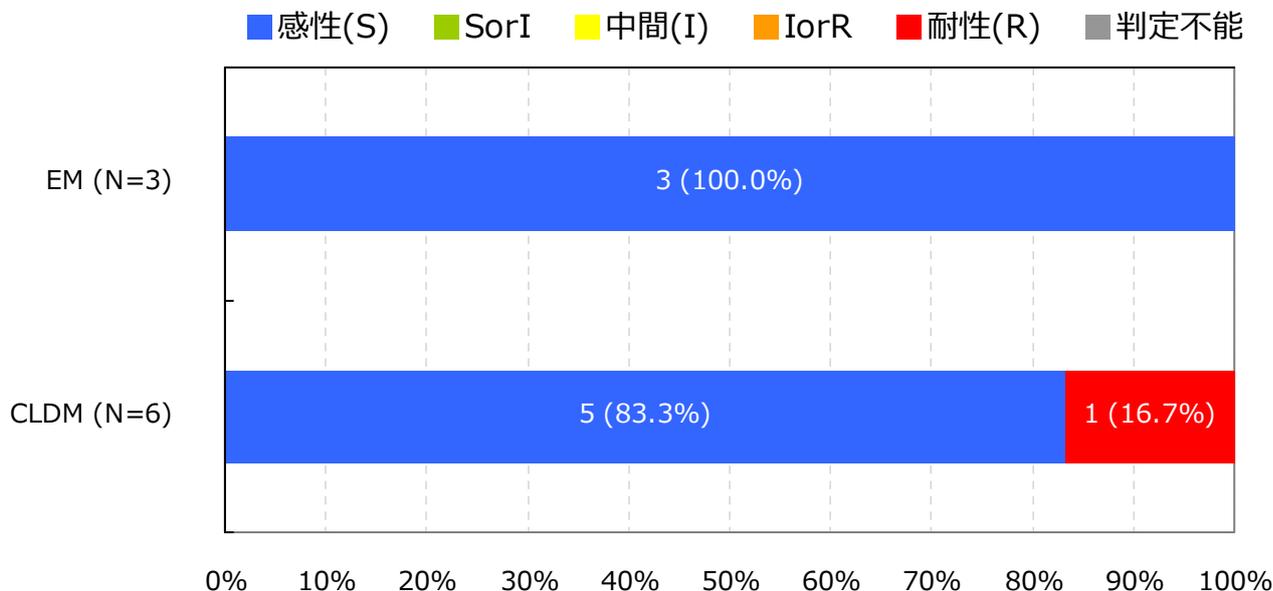
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

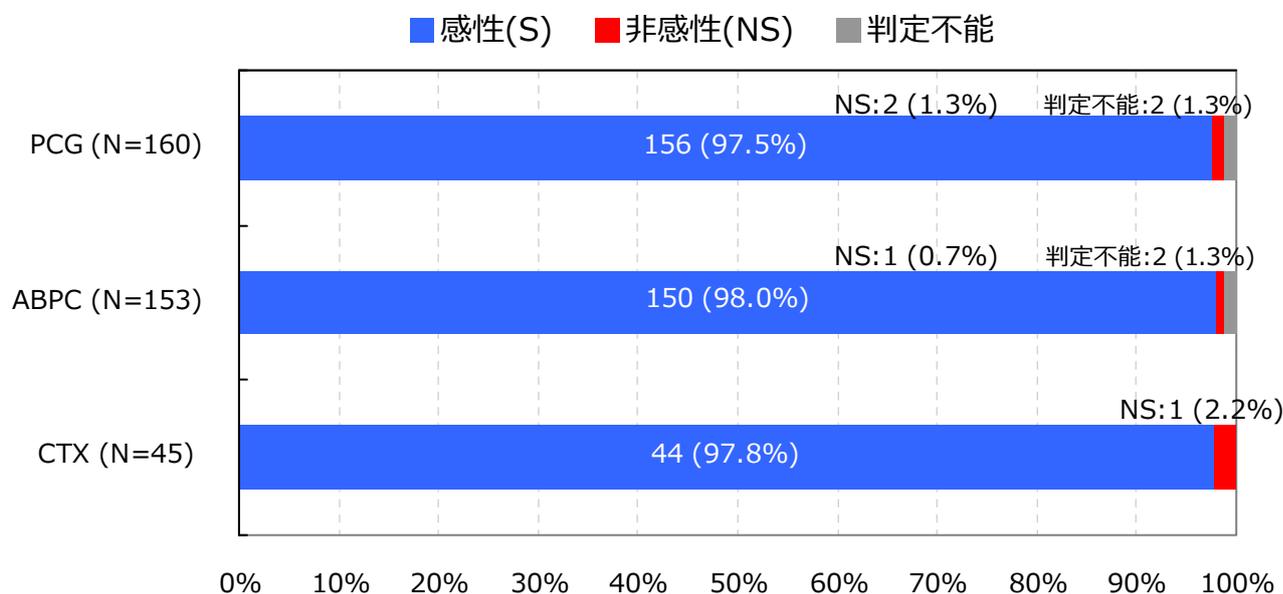
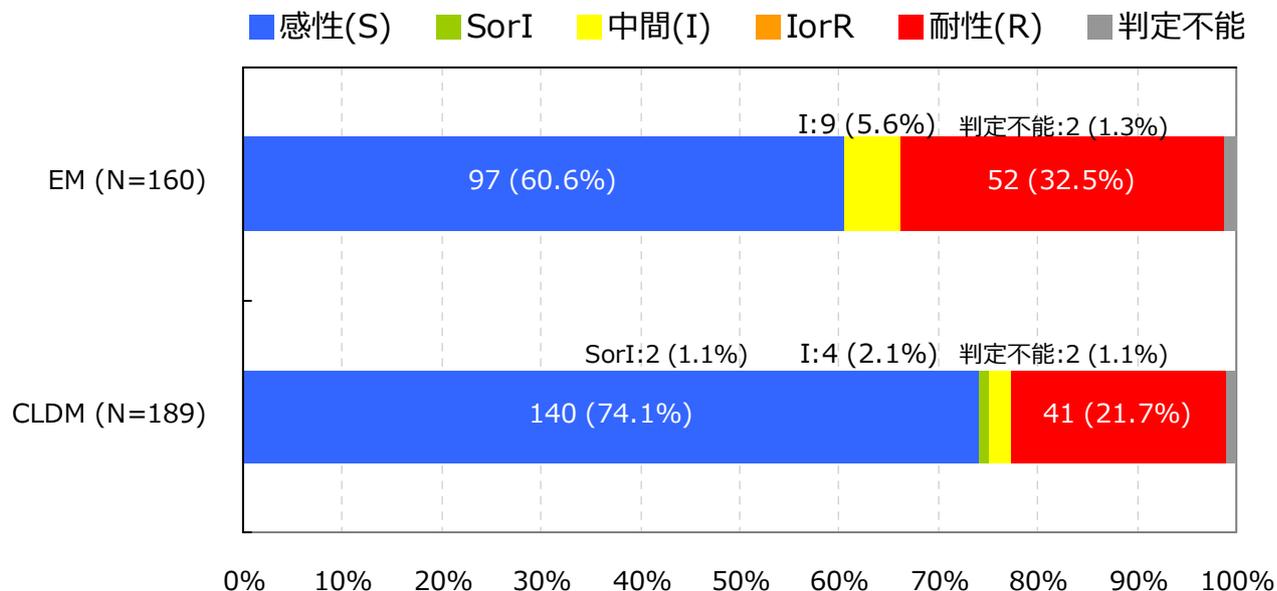
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

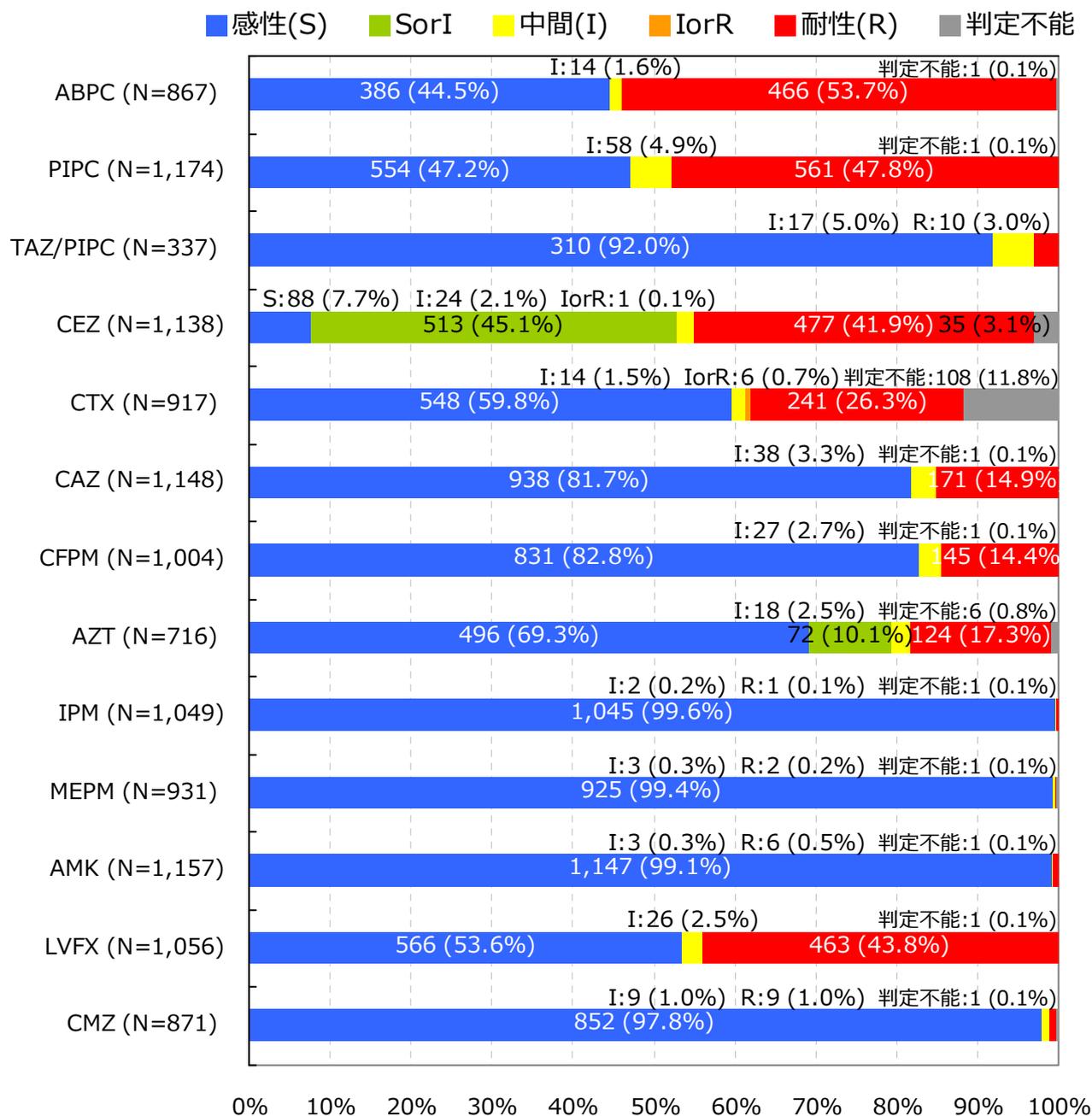
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

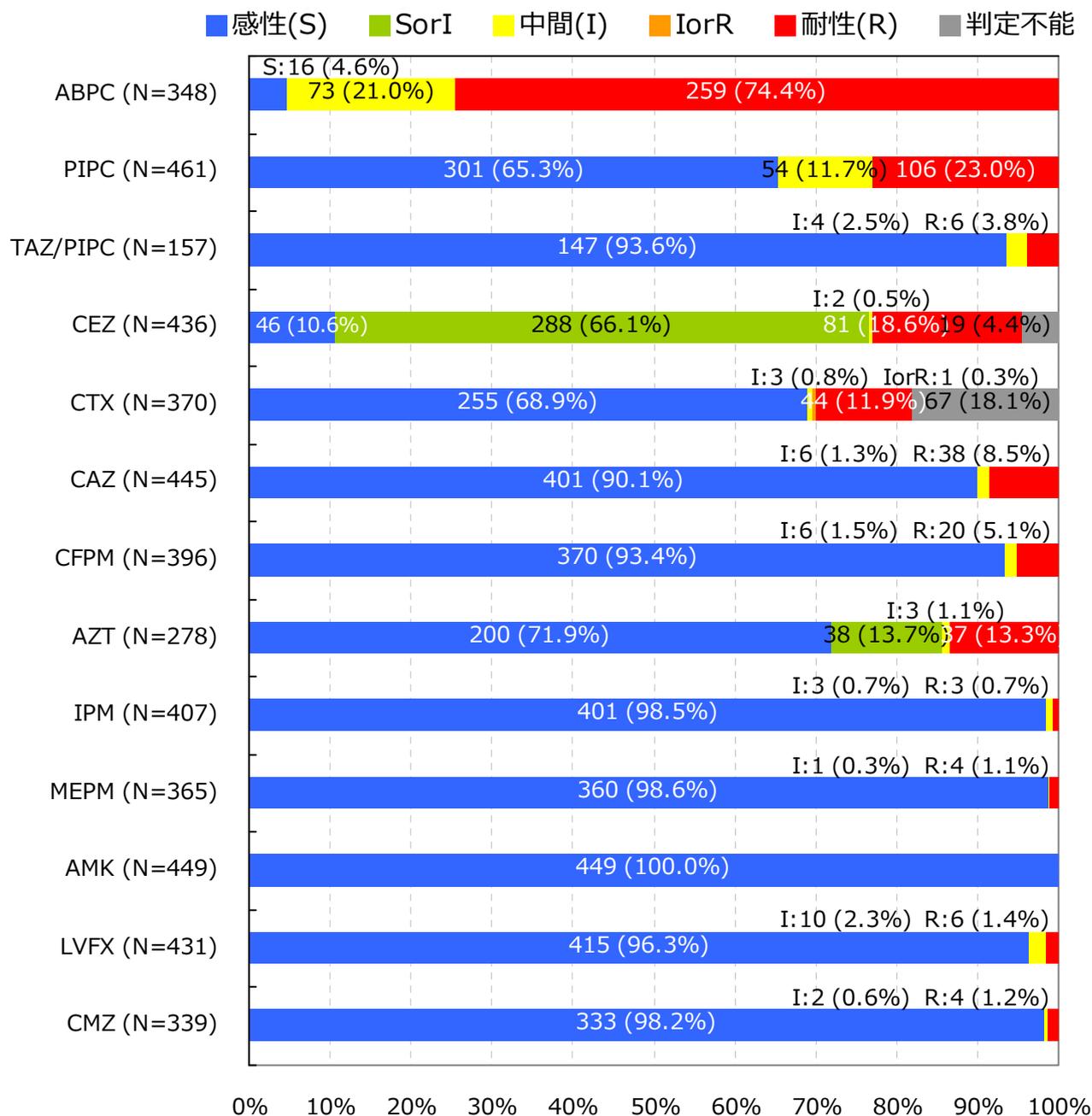
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

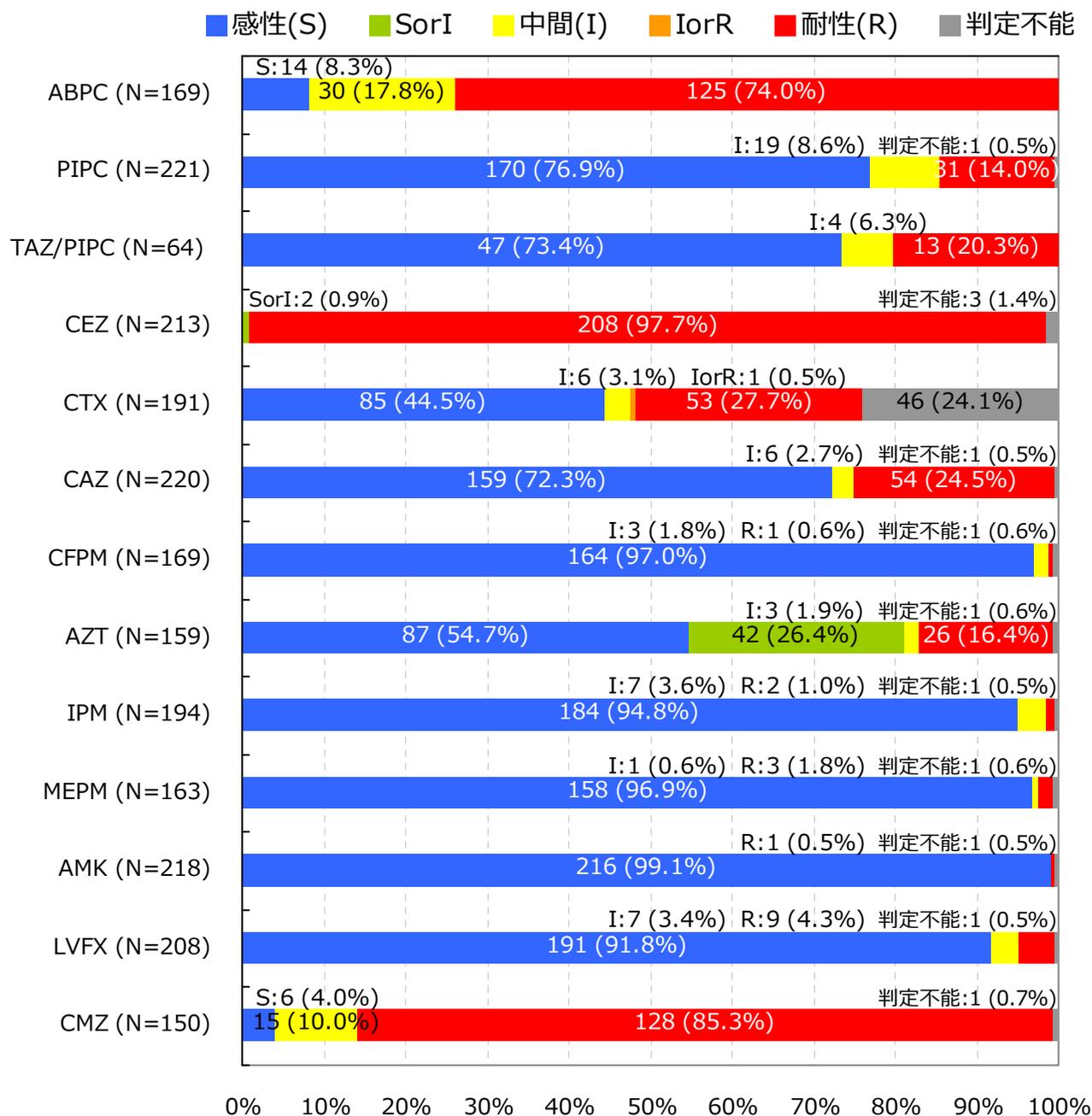
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

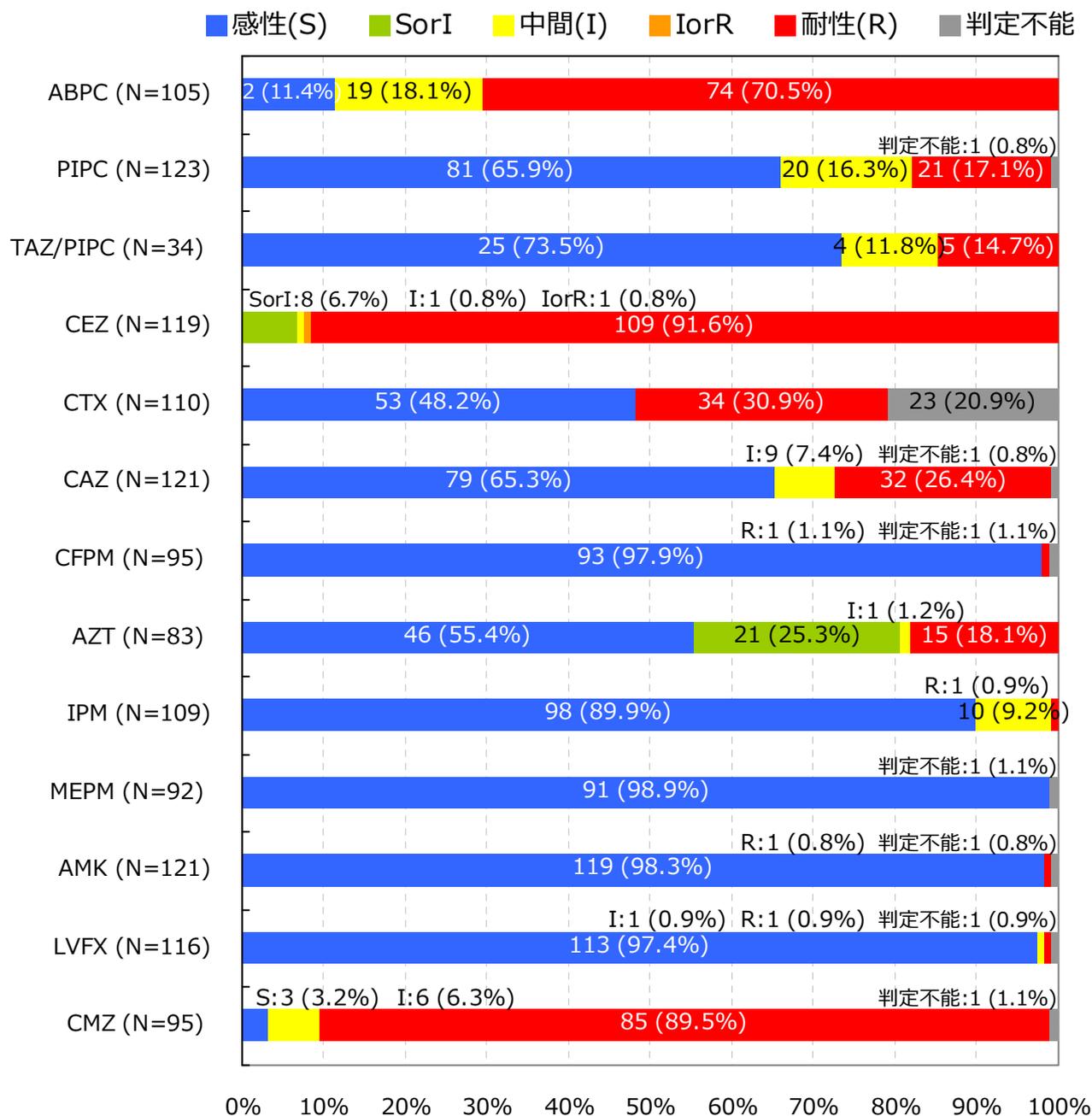
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

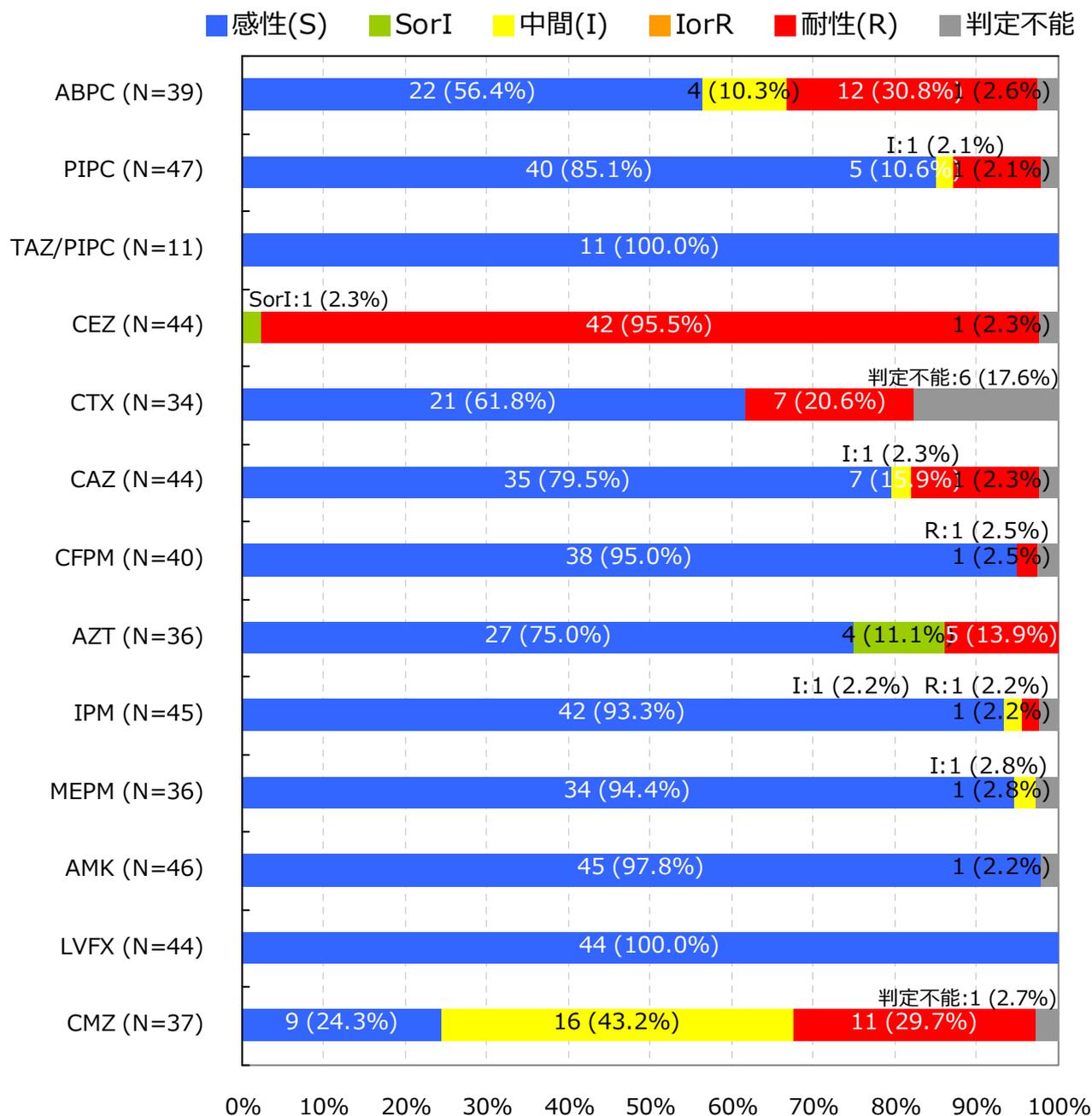
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

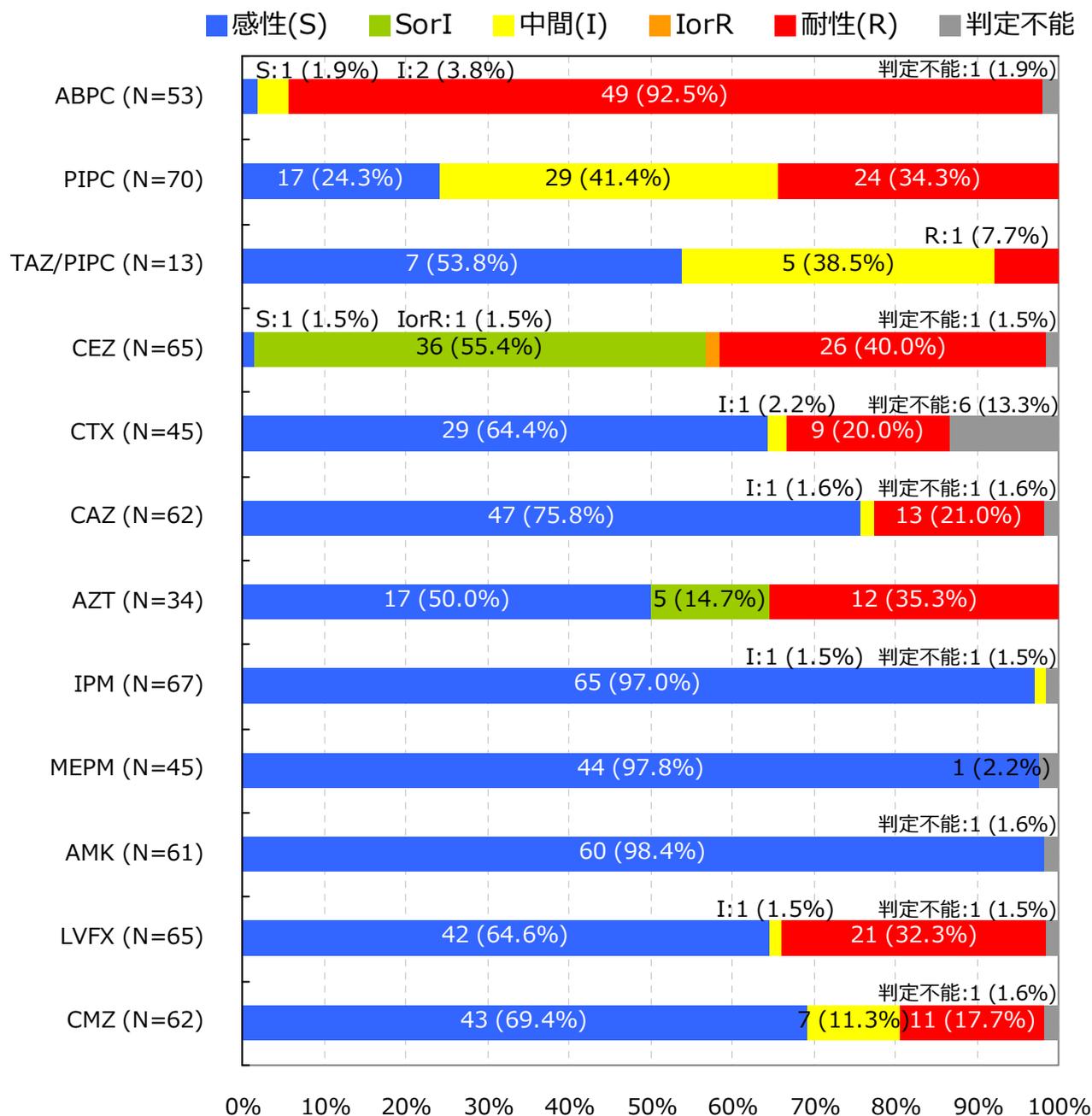
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

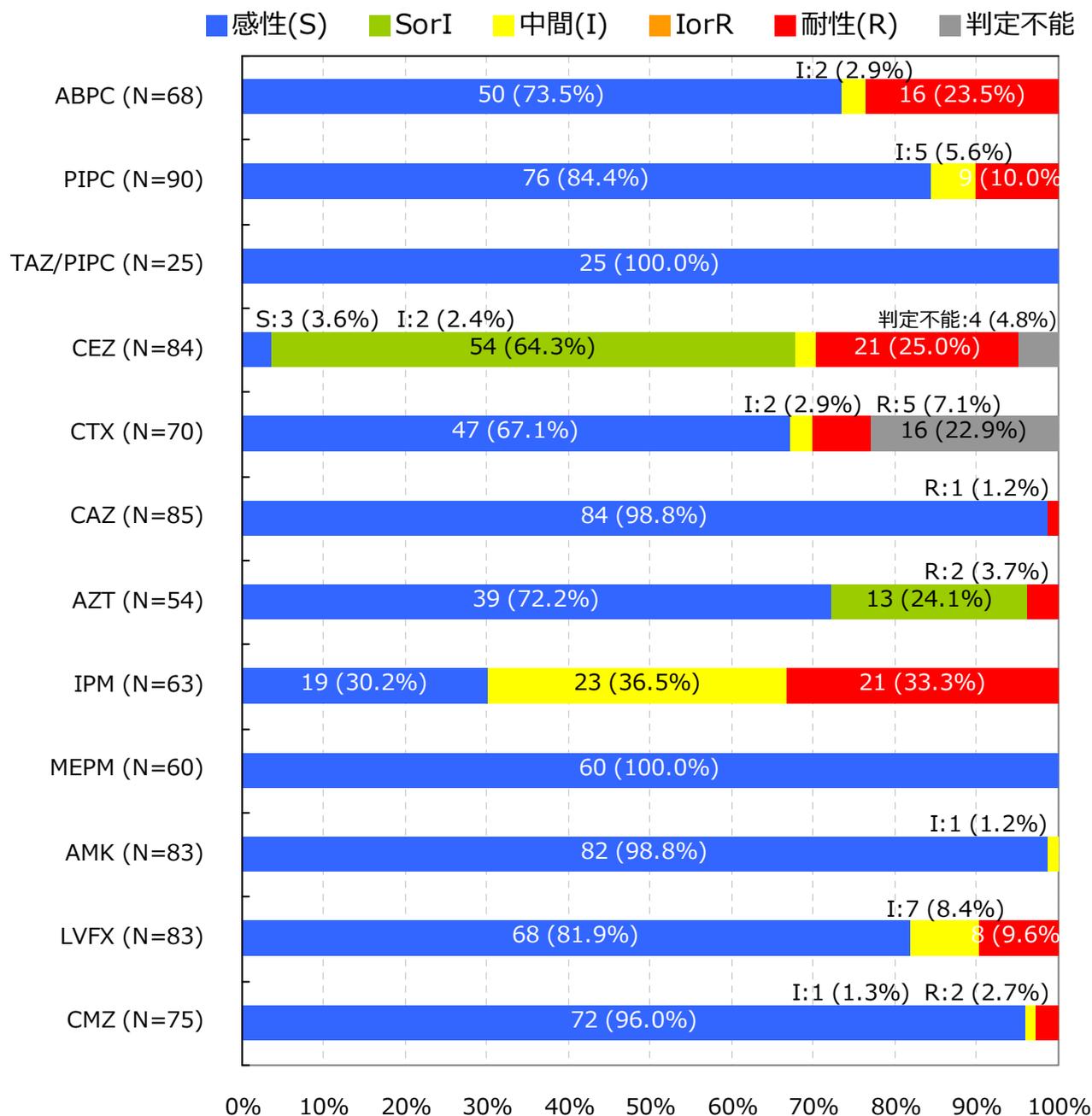
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

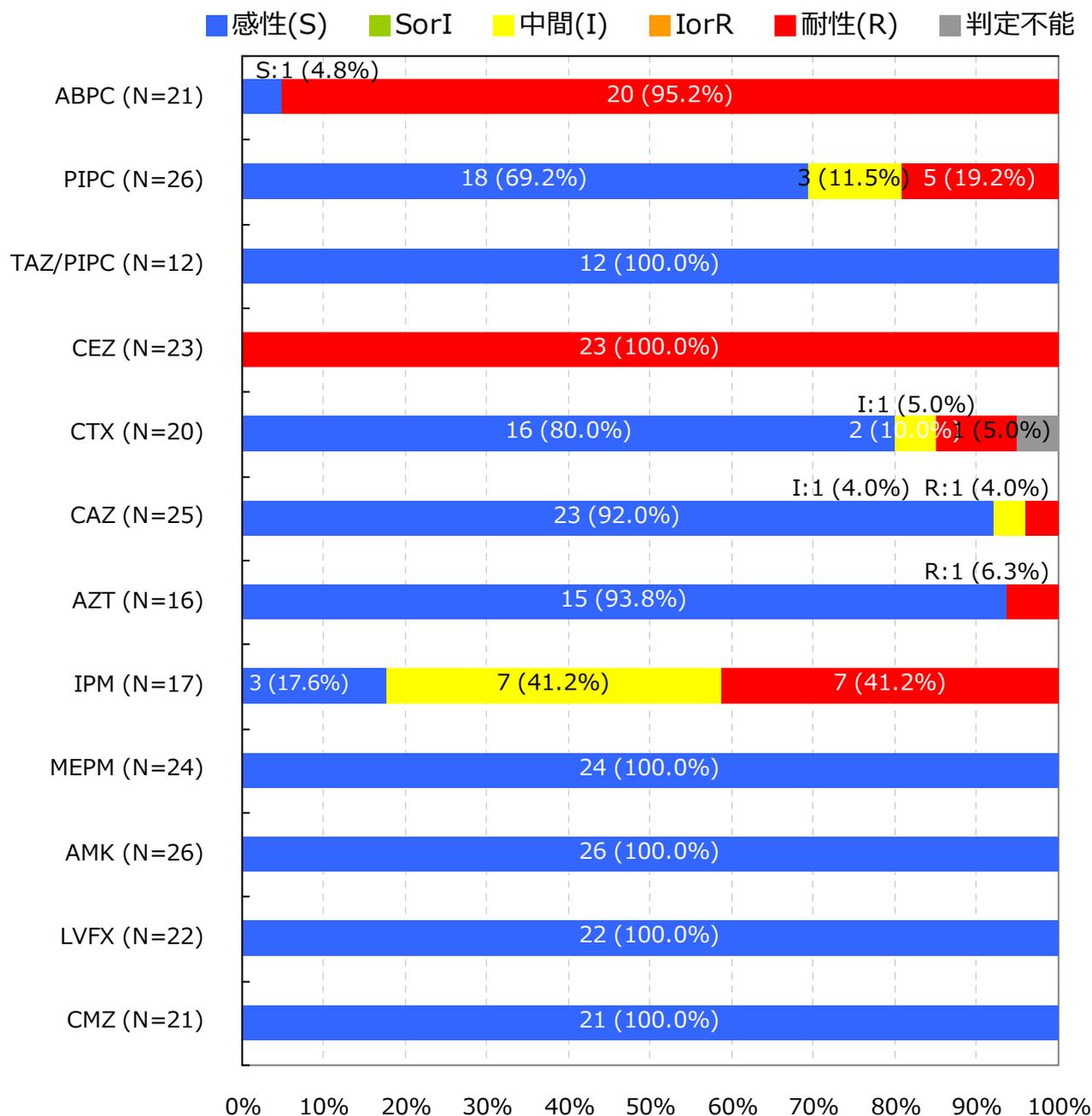
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

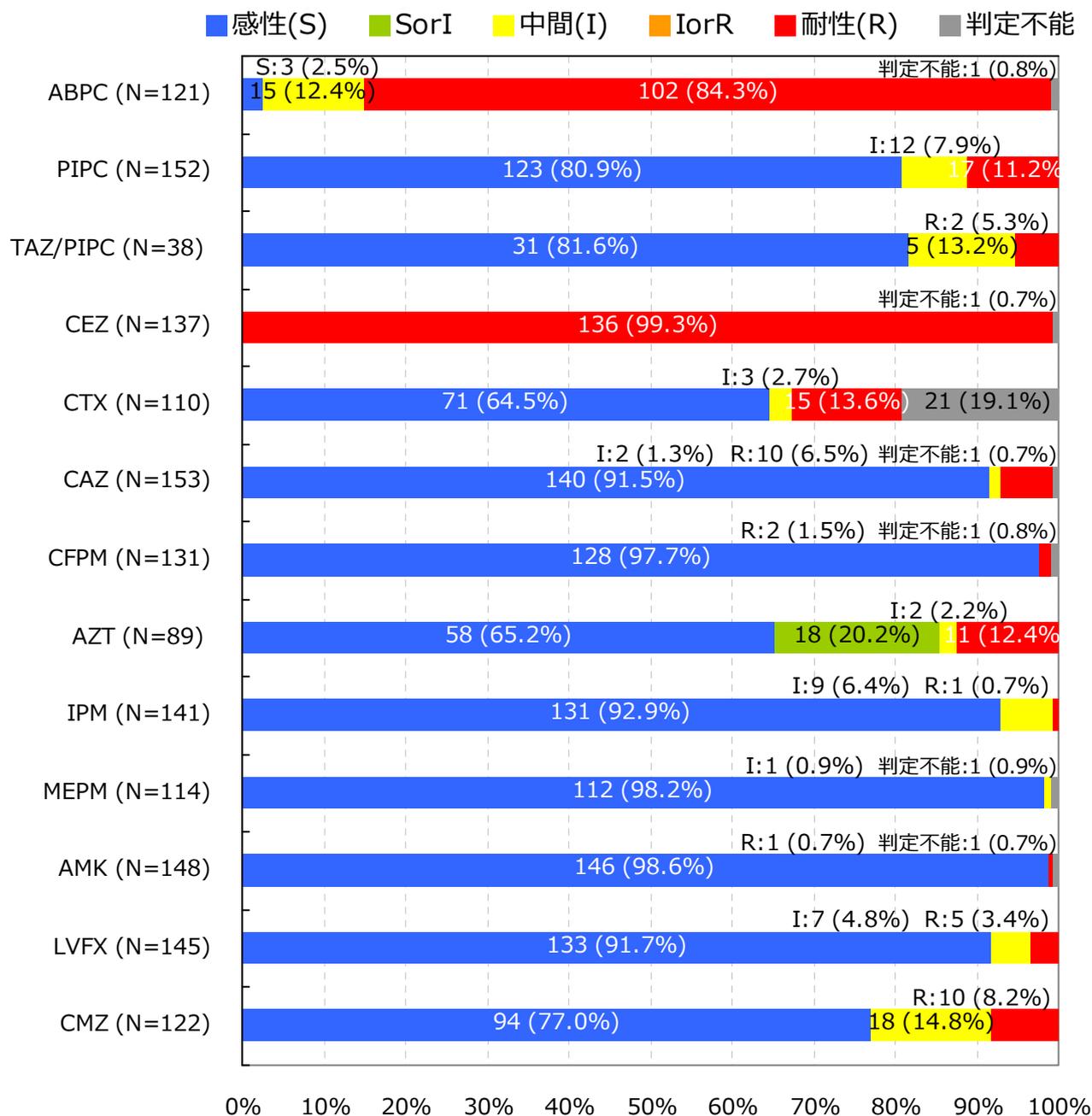
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

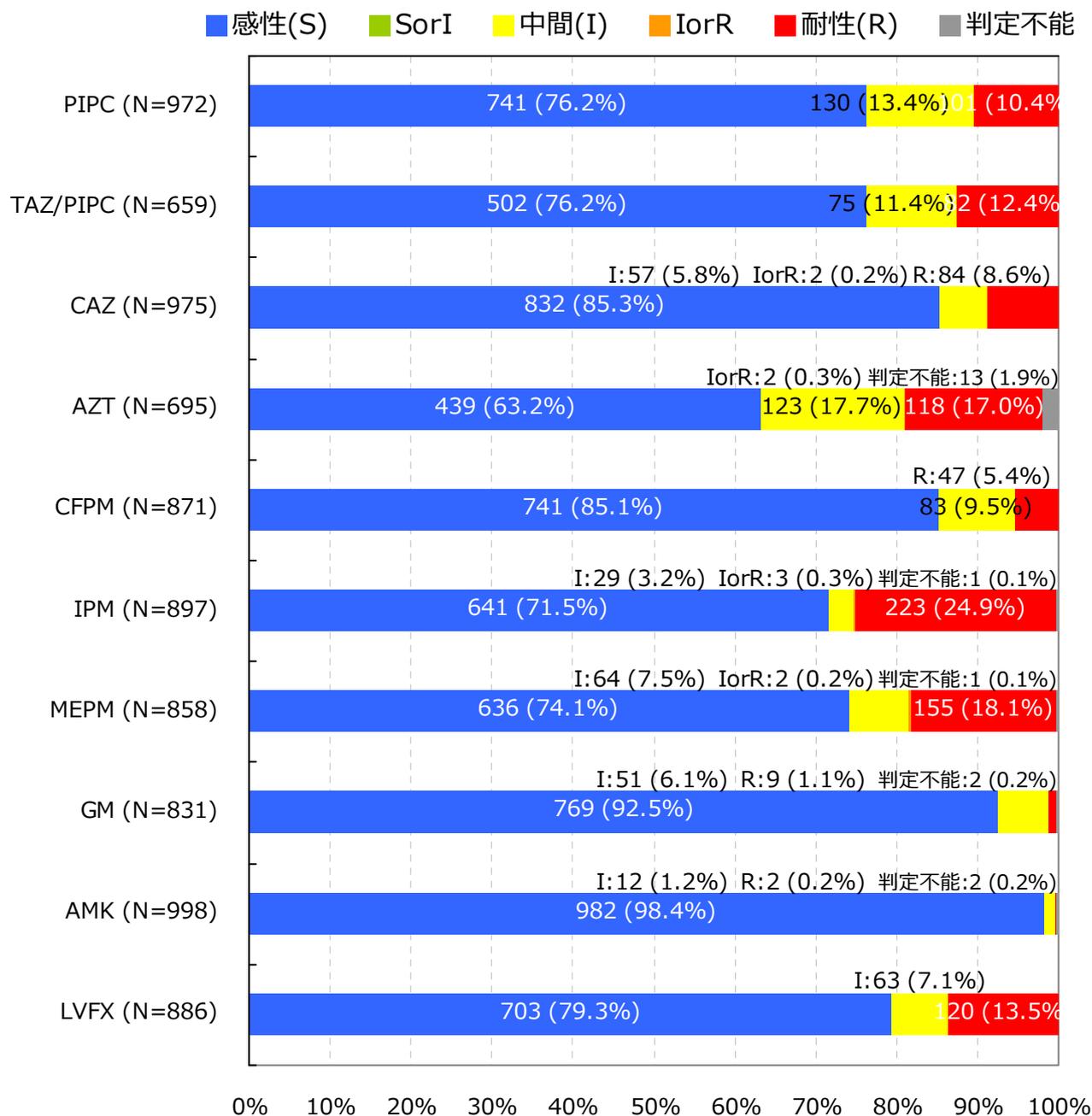
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

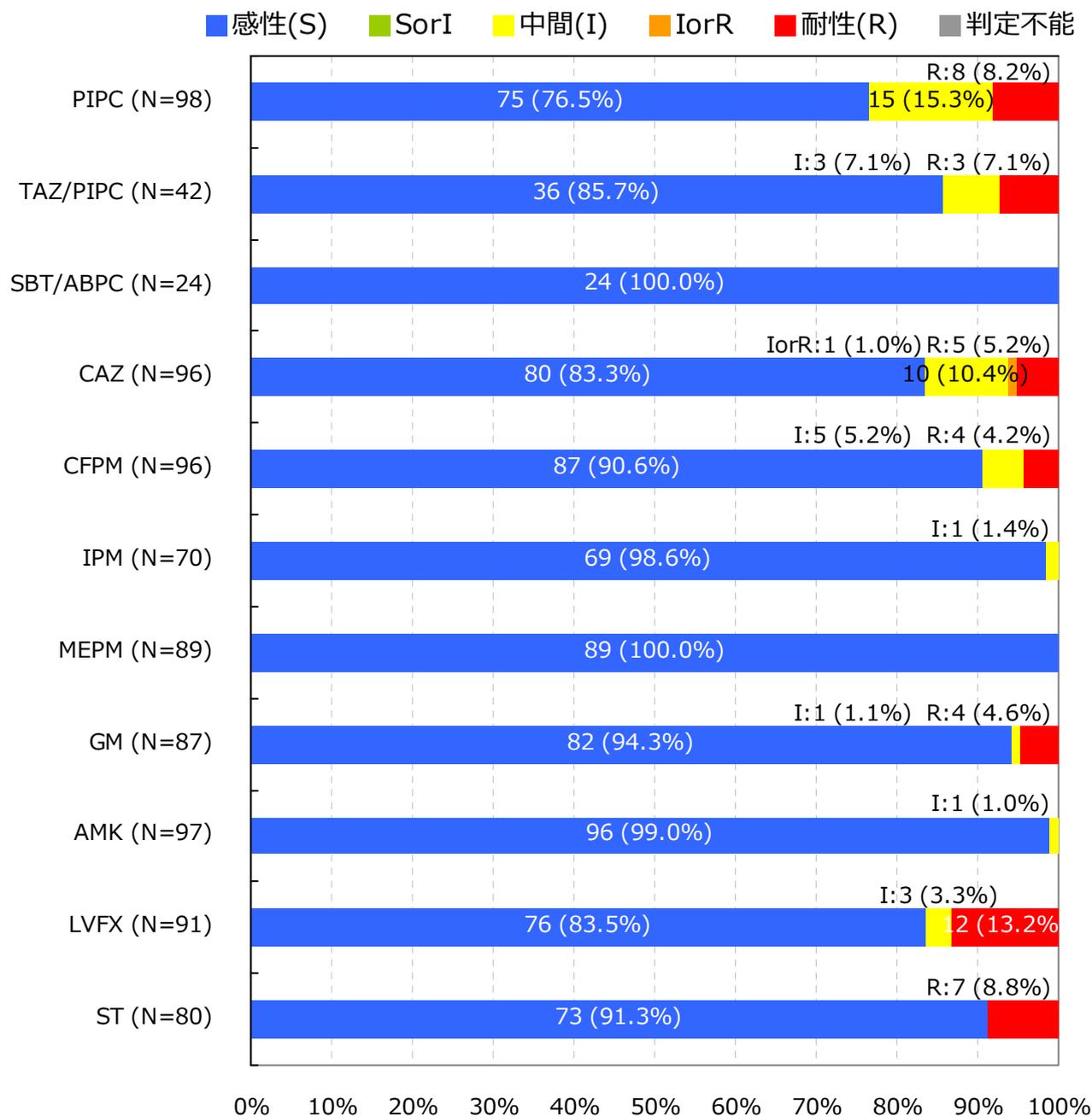
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

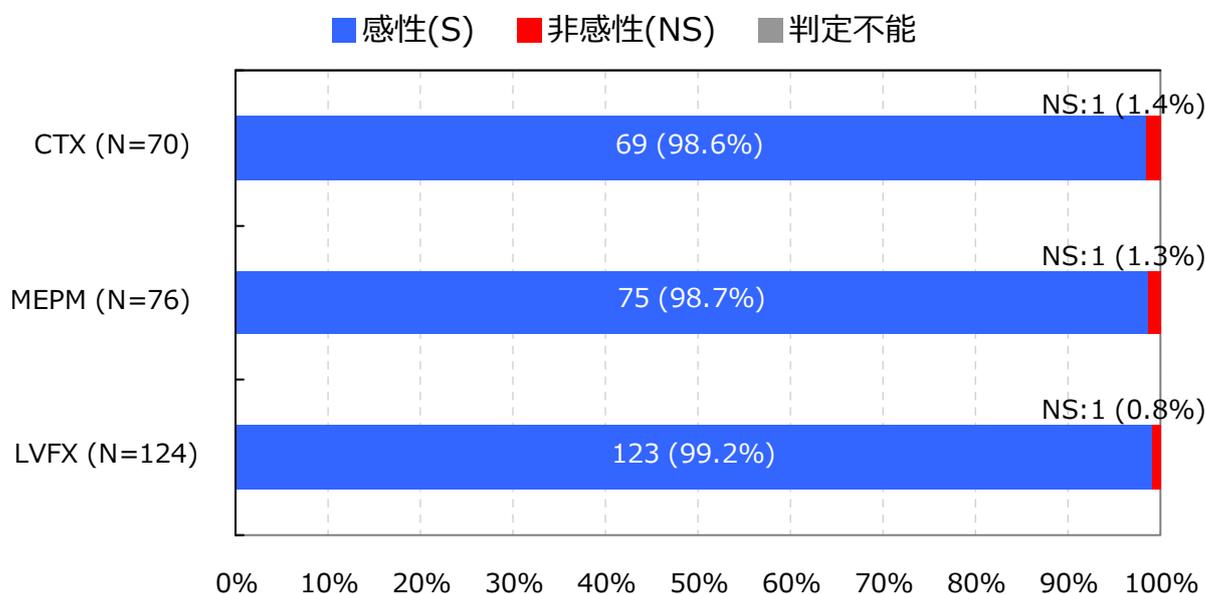
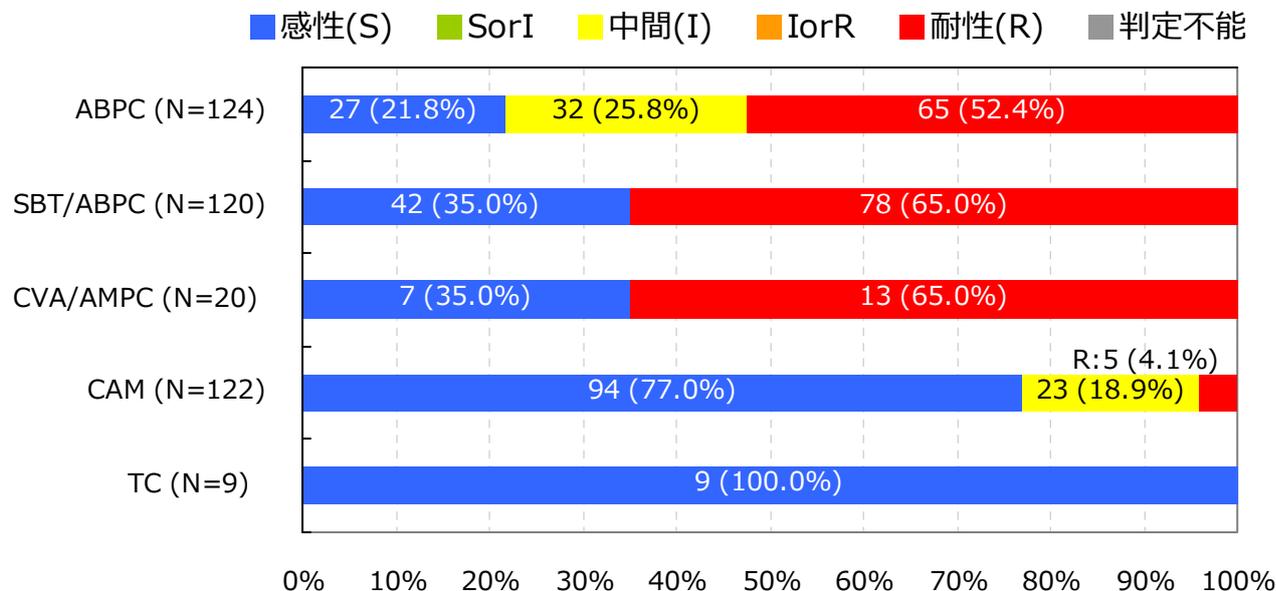
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

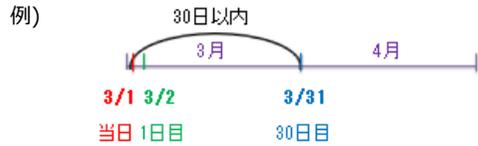
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

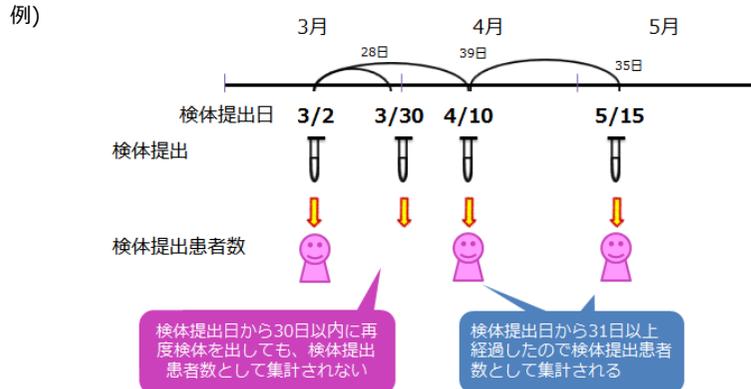
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



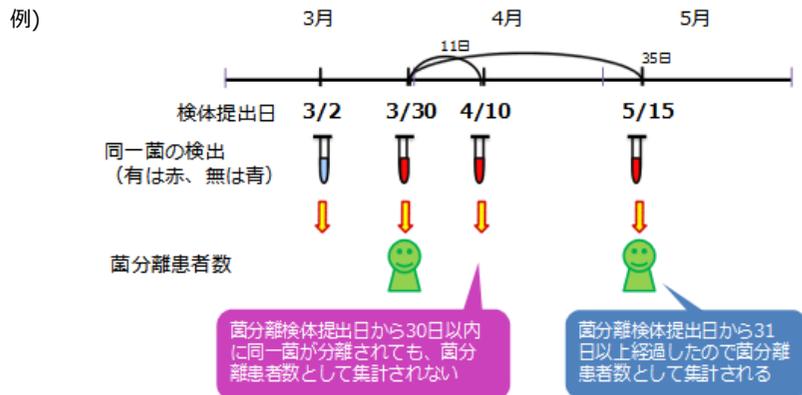
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



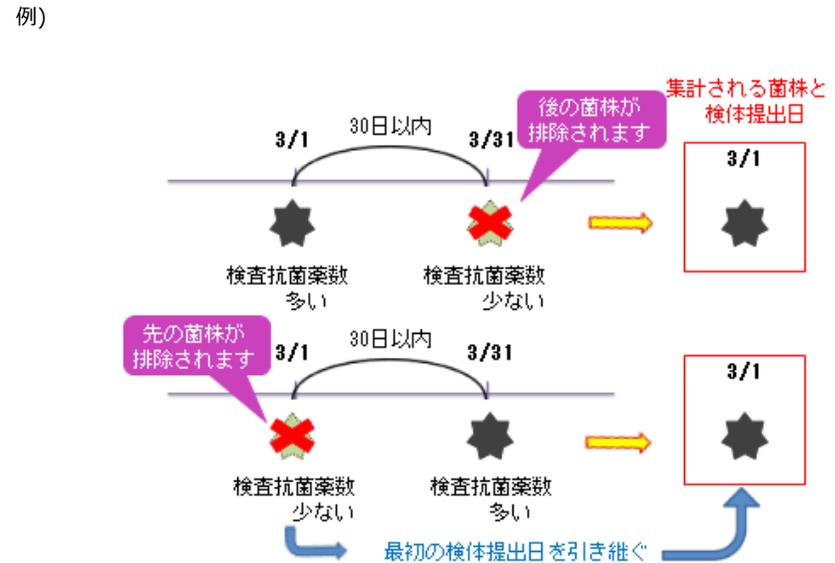
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC  $\geq$  4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC  $\leq$  16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

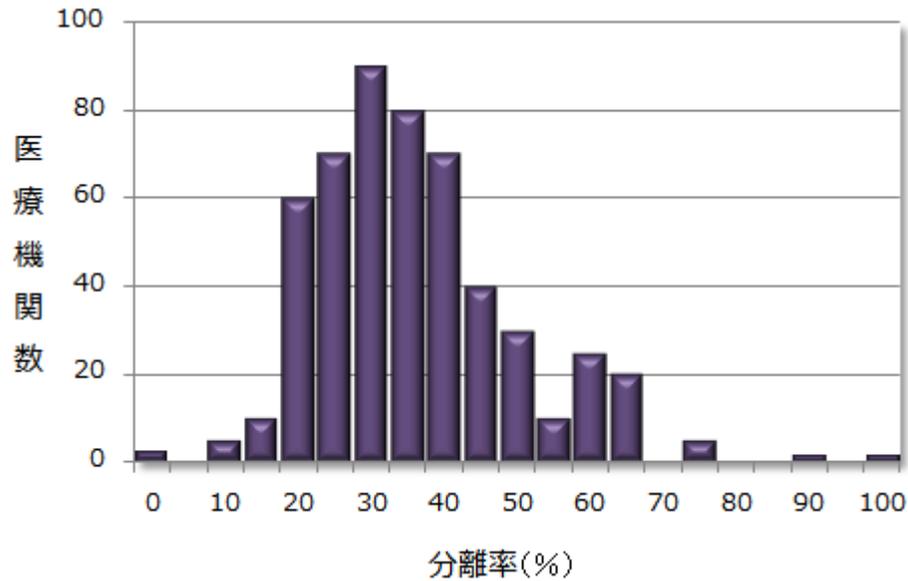
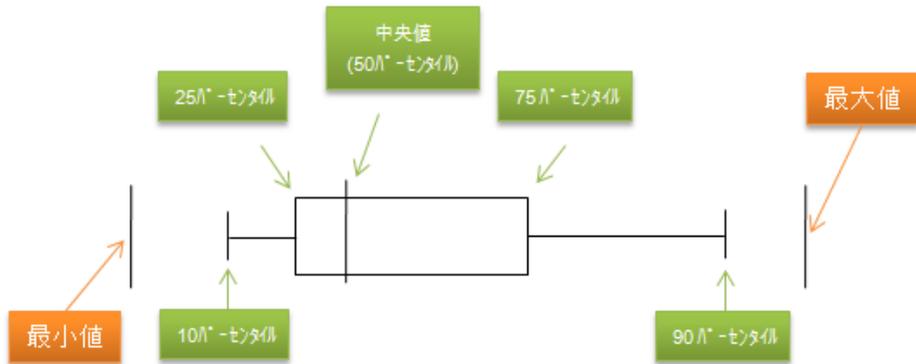
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

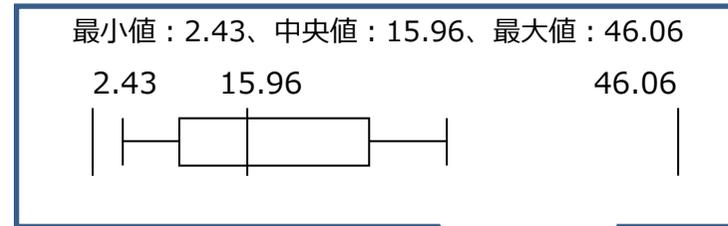
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。

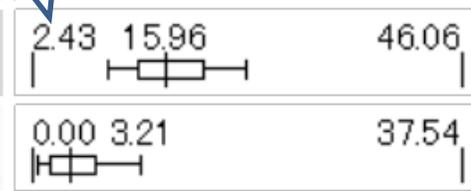


※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図

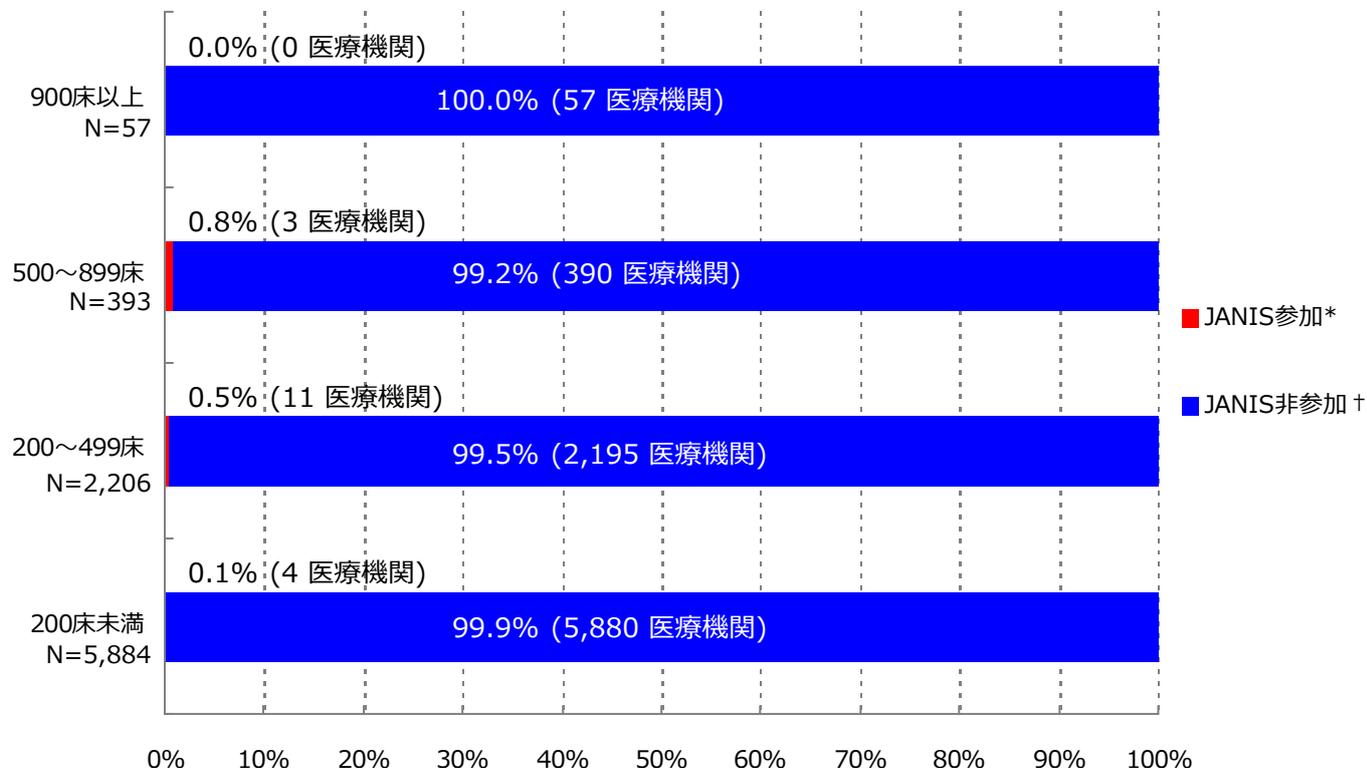


| 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布  |                      |
|----------------------|----------------------|
| 2010年 *              | 2011                 |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   |





### 1. 集計対象医療機関数(18医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |          |
|----------|-----------------|---|----------|
|          |                 | 数                                       | 割合       |
| 900床以上   | 57              | 0                                       | ( 0.0% ) |
| 500～899床 | 393             | 3                                       | ( 0.8% ) |
| 200～499床 | 2,206           | 11                                      | ( 0.5% ) |
| 200床未満   | 5,884           | 4                                       | ( 0.1% ) |
| 病床数不明    | -               | 0                                       | ( - )    |
| 合計       | 8,540           | 18                                      | ( 0.2% ) |

† 平成25年医療施設 (動態) 調査を参照した

(大分県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)   |
|--------|-----------|--------|-------------------|
| 呼吸器系検体 | 17        | 3,543  | 2,650<br>(5,965)  |
| 尿検体    | 17        | 1,559  | 949<br>(1,410)    |
| 便検体    | 17        | 880    | 406<br>(852)      |
| 血液検体   | 17        | 3,325  | 438<br>(470)      |
| 髄液検体   | 10        | 146    | 4<br>(4)          |
| その他    | 17        | 2,094  | 1,081<br>(1,885)  |
| 合計     | 17        | 11,547 | 5,528<br>(10,586) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

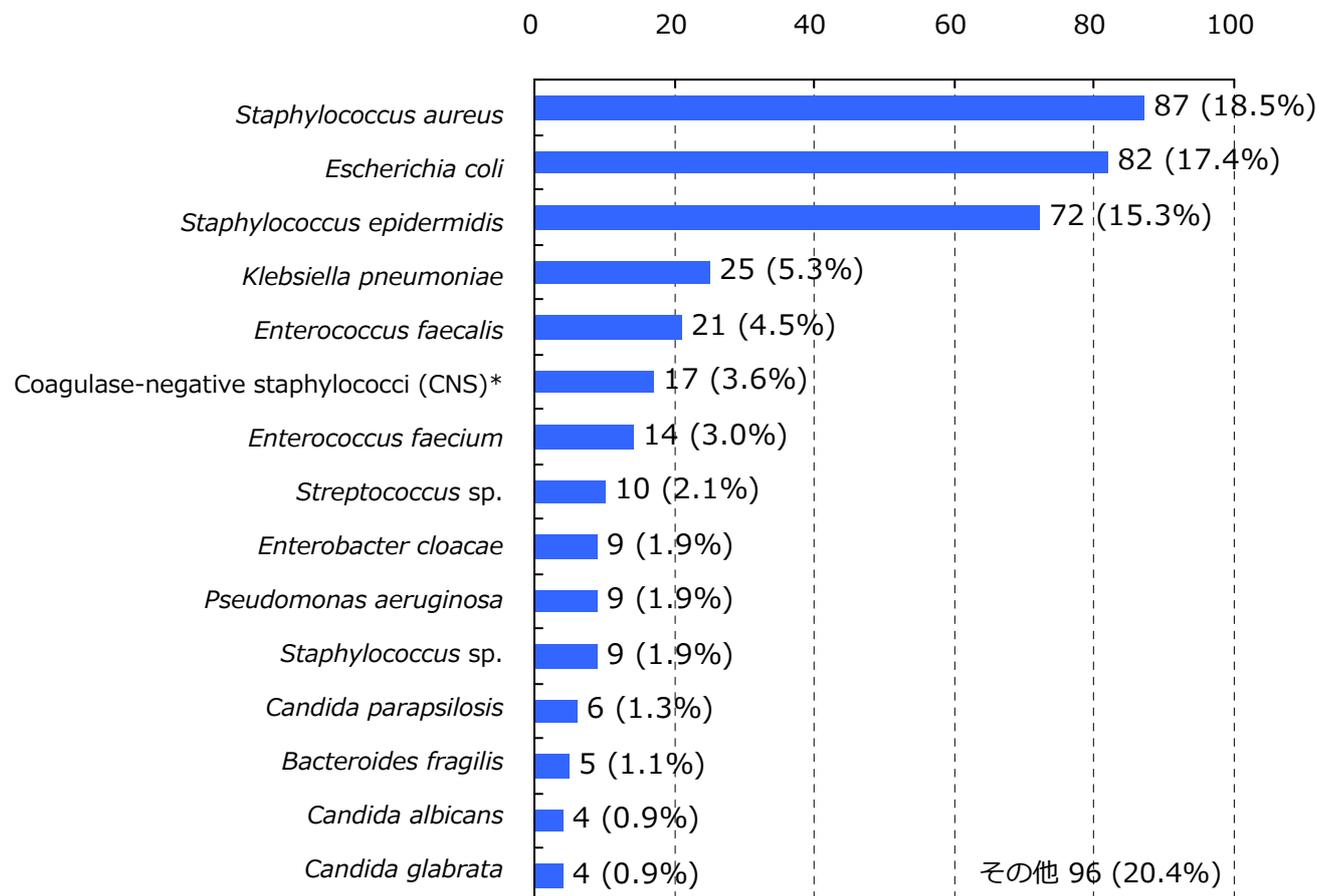
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=470)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

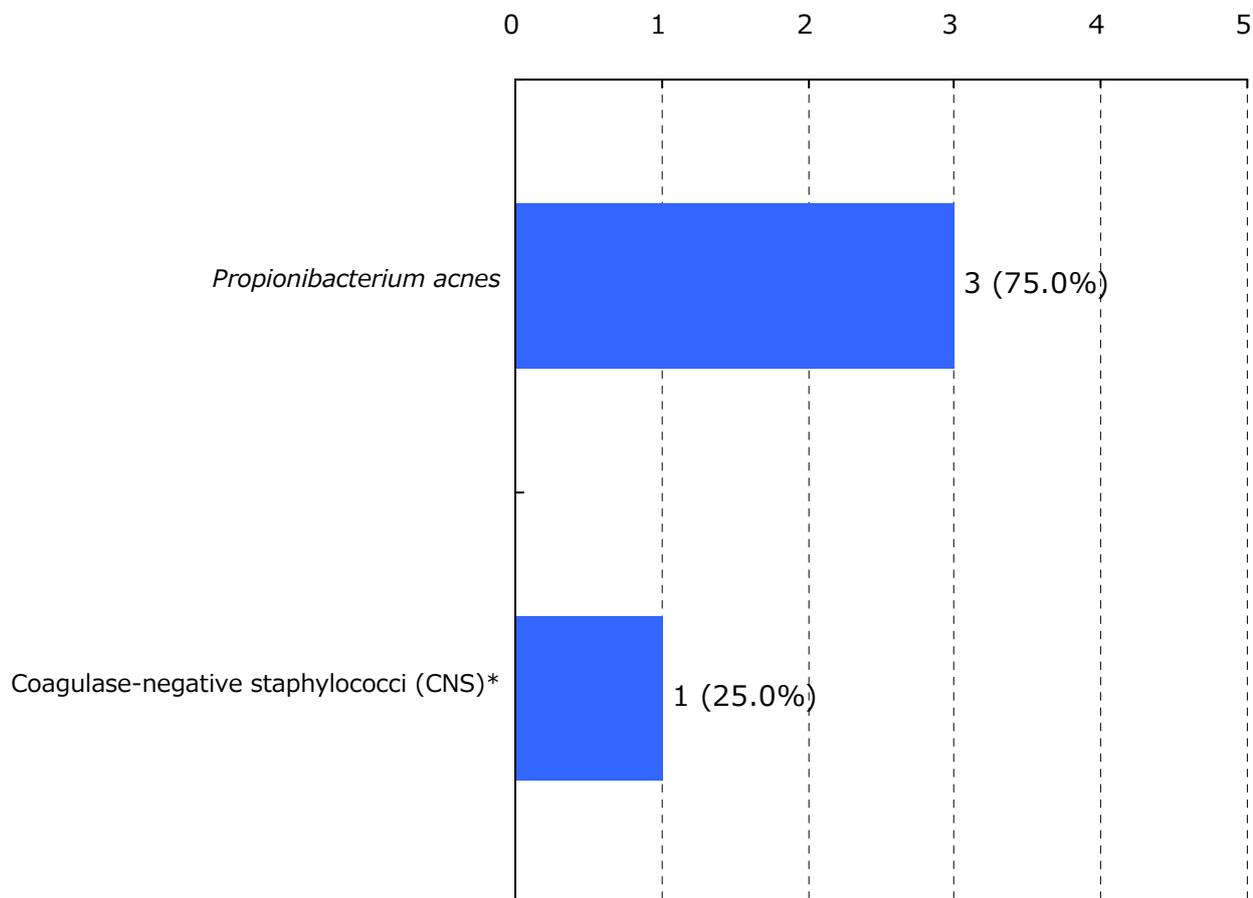
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=4)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数                | 4,907人                 |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 528人<br>(10.76%)       | 2.69   12.64   21.51    |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 3人<br>(0.06%)          | 0.00 0.00   1.45        |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 20人<br>(0.41%)         | 0.00 0.00   2.13        |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 7人<br>(0.14%)          | 0.00 0.00   0.89        |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 13人<br>(0.26%)         | 0.00 0.00   0.94        |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 93人<br>(1.90%)         | 0.00 1.15   11.28       |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 14人<br>(0.29%)         | 0.00 0.00   1.36        |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 81人<br>(1.65%)         | 0.00 0.64   7.53        |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 204人<br>(4.16%)        | 0.00 4.38   12.90       |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

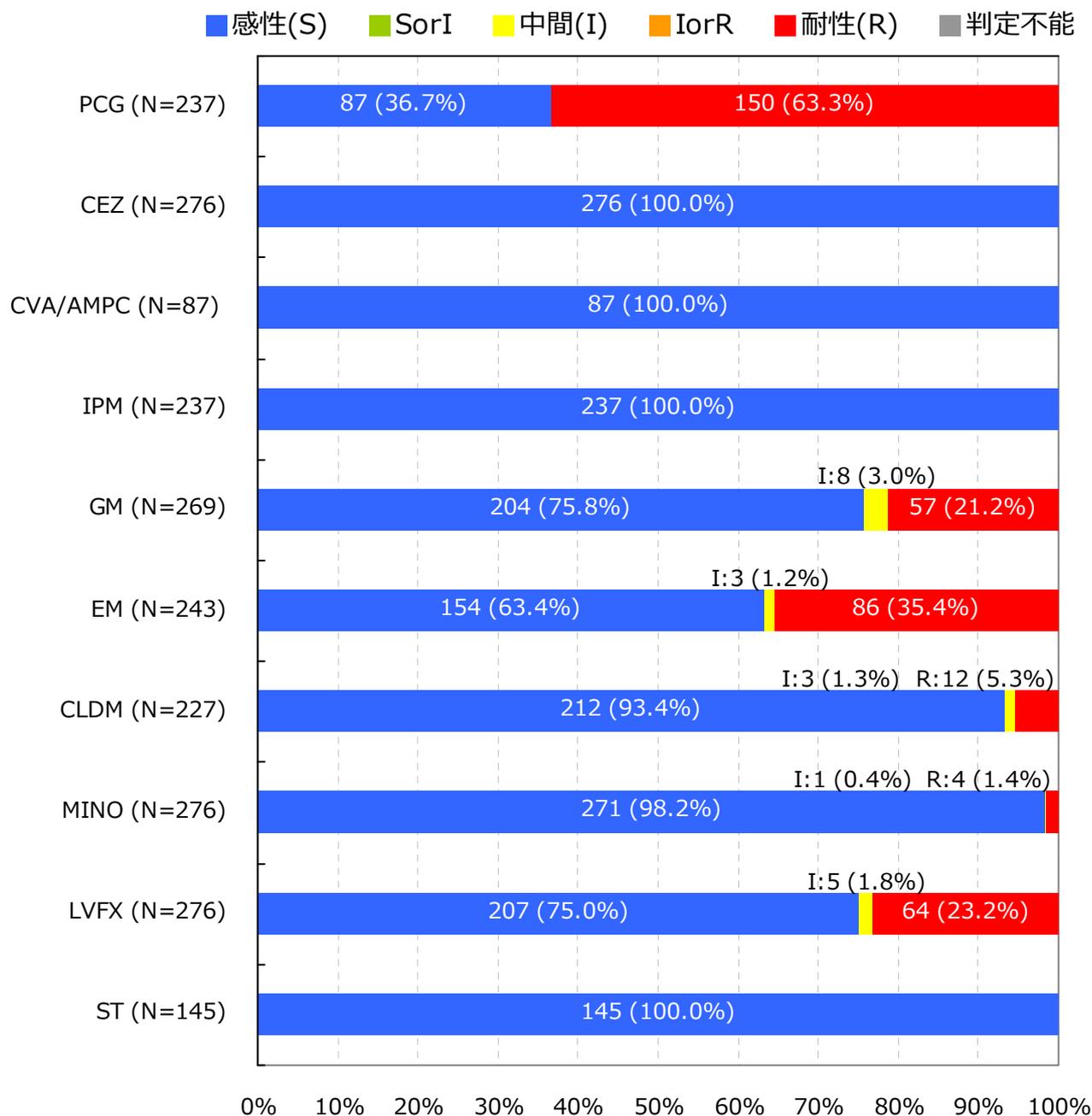
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

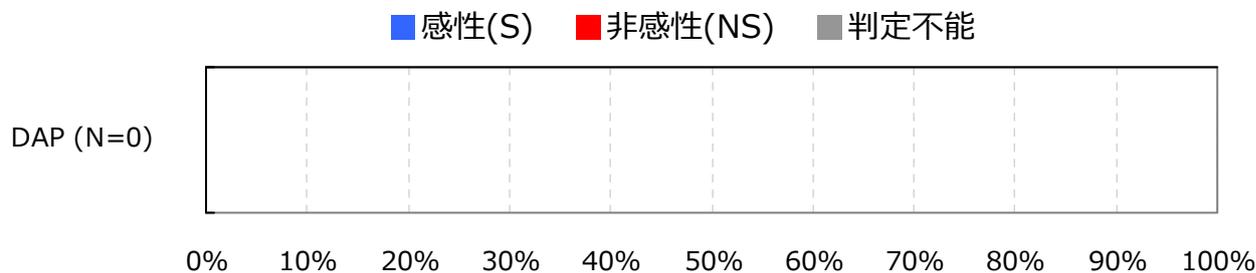
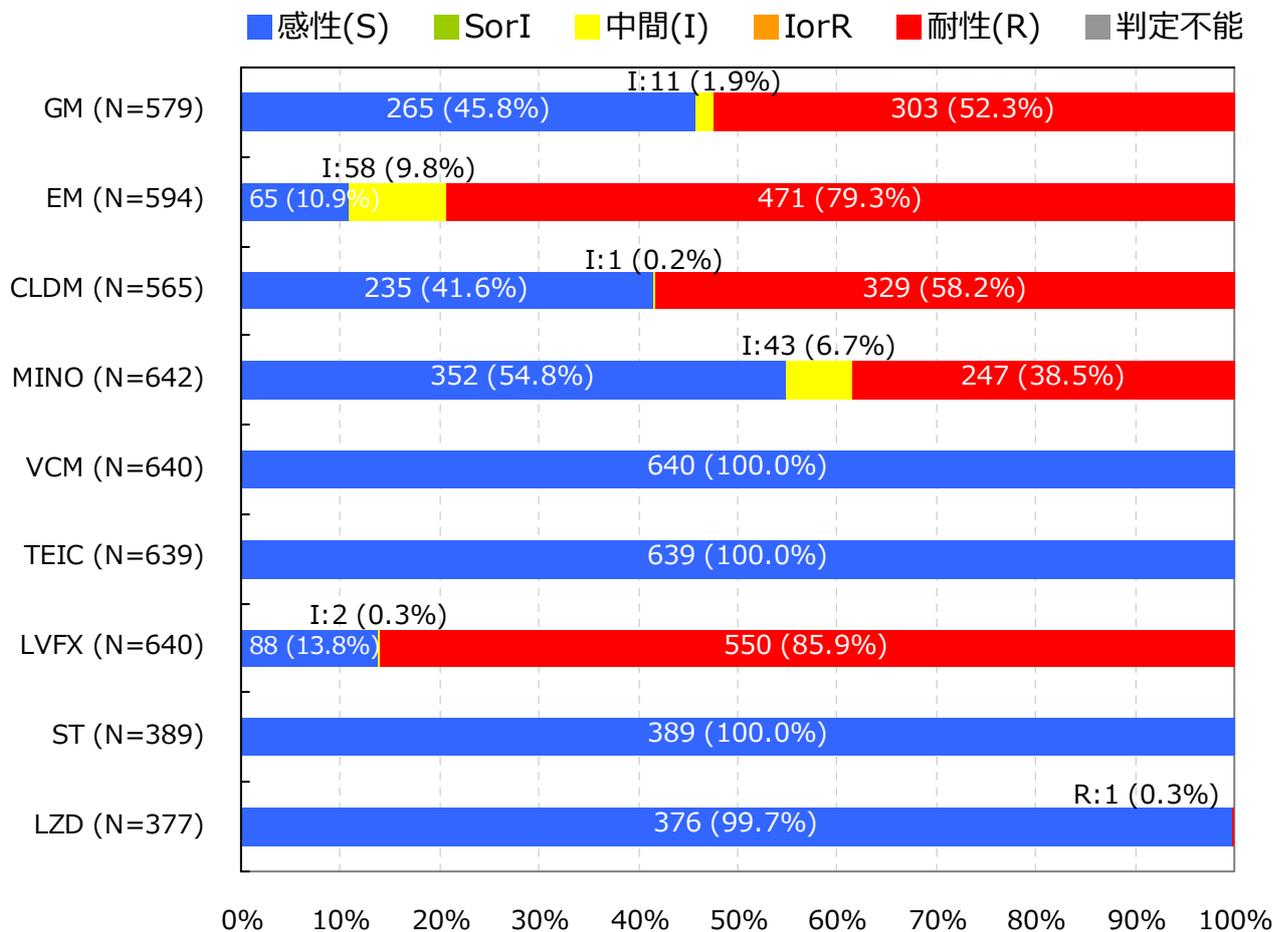
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

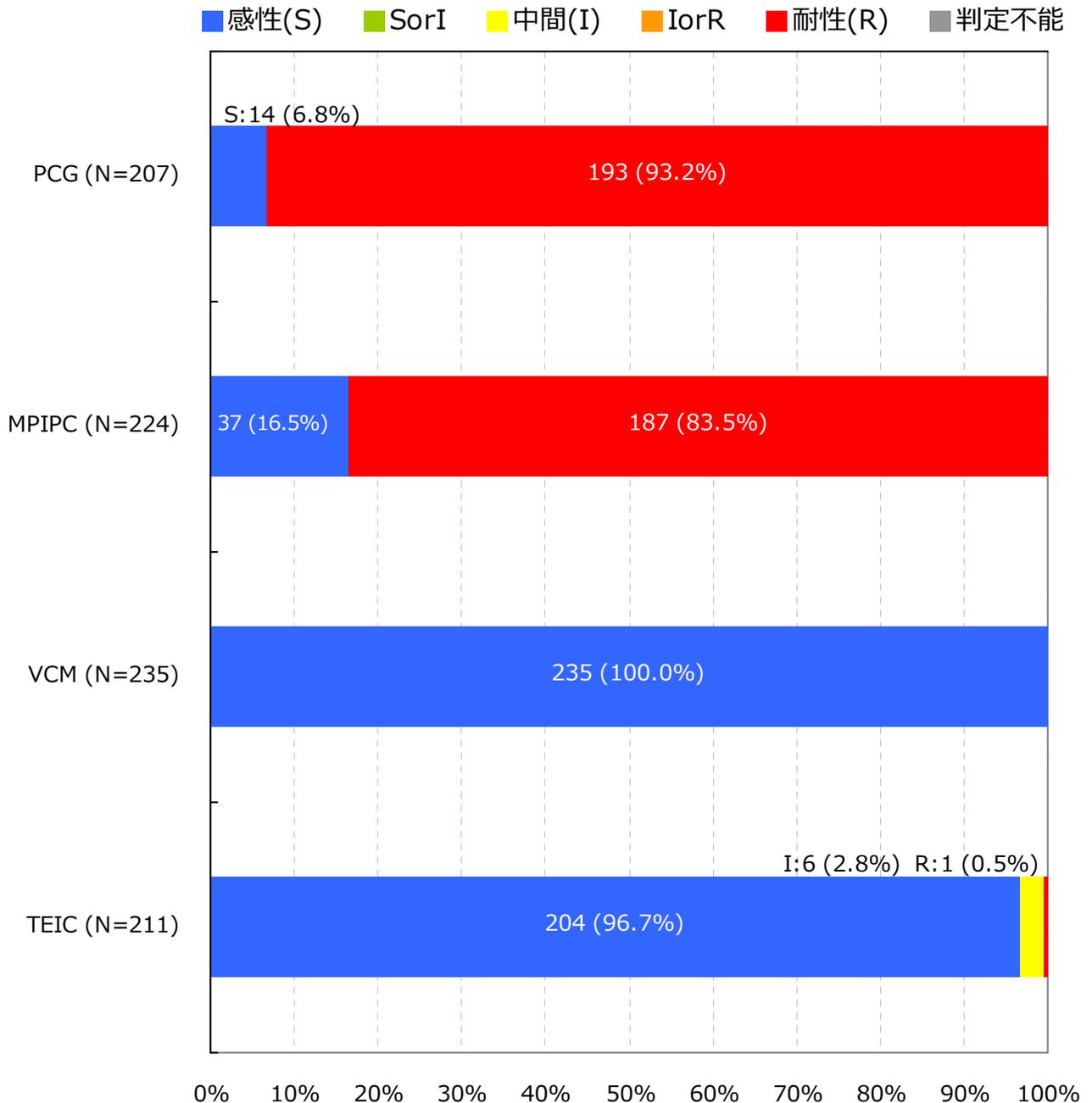
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



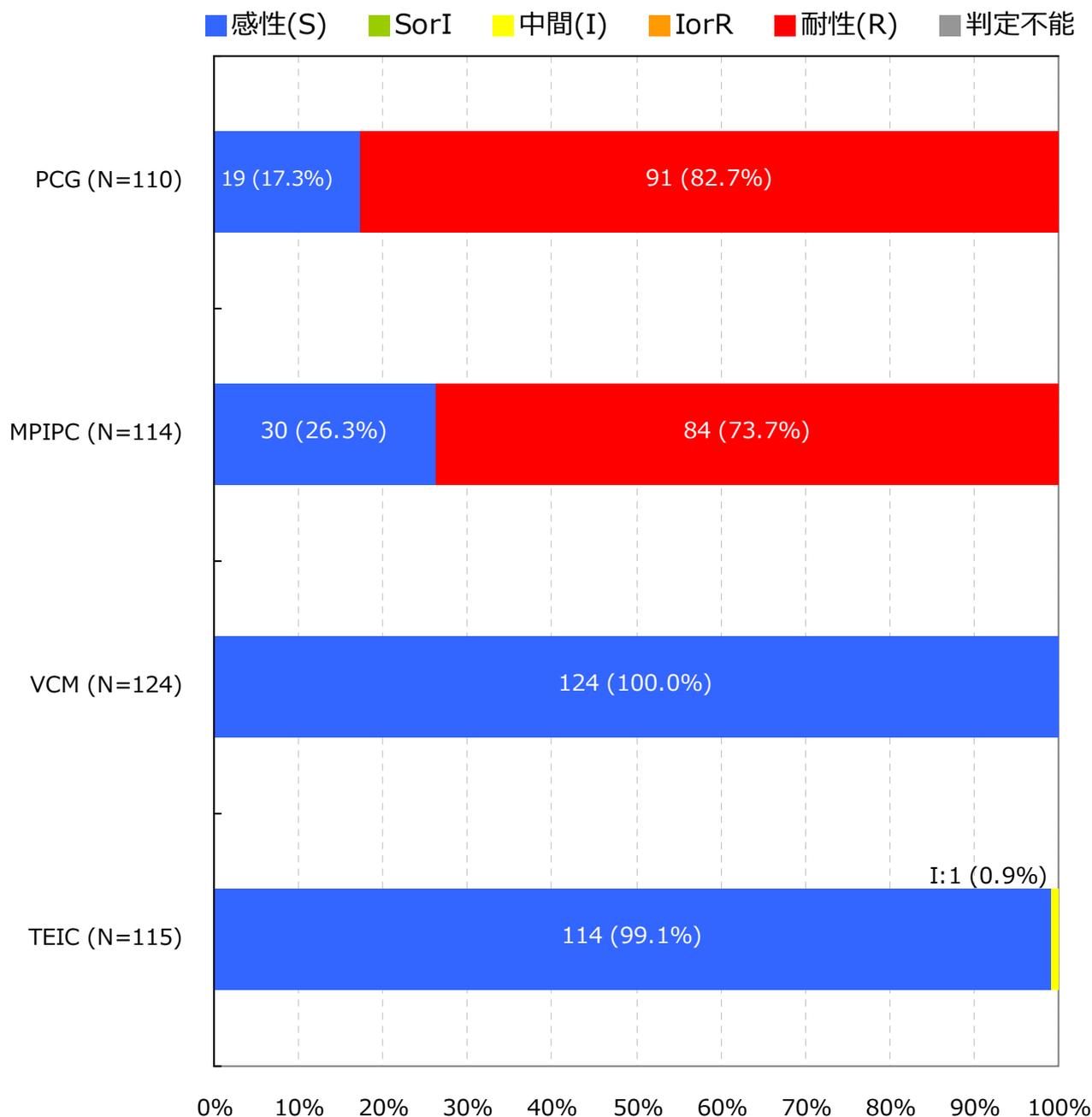
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



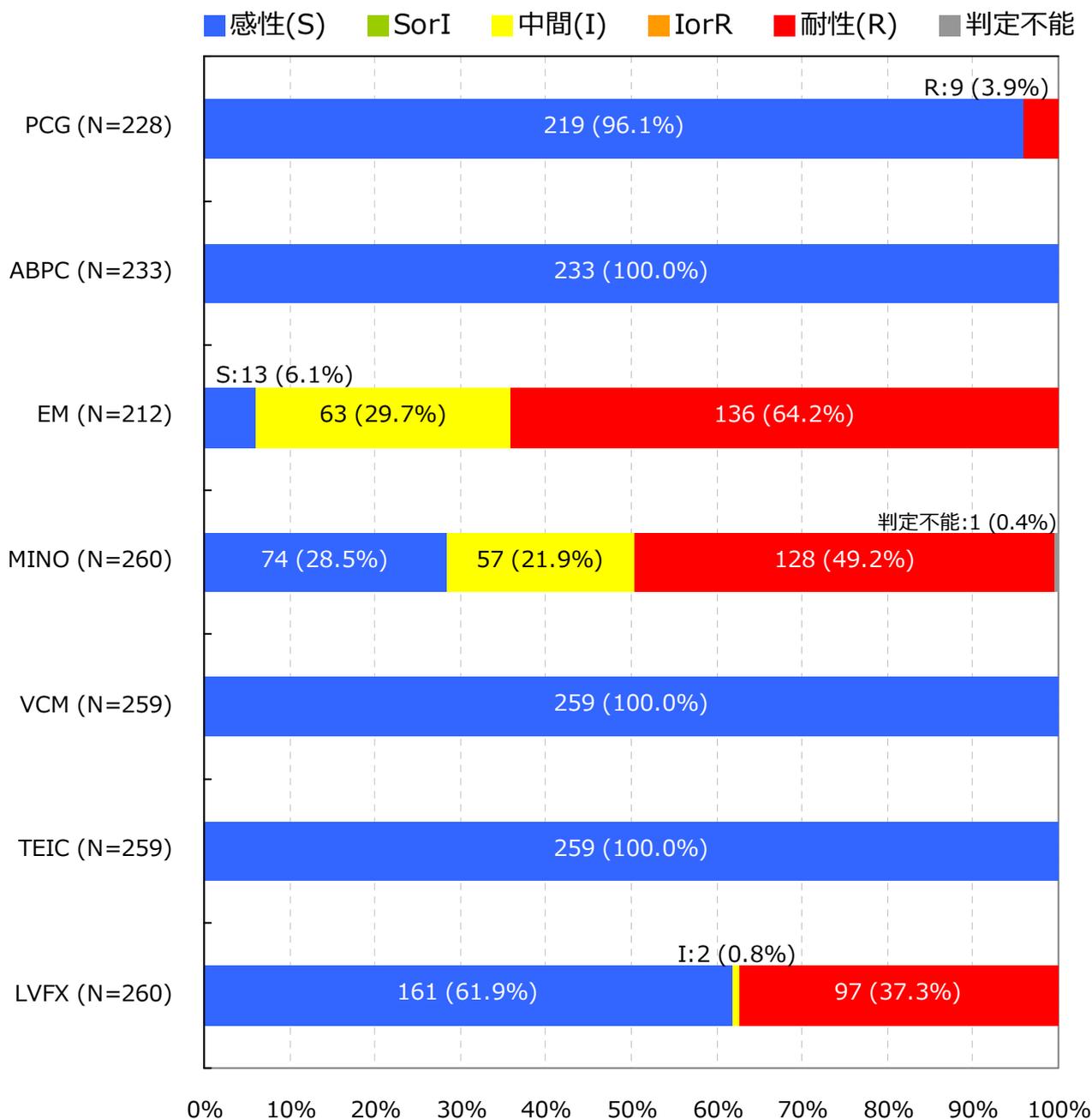
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

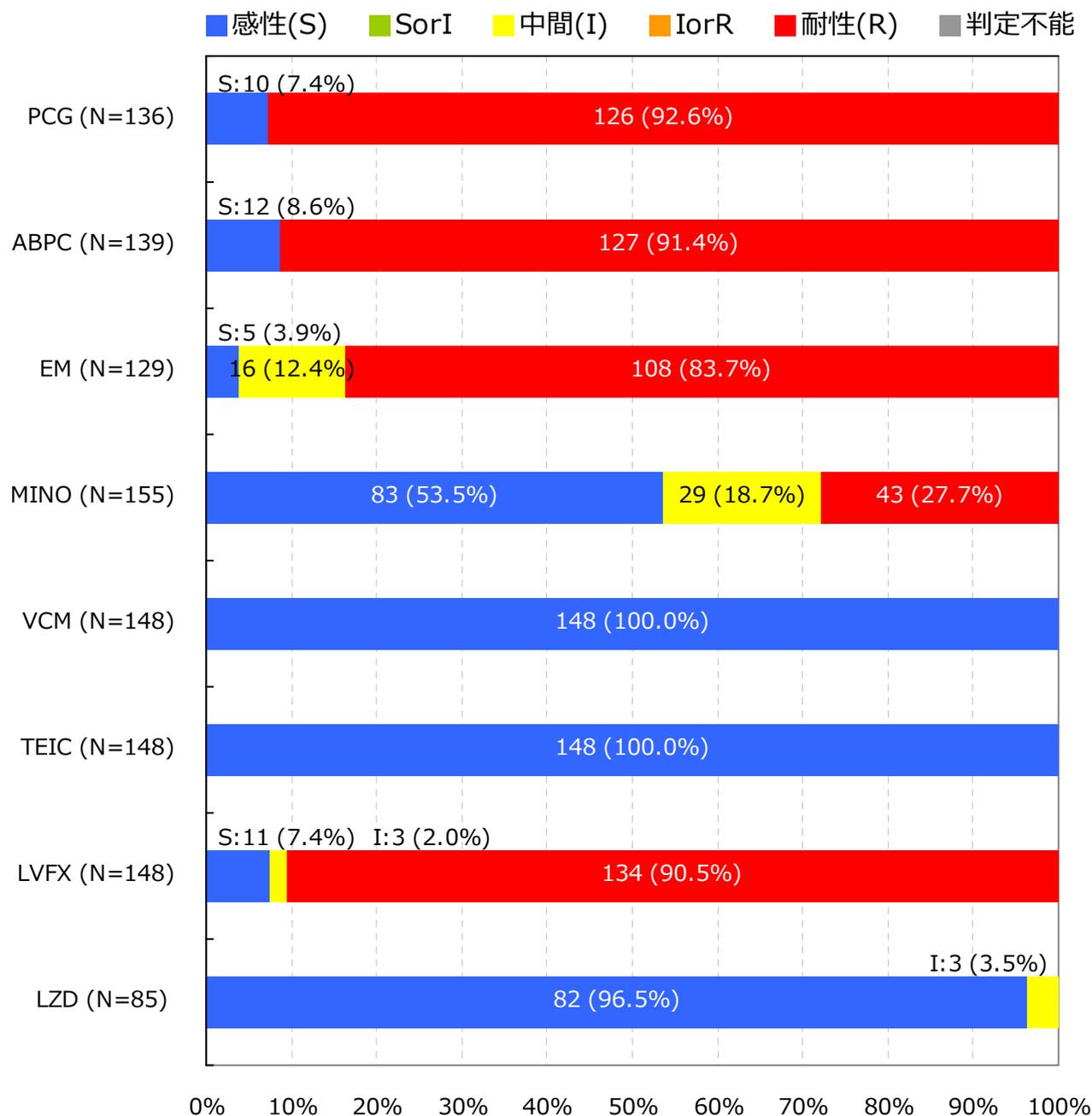
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(大分県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

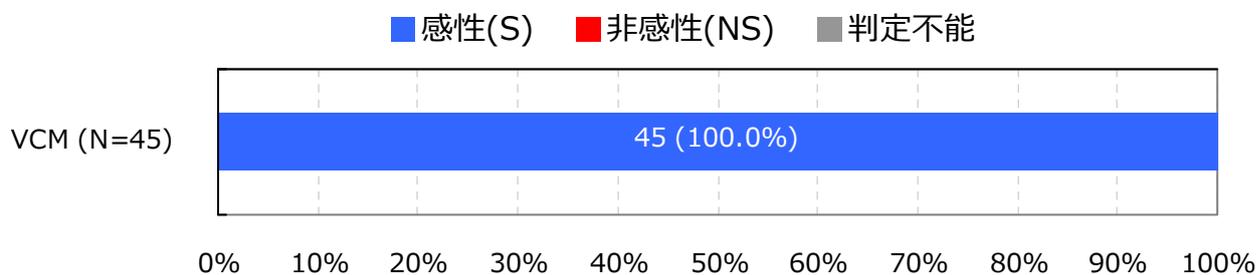
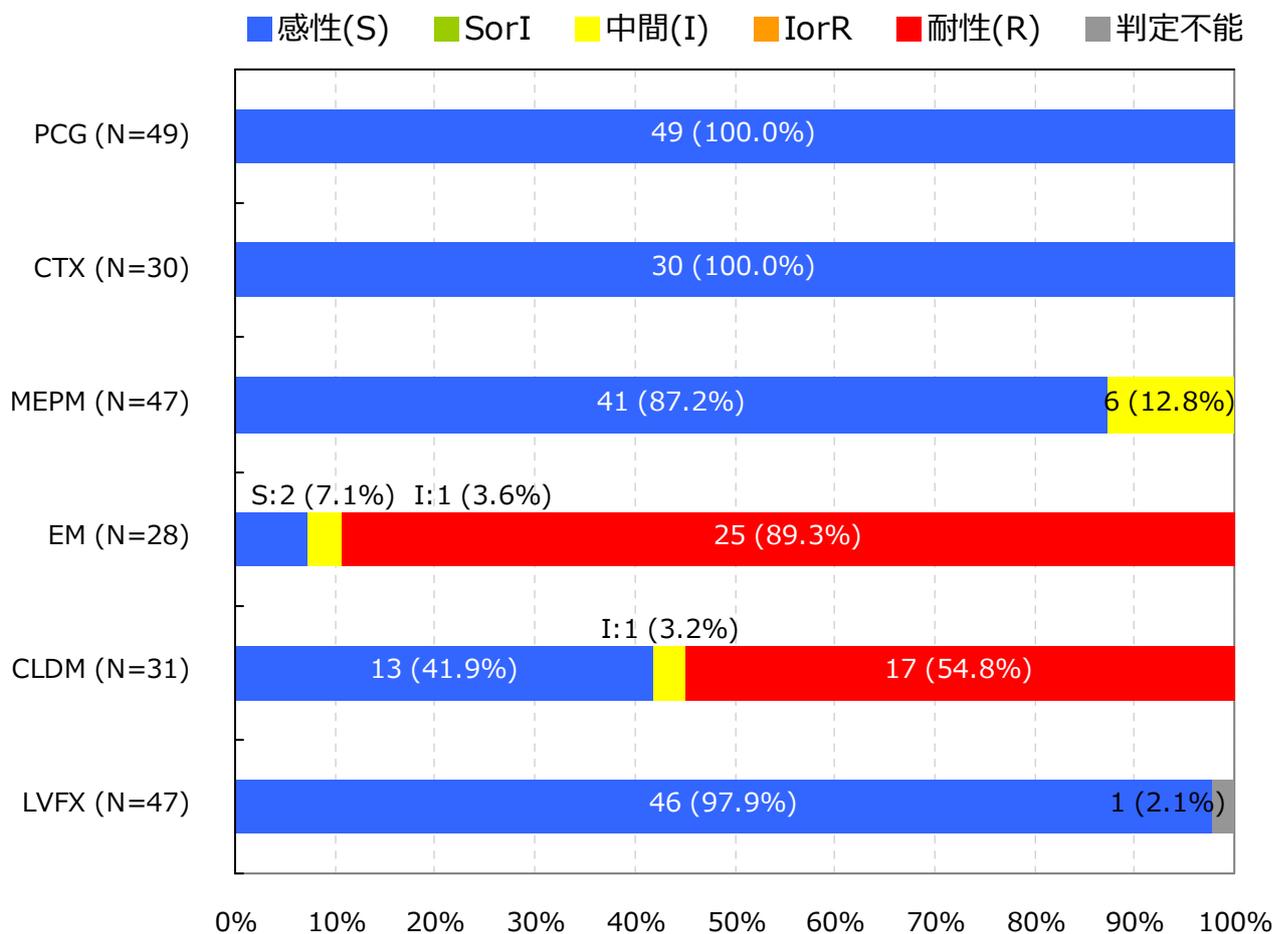
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

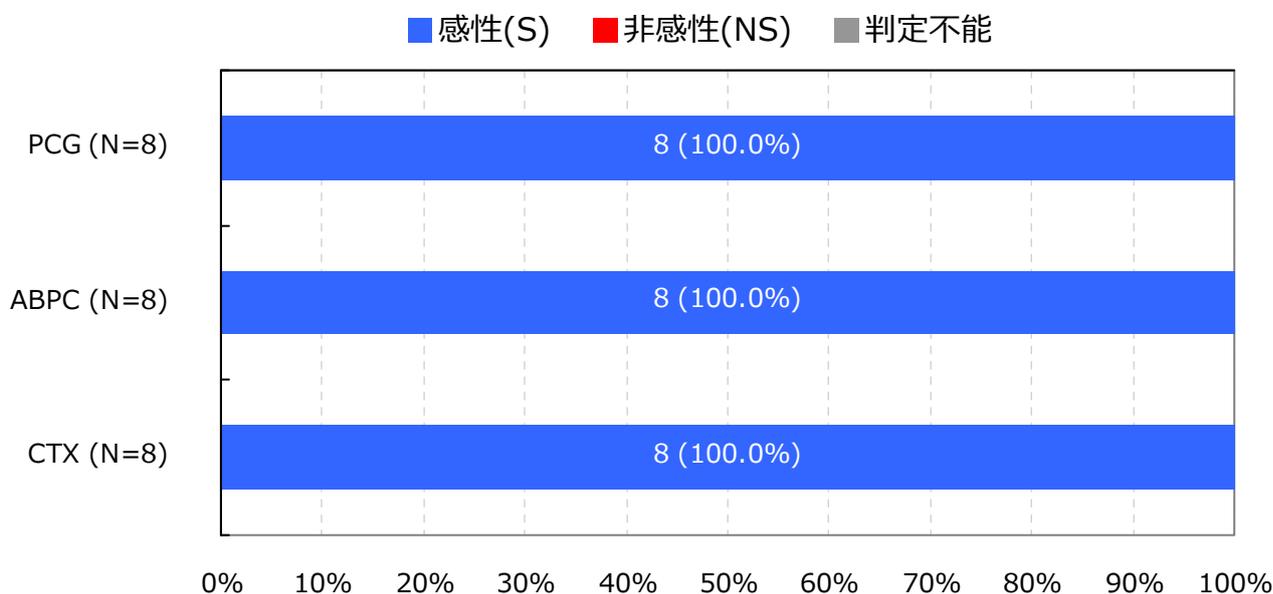
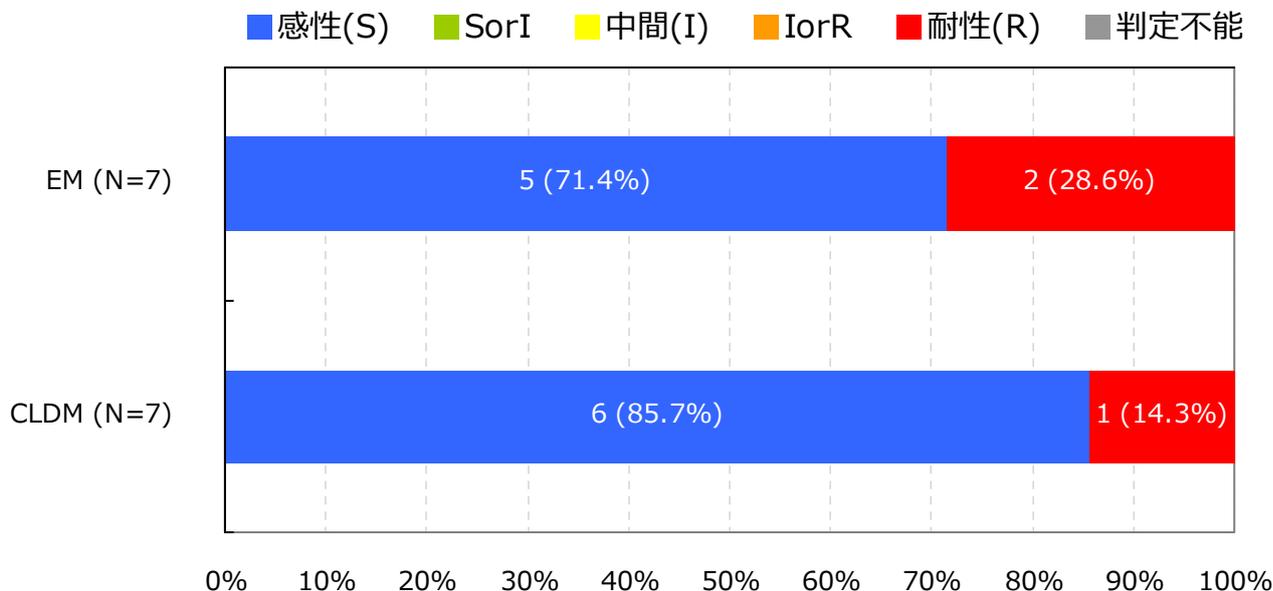
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

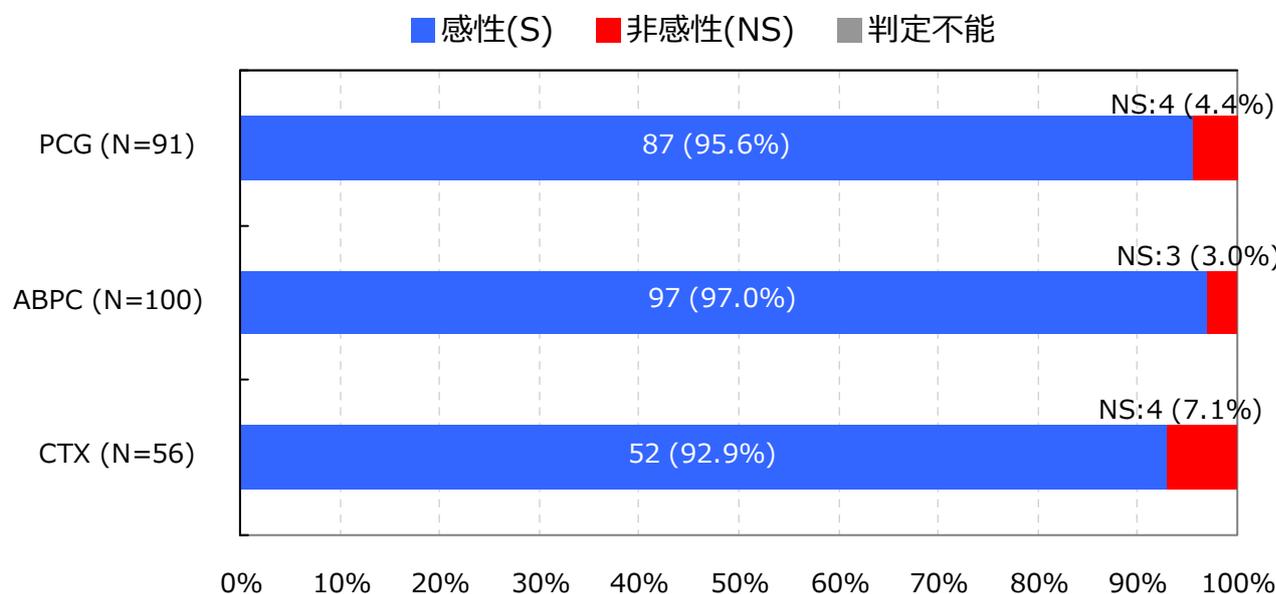
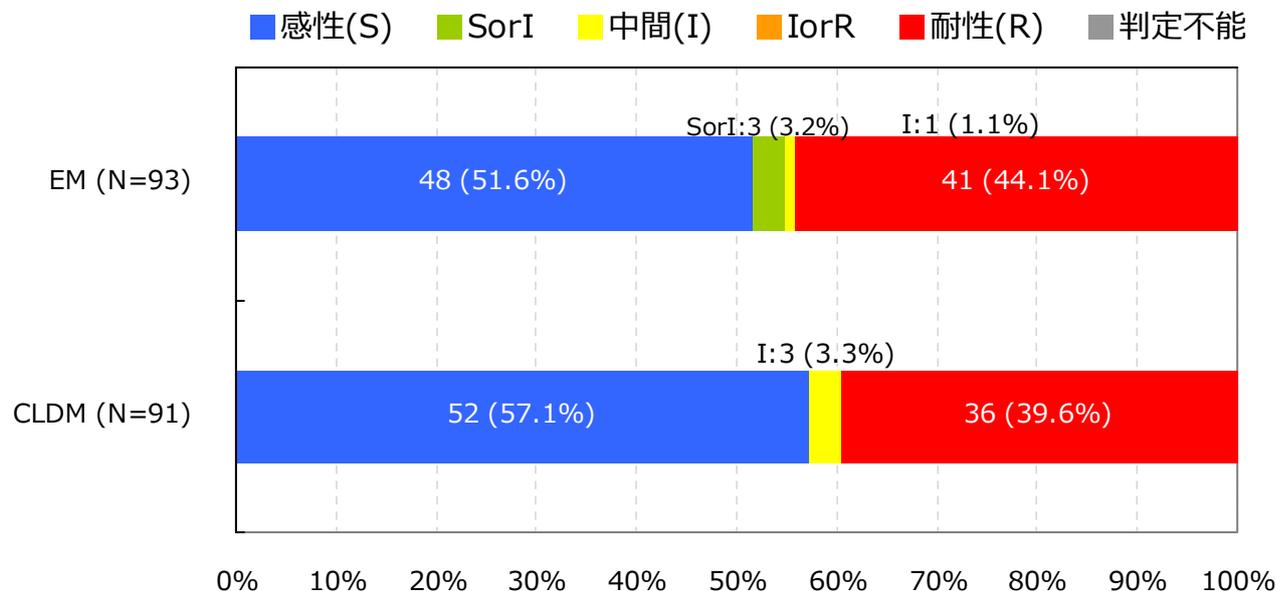
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

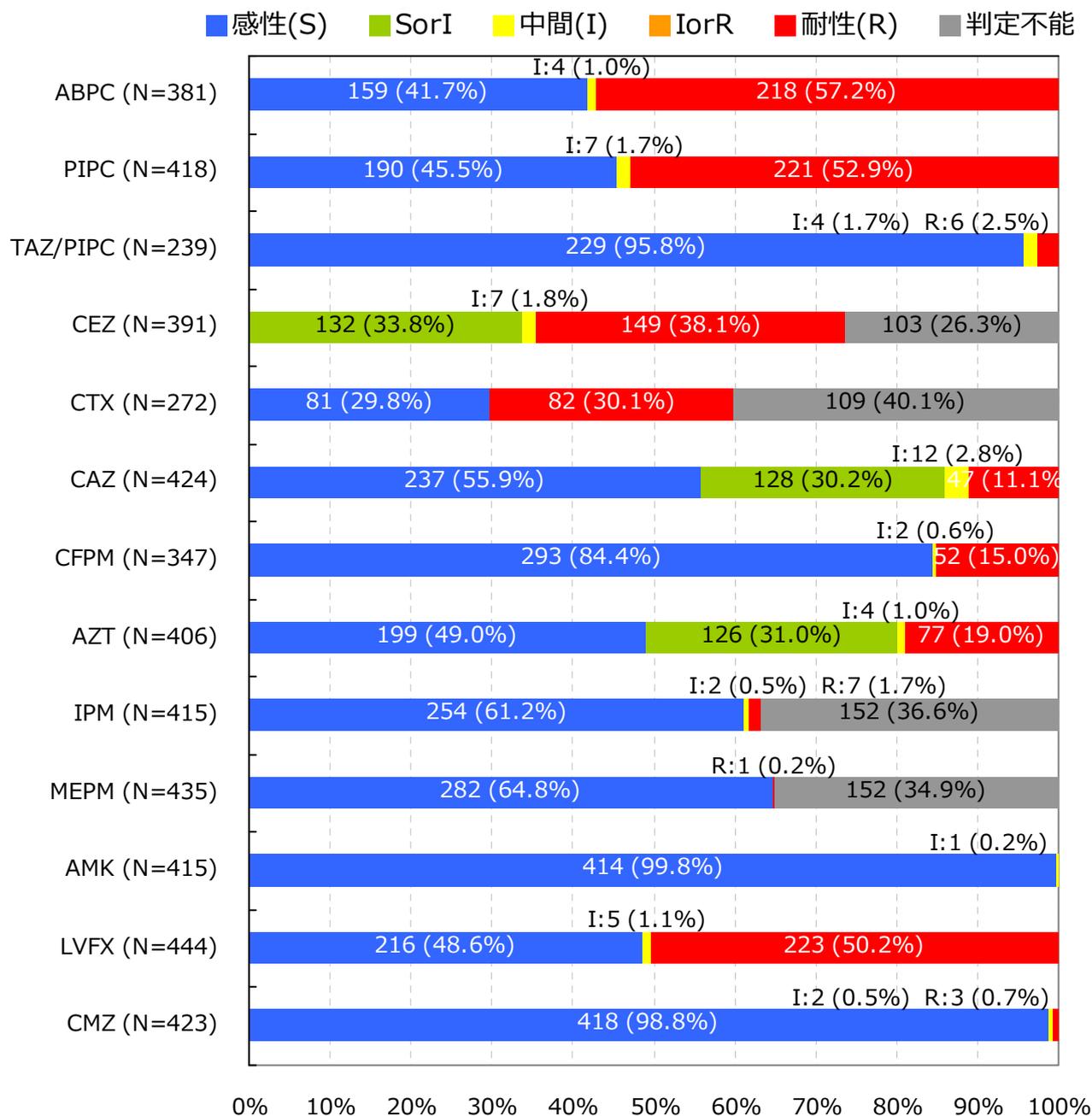
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

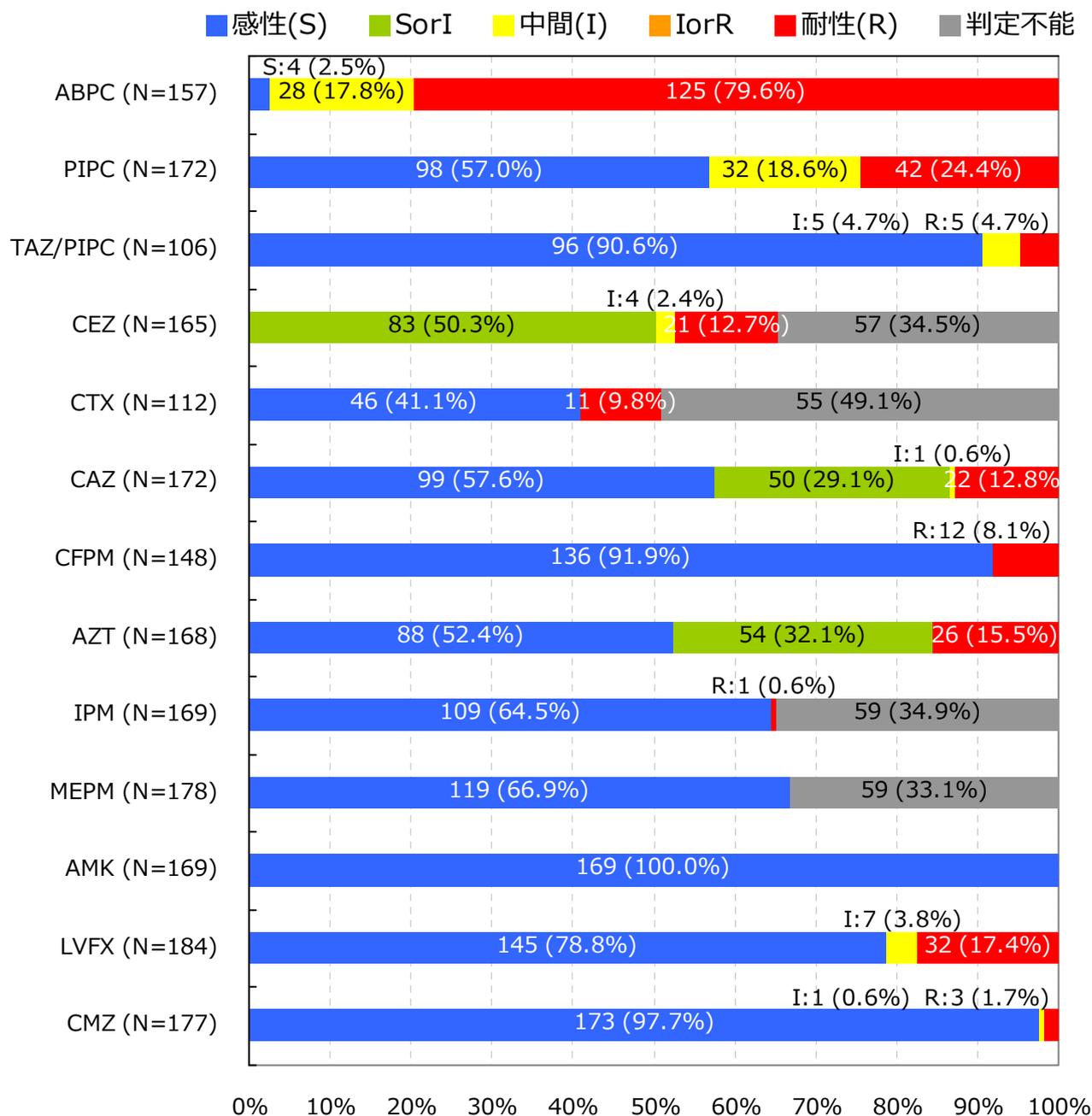
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

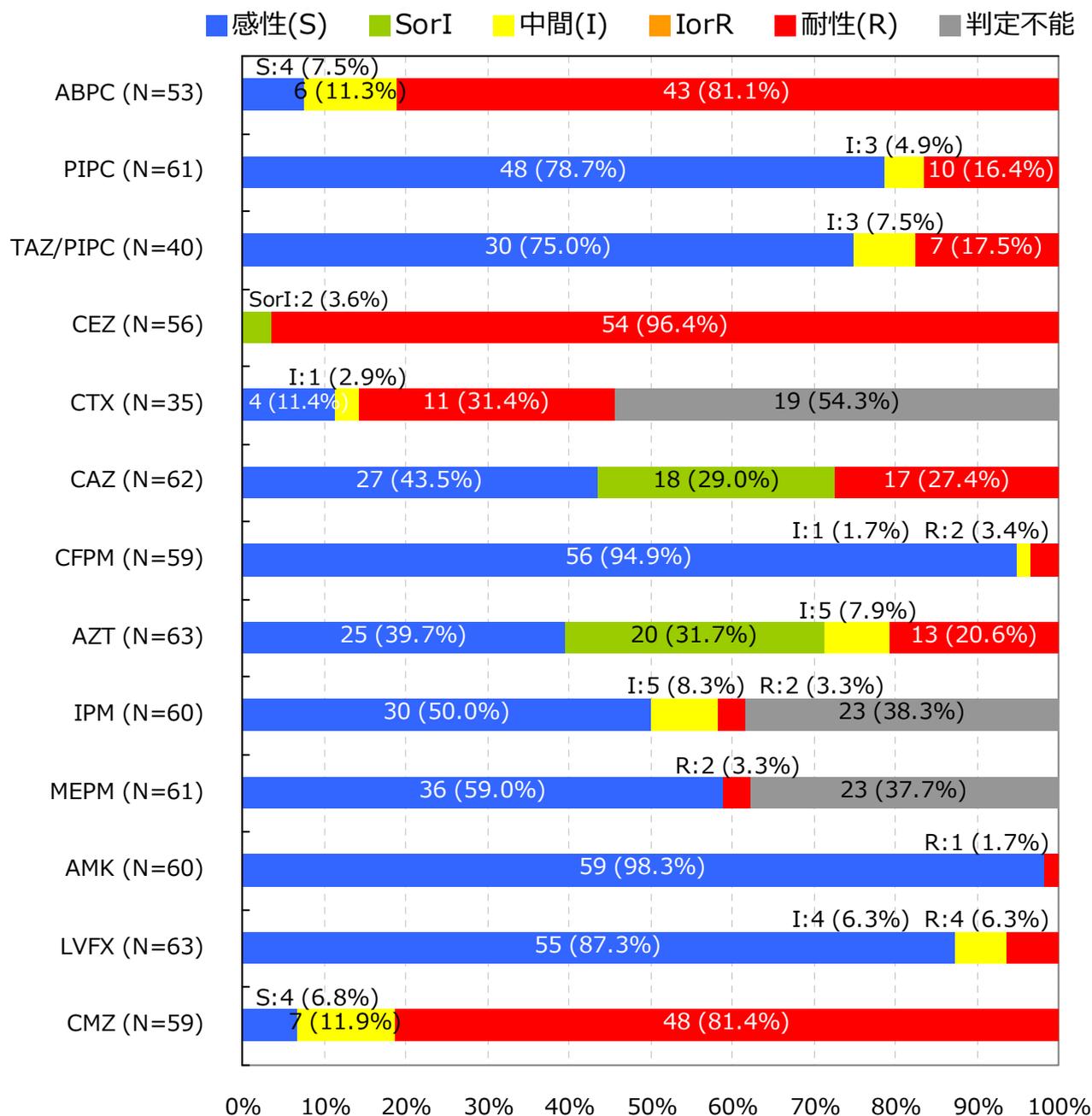
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

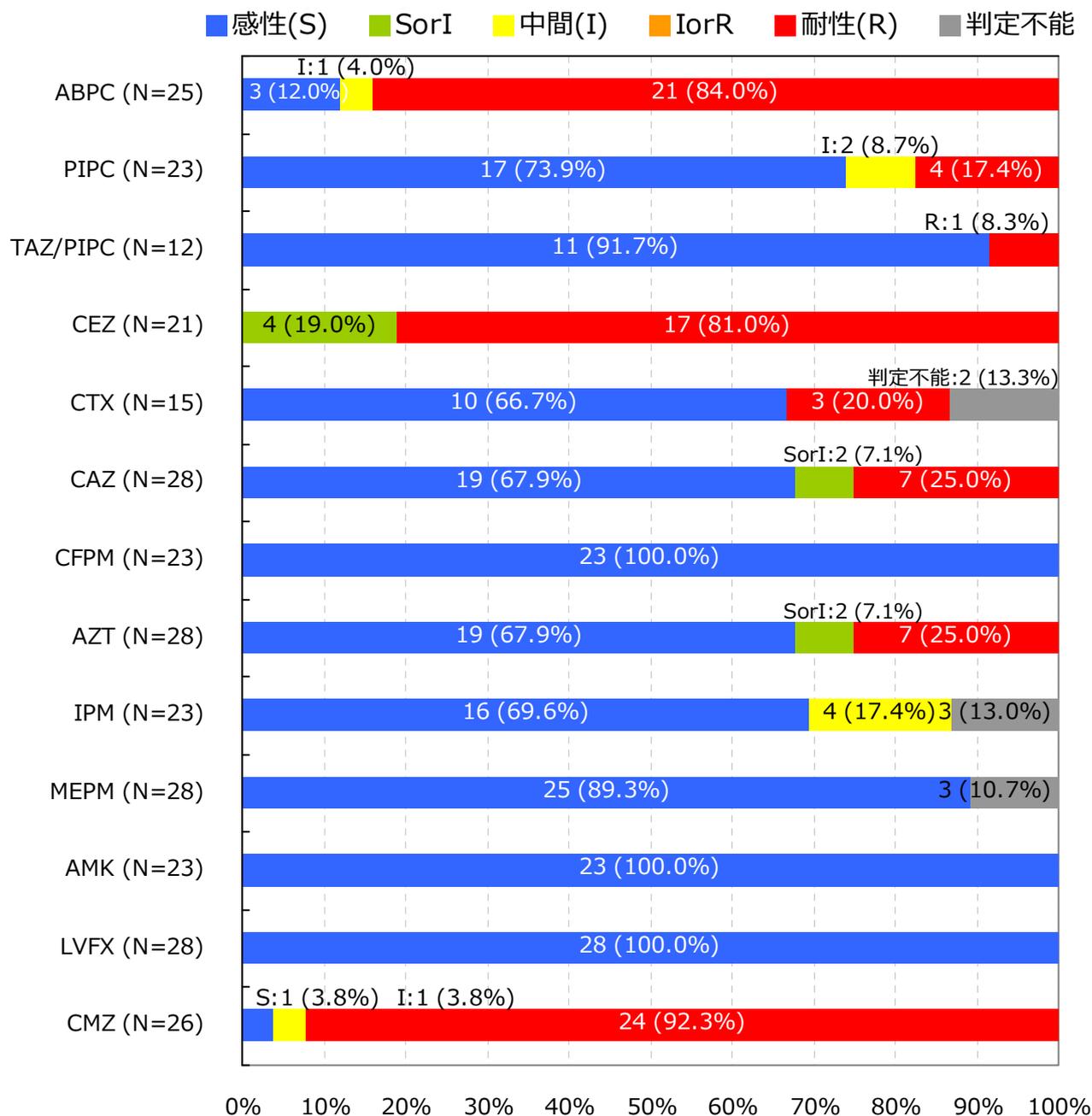
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

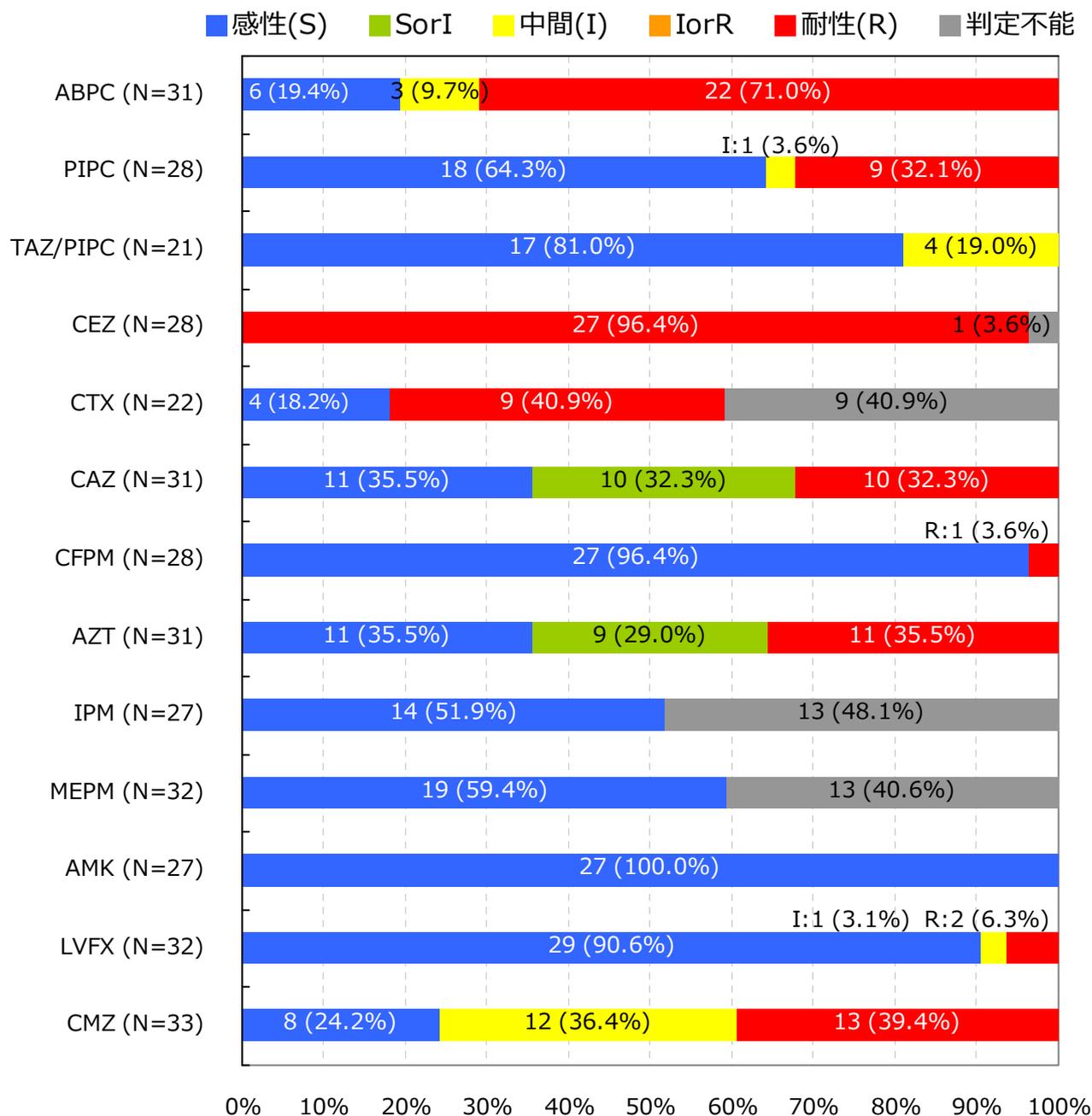
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

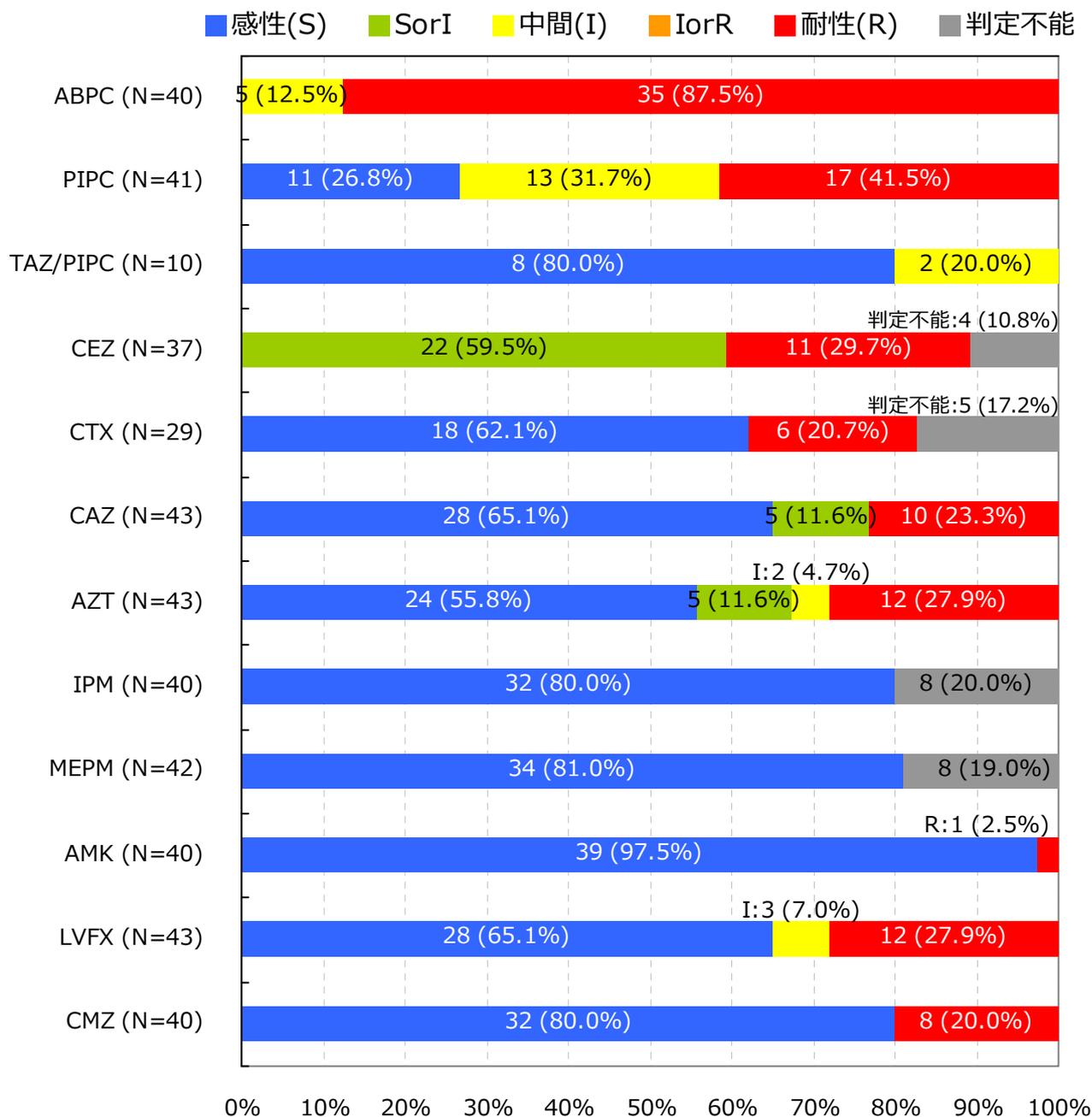
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

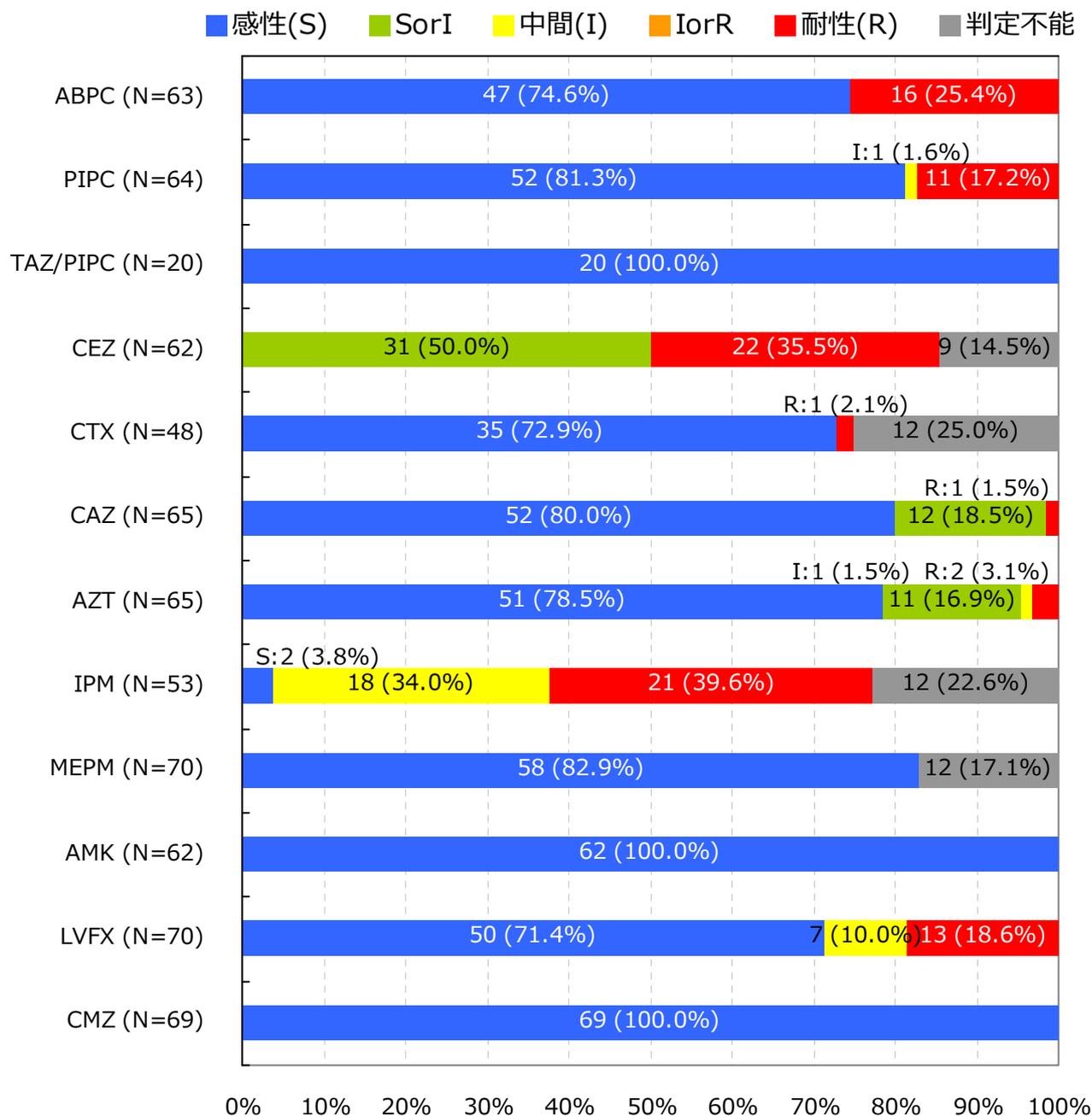
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

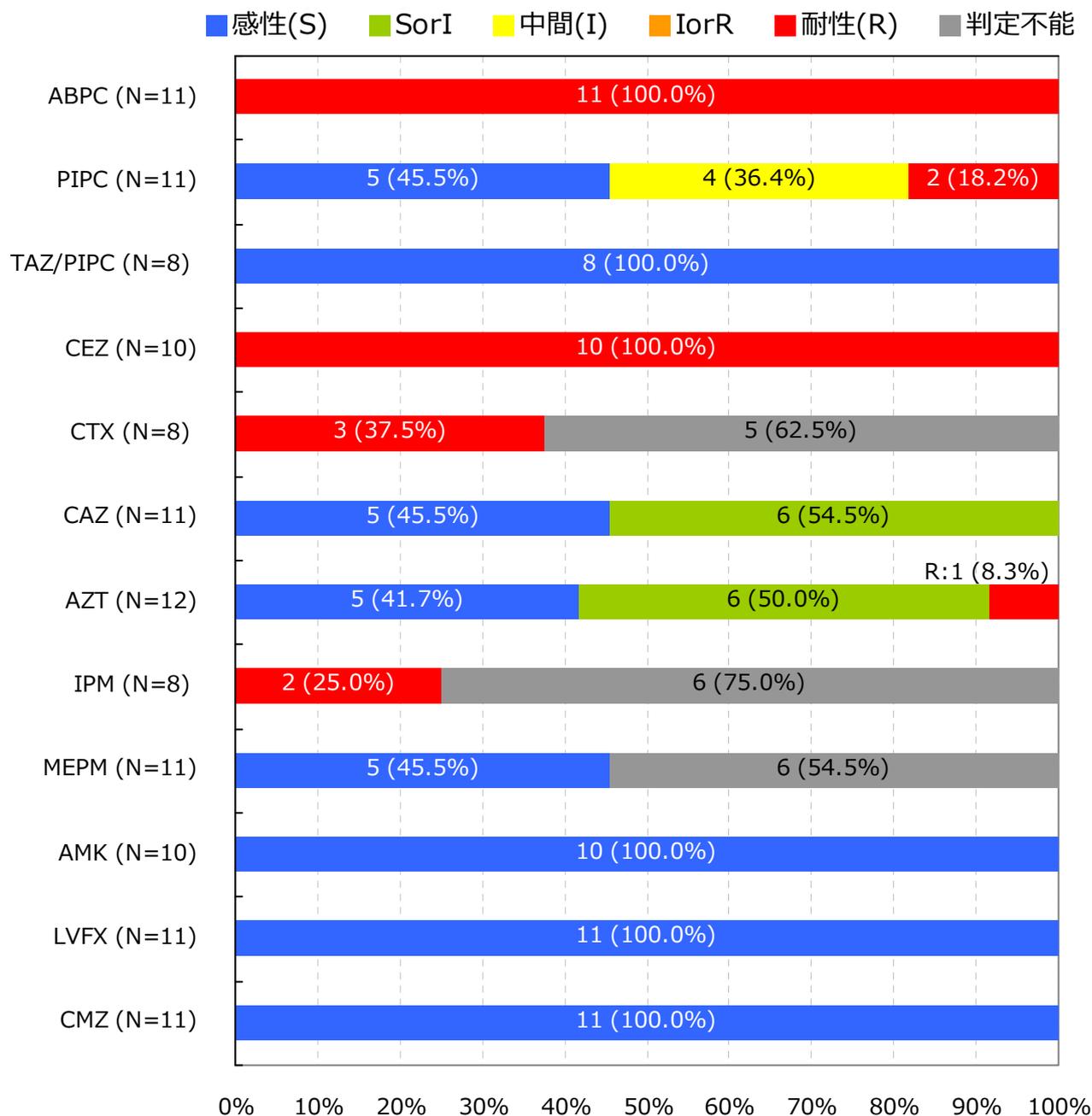
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

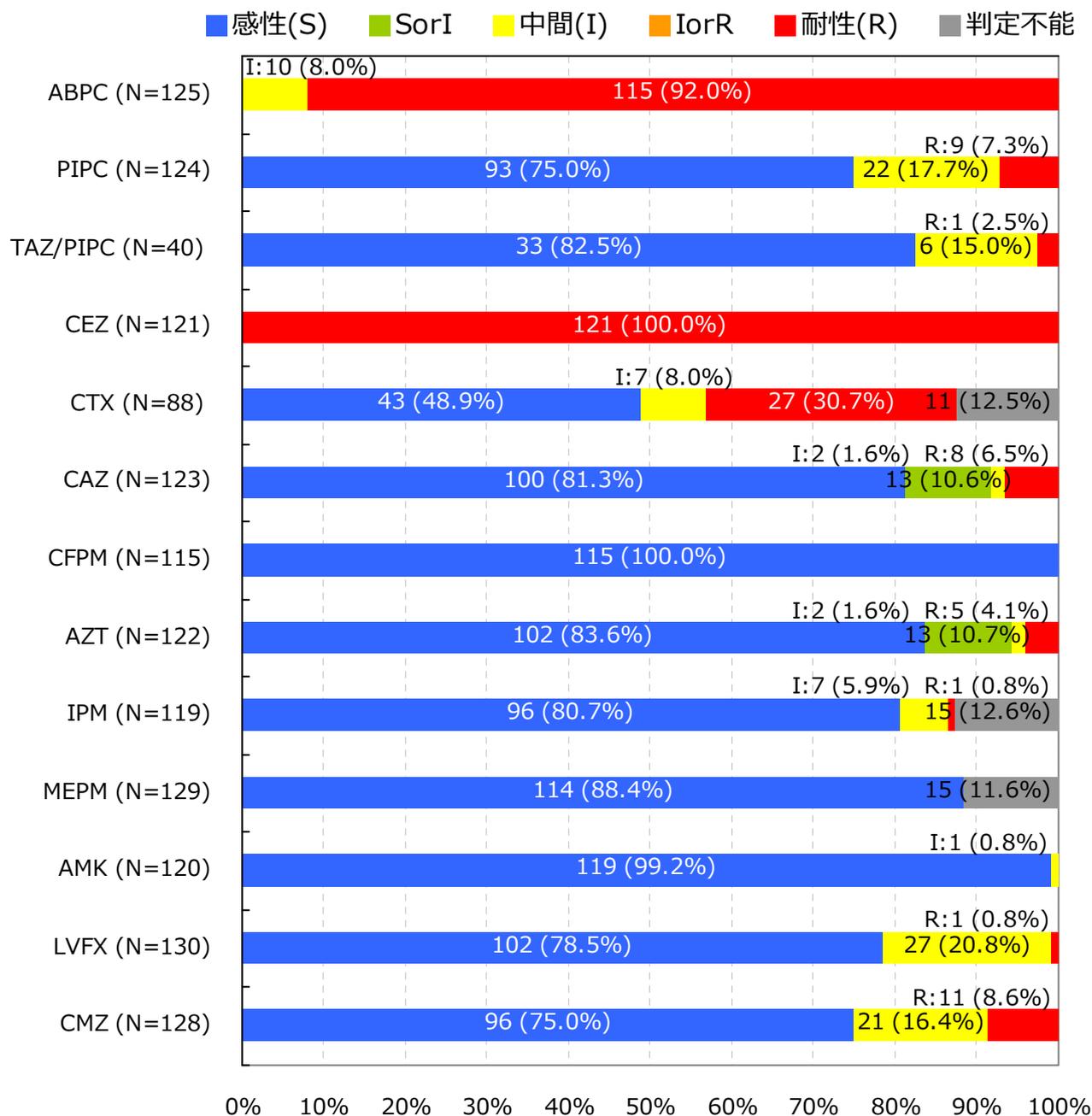
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

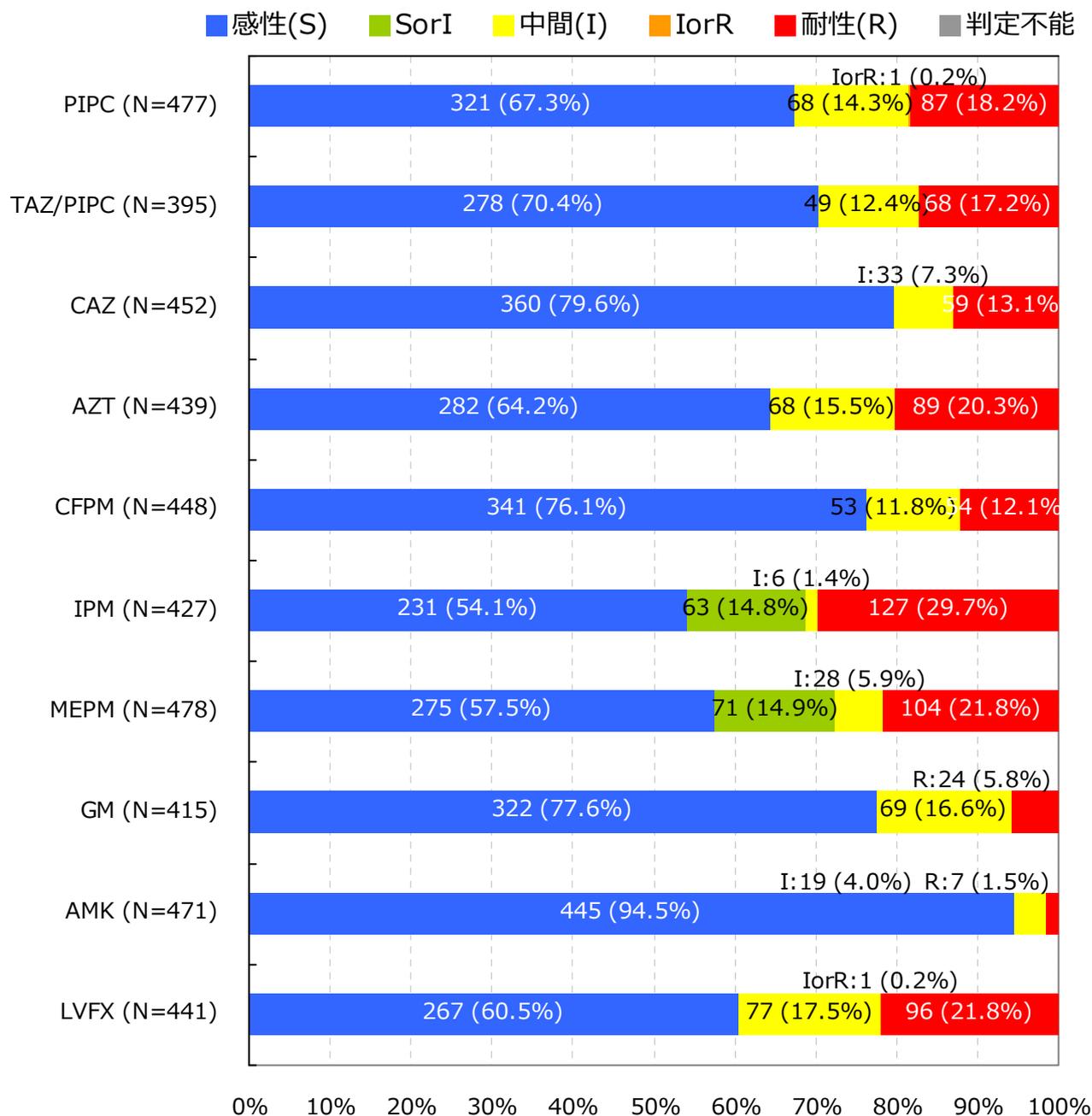
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

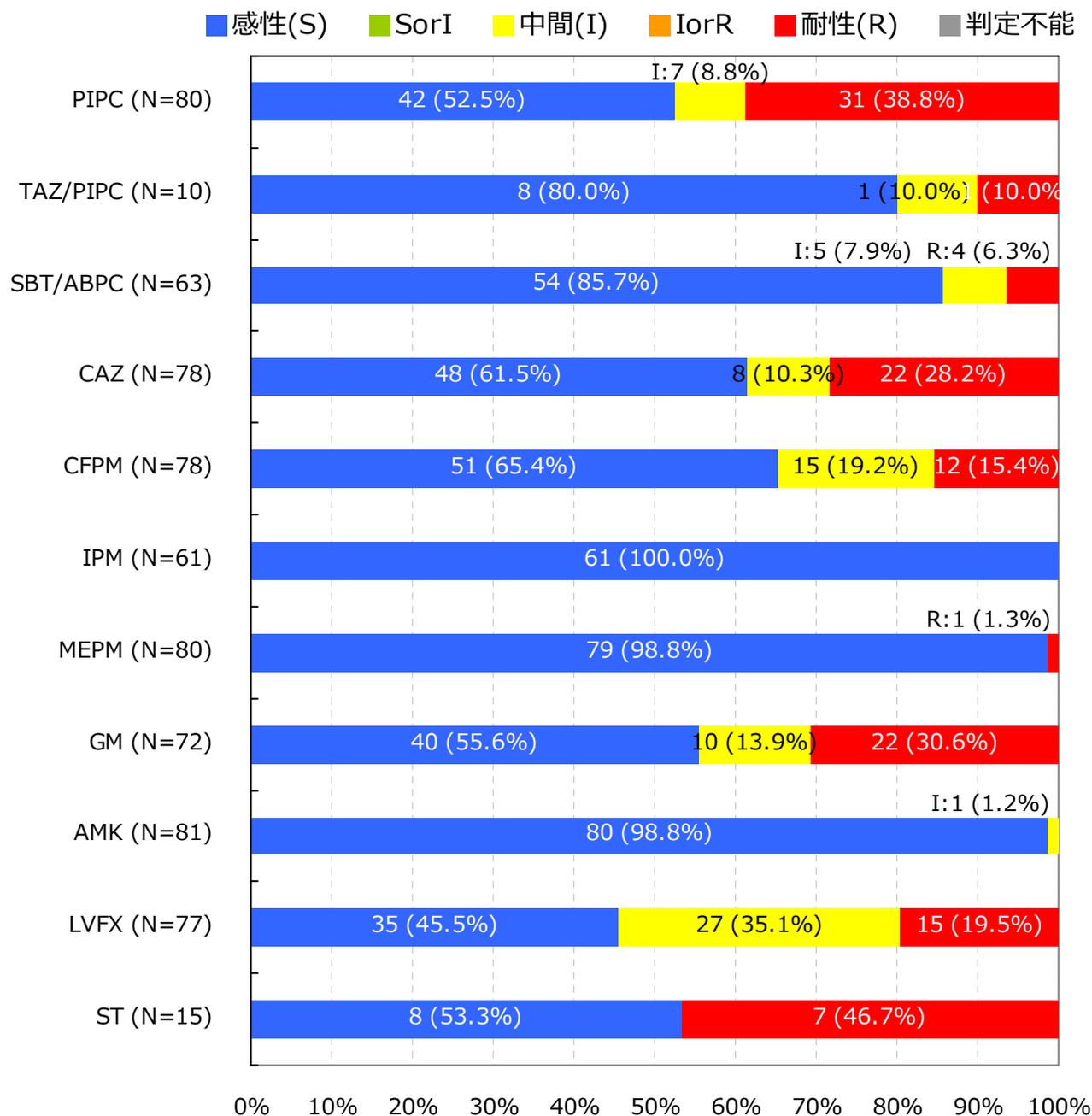
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

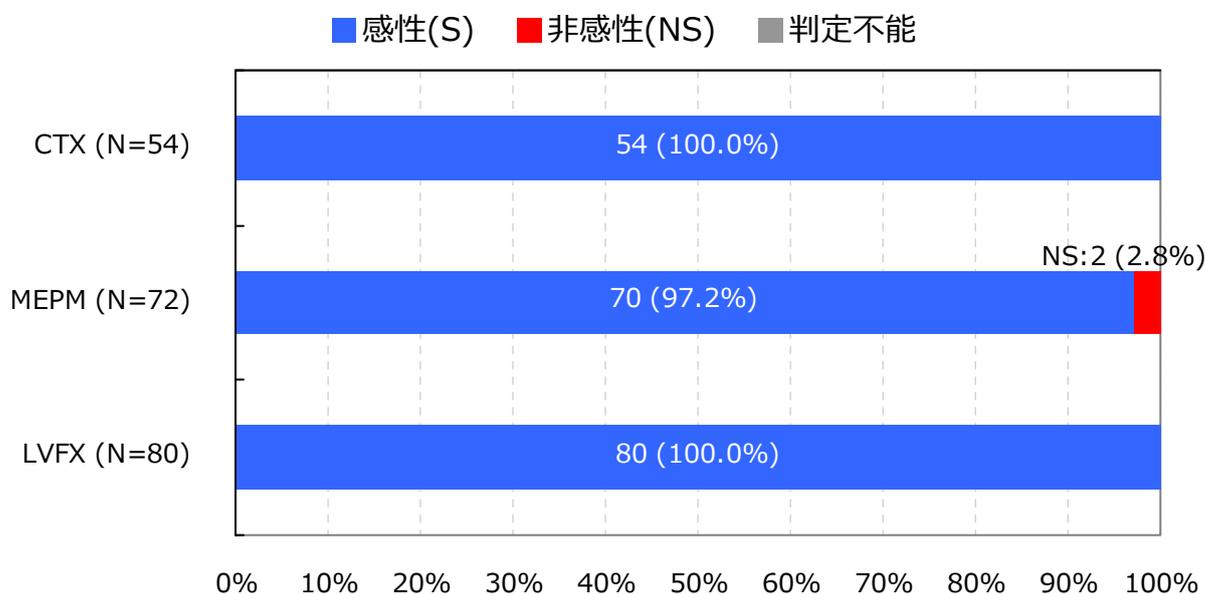
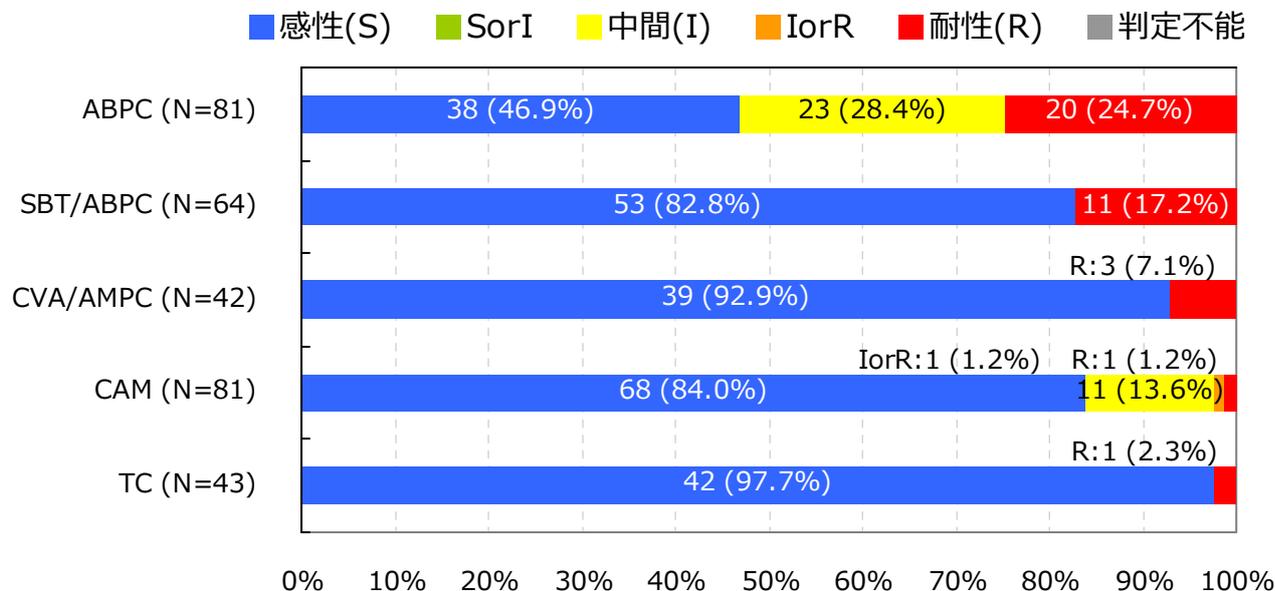
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

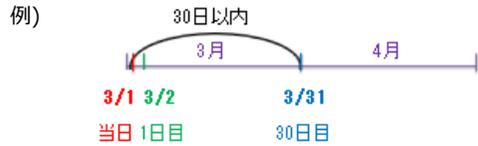
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

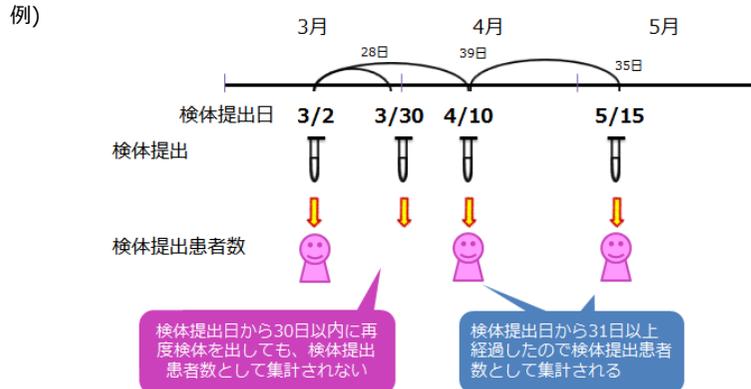
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



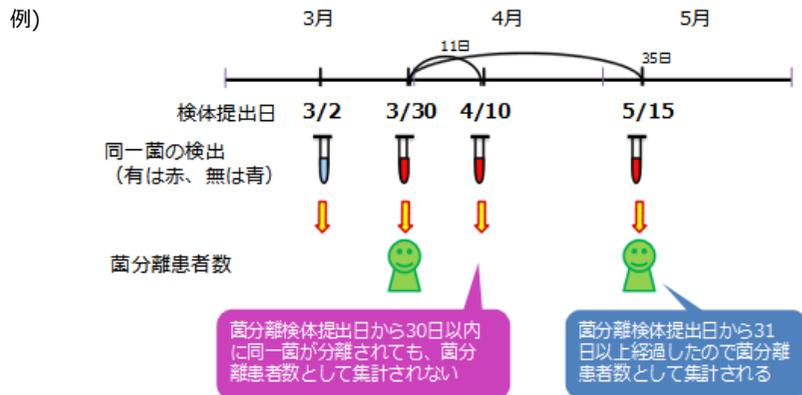
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



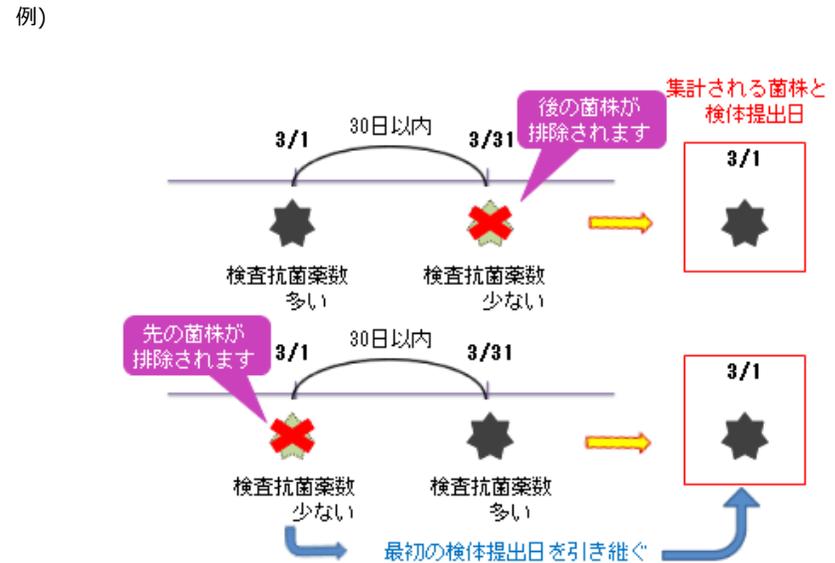
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

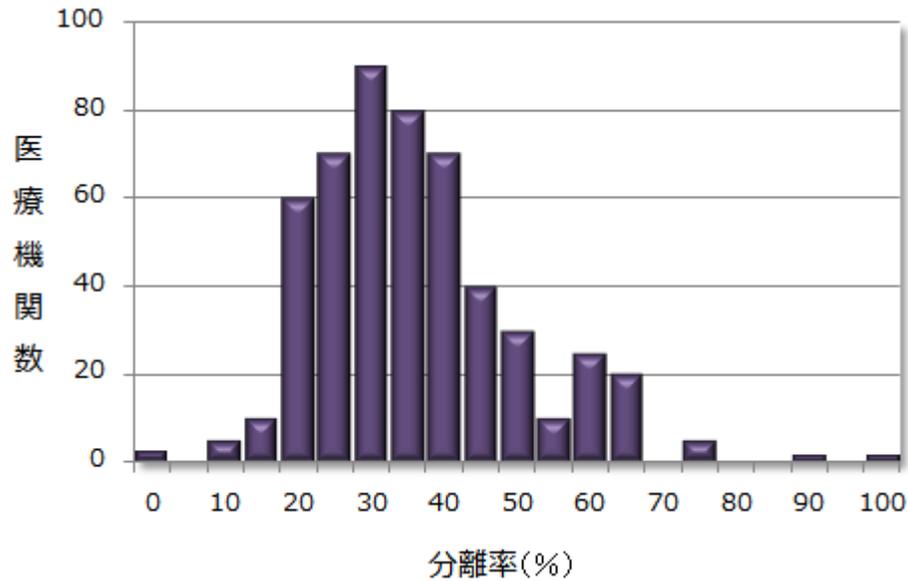
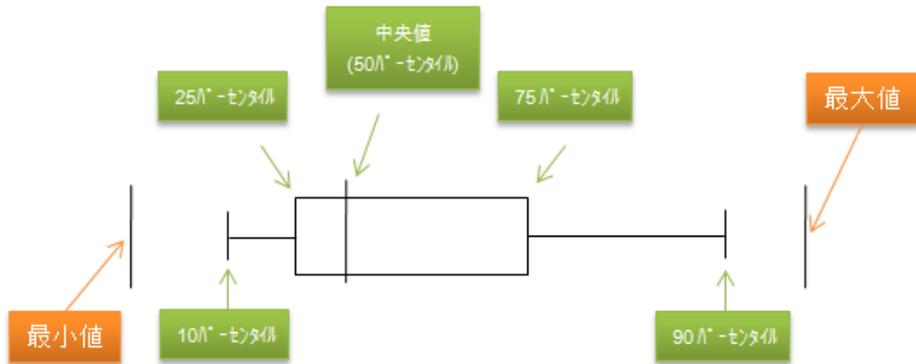
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

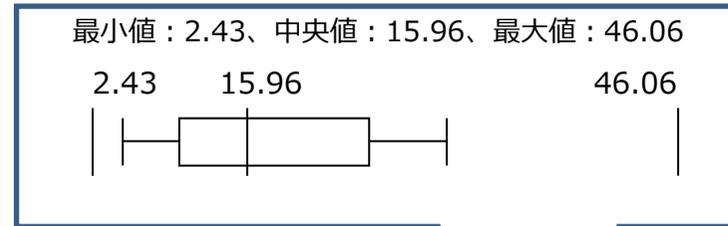
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

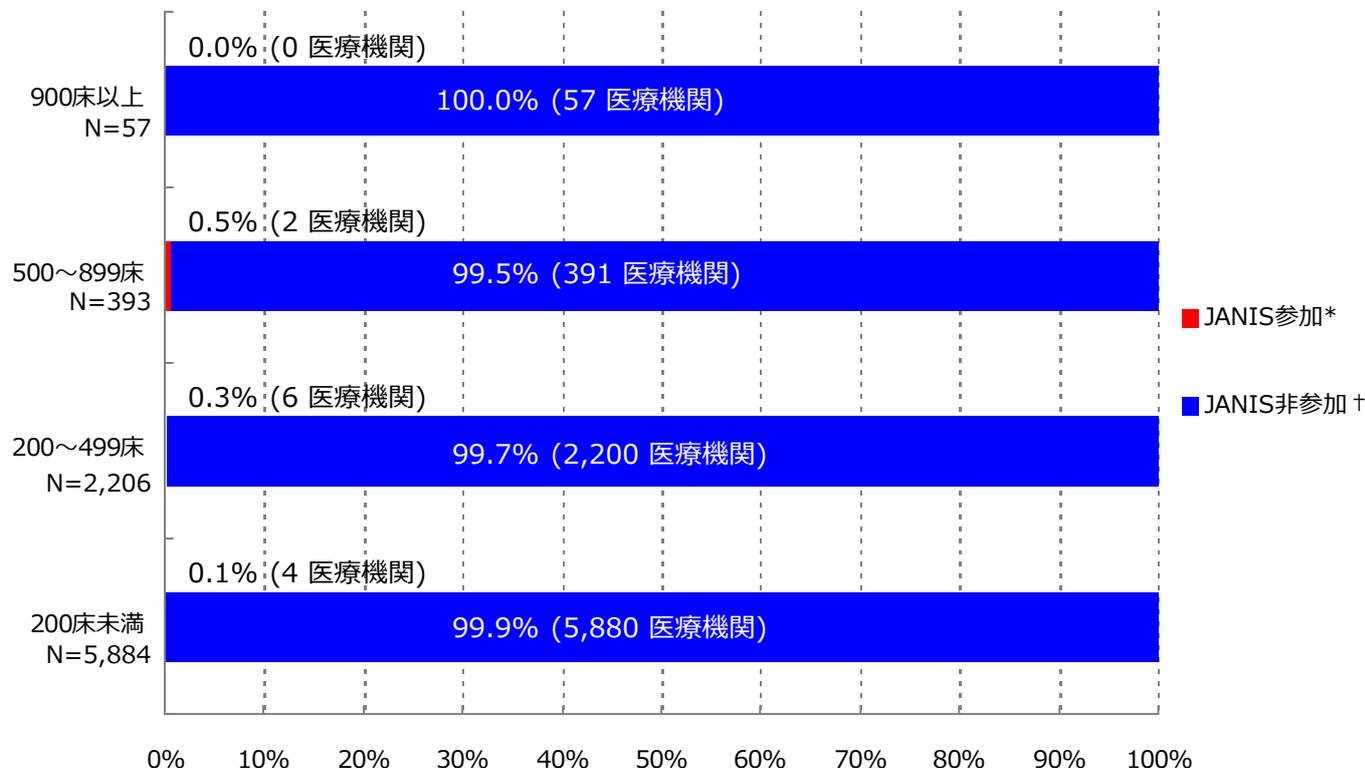
2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |



### 1. 集計対象医療機関数(12医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |
|----------|-----------------|---|
| 900床以上   | 57              | 0 ( 0.0% )                              |
| 500～899床 | 393             | 2 ( 0.5% )                              |
| 200～499床 | 2,206           | 6 ( 0.3% )                              |
| 200床未満   | 5,884           | 4 ( 0.1% )                              |
| 病床数不明    | -               | 0 ( - )                                 |
| 合計       | 8,540           | 12 ( 0.1% )                             |

† 平成25年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)  |
|--------|-----------|--------|------------------|
| 呼吸器系検体 | 12        | 2,230  | 1,614<br>(3,436) |
| 尿検体    | 12        | 1,302  | 636<br>(928)     |
| 便検体    | 11        | 565    | 304<br>(649)     |
| 血液検体   | 12        | 3,561  | 400<br>(434)     |
| 髄液検体   | 7         | 117    | 10<br>(10)       |
| その他    | 12        | 2,417  | 1,394<br>(2,641) |
| 合計     | 12        | 10,192 | 4,358<br>(8,098) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

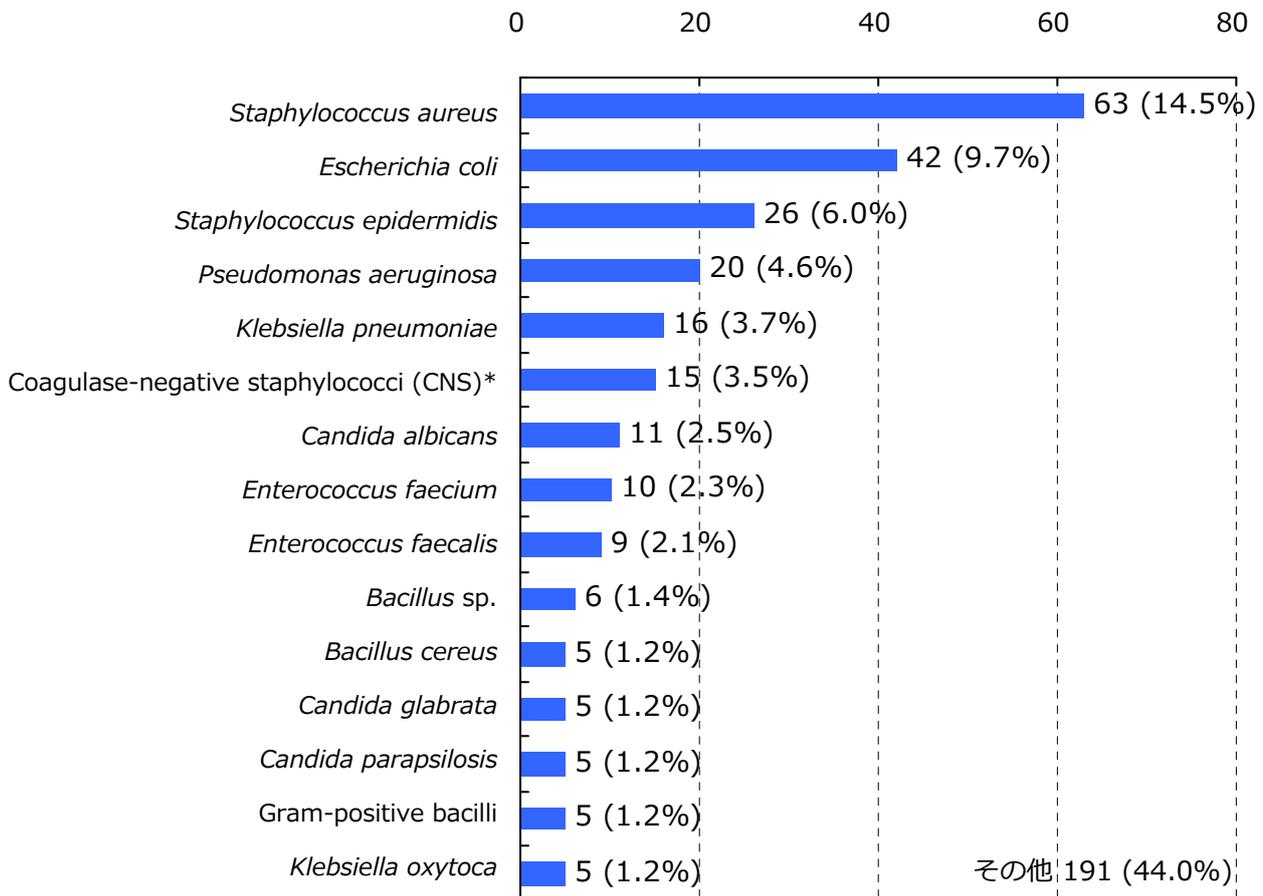
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=434)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

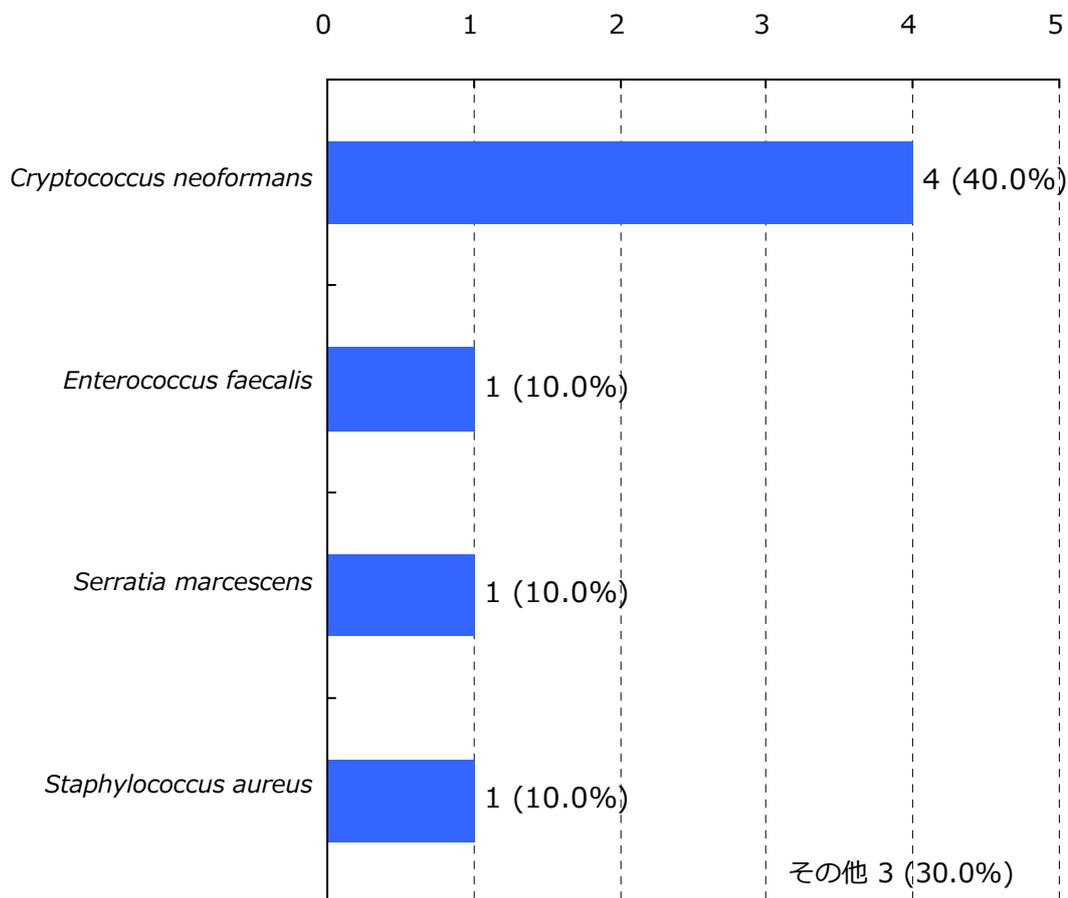
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=10)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 検体提出患者数                | 3,704人                 |                         |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 254人<br>(6.86%)        | 3.79 7.16 18.55         |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 21人<br>(0.57%)         | 0.00 0.17 2.05          |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 2人<br>(0.05%)          | 0.00 0.00 1.32          |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00                    |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 7人<br>(0.19%)          | 0.00 0.00 1.38          |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 30人<br>(0.81%)         | 0.00 0.51 7.89          |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 6人<br>(0.16%)          | 0.00 0.00 0.78          |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 57人<br>(1.54%)         | 0.00 1.71 8.88          |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 119人<br>(3.21%)        | 0.00 4.37 16.13         |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

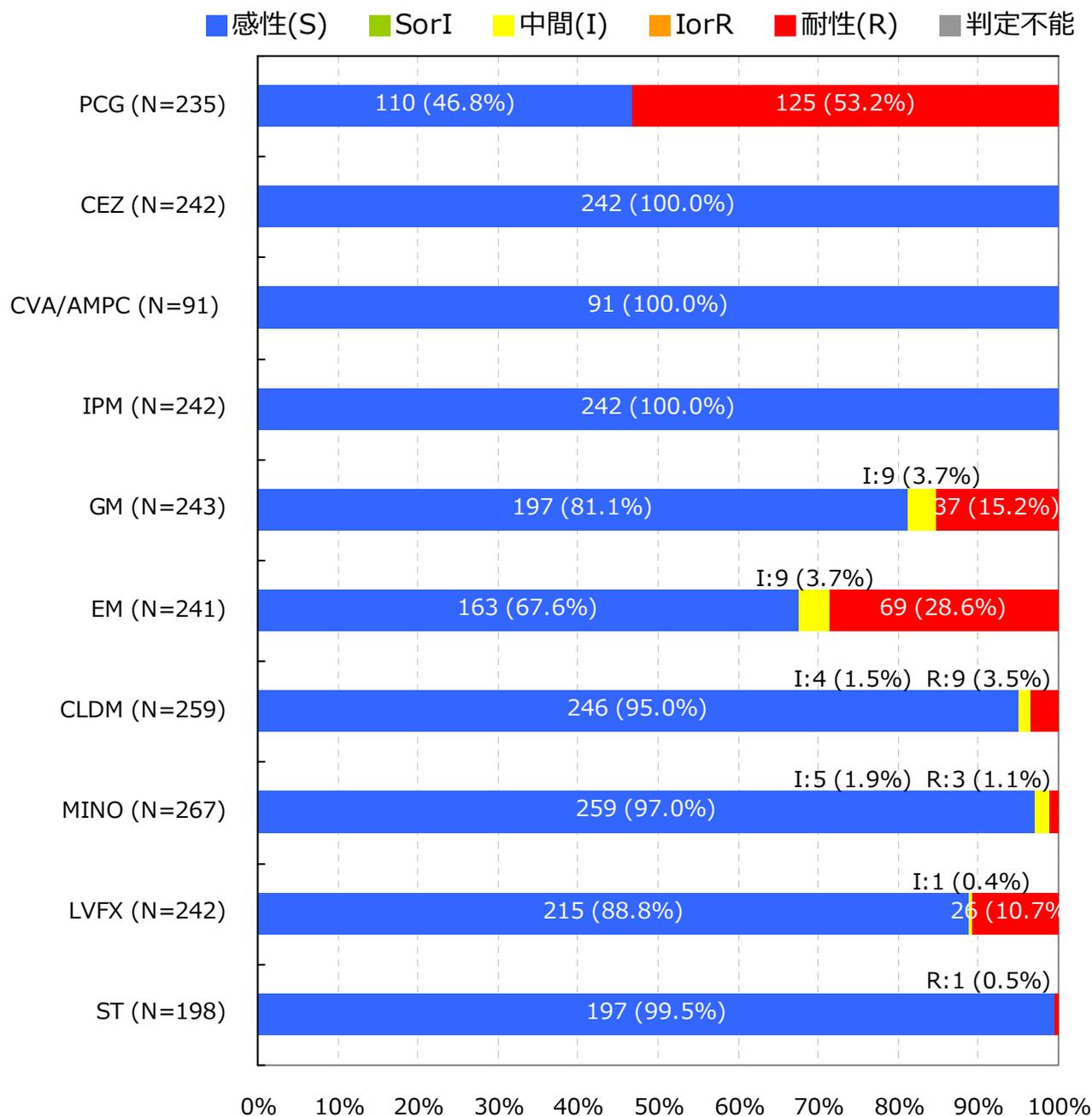
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

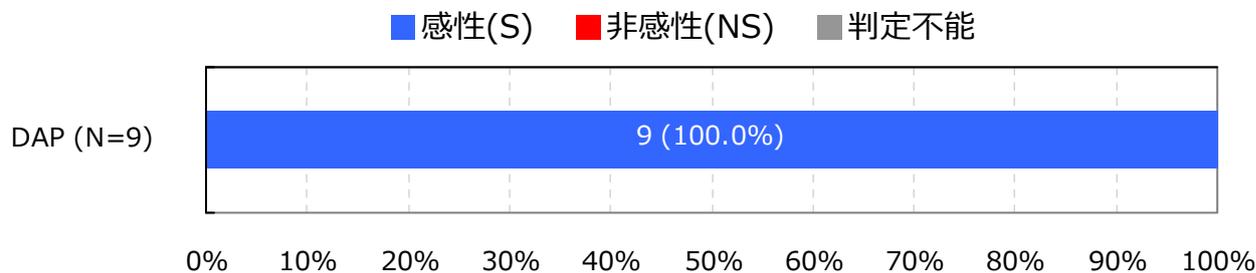
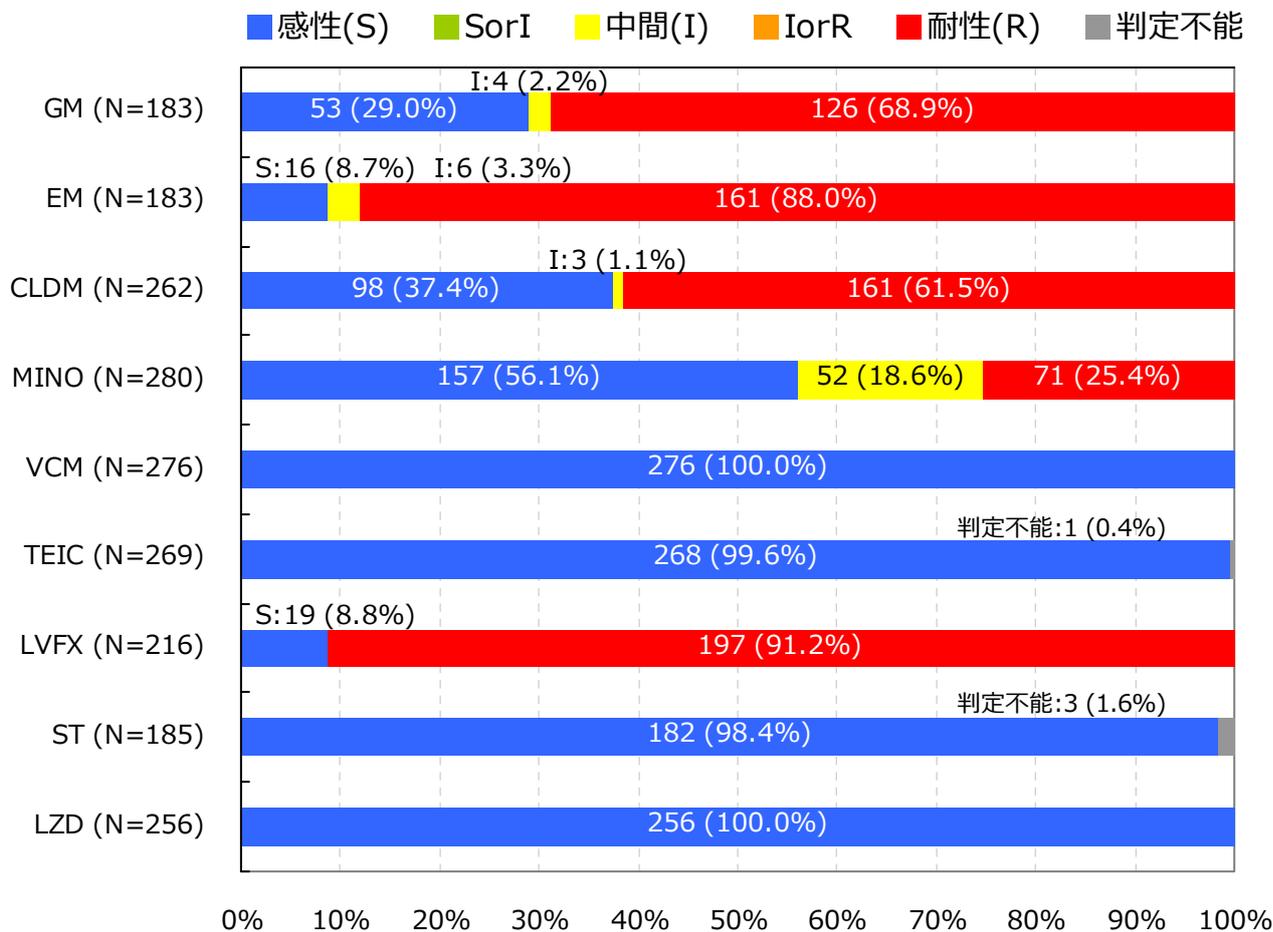
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

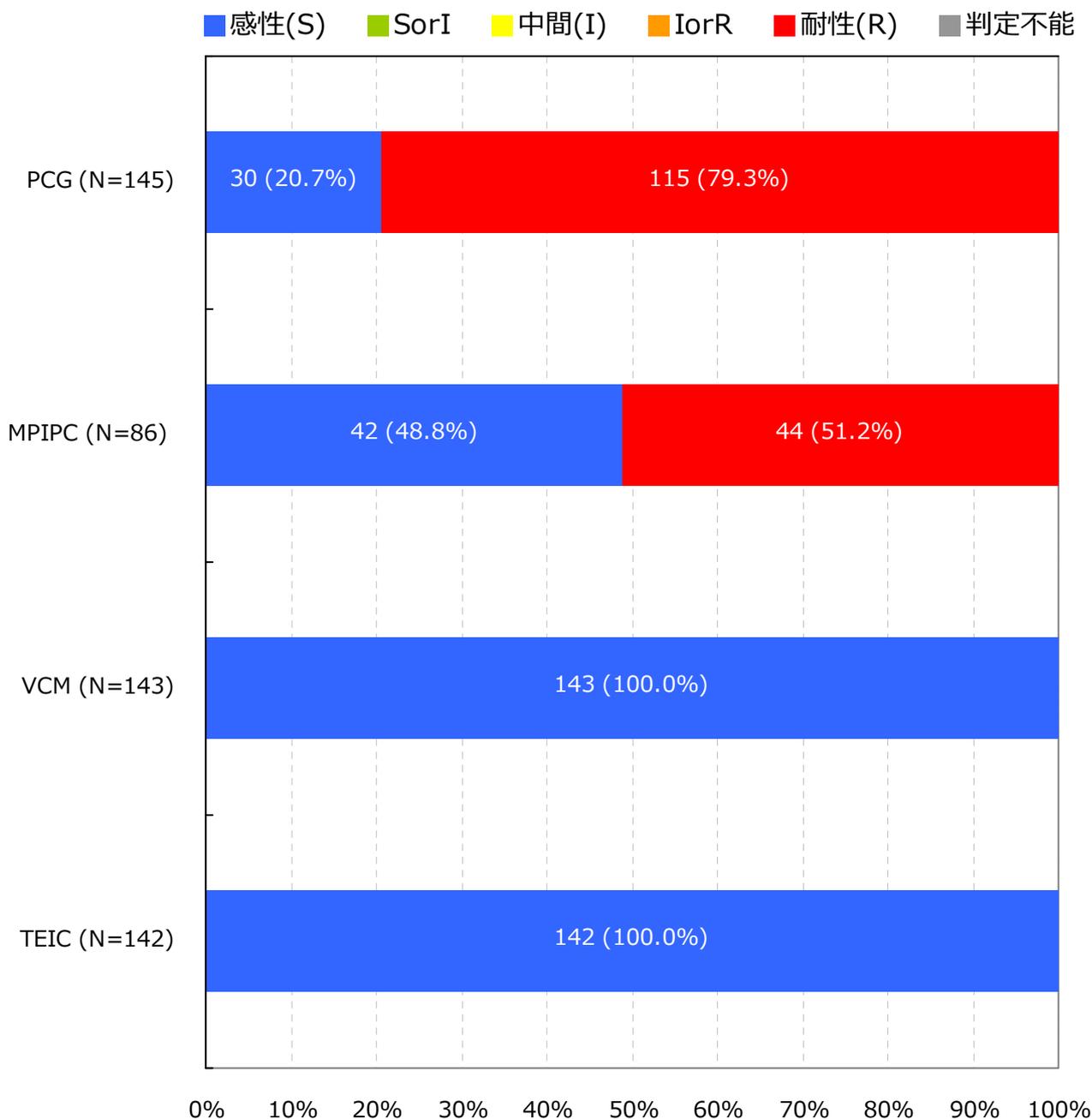
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

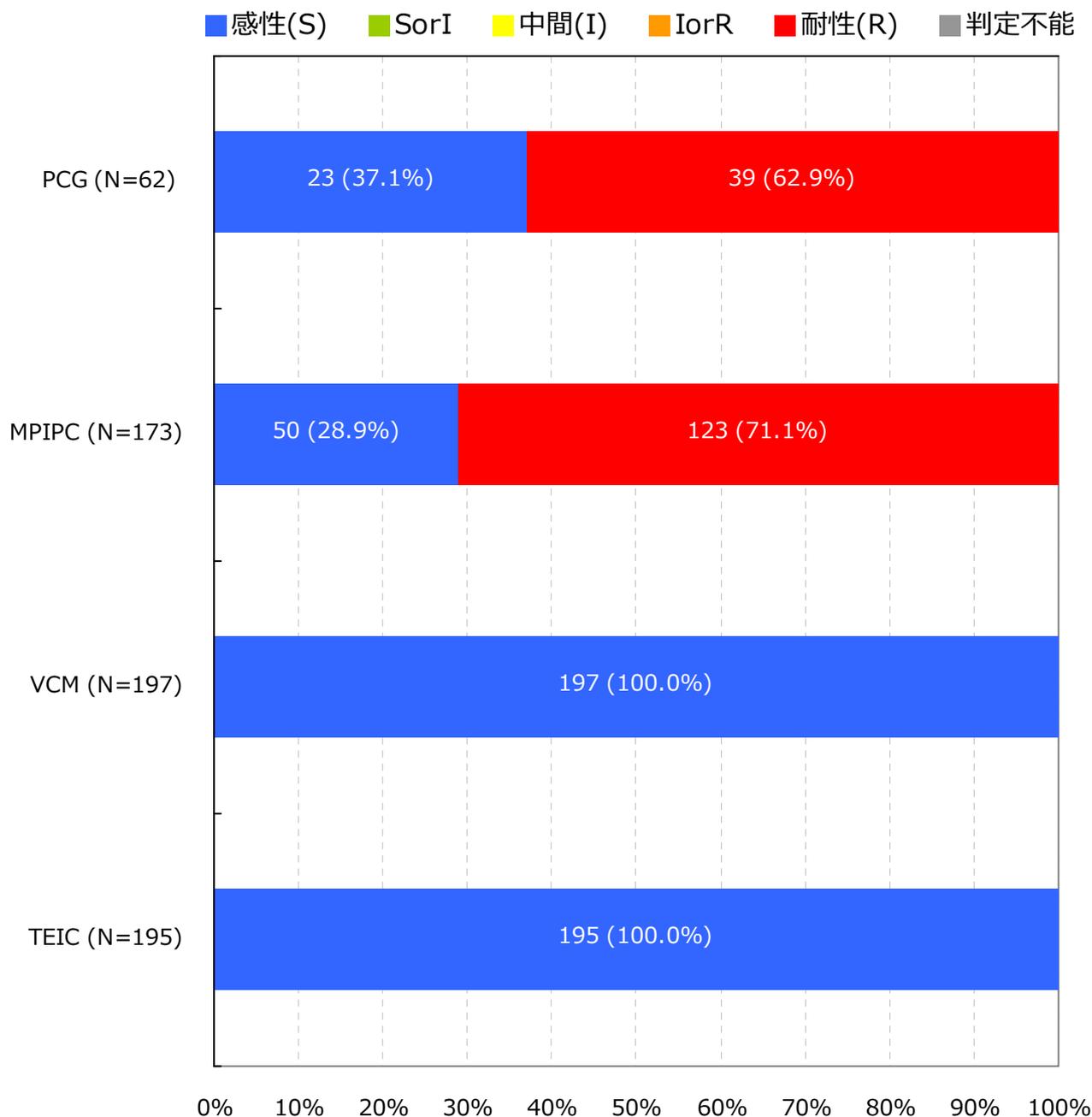
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



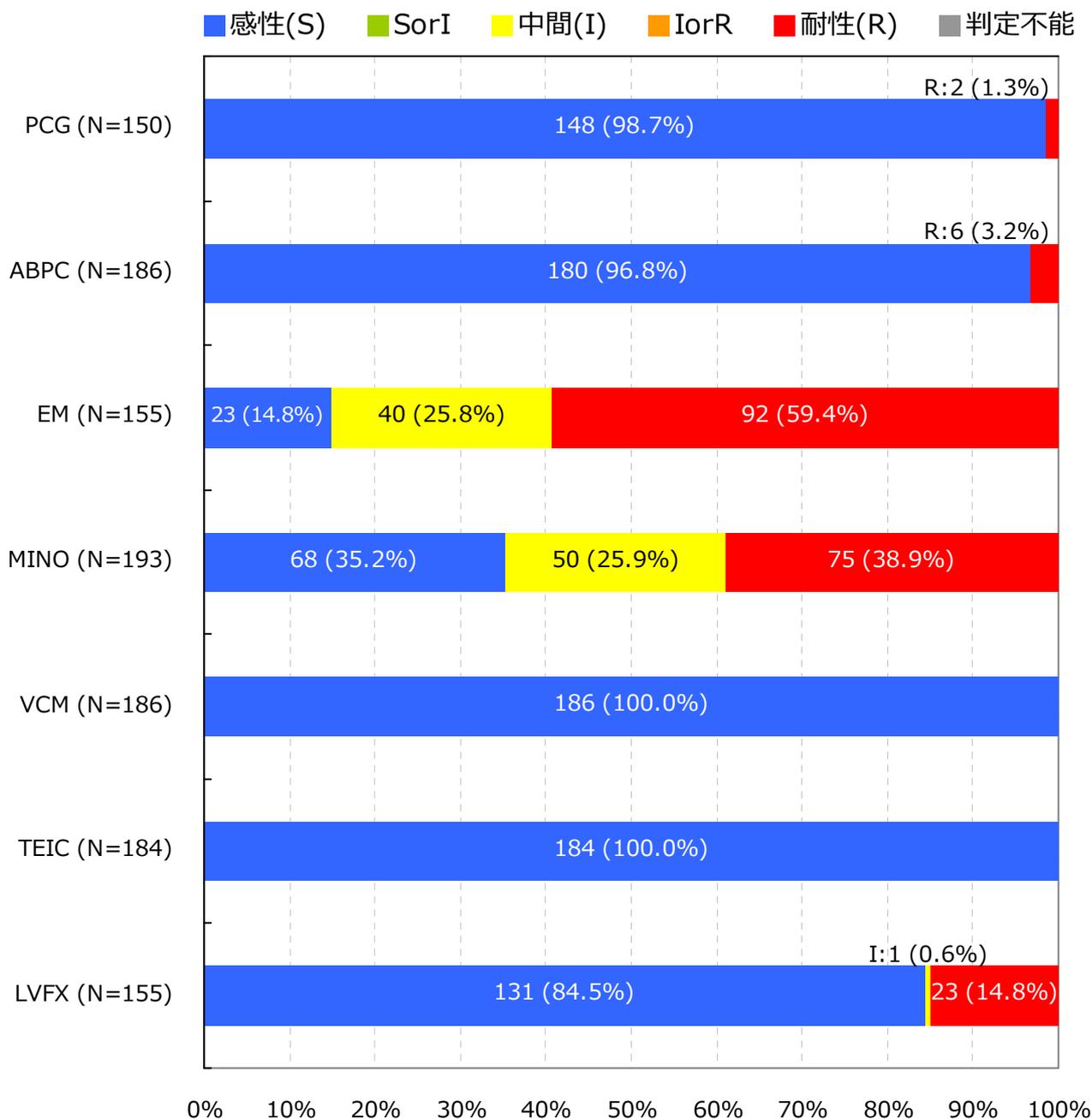
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

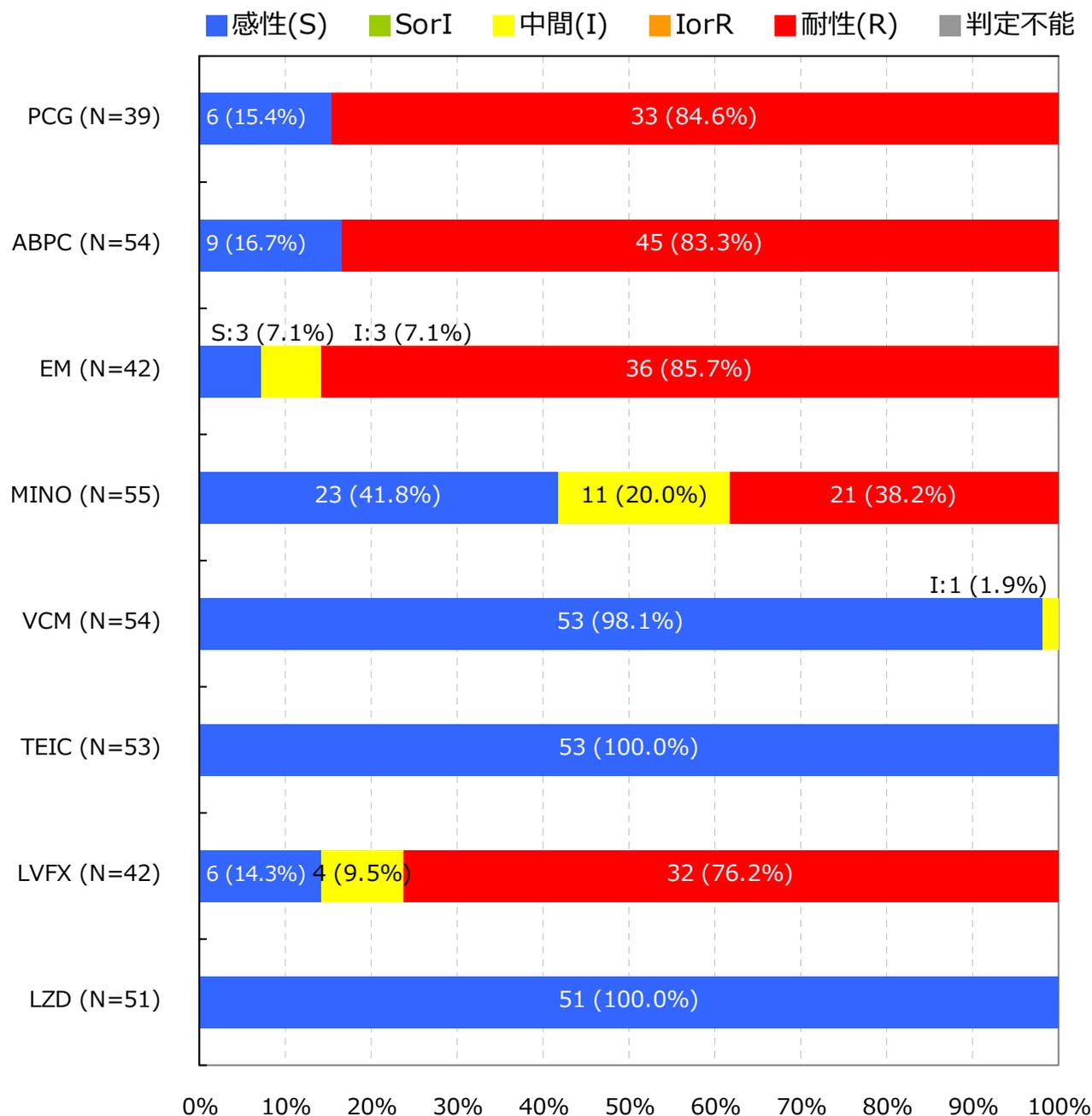
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(宮崎県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

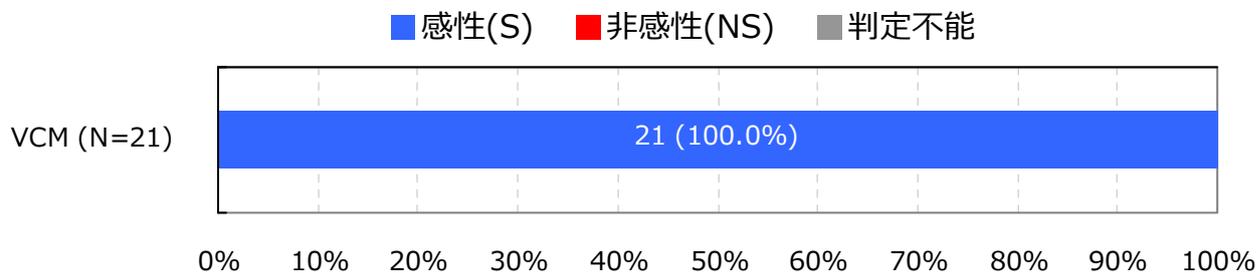
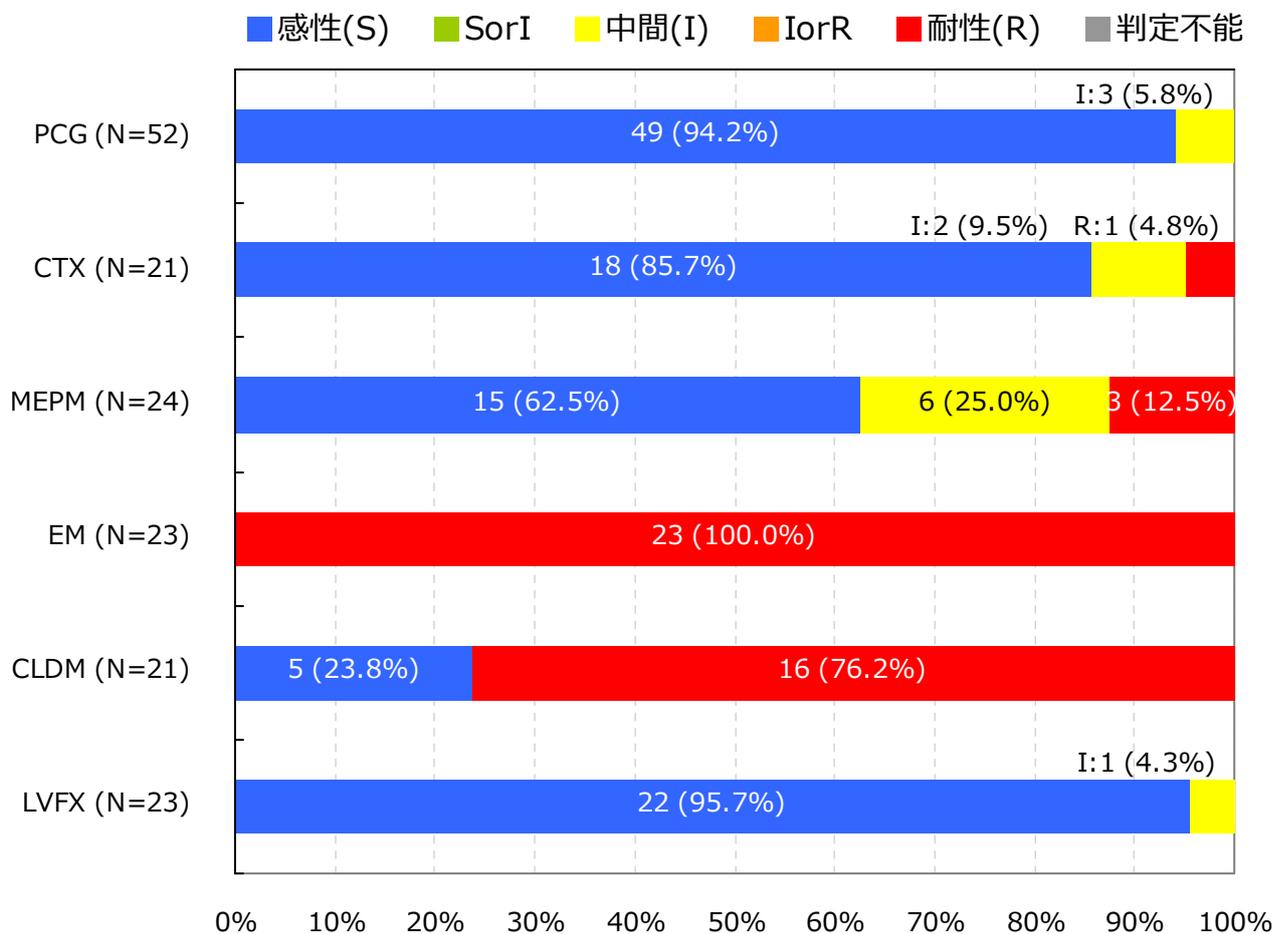
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

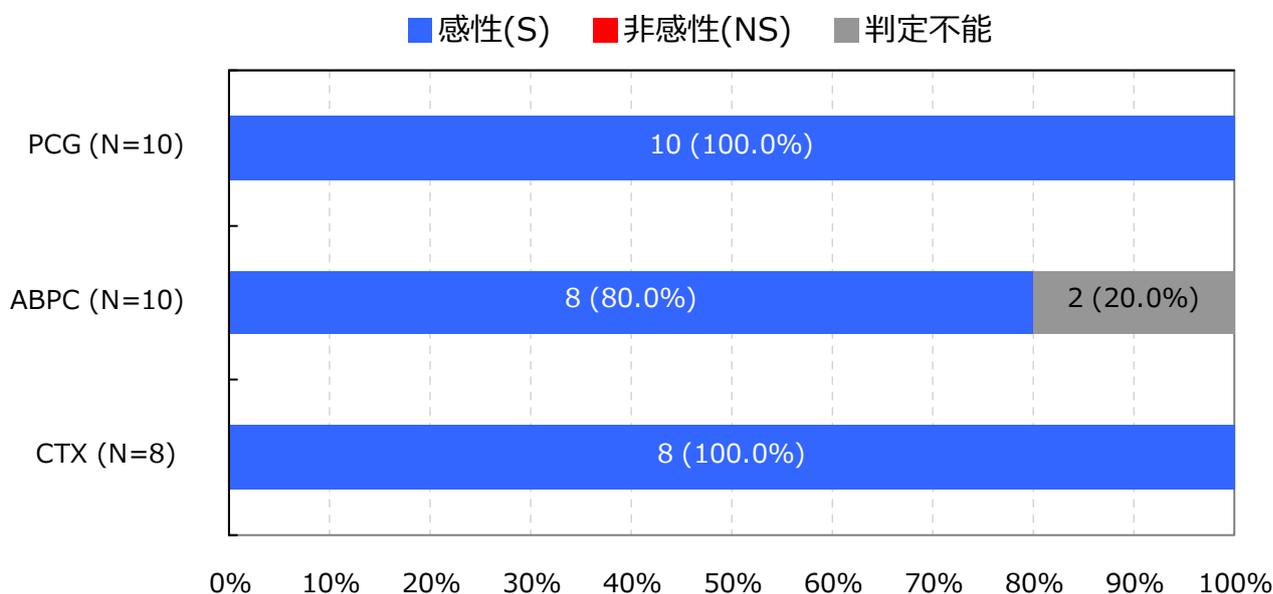
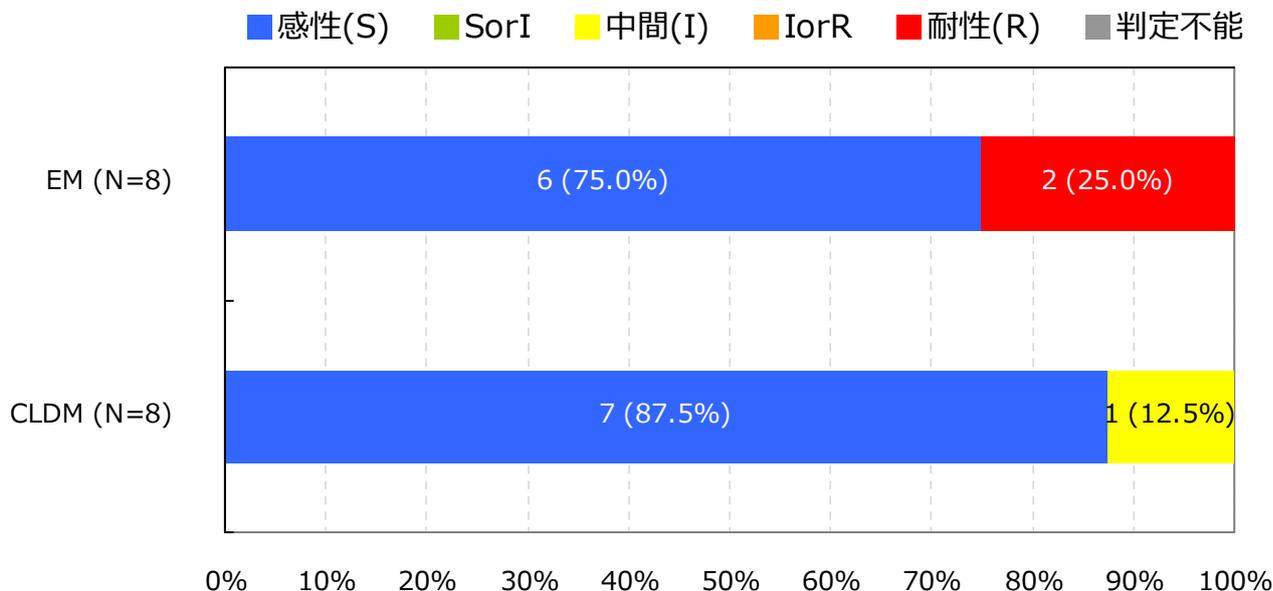
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

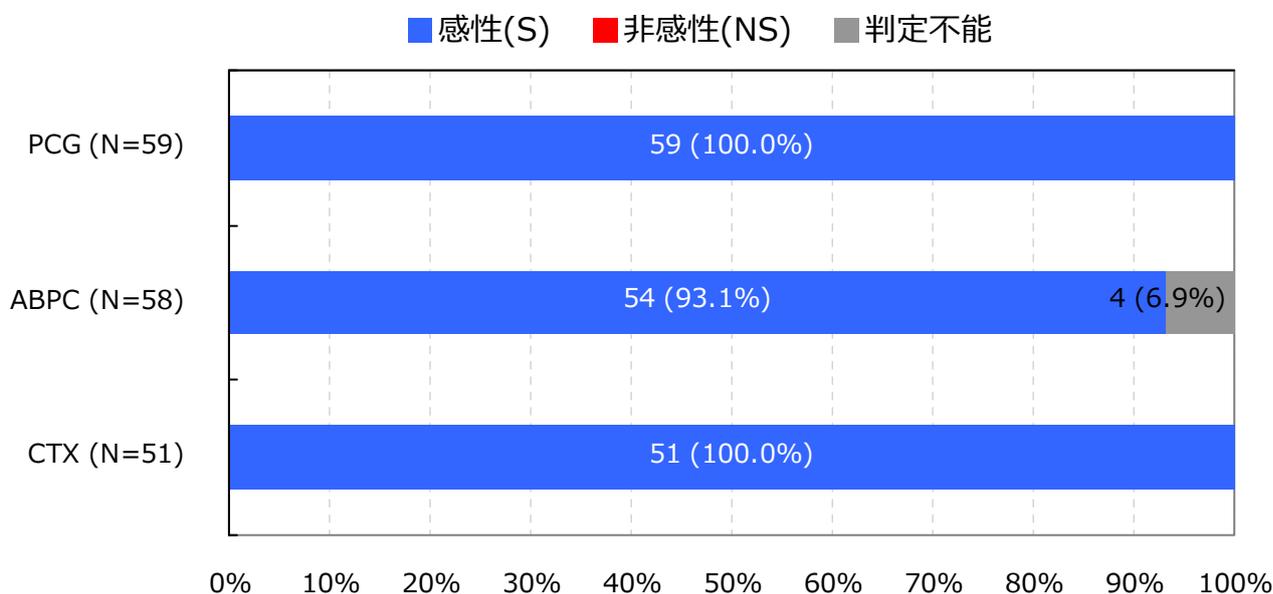
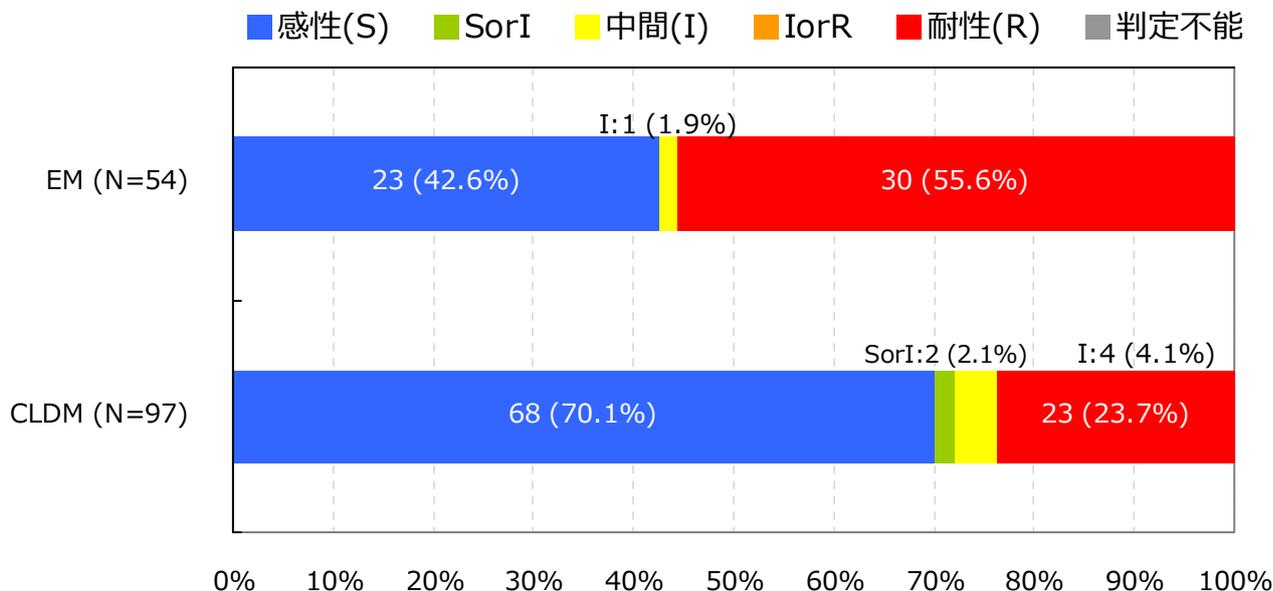
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

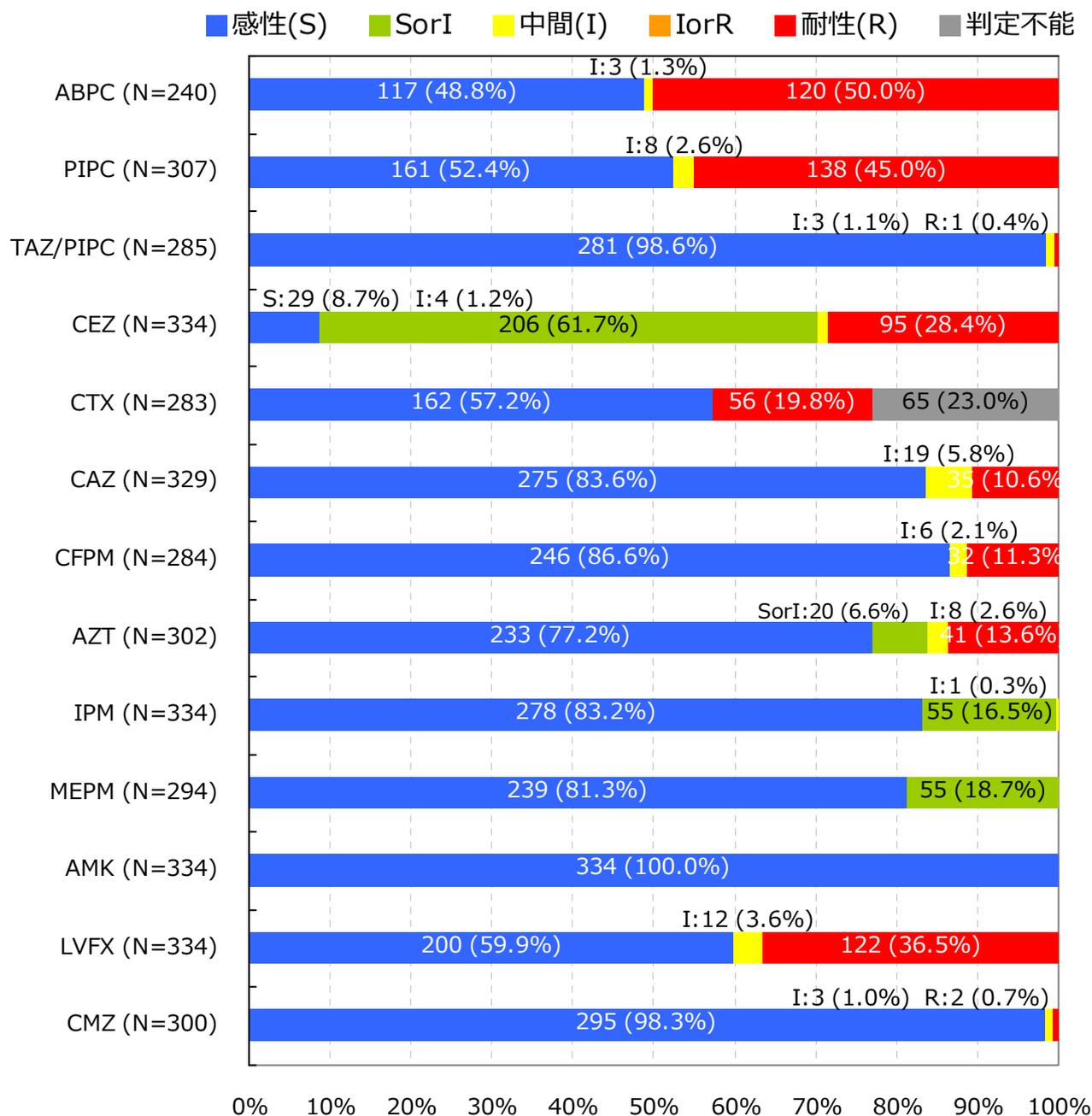
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

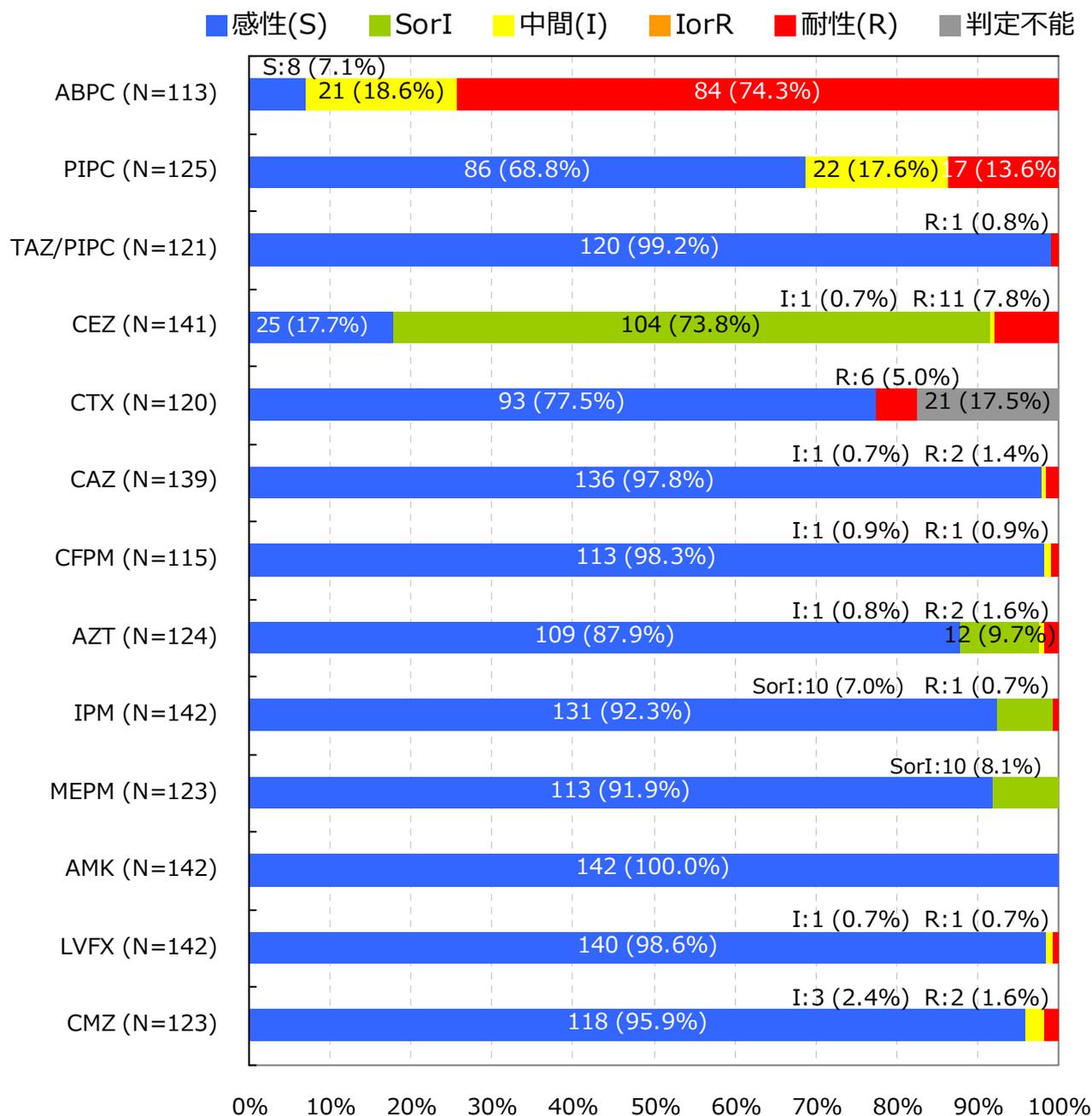
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

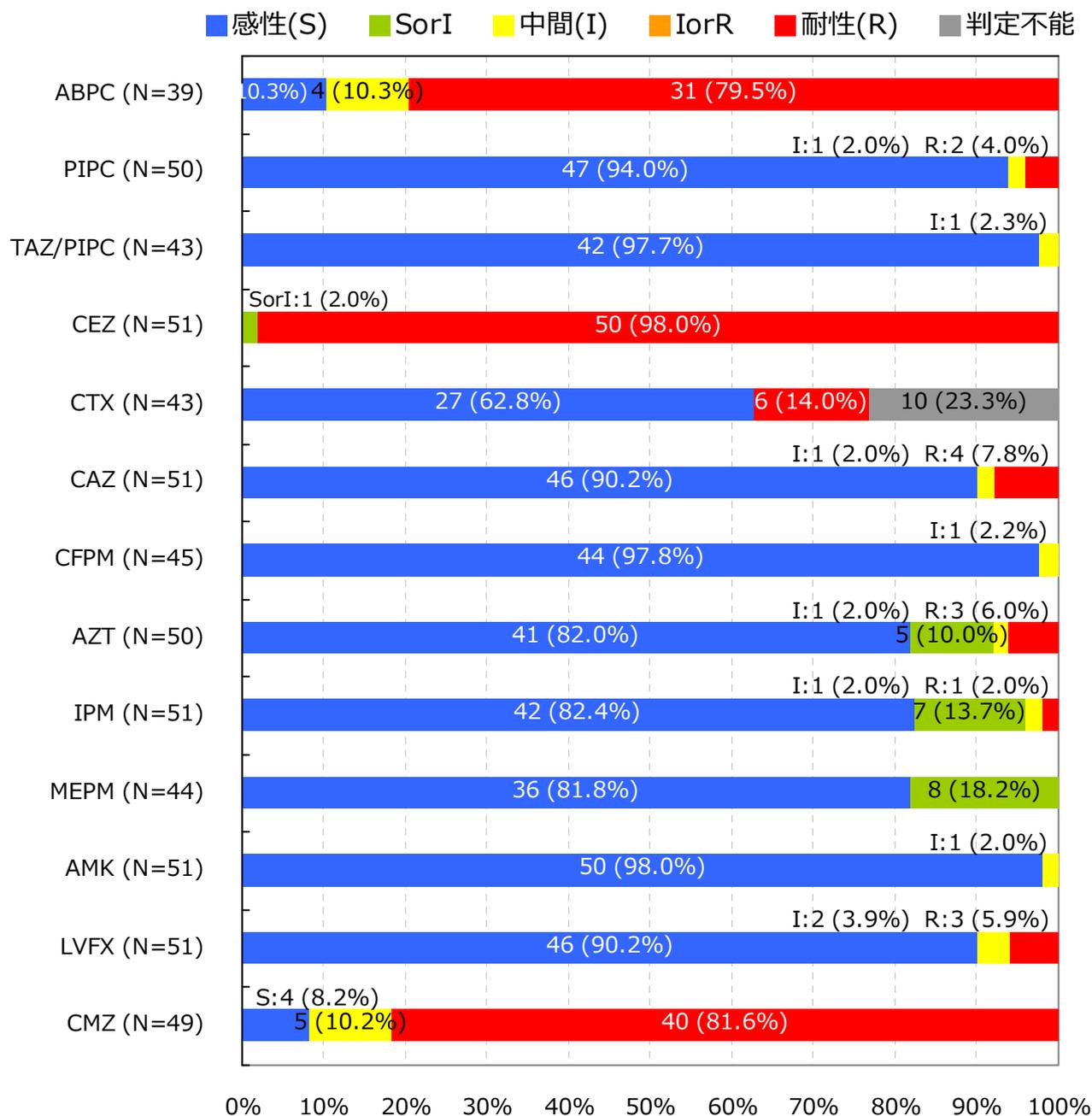
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

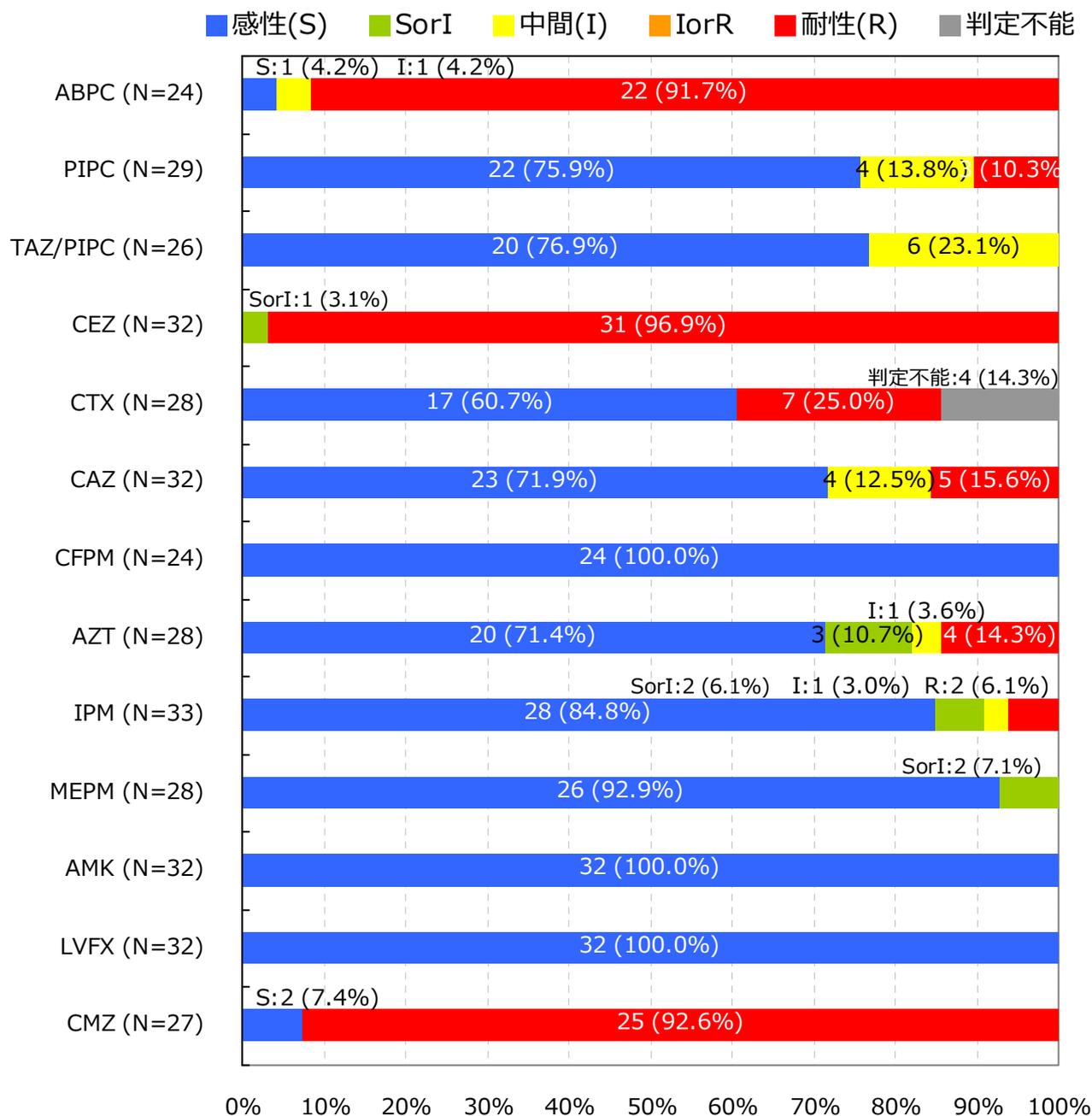
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

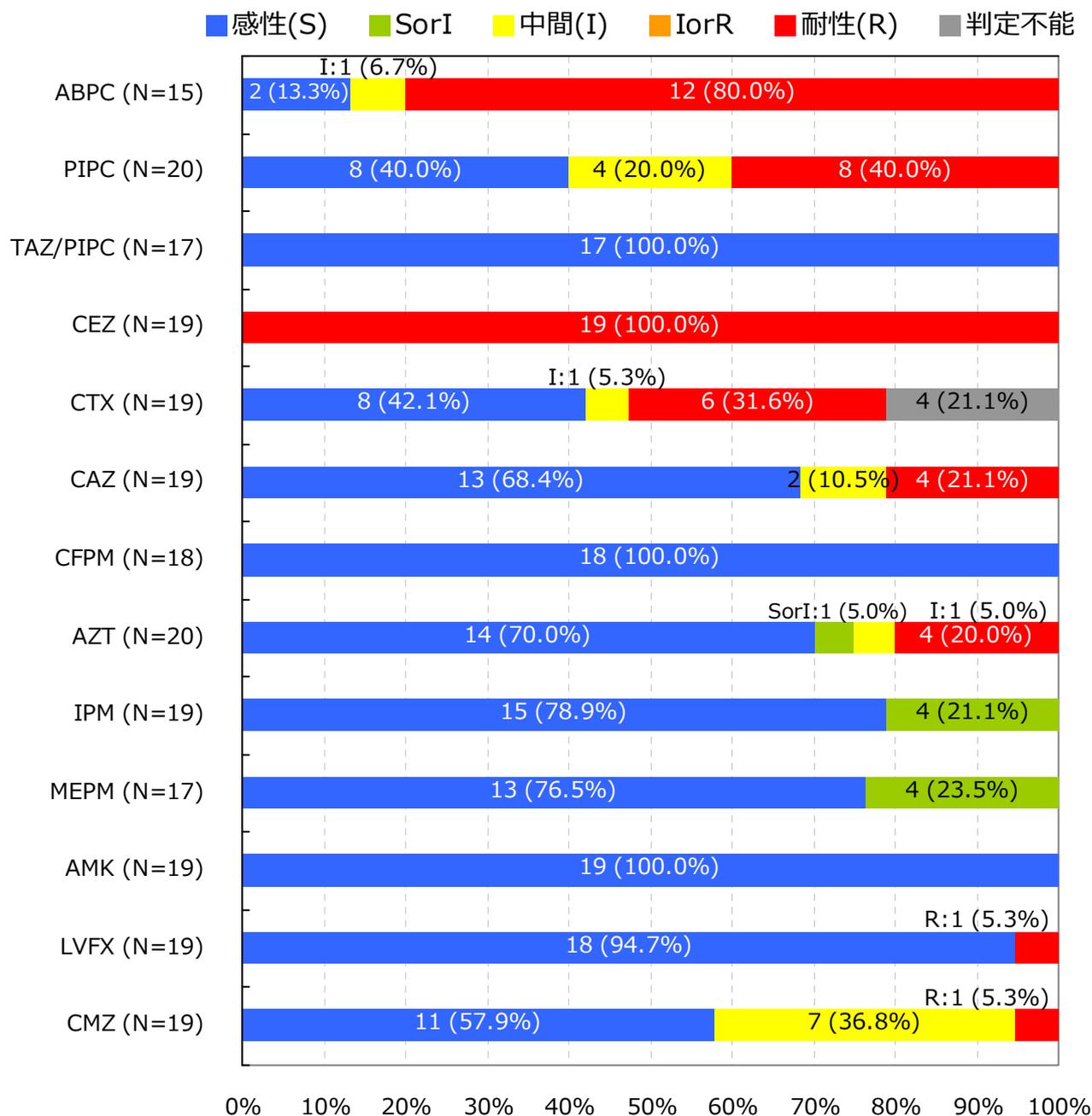
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

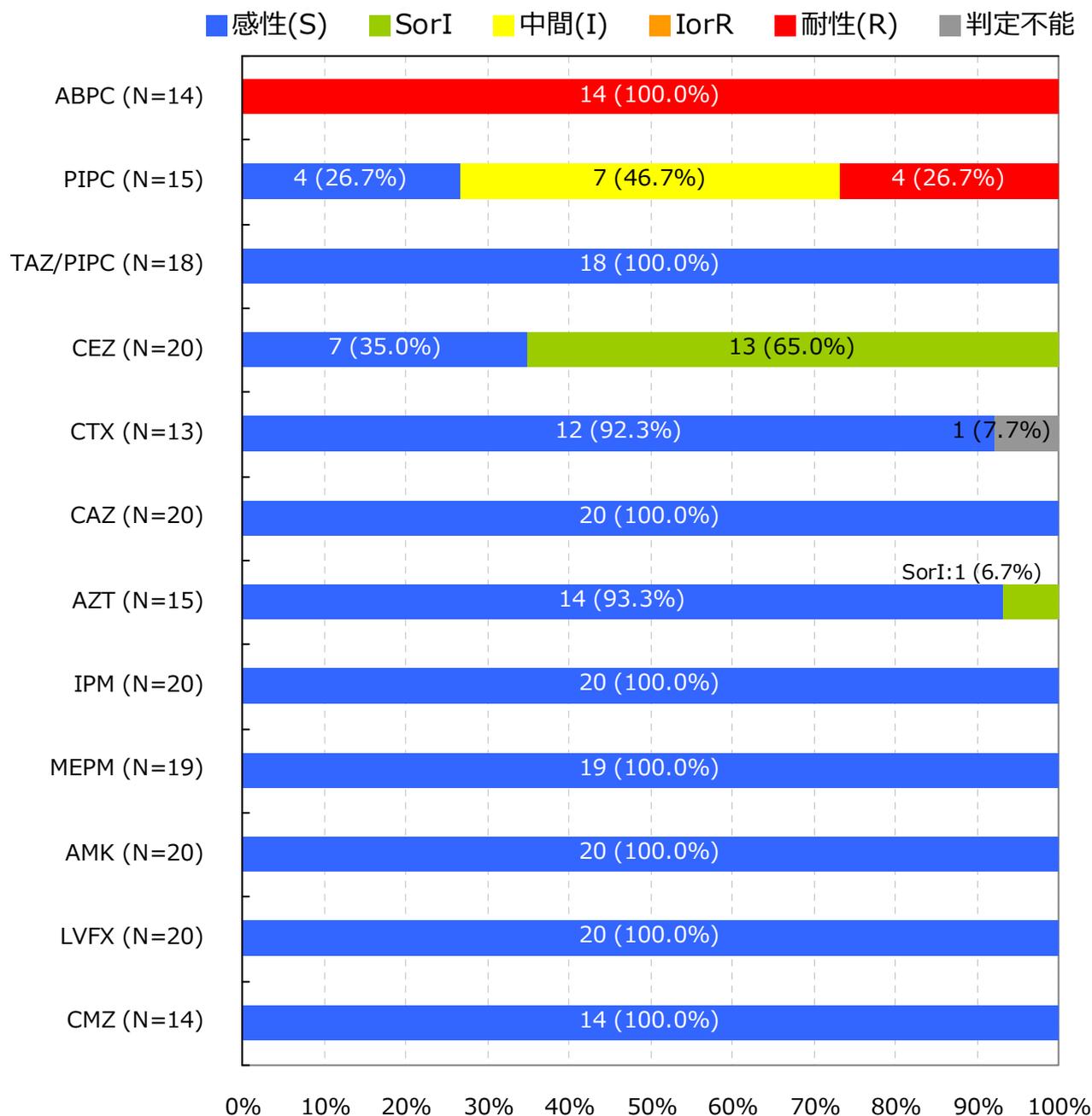
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

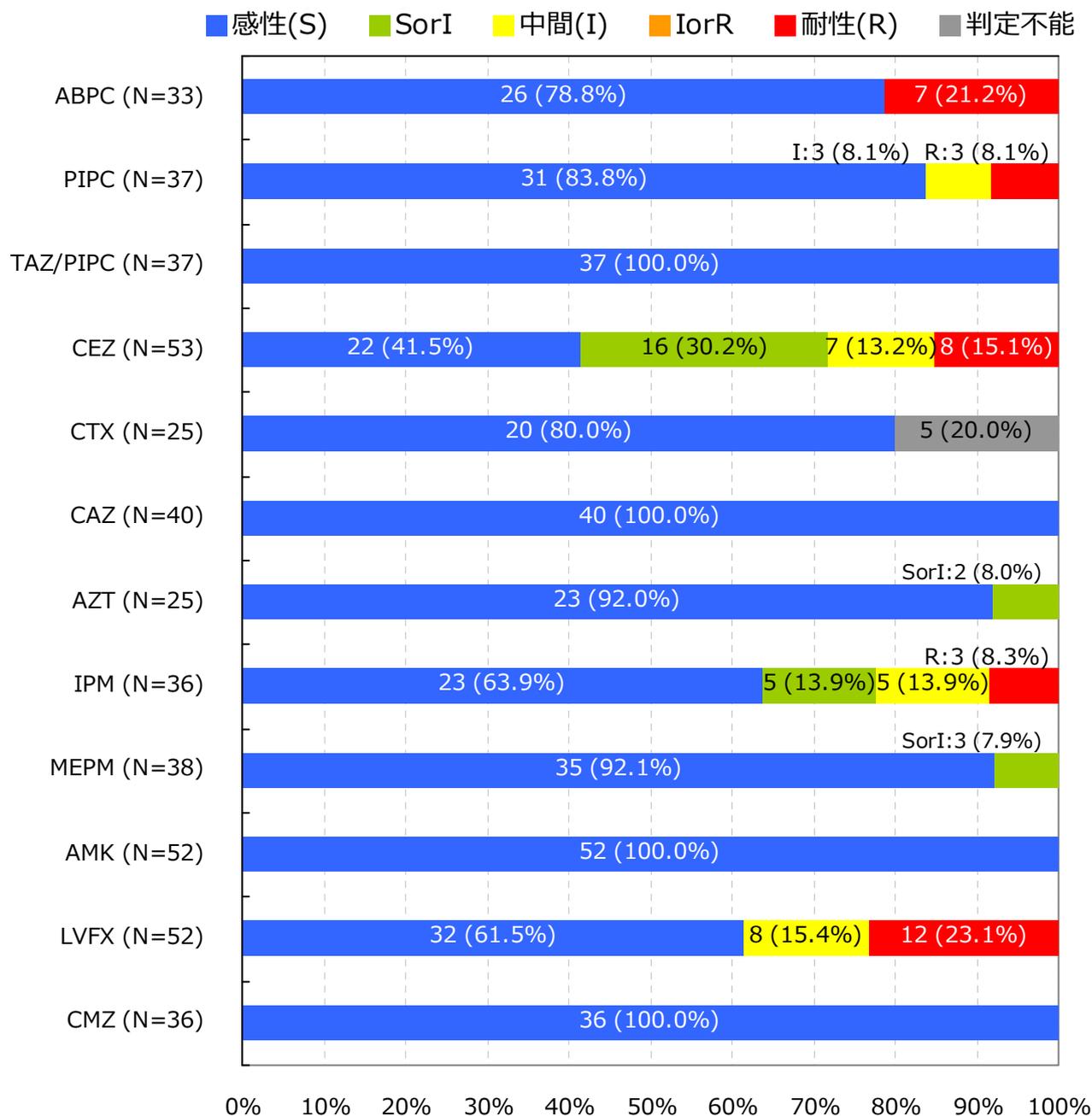
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

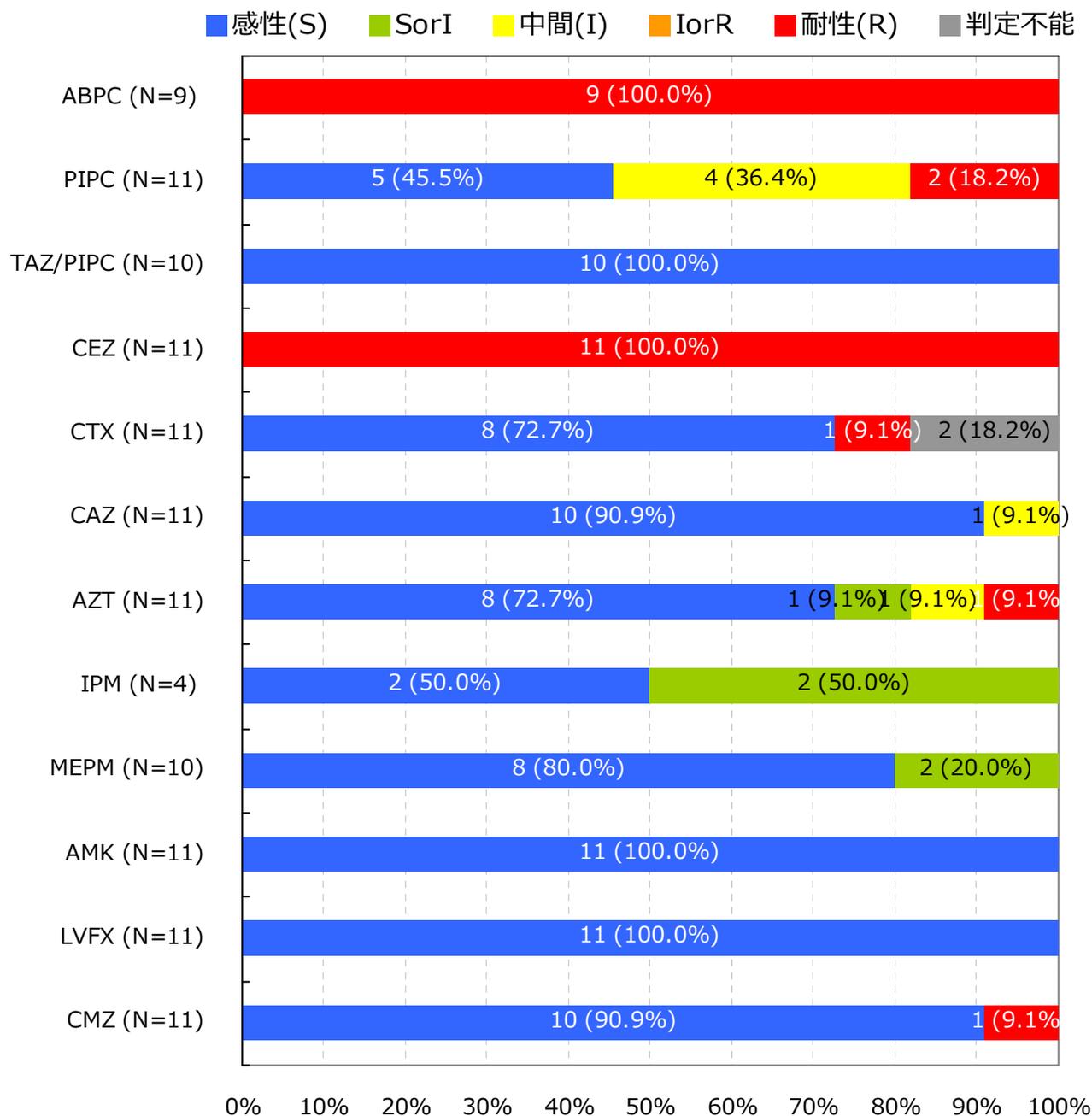
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

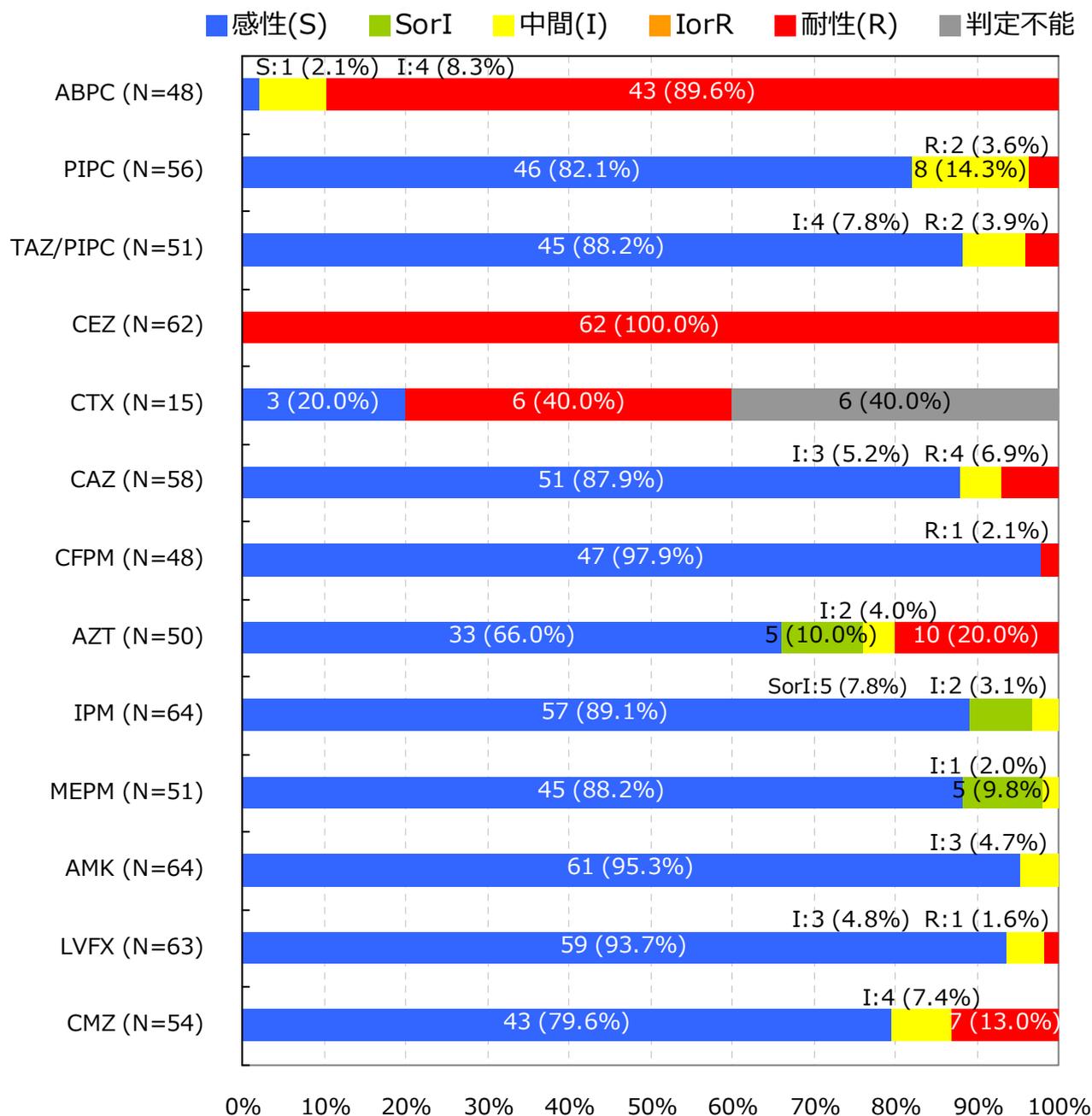
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

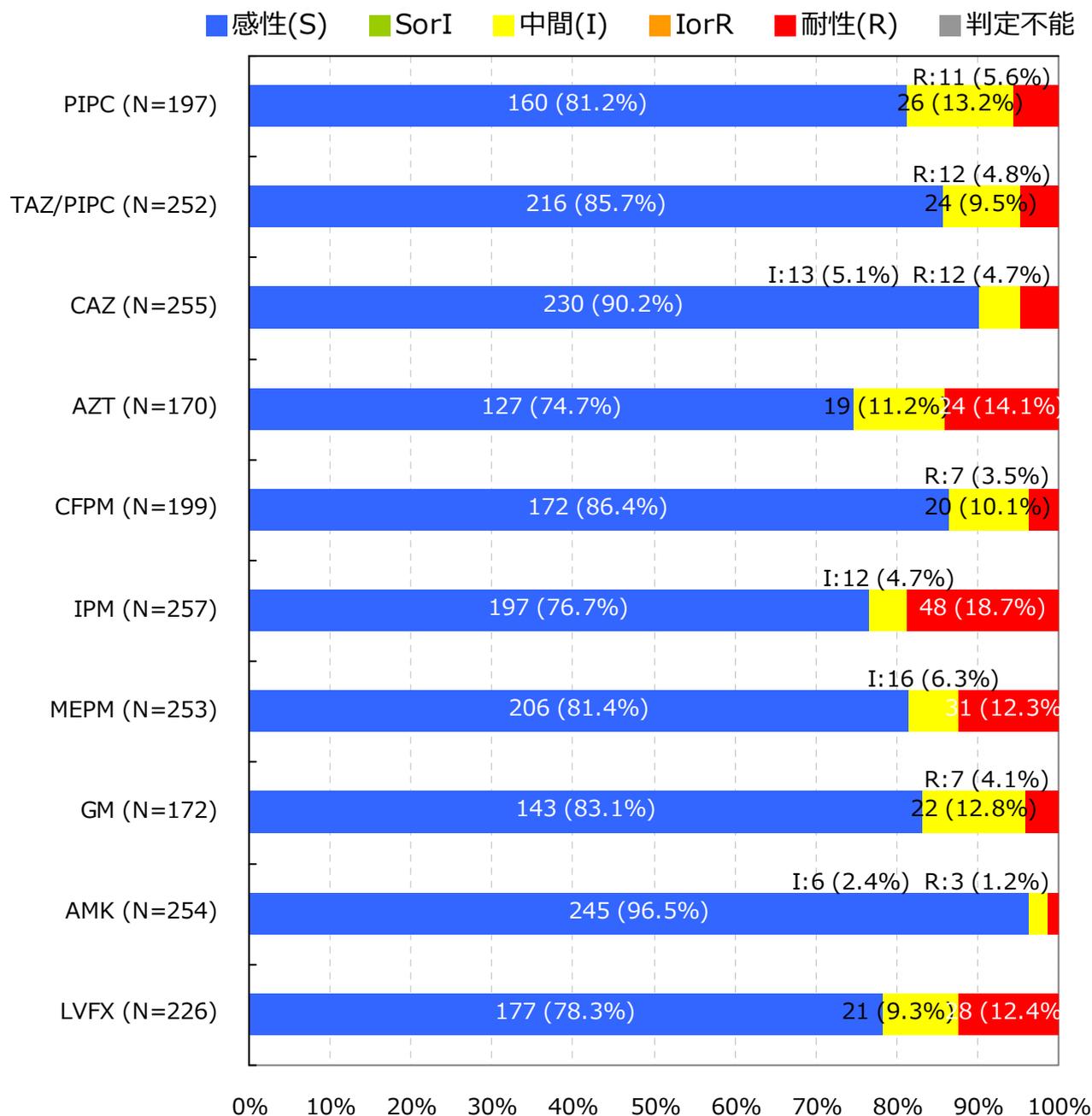
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

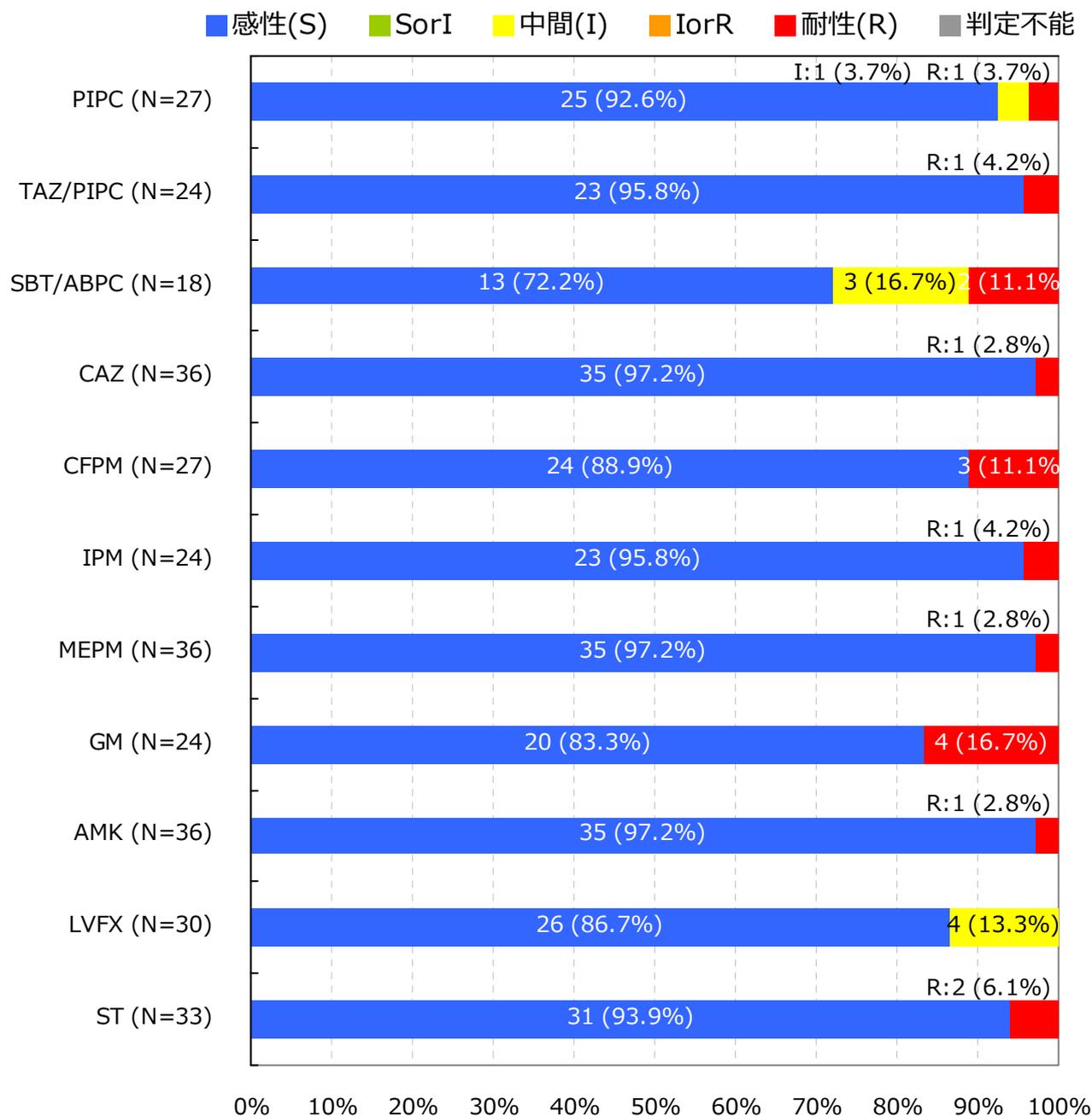
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

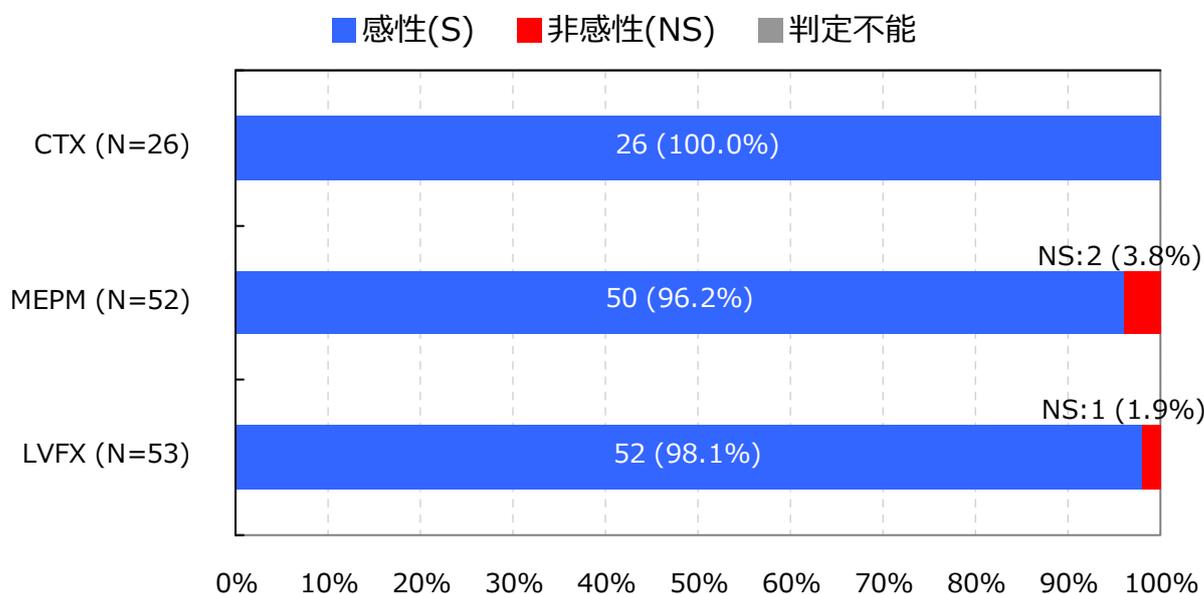
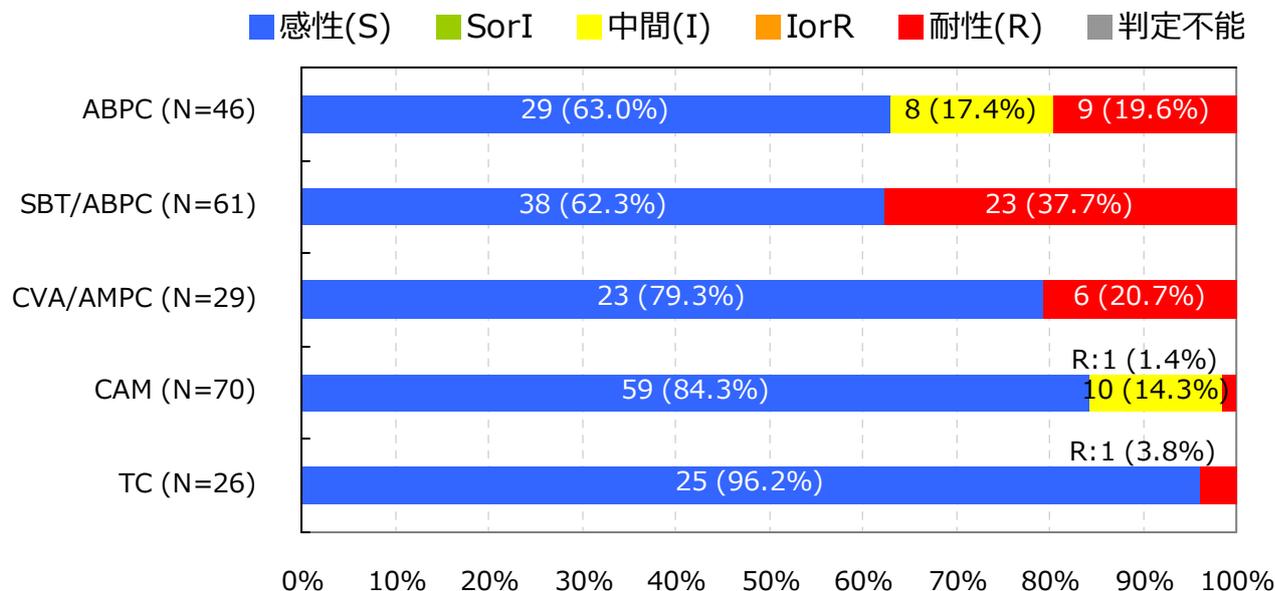
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

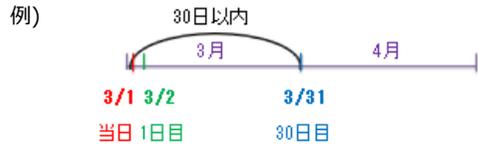
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

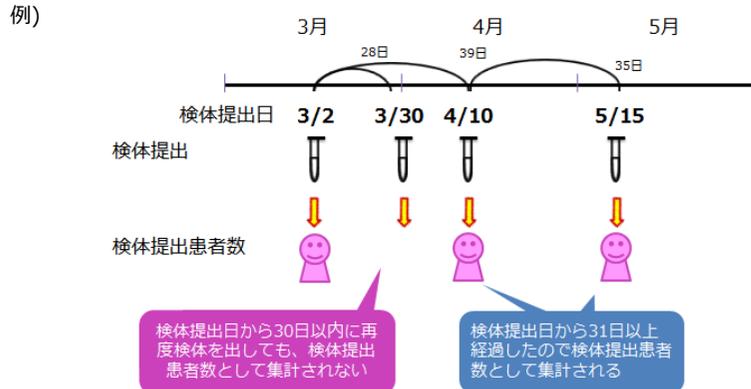
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



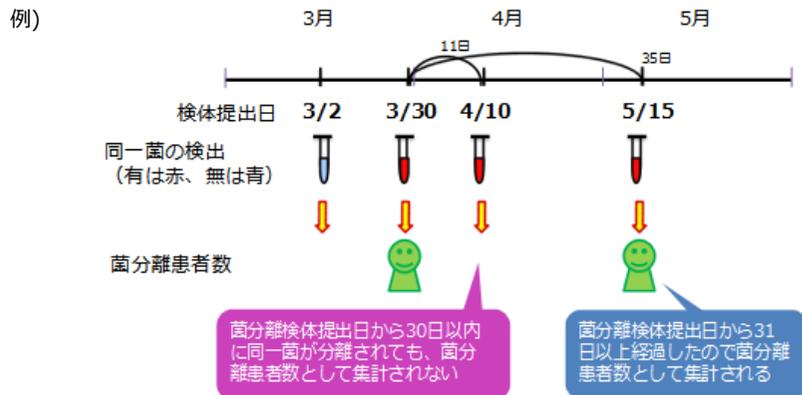
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



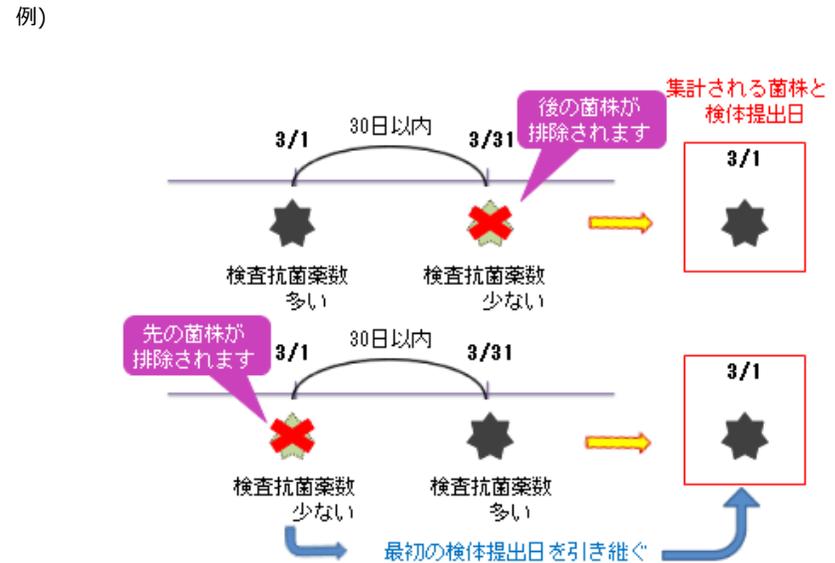
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC  $\geq$  4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC  $\leq$  16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

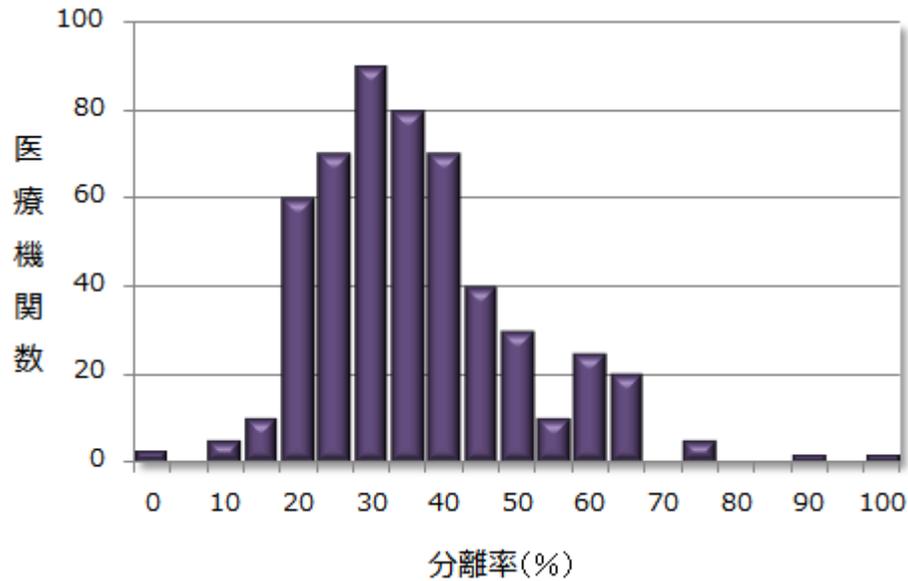
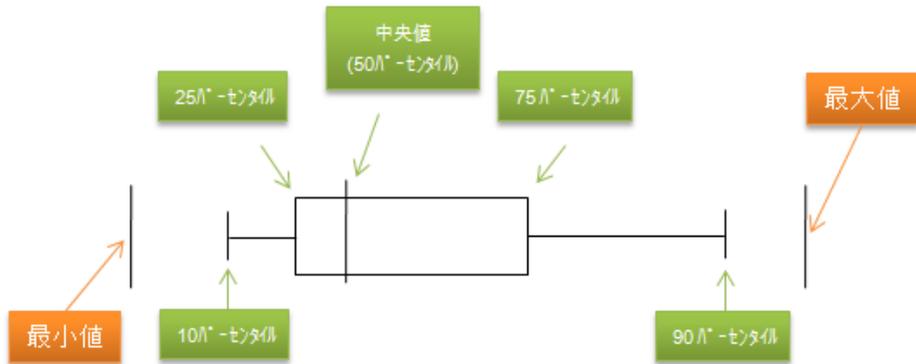
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

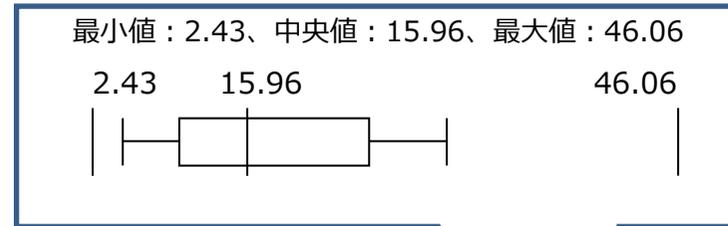
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

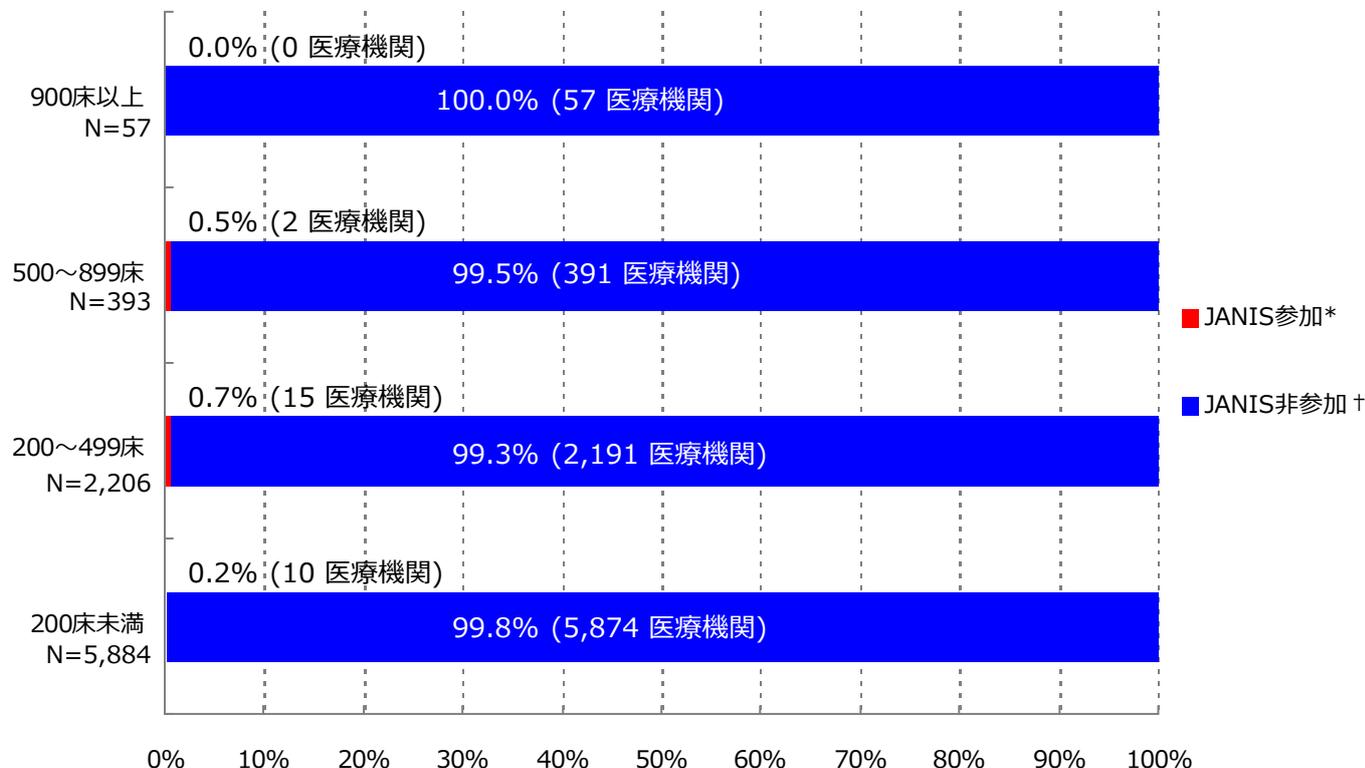
2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |



### 1. 集計対象医療機関数(27医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |
|----------|-----------------|---|
| 900床以上   | 57              | 0 ( 0.0% )                              |
| 500～899床 | 393             | 2 ( 0.5% )                              |
| 200～499床 | 2,206           | 15 ( 0.7% )                             |
| 200床未満   | 5,884           | 10 ( 0.2% )                             |
| 病床数不明    | -               | 0 ( - )                                 |
| 合計       | 8,540           | 27 ( 0.3% )                             |

† 平成25年医療施設 (動態) 調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)   |
|--------|-----------|--------|-------------------|
| 呼吸器系検体 | 27        | 4,991  | 3,608<br>(7,539)  |
| 尿検体    | 26        | 1,535  | 950<br>(1,404)    |
| 便検体    | 27        | 1,432  | 1,040<br>(1,815)  |
| 血液検体   | 26        | 5,357  | 771<br>(856)      |
| 髄液検体   | 20        | 199    | 18<br>(29)        |
| その他    | 27        | 2,883  | 1,352<br>(2,365)  |
| 合計     | 27        | 16,397 | 7,739<br>(14,008) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

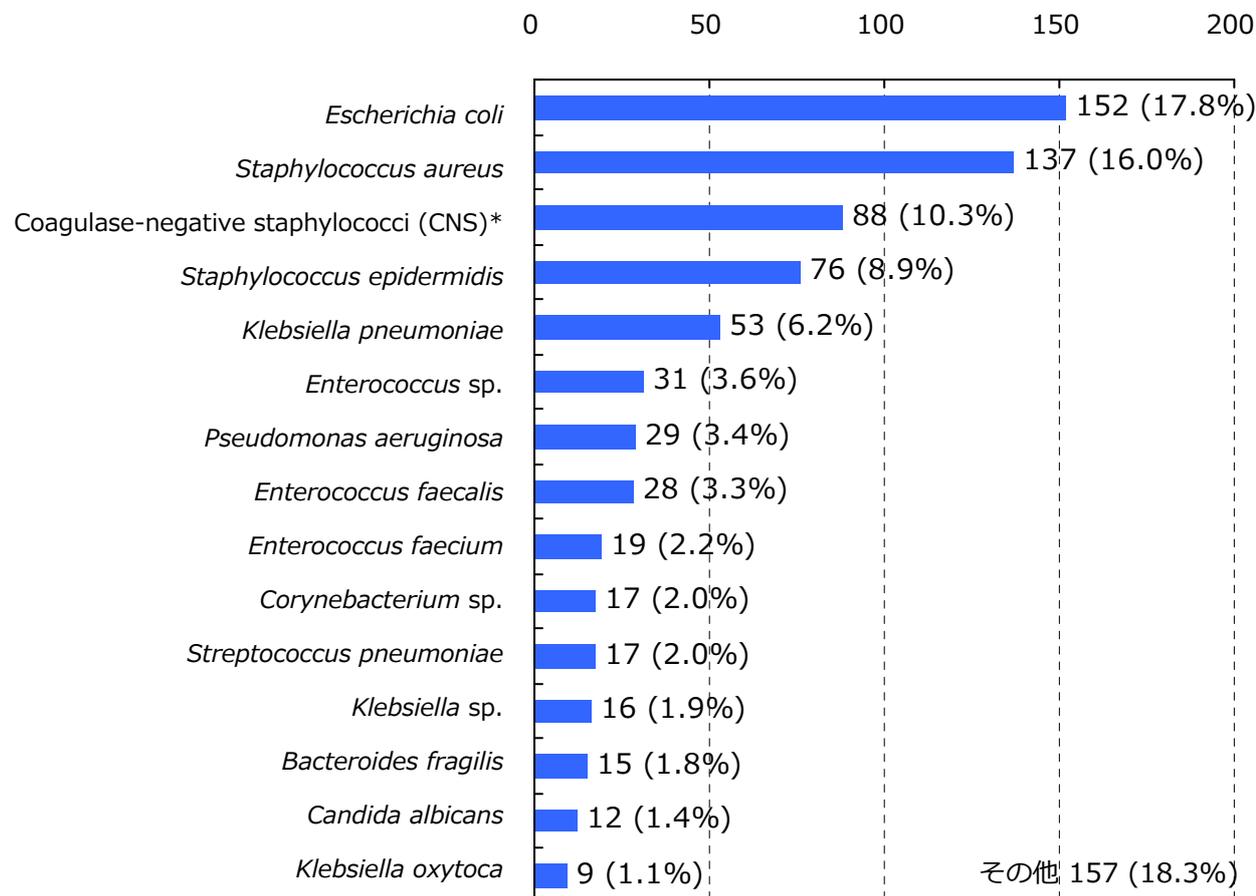
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=856)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

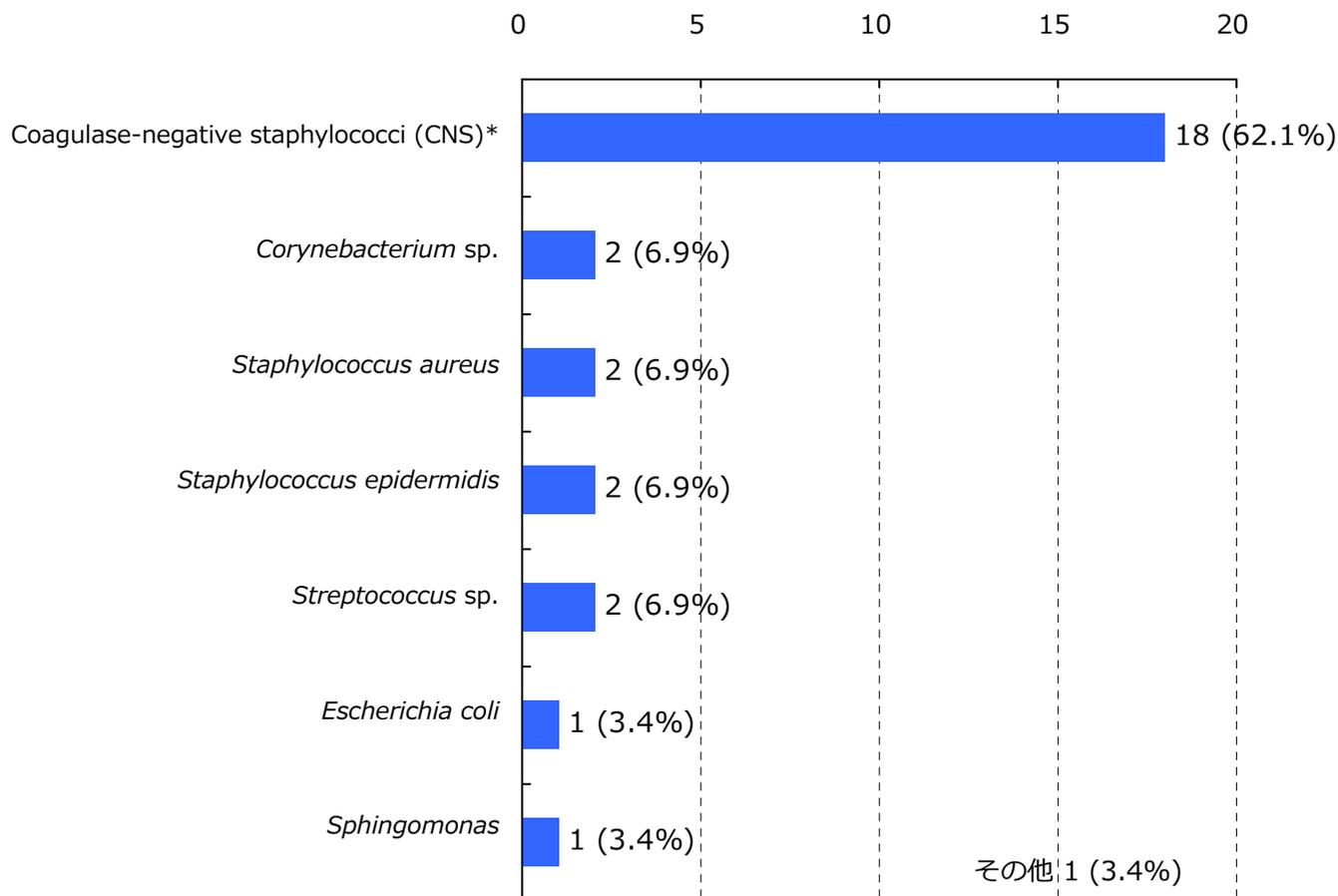
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=29)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

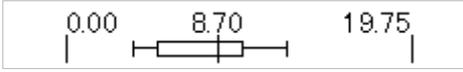
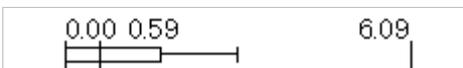
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布   |
|------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数                | 6,301人                 |   |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 555人<br>(8.81%)        | 0.00 8.70 19.75<br>  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>             |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>             |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 35人<br>(0.56%)         | 0.00 0.33 6.02<br>   |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 3人<br>(0.05%)          | 0.00 0.00 0.59<br>  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>           |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 27人<br>(0.43%)         | 0.00 0.00 2.75<br> |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 82人<br>(1.30%)         | 0.00 0.59 6.09<br> |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 24人<br>(0.38%)         | 0.00 0.00 6.25<br> |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 138人<br>(2.19%)        | 0.00 1.86 6.25<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 210人<br>(3.33%)        | 0.00 2.92 9.57<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

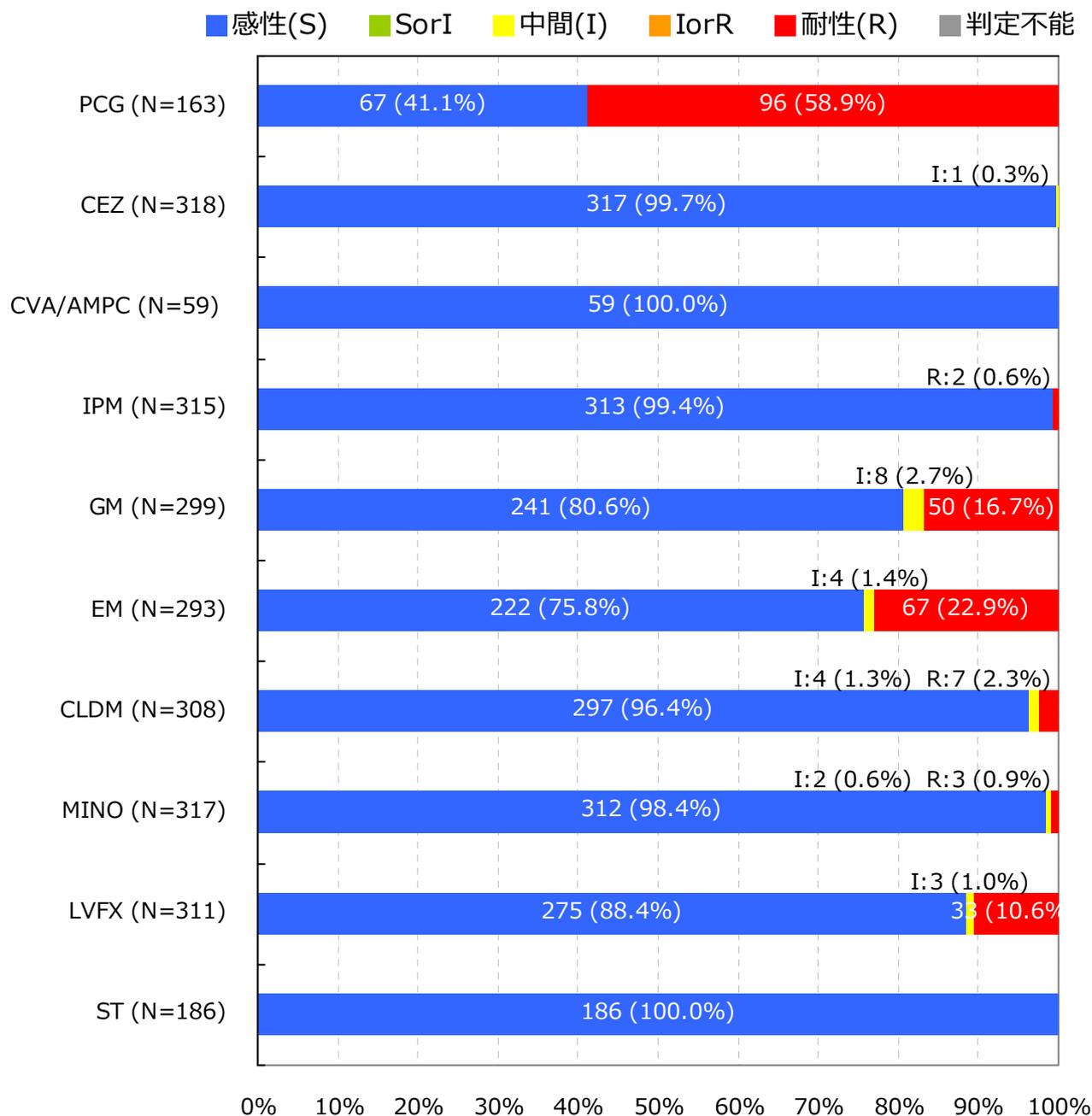
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

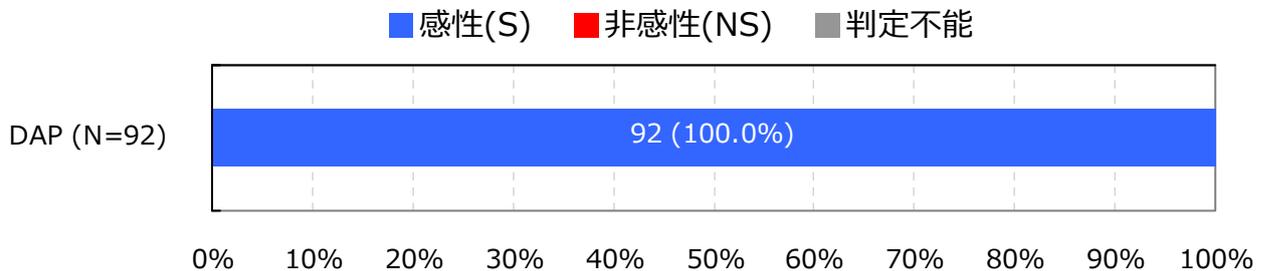
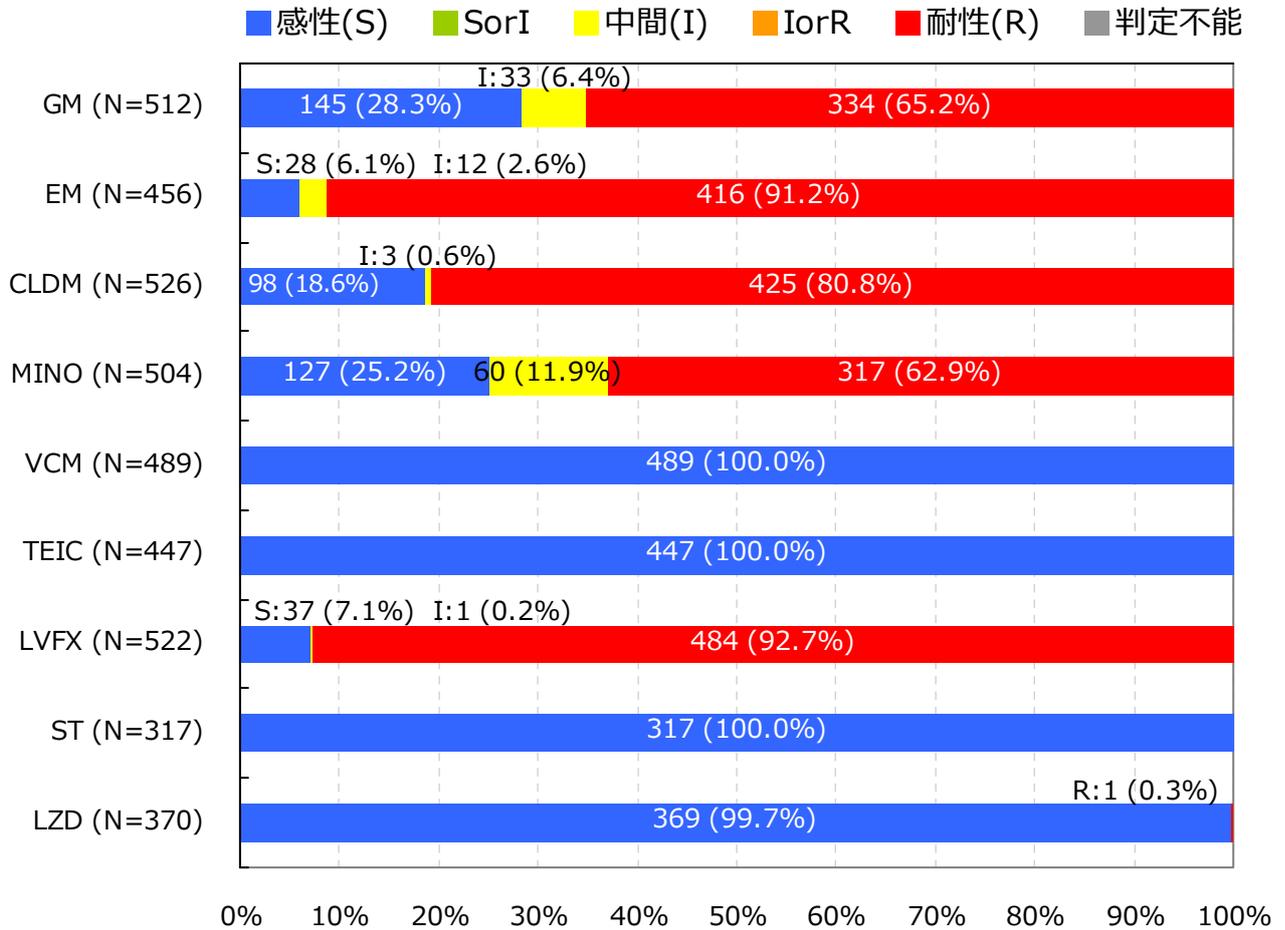
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



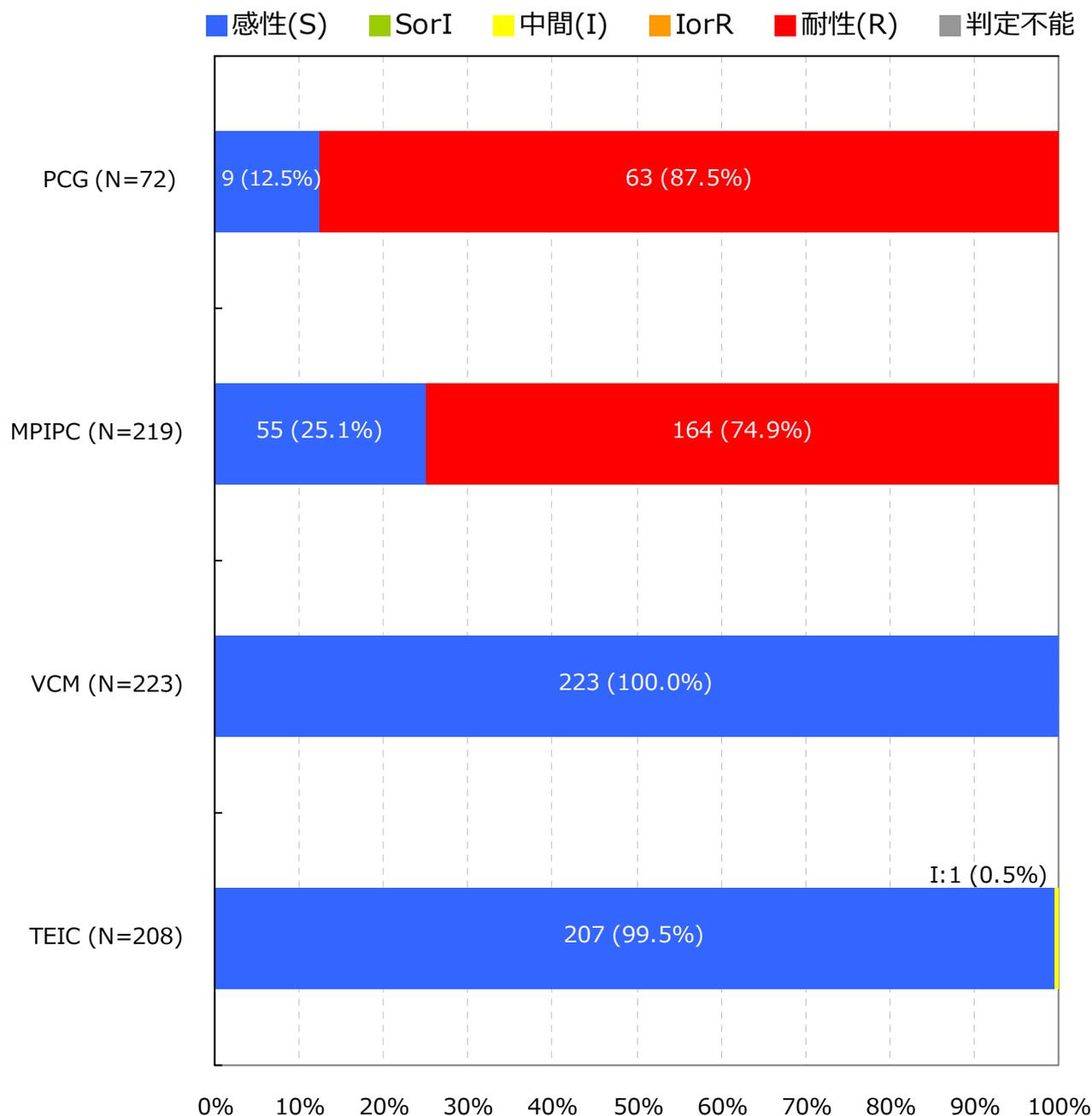
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン)  
の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

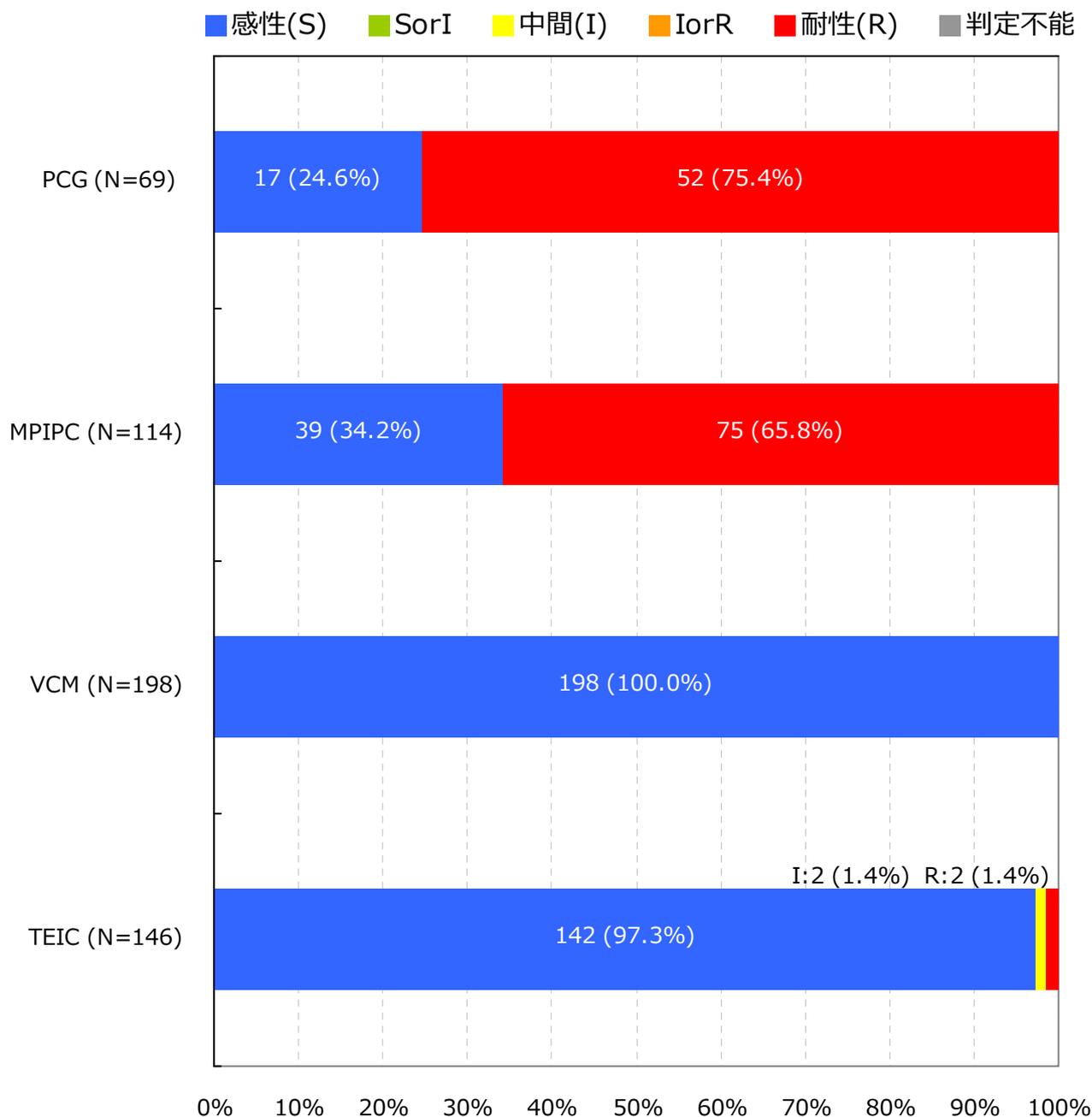
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



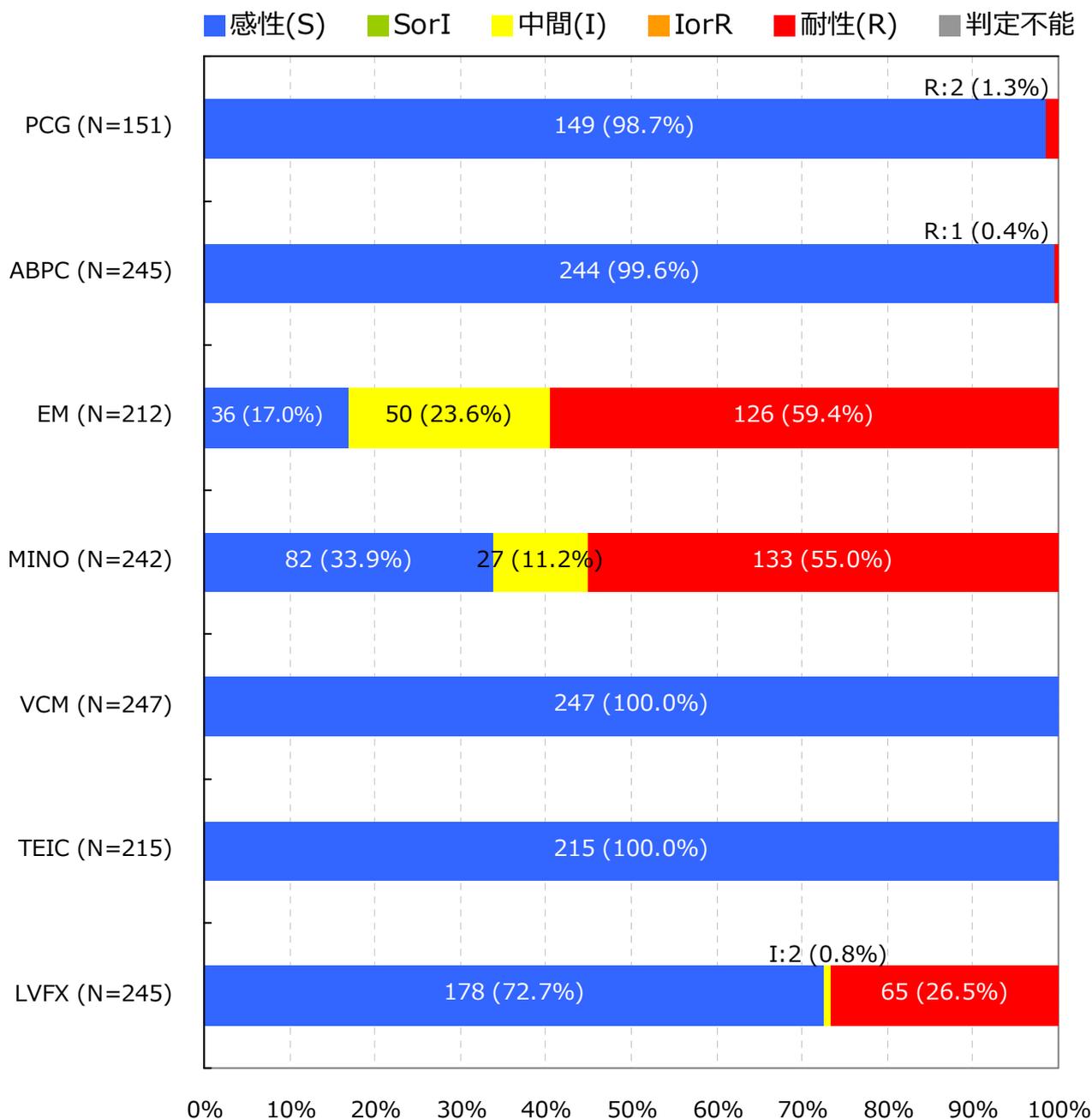
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

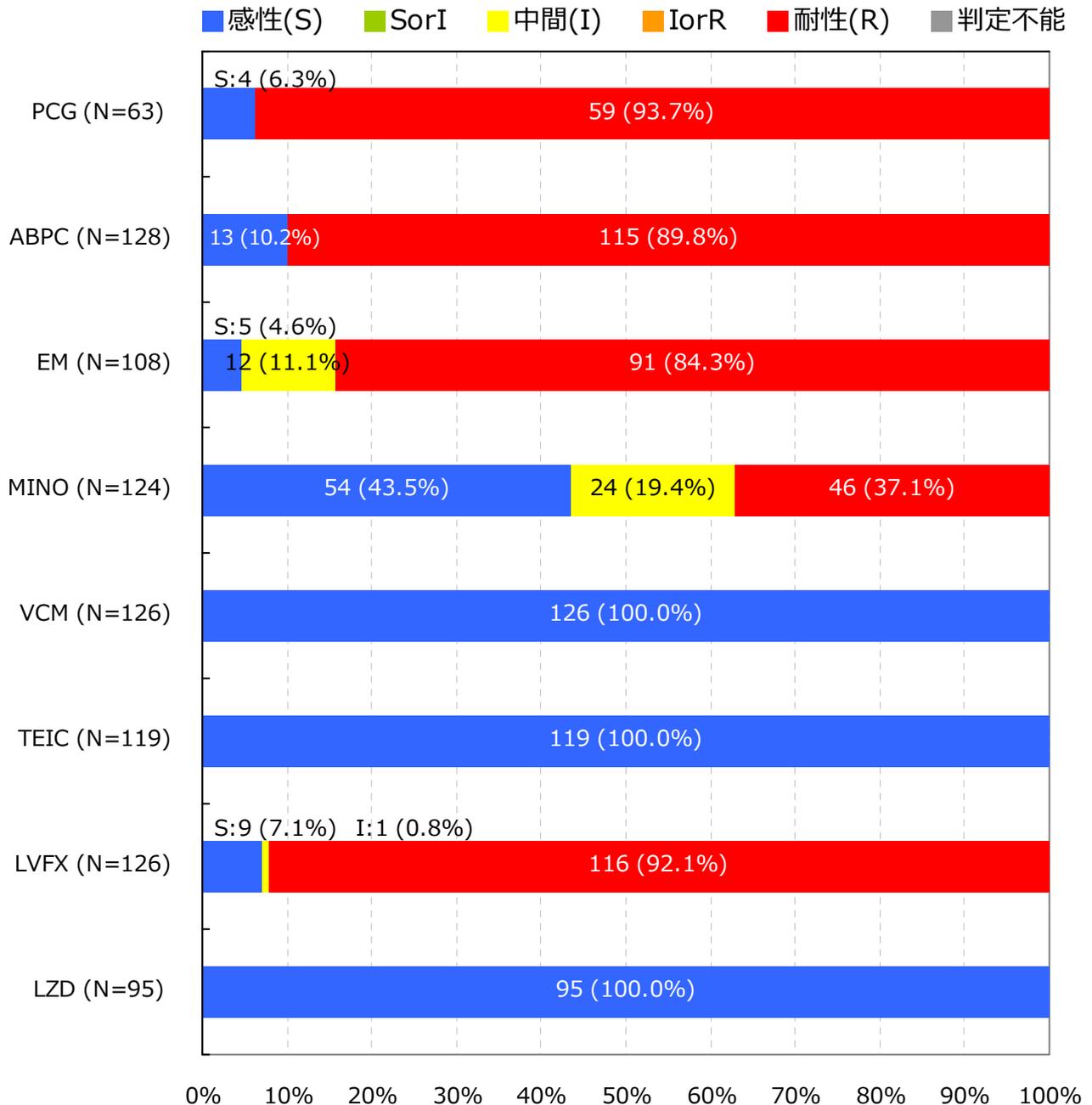
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

(鹿児島県)

公開情報 2015年1月～3月 四半期報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

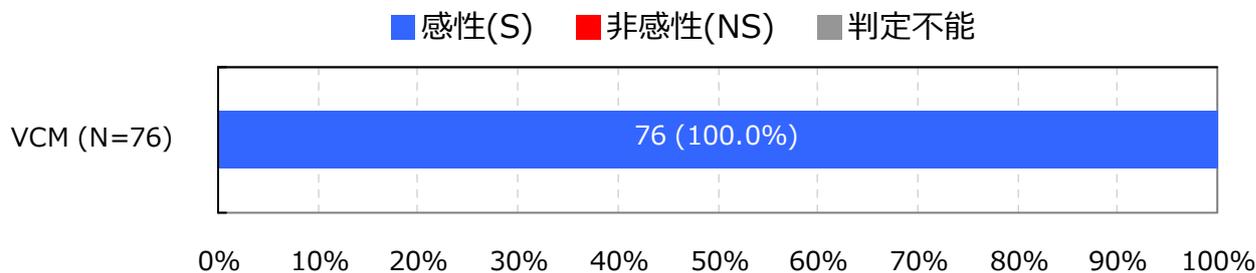
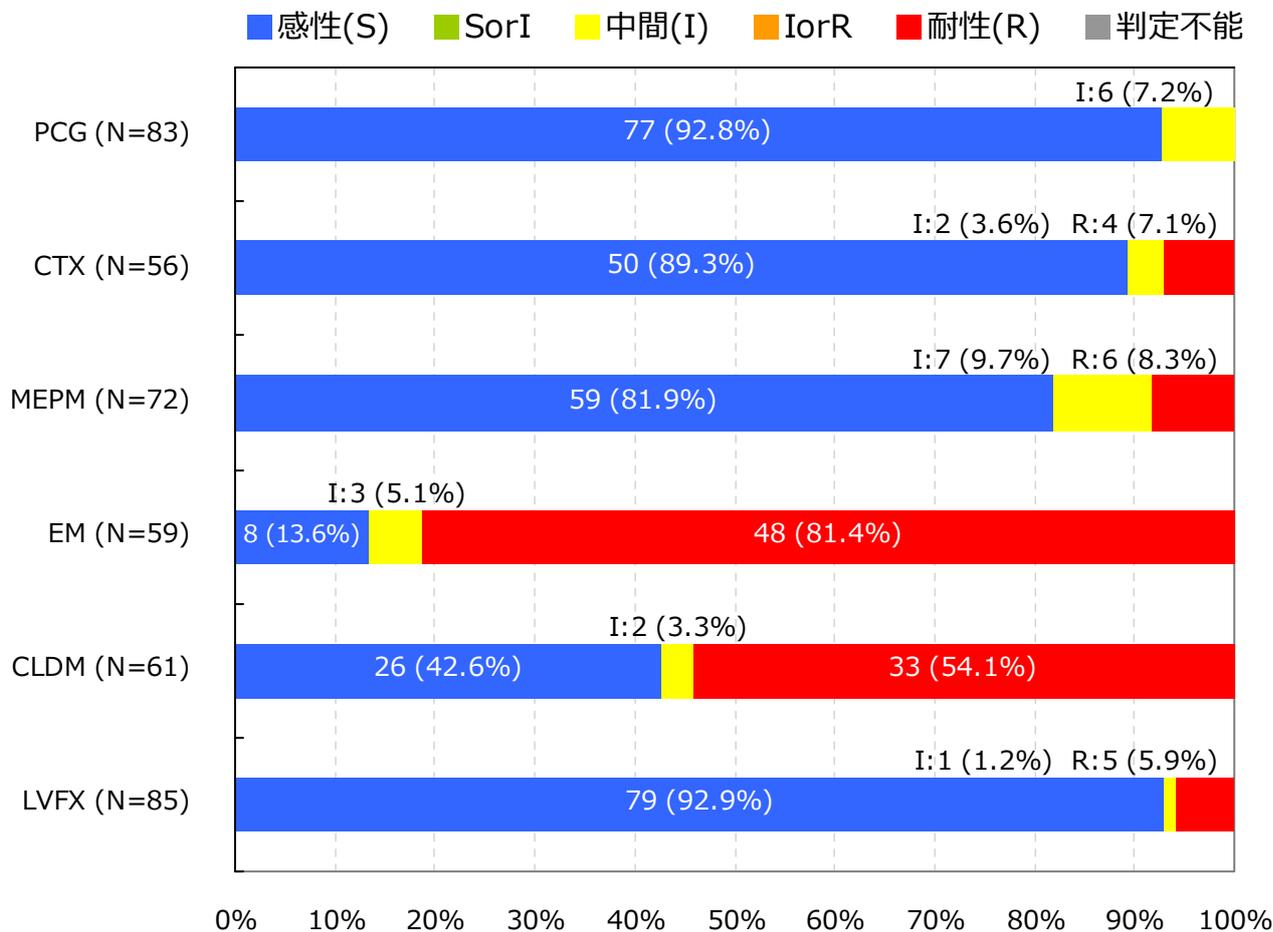
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

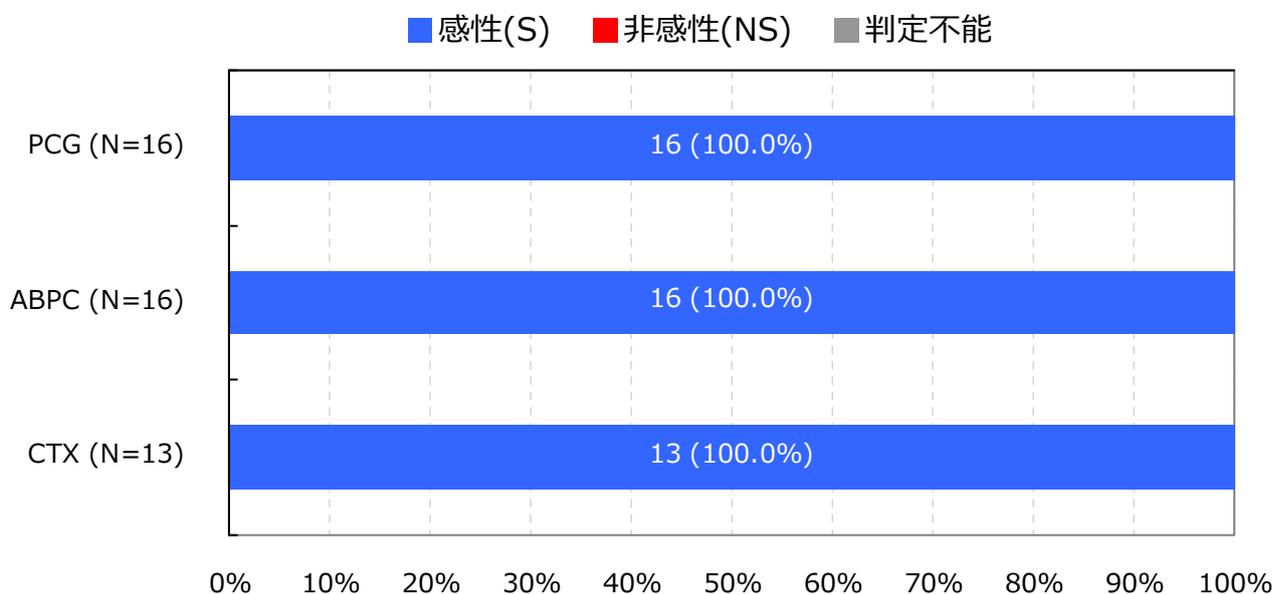
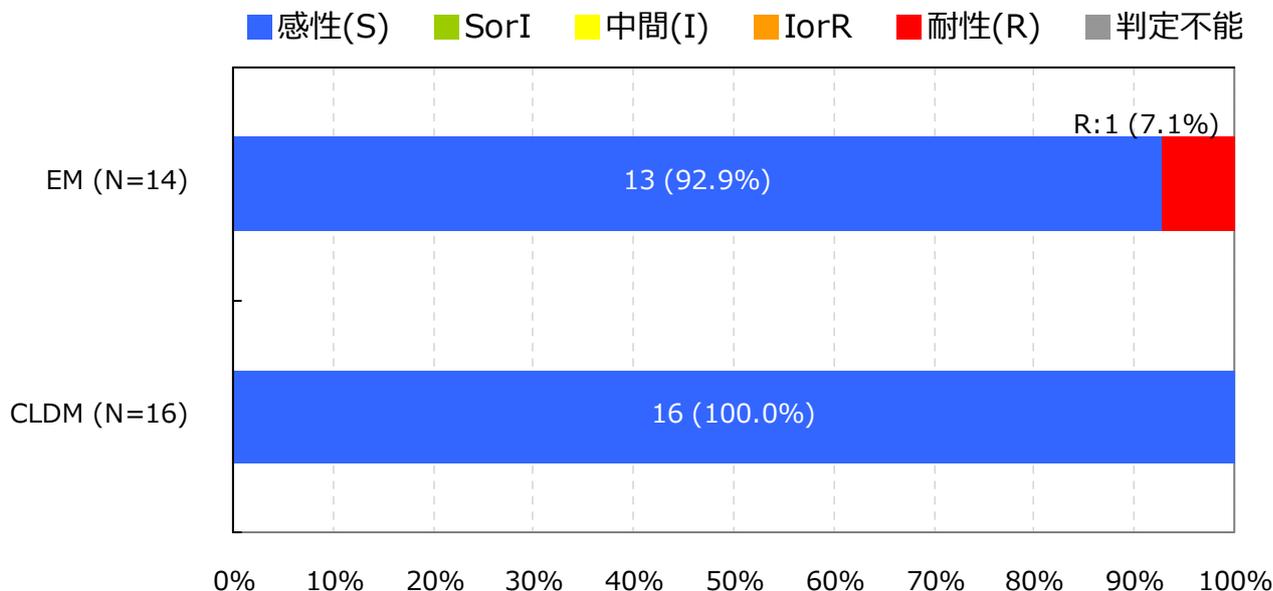
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

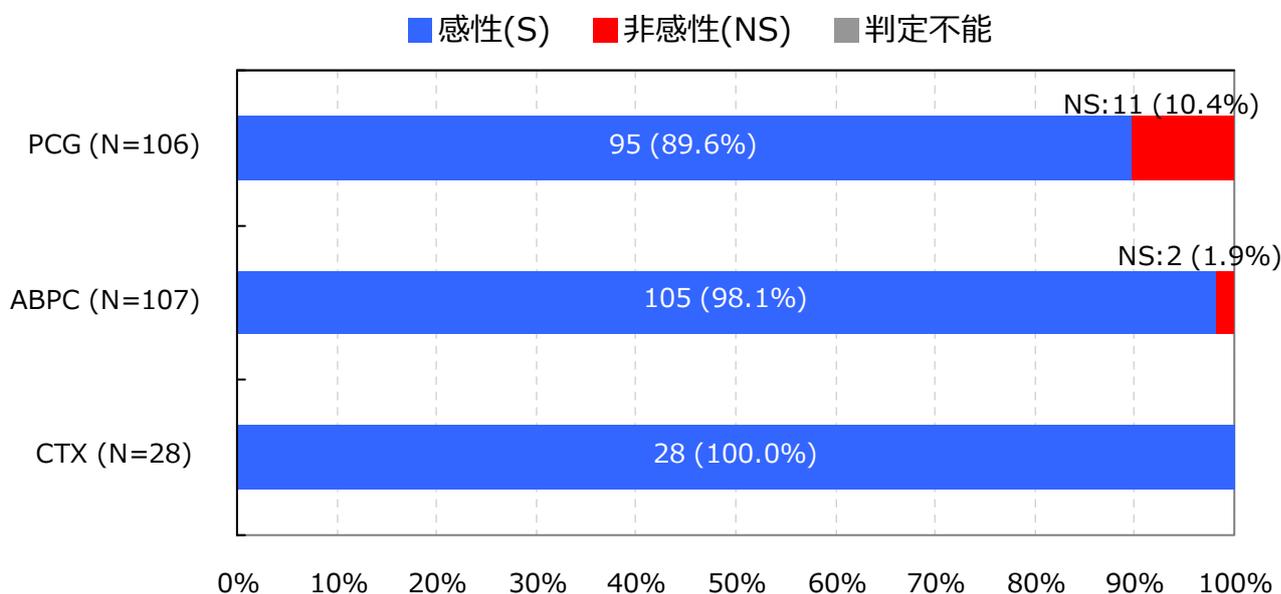
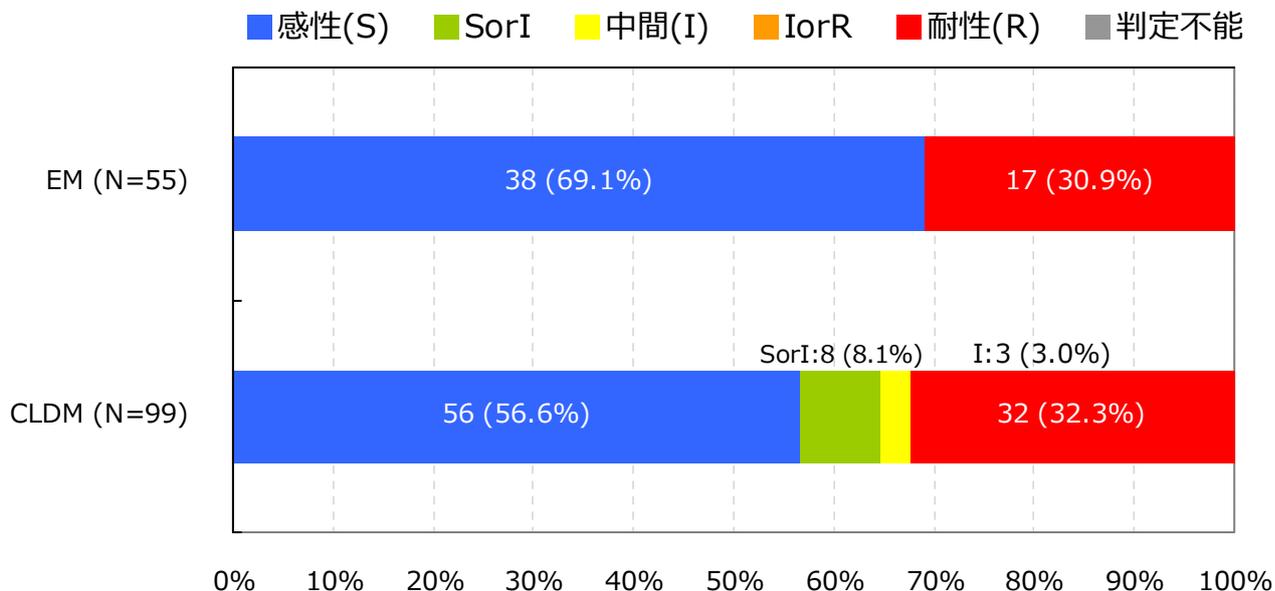
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

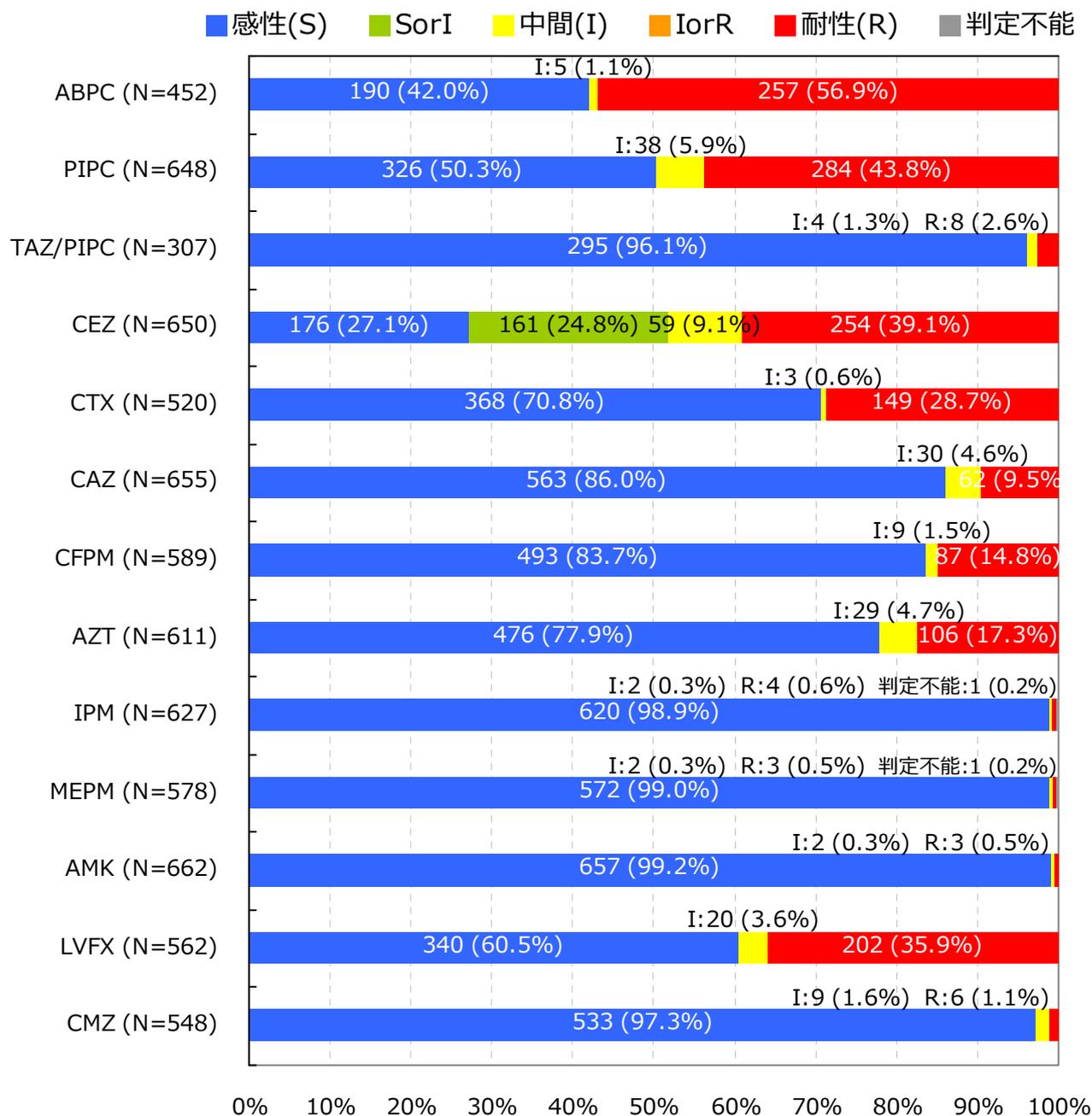
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

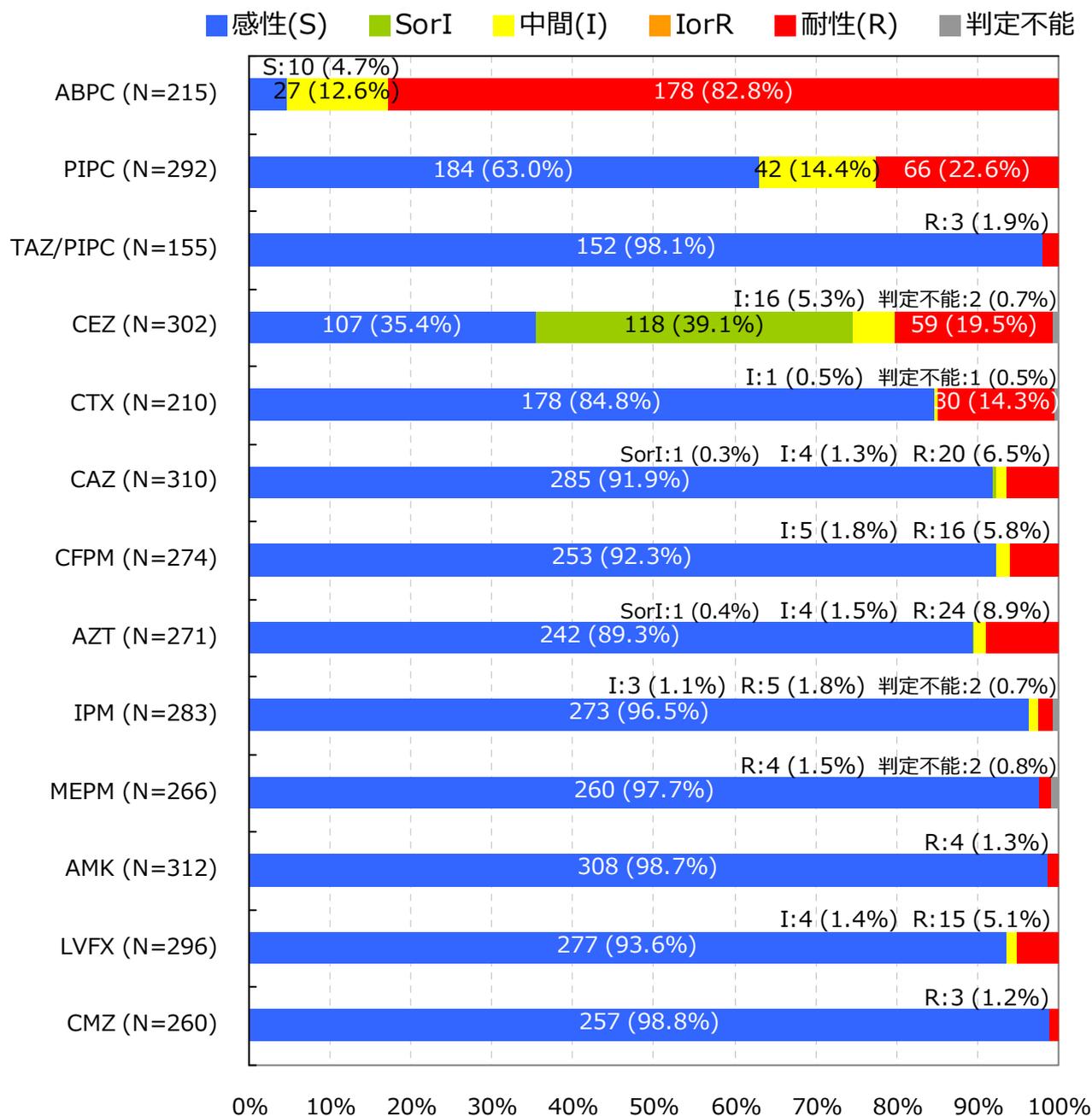
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

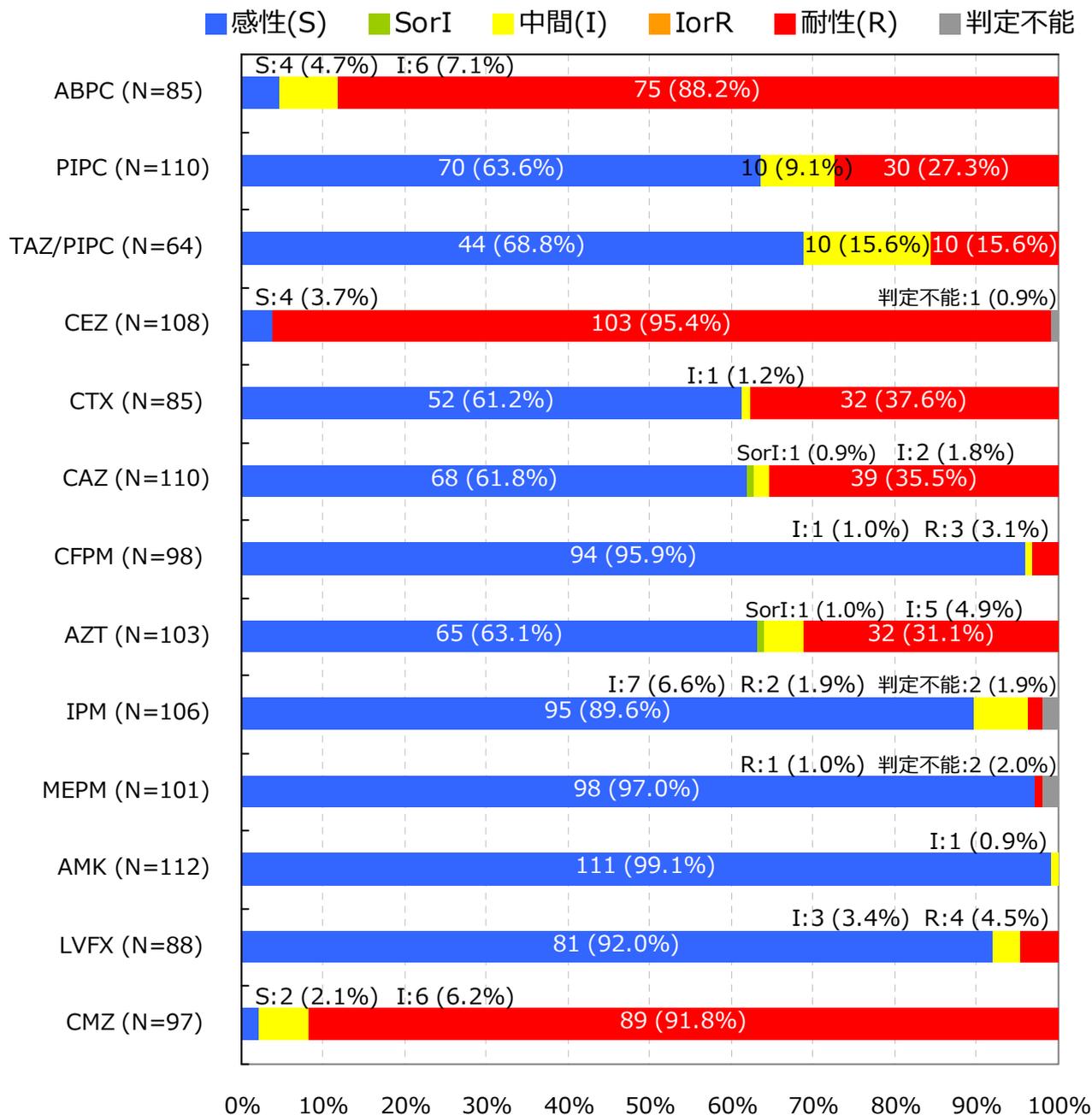
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

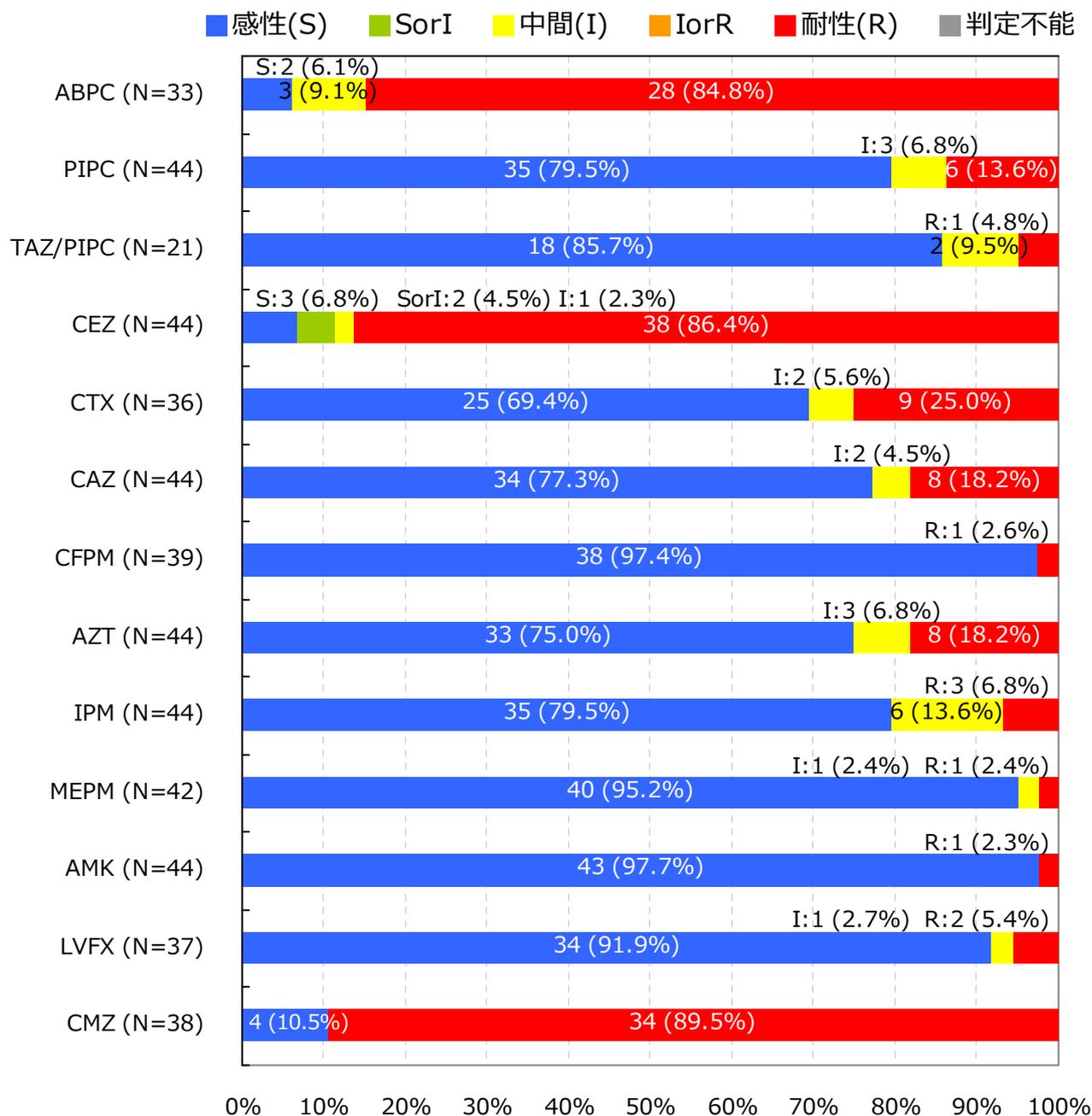
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

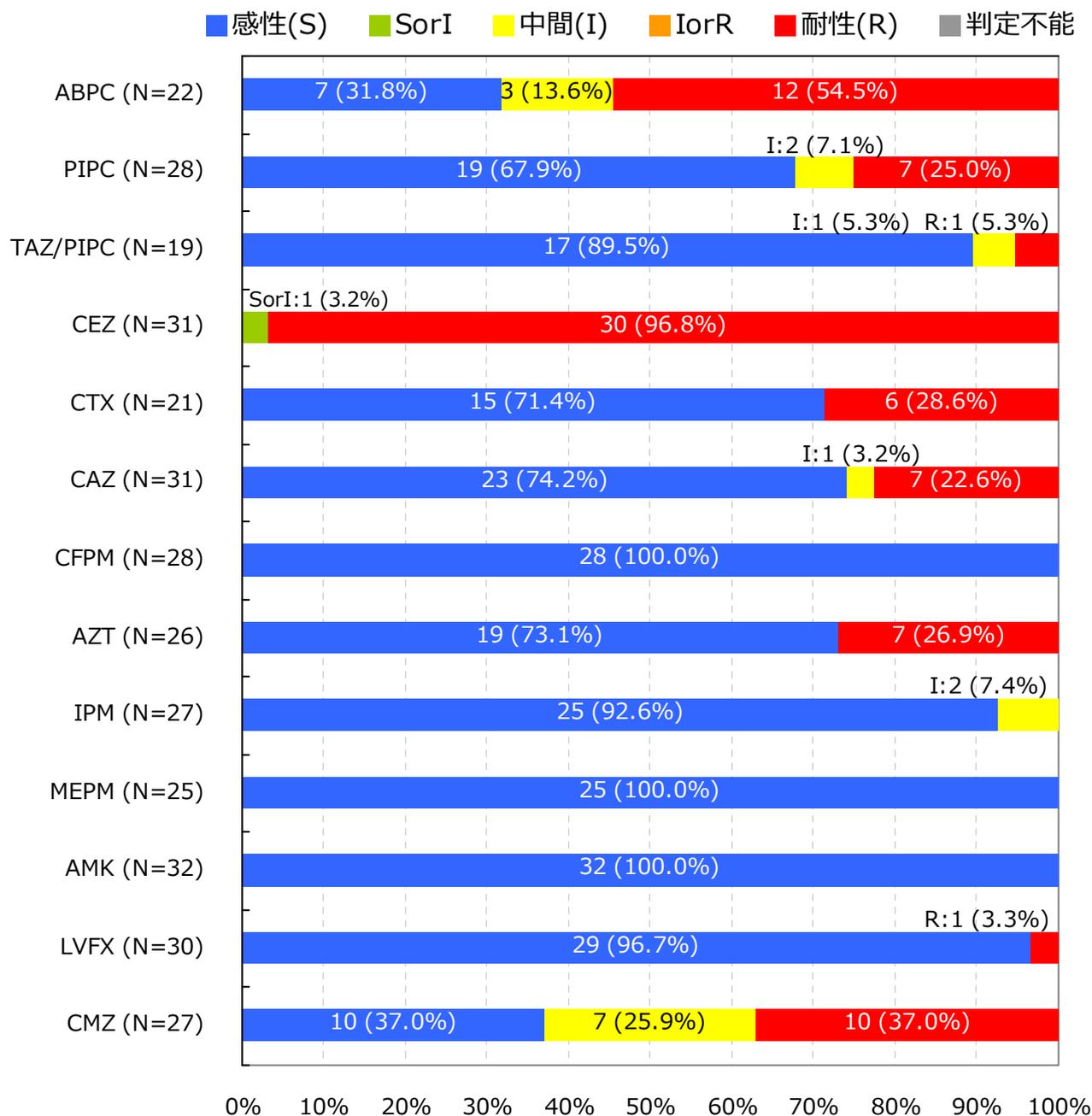
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

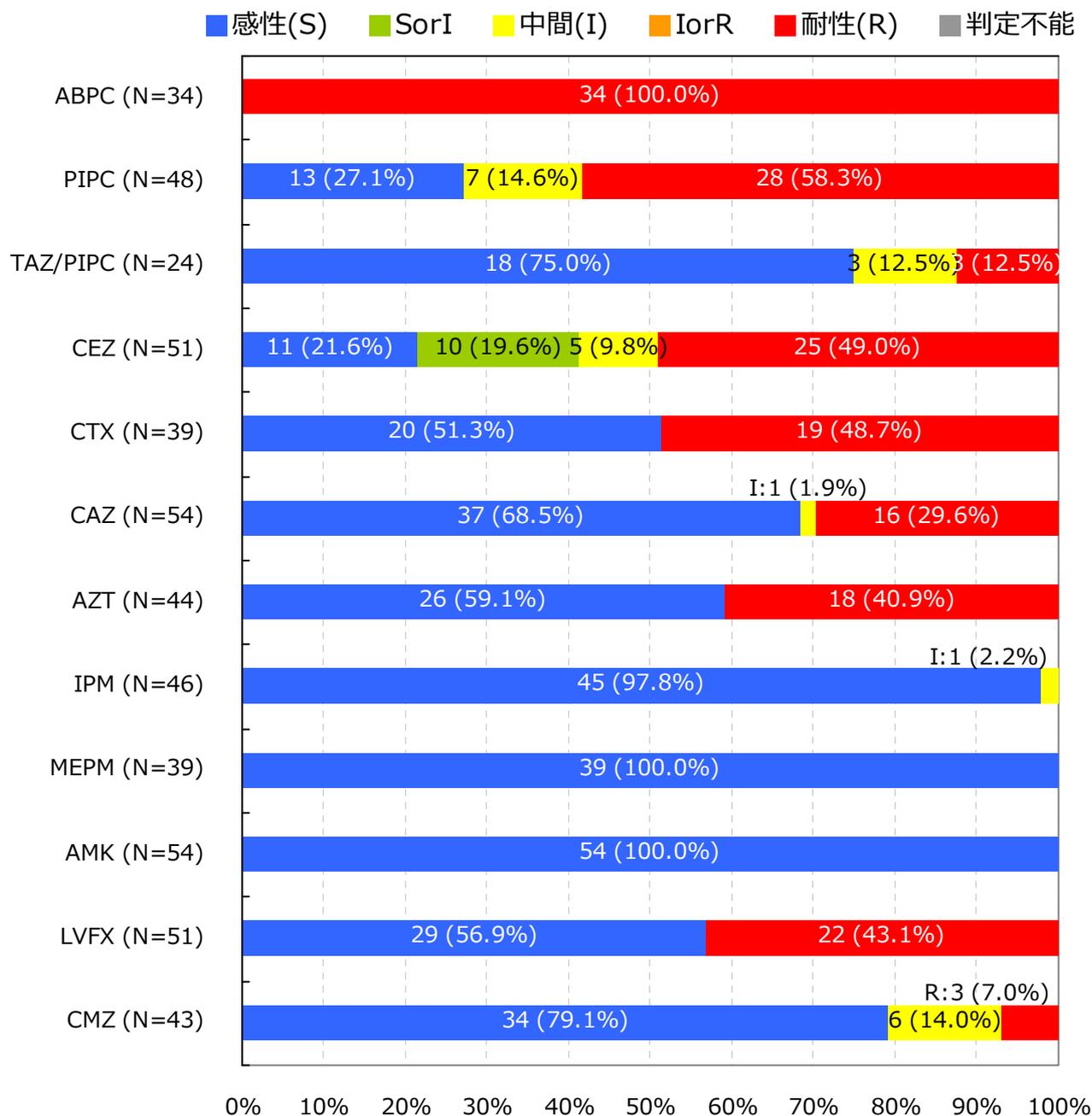
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

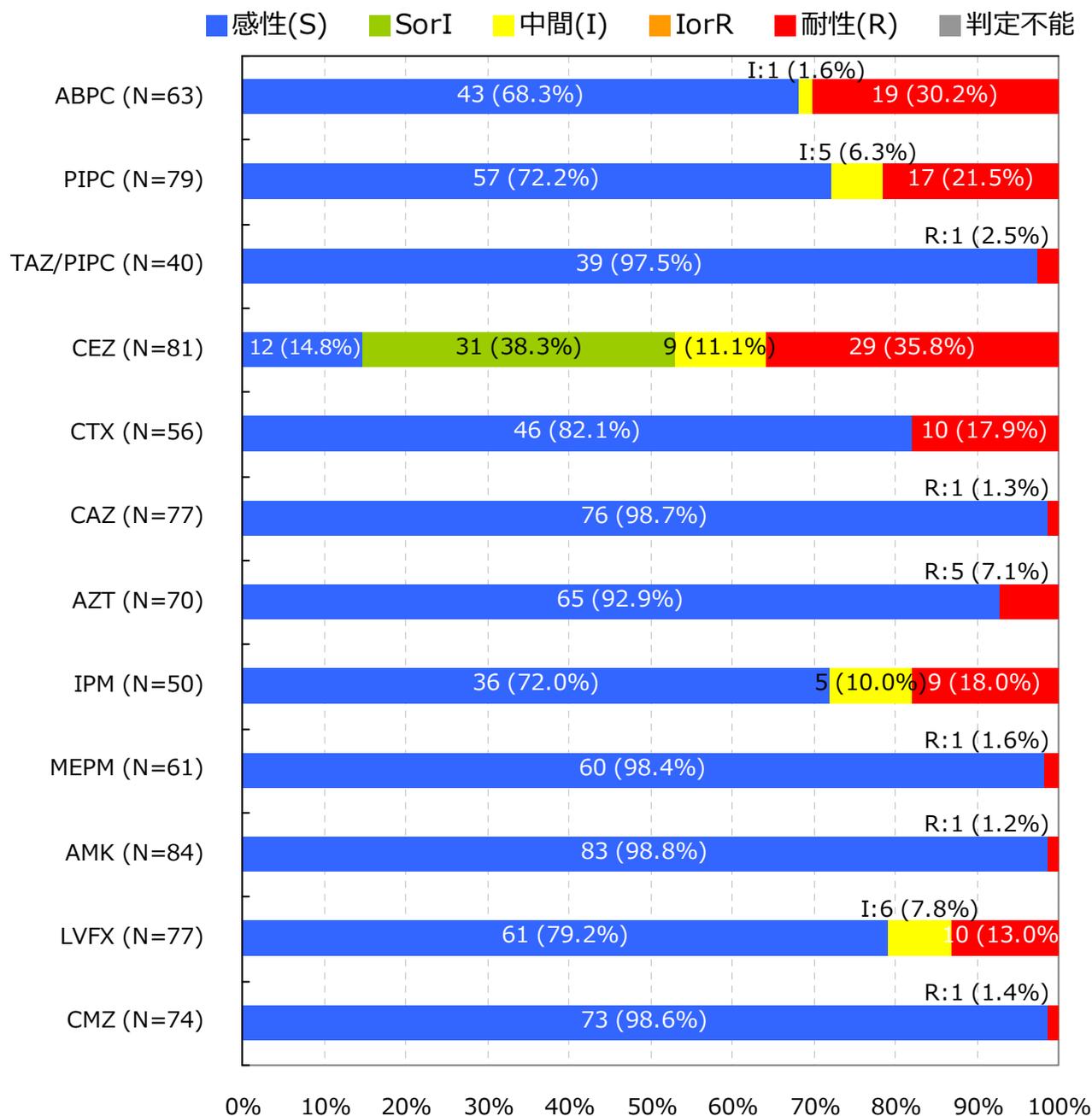
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

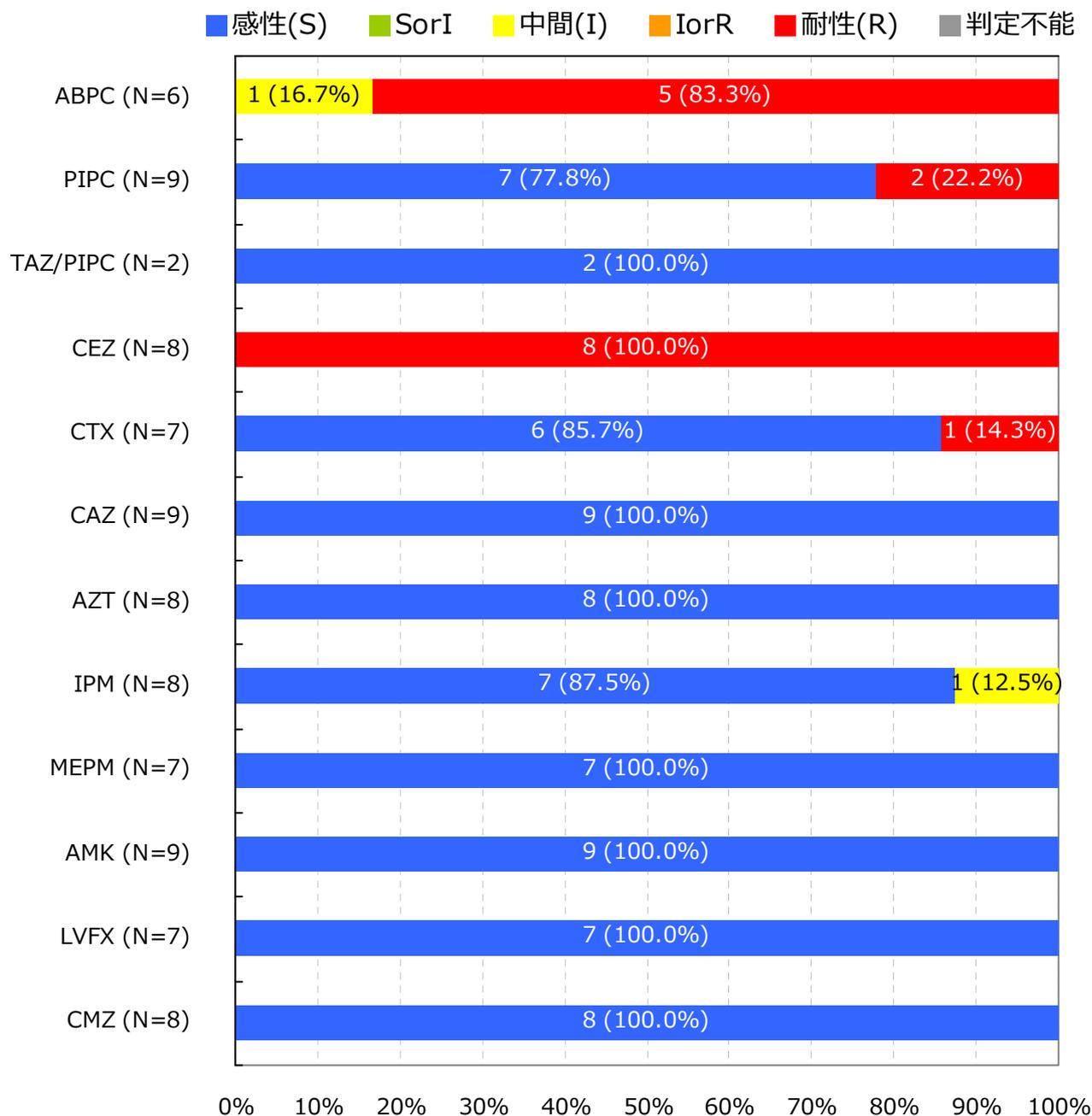
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

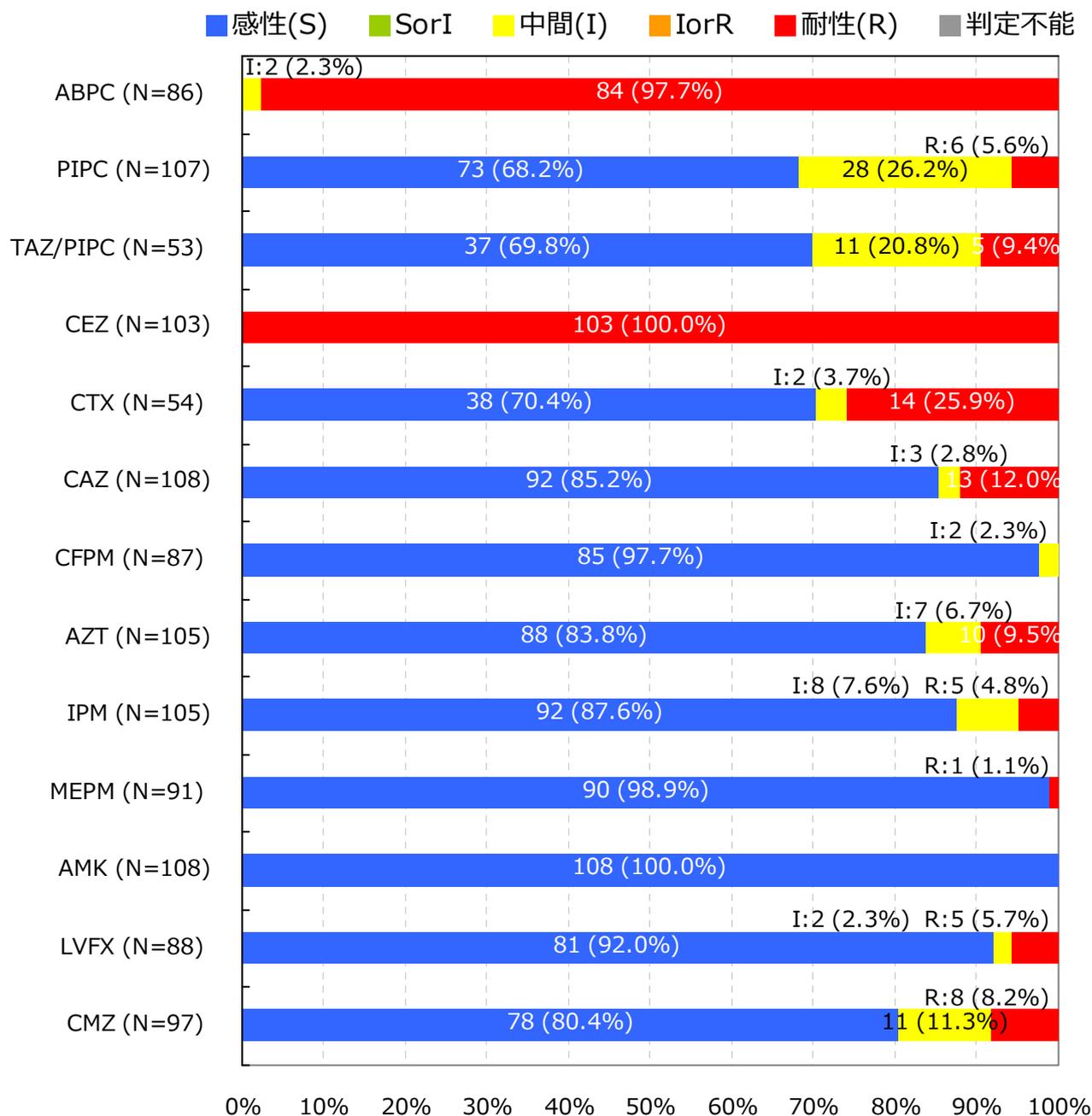
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

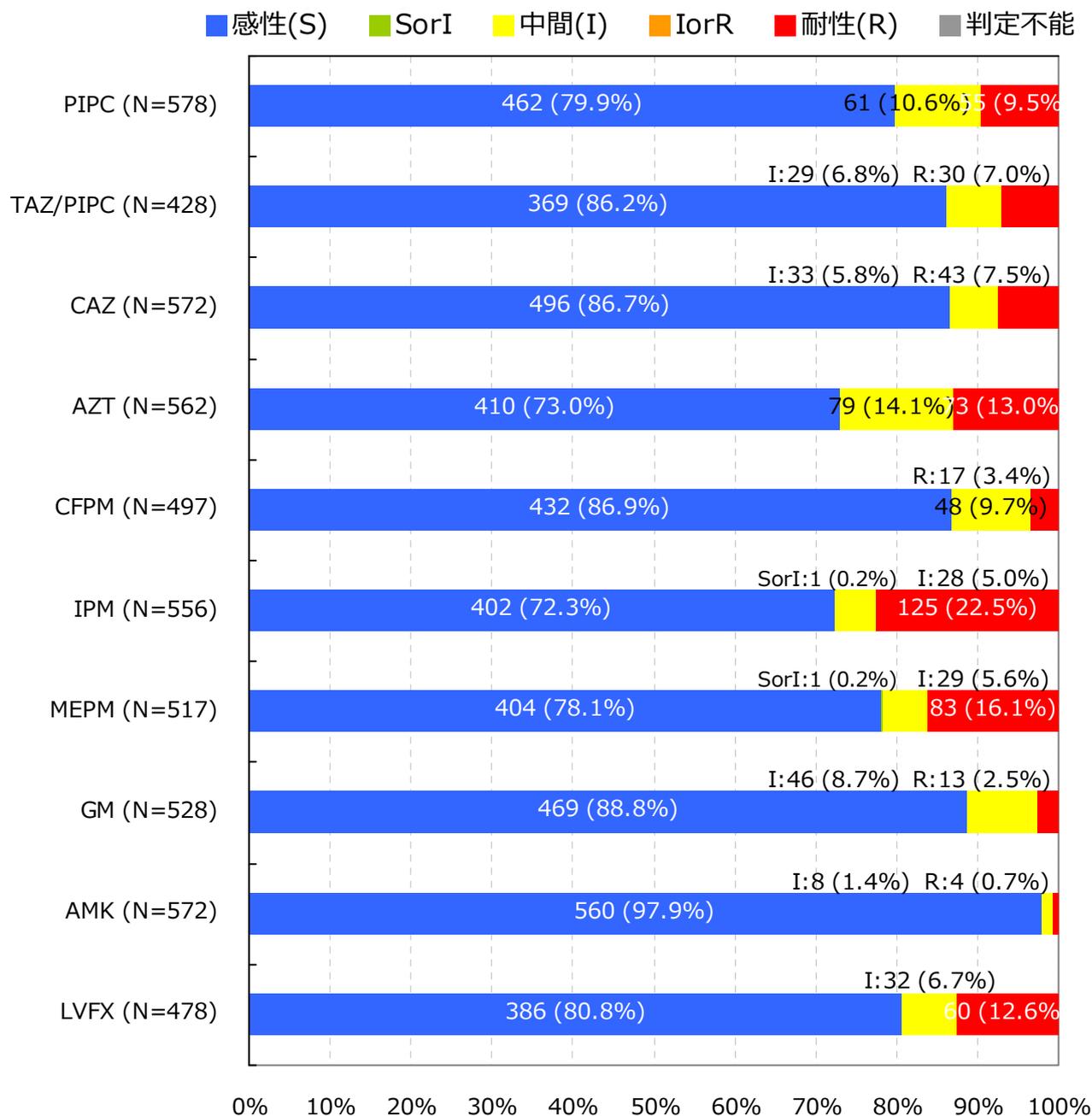
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

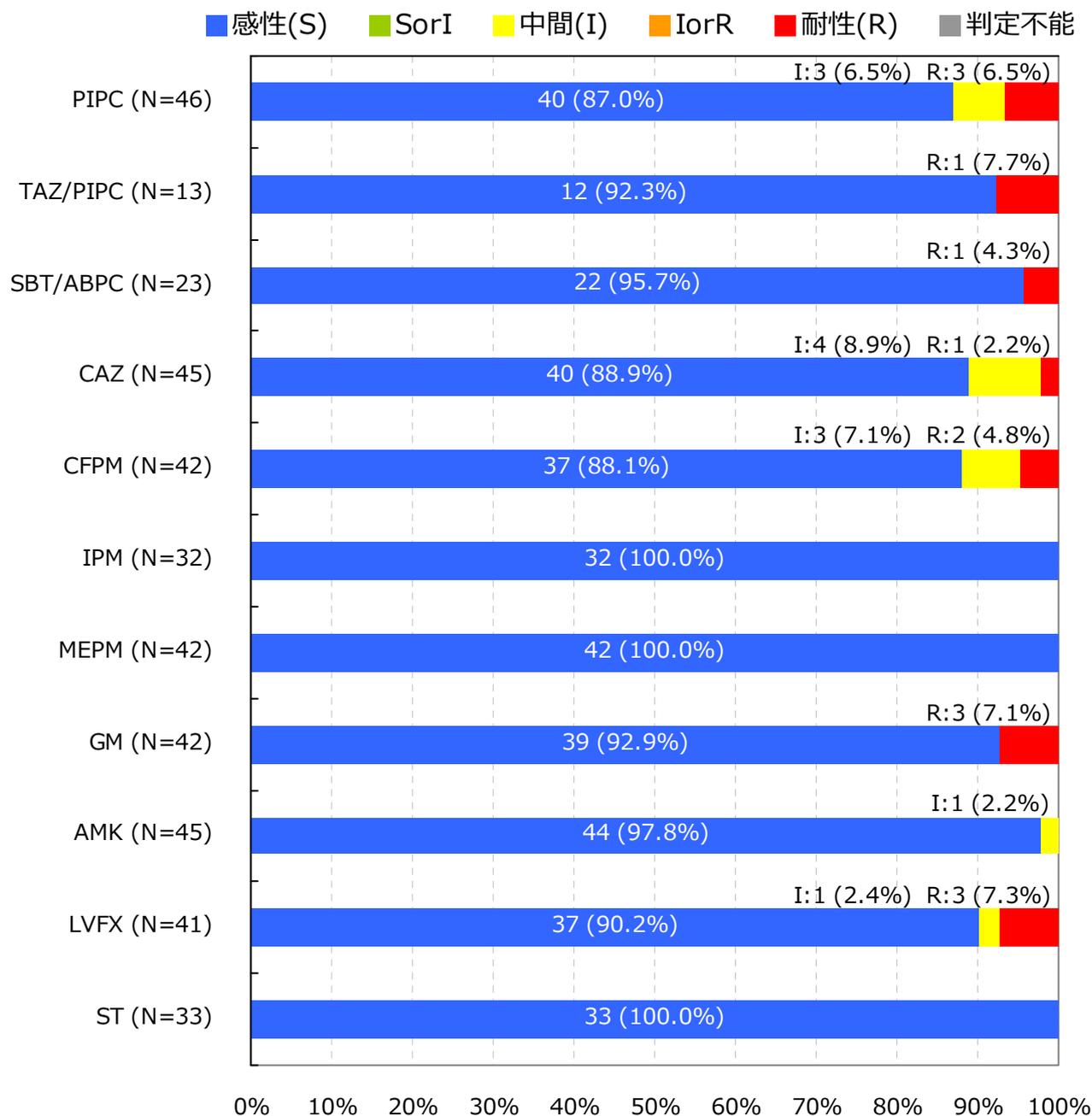
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

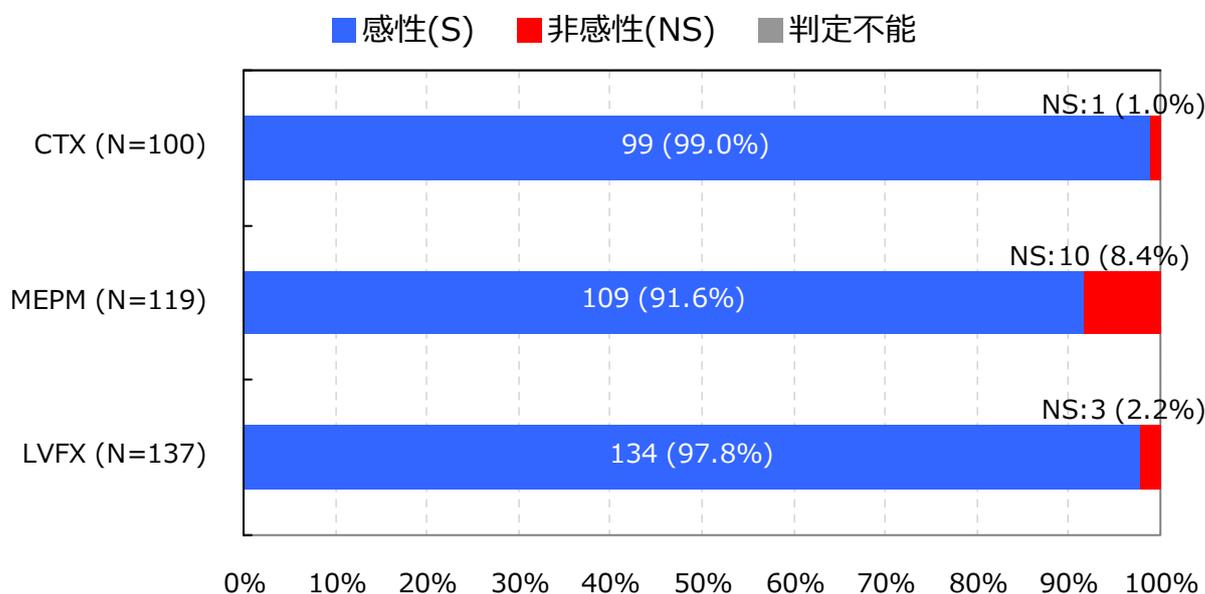
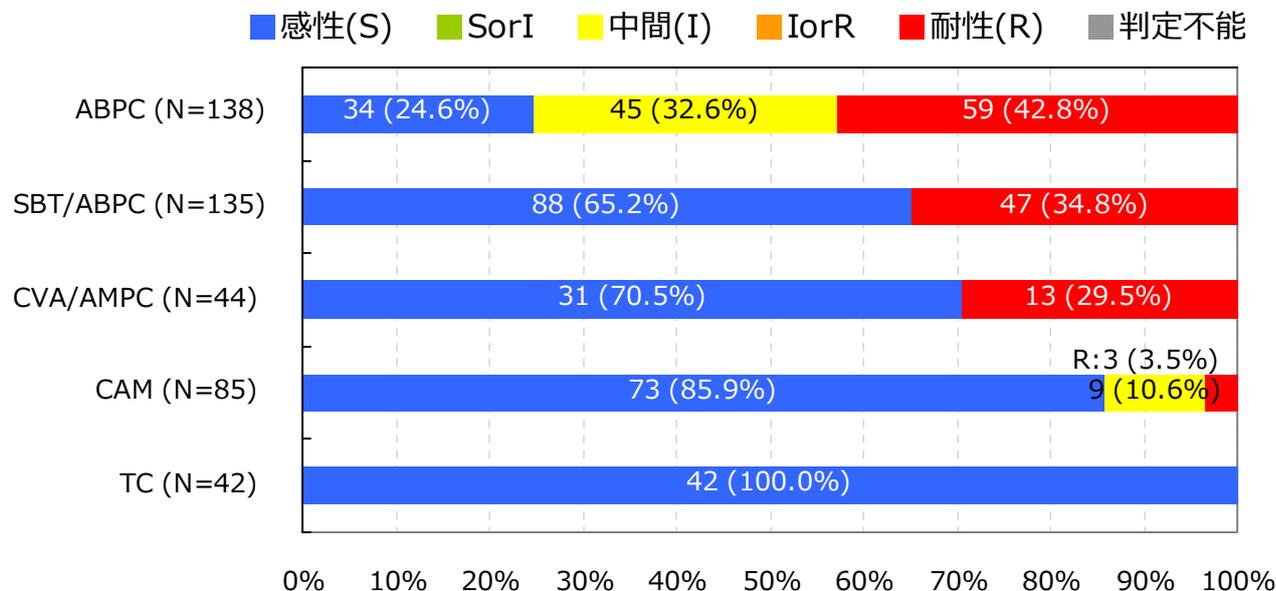
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌



### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料 1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

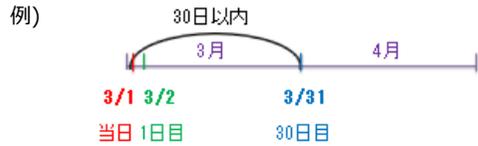
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

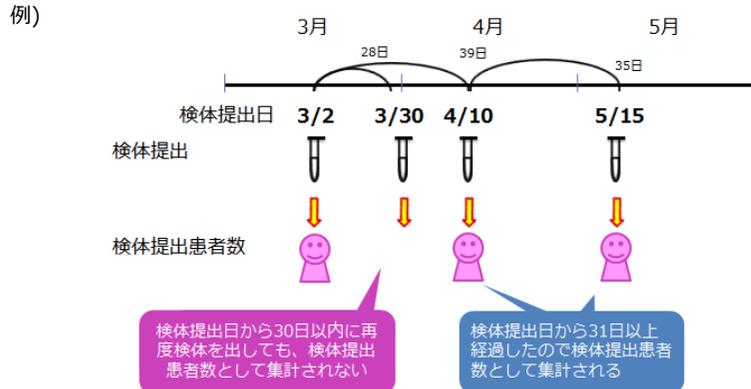
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



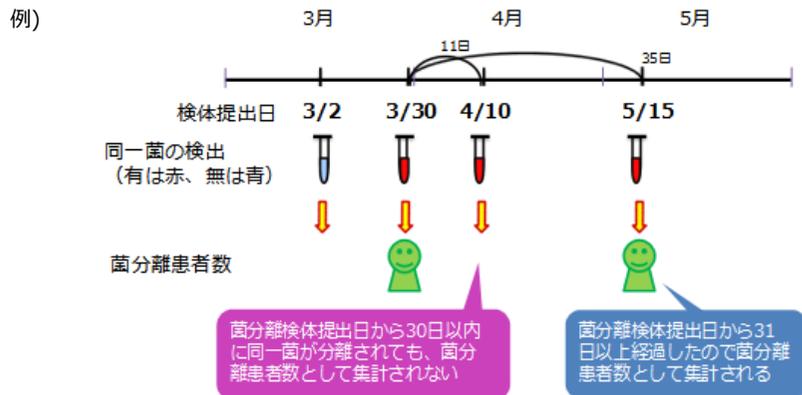
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



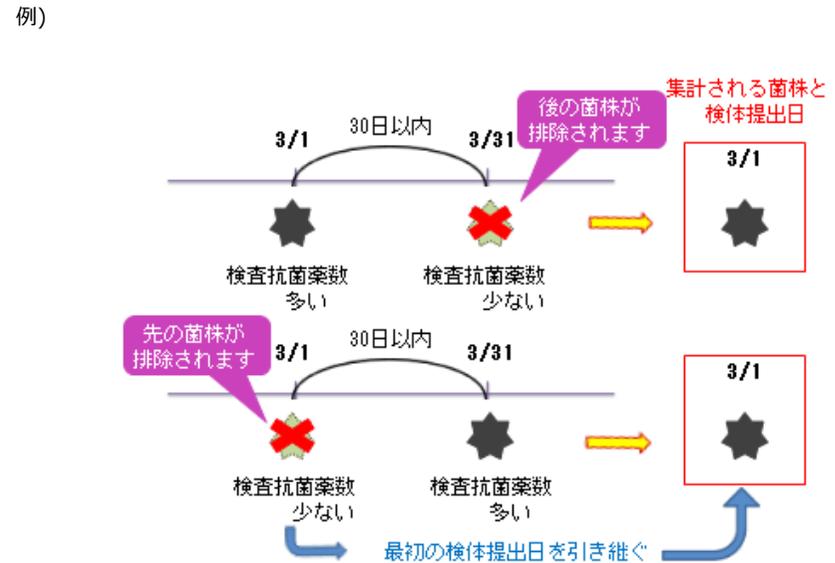
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC  $\geq$  4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC  $\leq$  16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

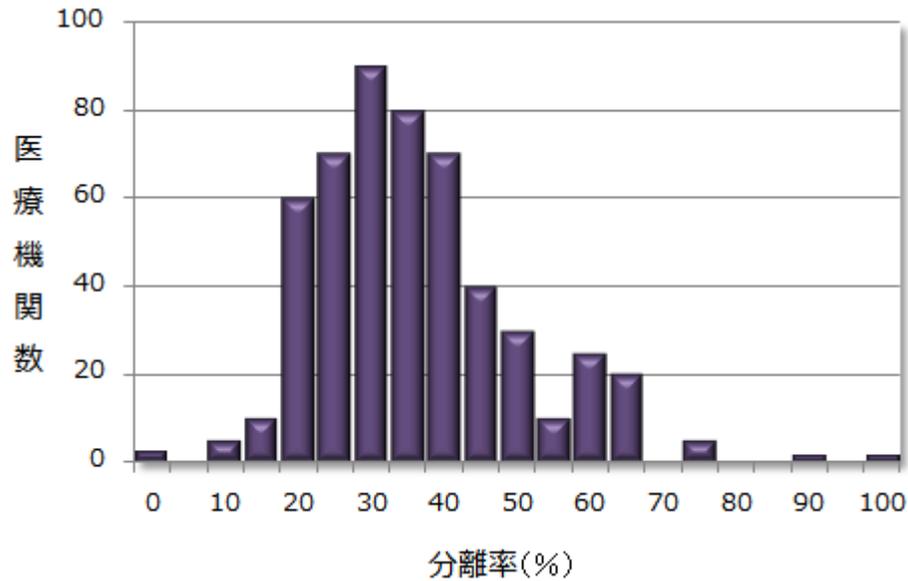
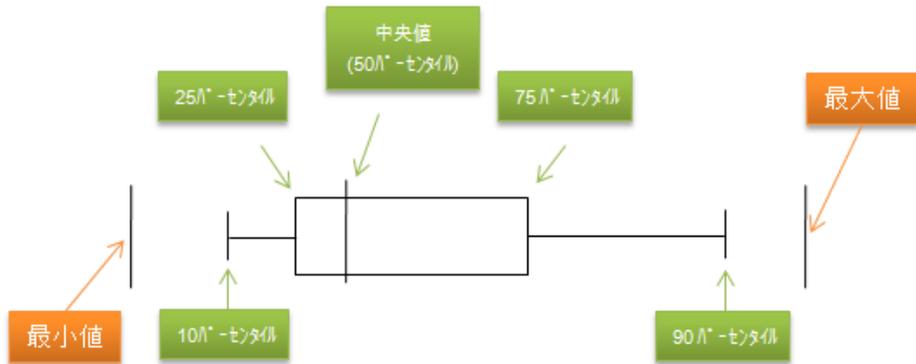
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

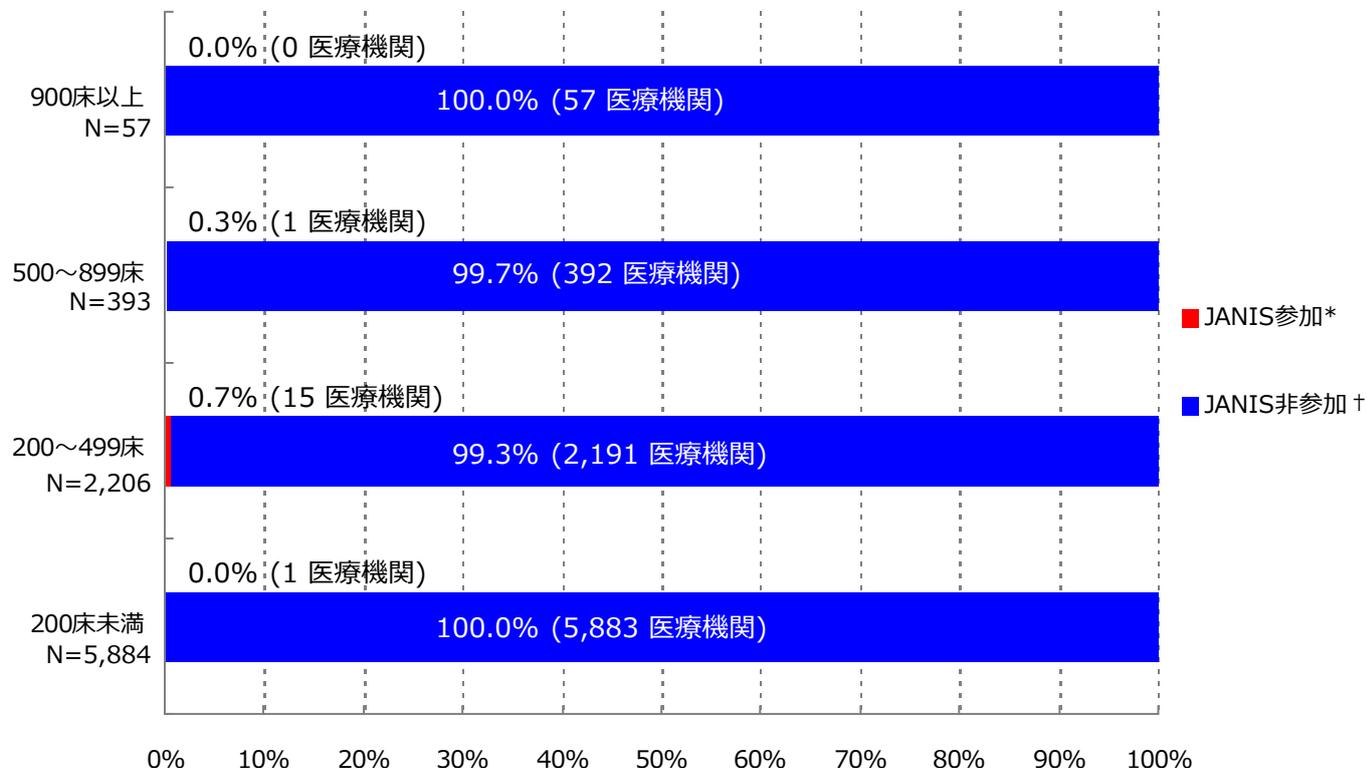
2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |



### 1. 集計対象医療機関数(17医療機関)



\*JANIS参加 = 2015年1～3月 集計対象医療機関数

† JANIS非参加 = (2013年 全国医療機関数 †) - (2015年1～3月 集計対象医療機関数)

| 病床数      | 2013年 全国医療機関数 † | 2015年1月～3月 集計対象医療機関数<br>(全国医療機関数に占める割合) |          |
|----------|-----------------|---|----------|
|          |                 | 数                                       | 割合       |
| 900床以上   | 57              | 0                                       | ( 0.0% ) |
| 500～899床 | 393             | 1                                       | ( 0.3% ) |
| 200～499床 | 2,206           | 15                                      | ( 0.7% ) |
| 200床未満   | 5,884           | 1                                       | ( 0.0% ) |
| 病床数不明    | -               | 0                                       | ( - )    |
| 合計       | 8,540           | 17                                      | ( 0.2% ) |

† 平成25年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

| 検査材料分類 | 集計対象医療機関数 | 検体数    | 陽性検体数<br>(分離菌数)    |
|--------|-----------|--------|--------------------|
| 呼吸器系検体 | 17        | 8,101  | 4,869<br>(8,786)   |
| 尿検体    | 17        | 5,934  | 2,884<br>(3,841)   |
| 便検体    | 17        | 1,666  | 114<br>(163)       |
| 血液検体   | 16        | 15,609 | 1,463<br>(1,588)   |
| 髄液検体   | 16        | 380    | 12<br>(12)         |
| その他    | 17        | 6,944  | 2,850<br>(4,582)   |
| 合計     | 17        | 38,634 | 12,192<br>(18,972) |

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

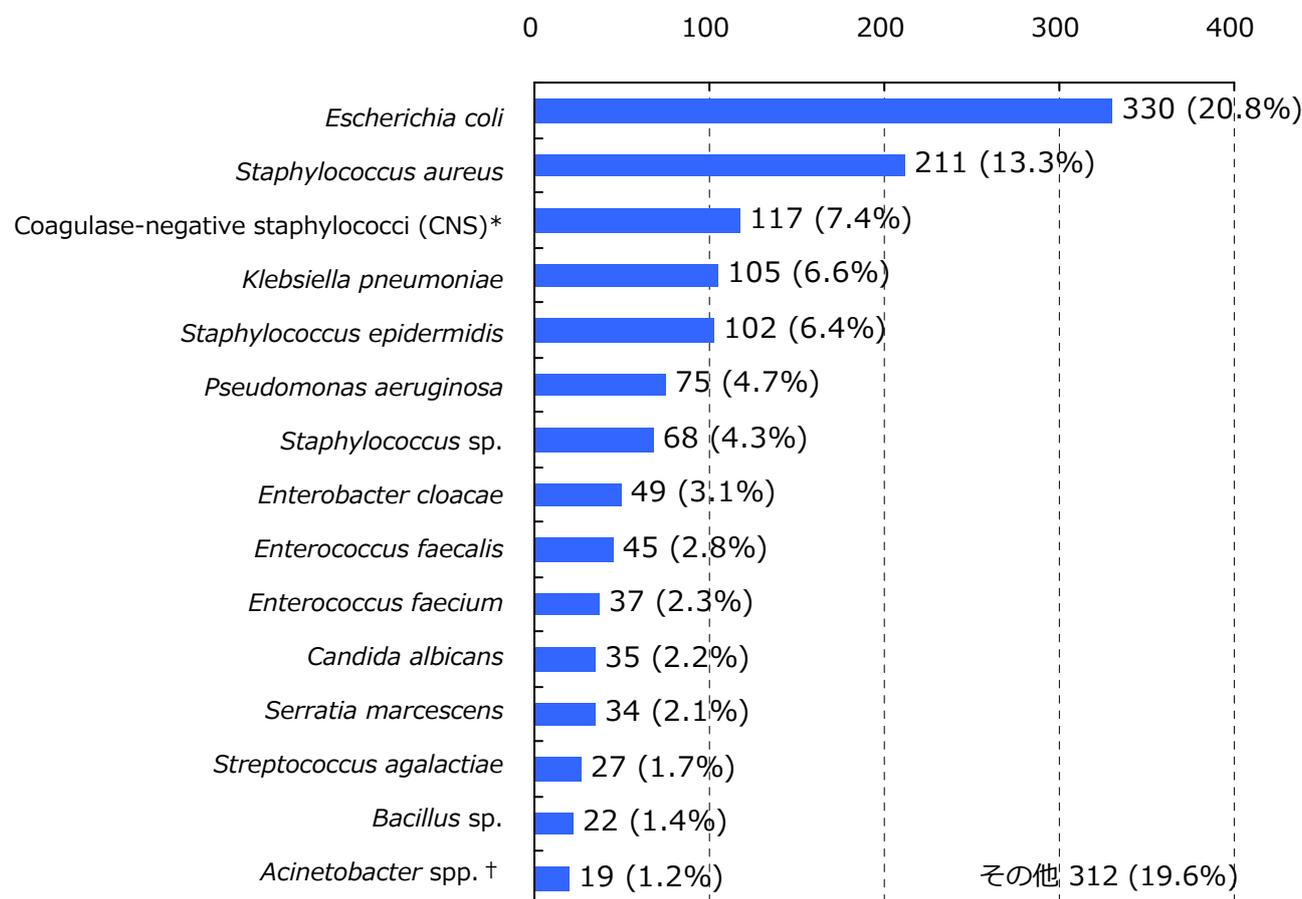
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=1,588)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

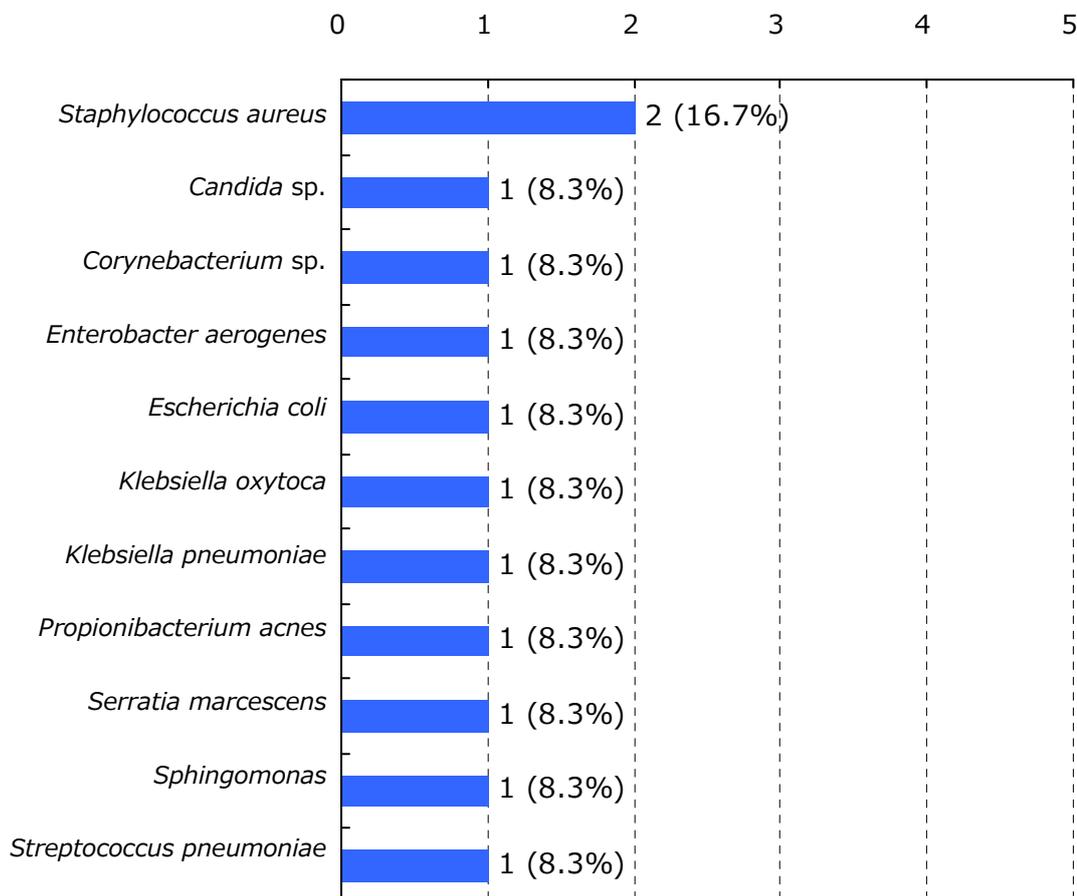
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=12)



入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

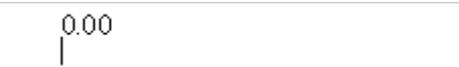
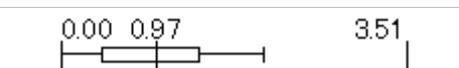
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

|                        | 検体提出・菌分離患者数<br>全体の分離率‡ | 集計対象医療機関の<br>分離率¶(%)の分布   |
|------------------------|------------------------|---|
| 検体提出患者数                | 11,132人                |   |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)   | 659人<br>(5.92%)        | 0.00 6.09 20.61<br>  |
| バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>             |
| バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)      | 4人<br>(0.04%)          | 0.00 0.00 0.57<br>   |
| ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)      | 80人<br>(0.72%)         | 0.00 0.75 2.60<br>   |
| 多剤耐性緑膿菌(MDRP)          | 3人<br>(0.03%)          | 0.00 0.00 0.17<br>  |
| 多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)    | 0人<br>(0.00%)          | 0.00<br>           |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)   | 44人<br>(0.40%)         | 0.00 0.12 1.91<br> |
| カルバペネム耐性緑膿菌            | 105人<br>(0.94%)        | 0.00 0.97 3.51<br> |
| 第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌     | 73人<br>(0.66%)         | 0.00 0.61 2.60<br> |
| 第三世代セファロスポリン耐性大腸菌      | 289人<br>(2.60%)        | 0.00 2.24 7.85<br> |
| フルオロキノロン耐性大腸菌          | 381人<br>(3.42%)        | 0.00 2.63 9.48<br> |

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

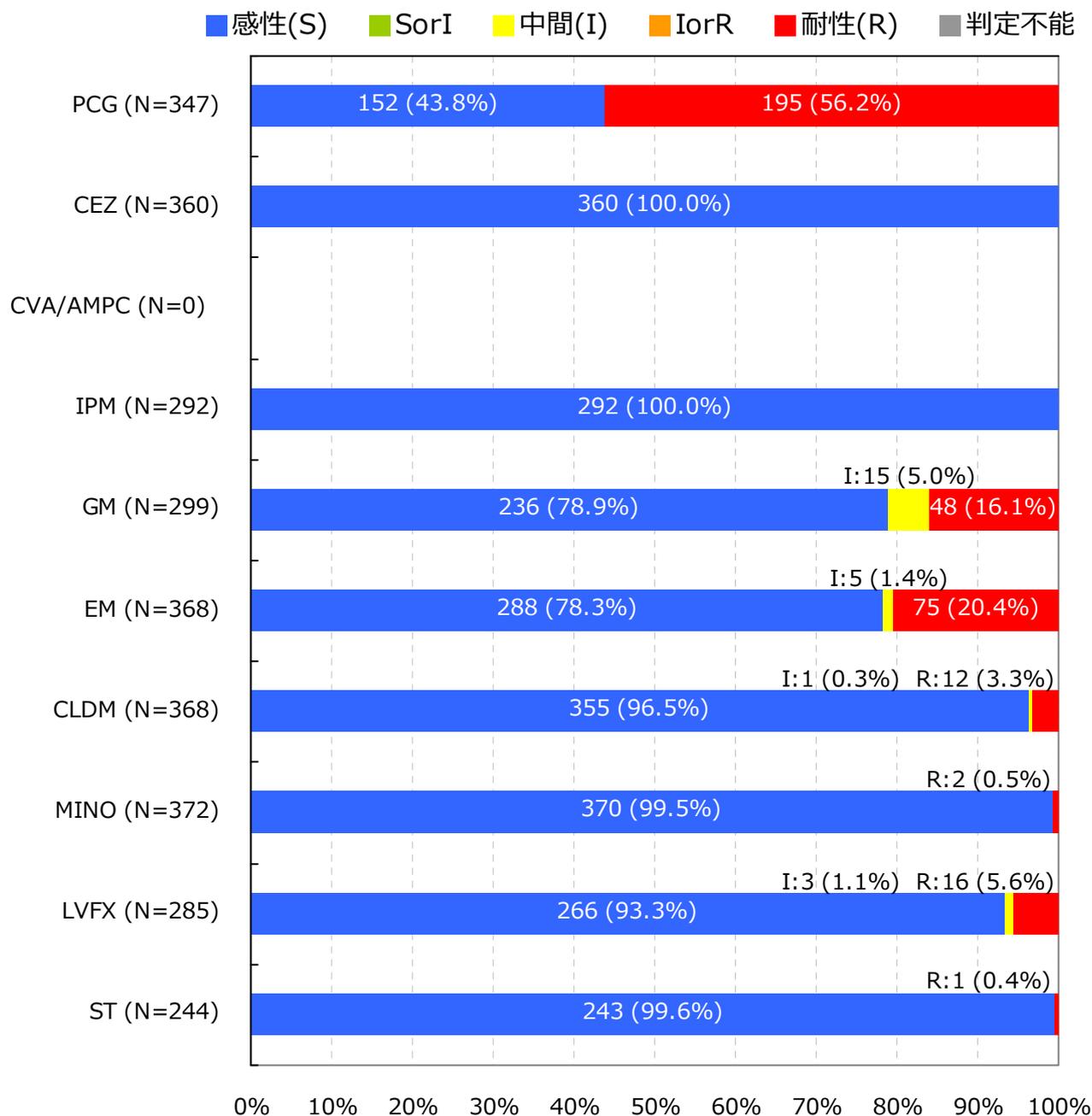
‡全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

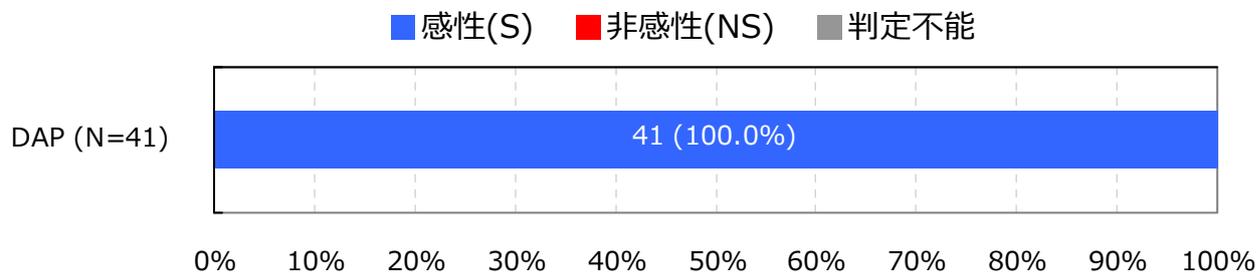
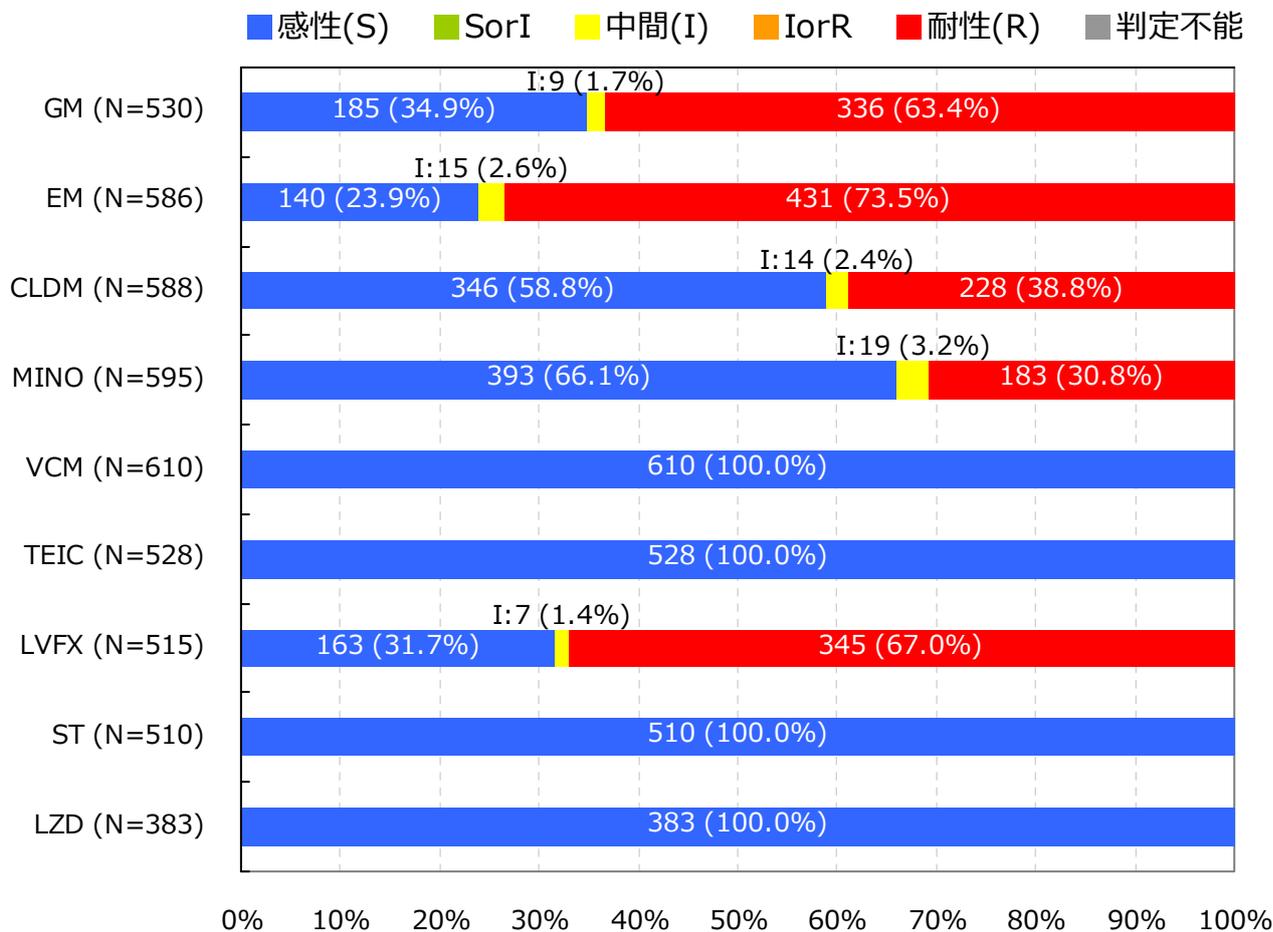
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

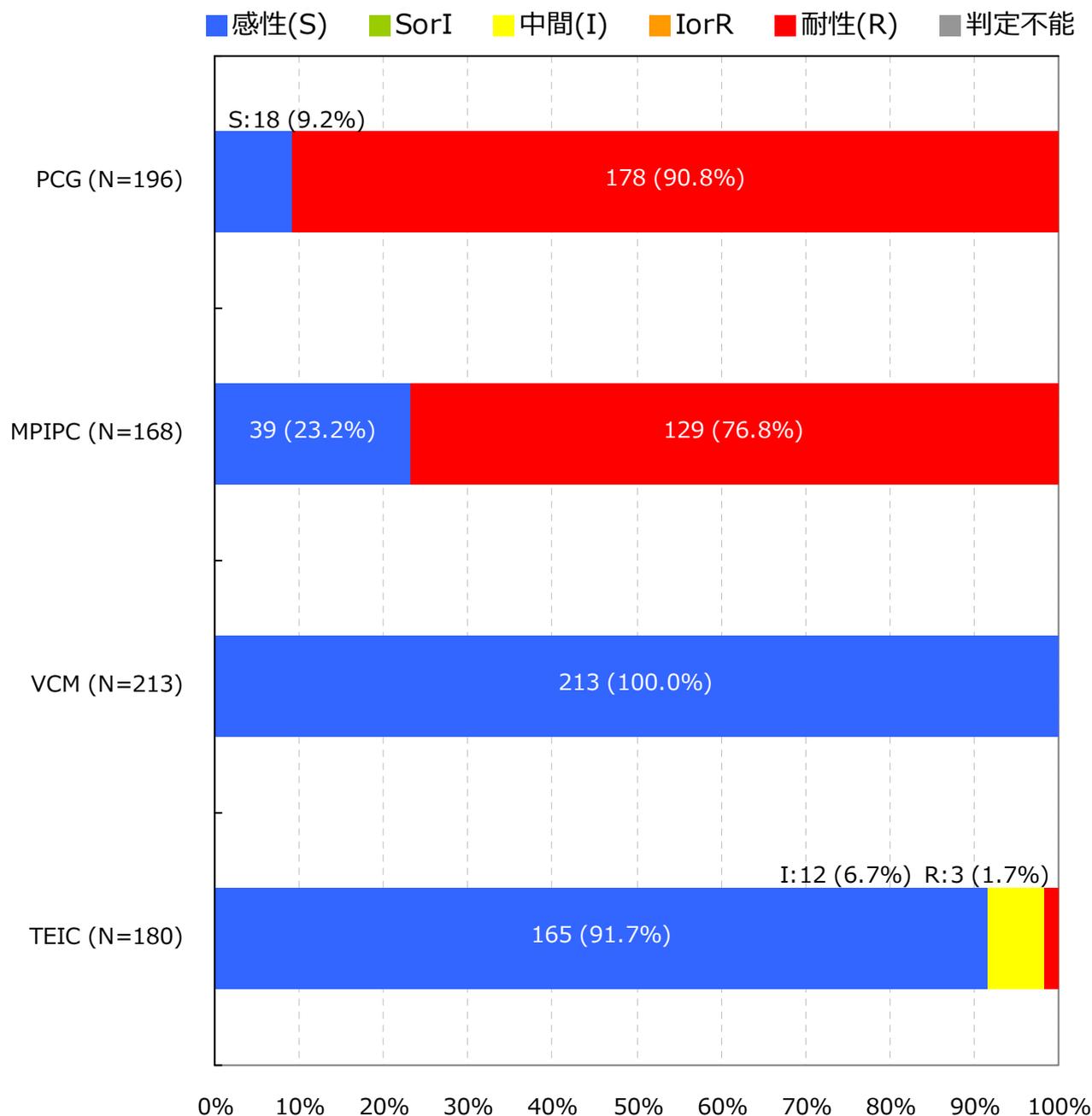
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

†菌名コード: 1303と報告された菌および菌名コード: 1301と報告され抗菌薬コード: 1208 (オキサシリン)の感受性結果「R」の菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

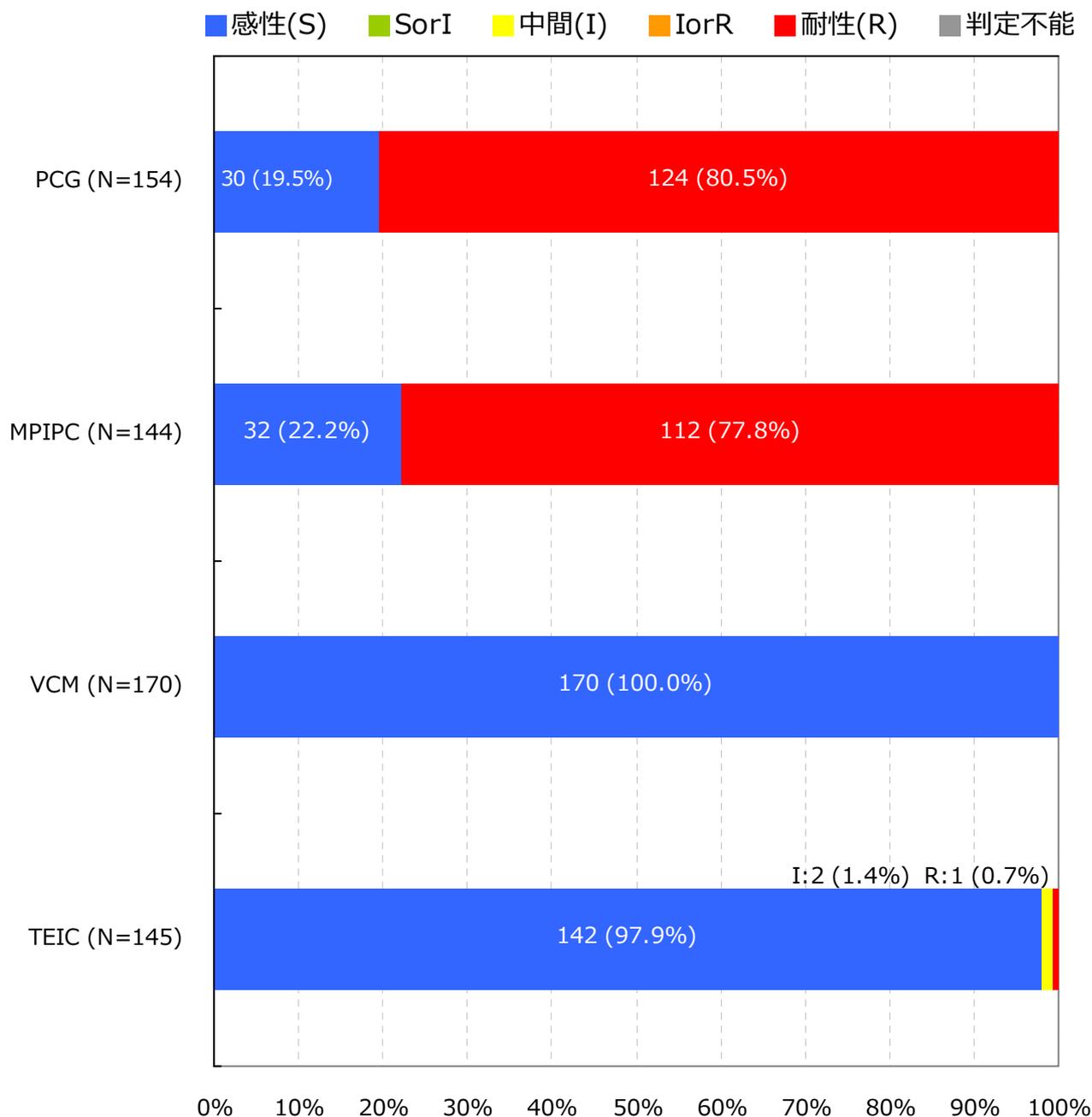
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



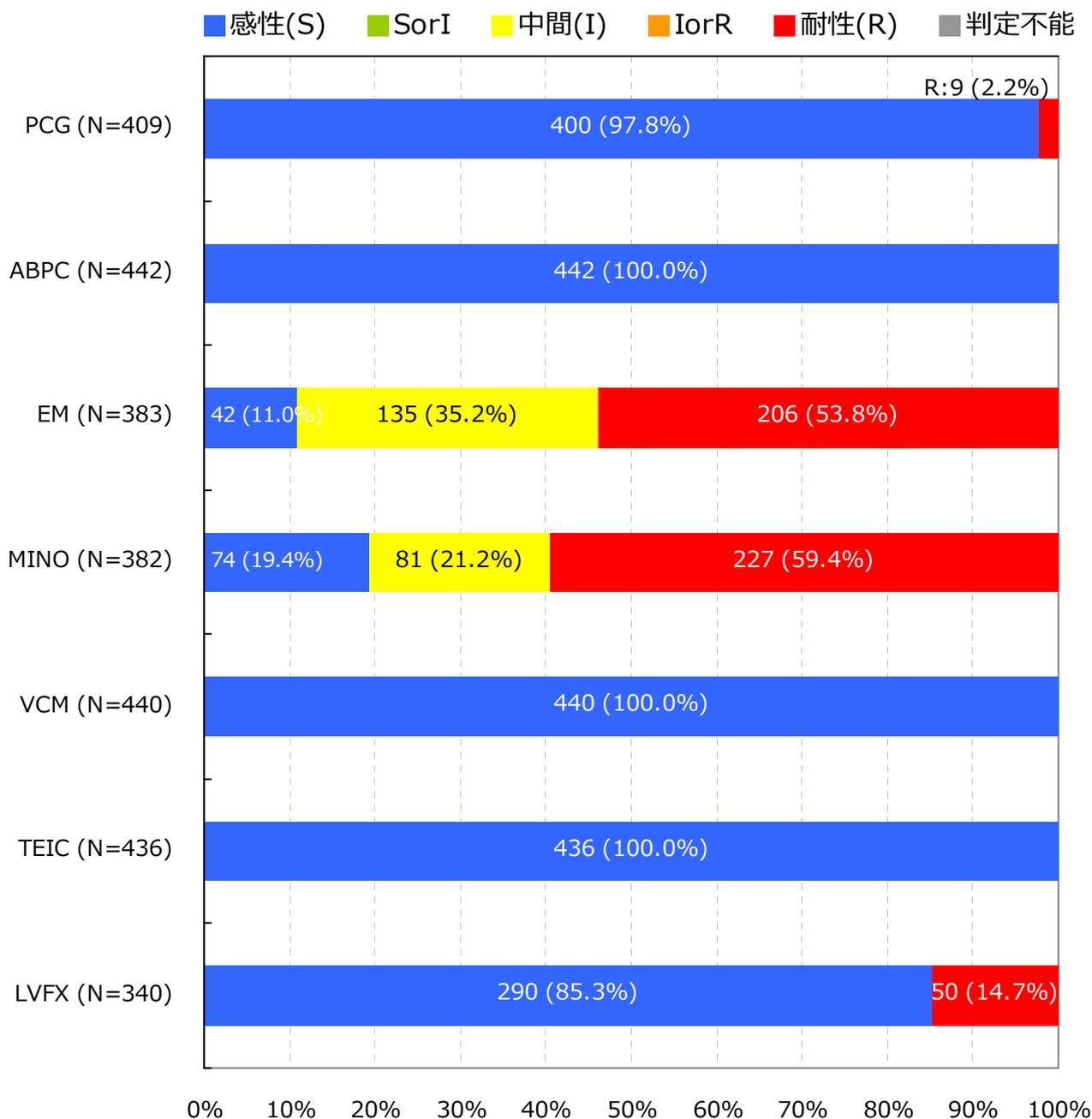
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

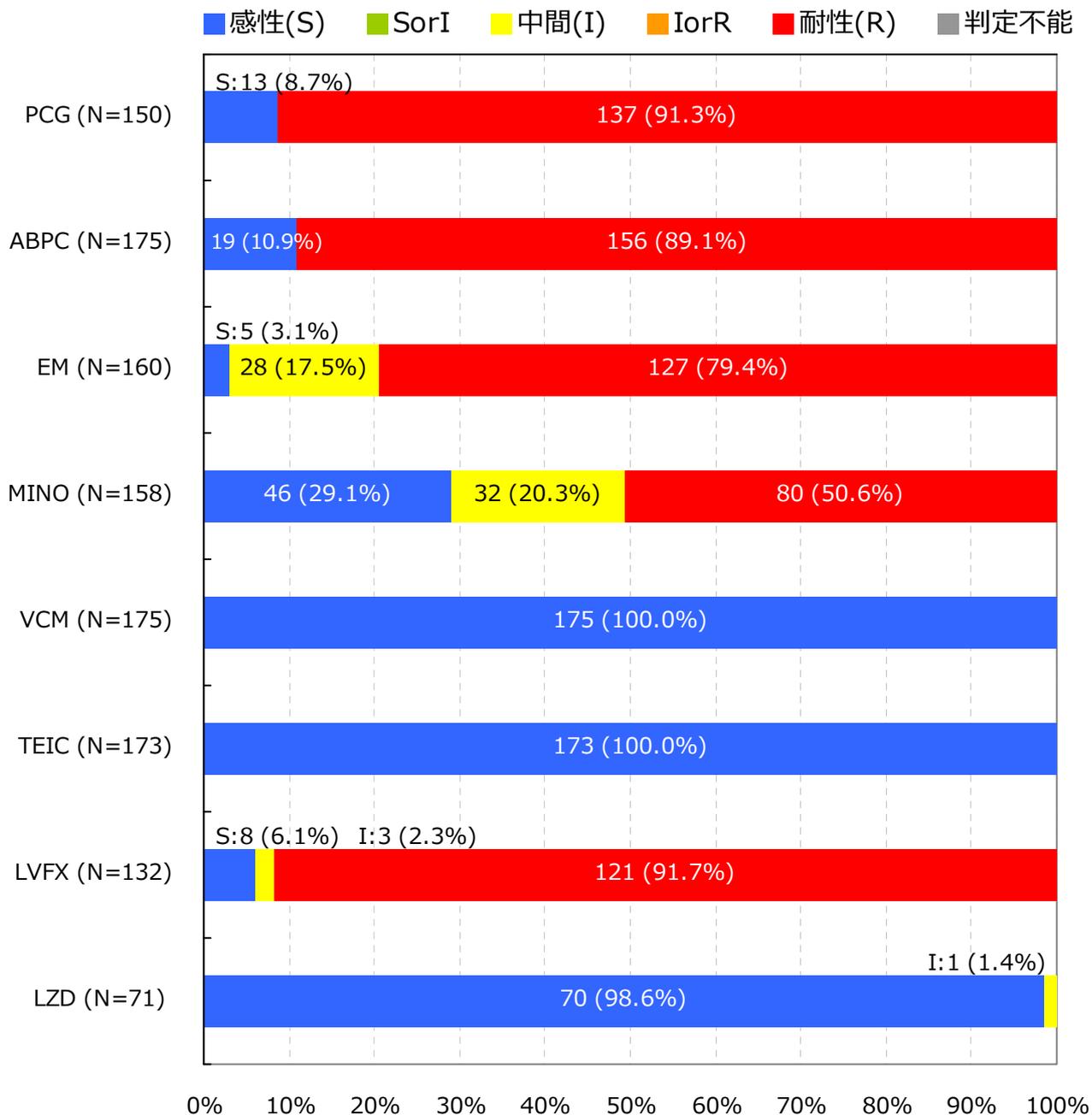
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

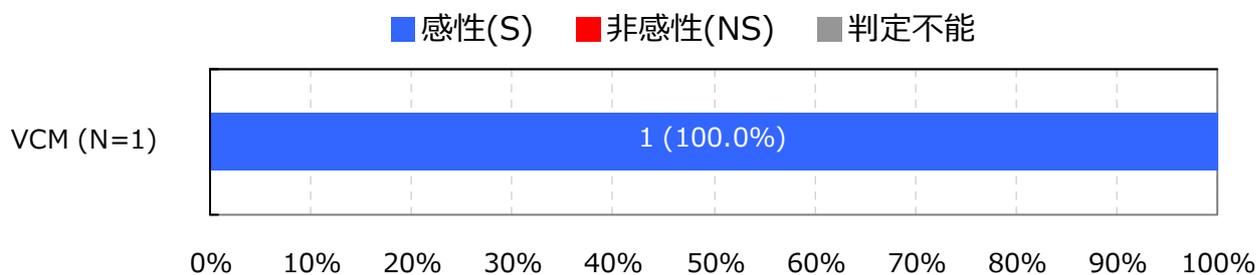
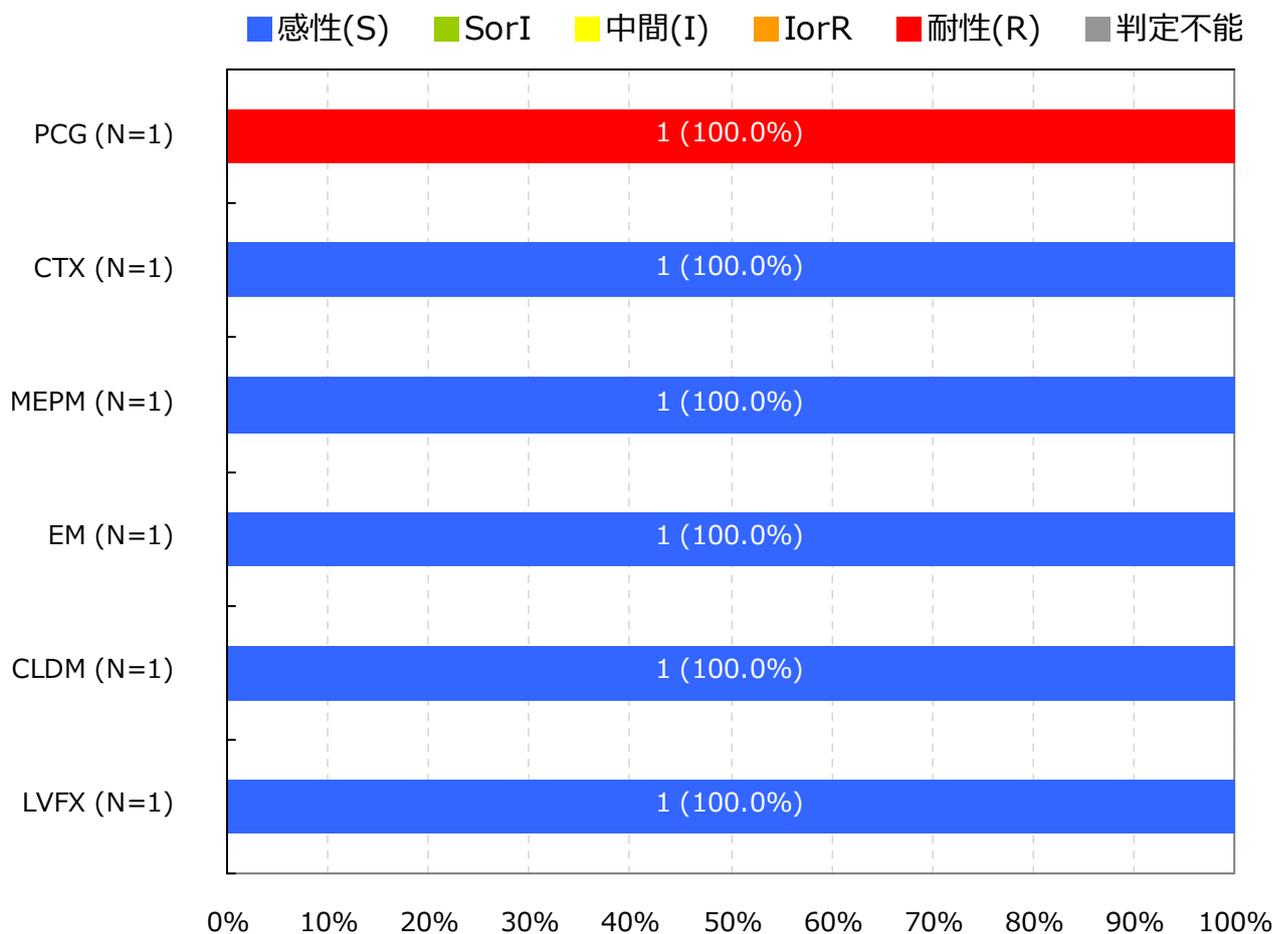
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

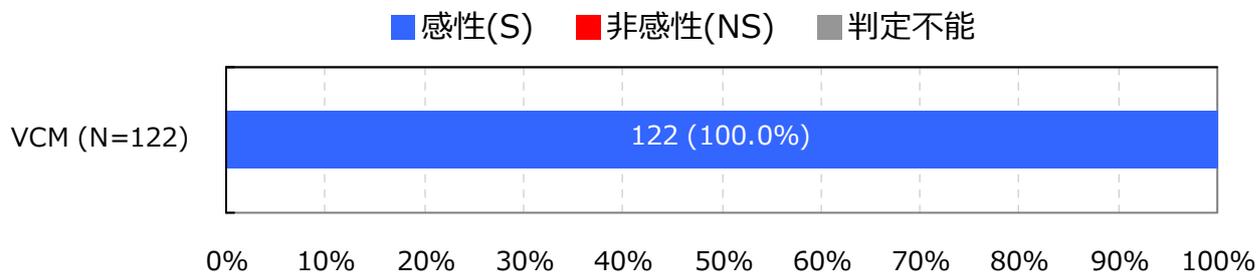
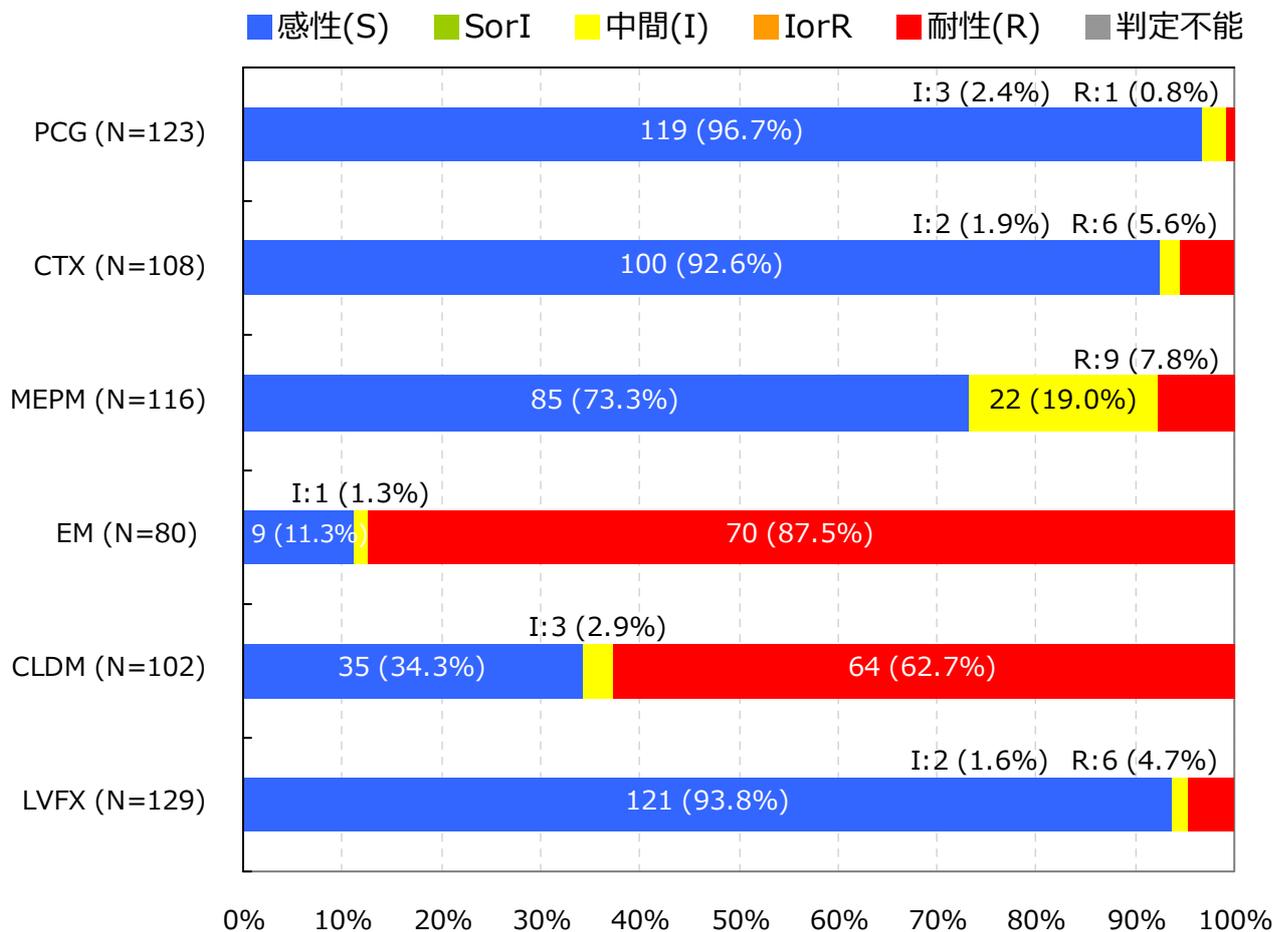
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

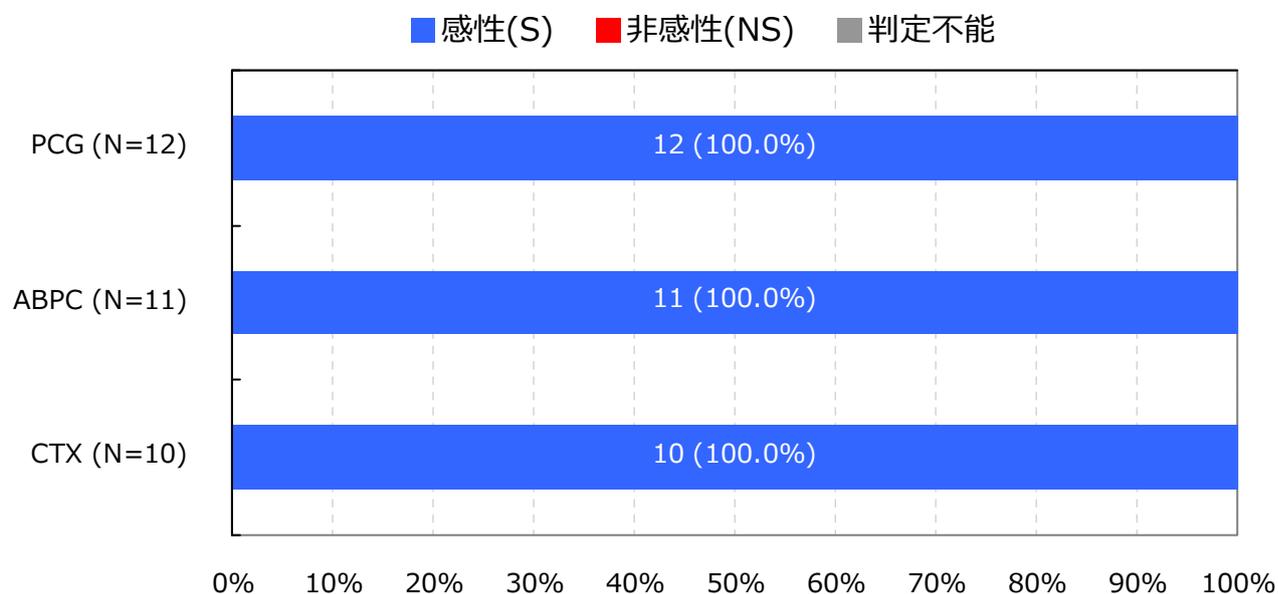
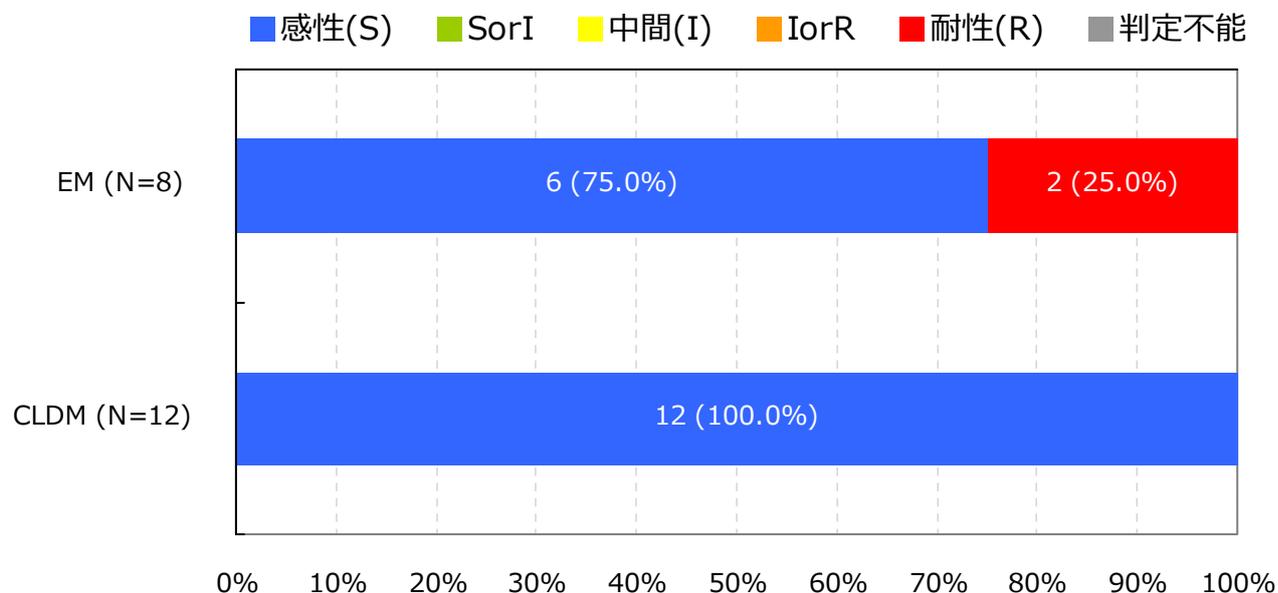
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

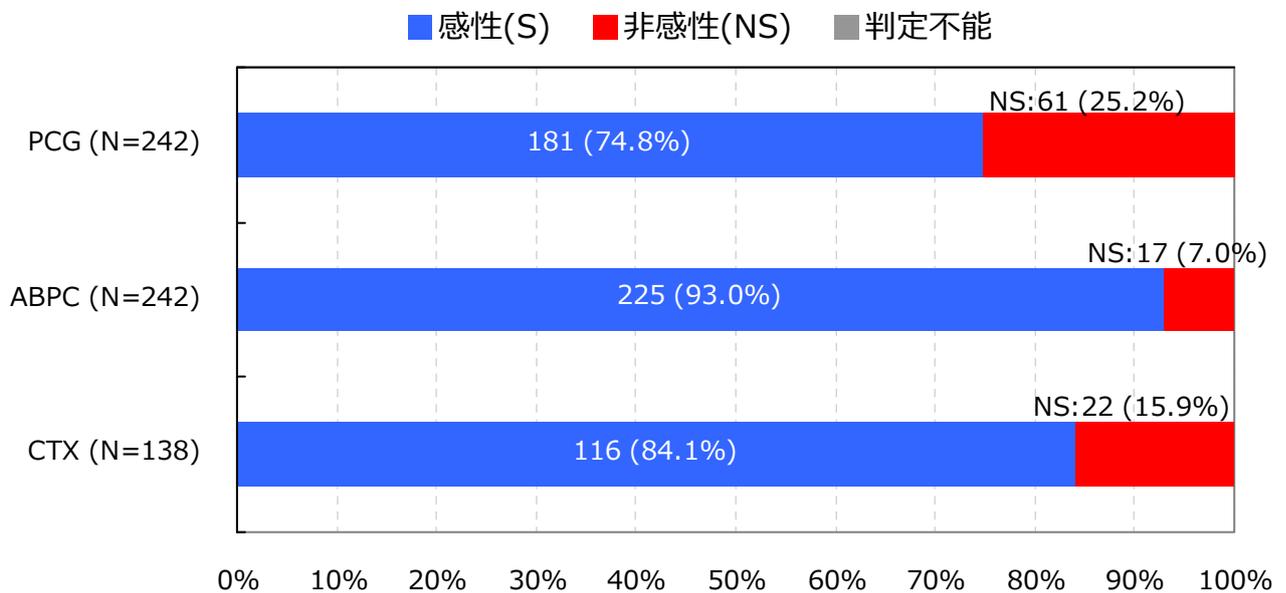
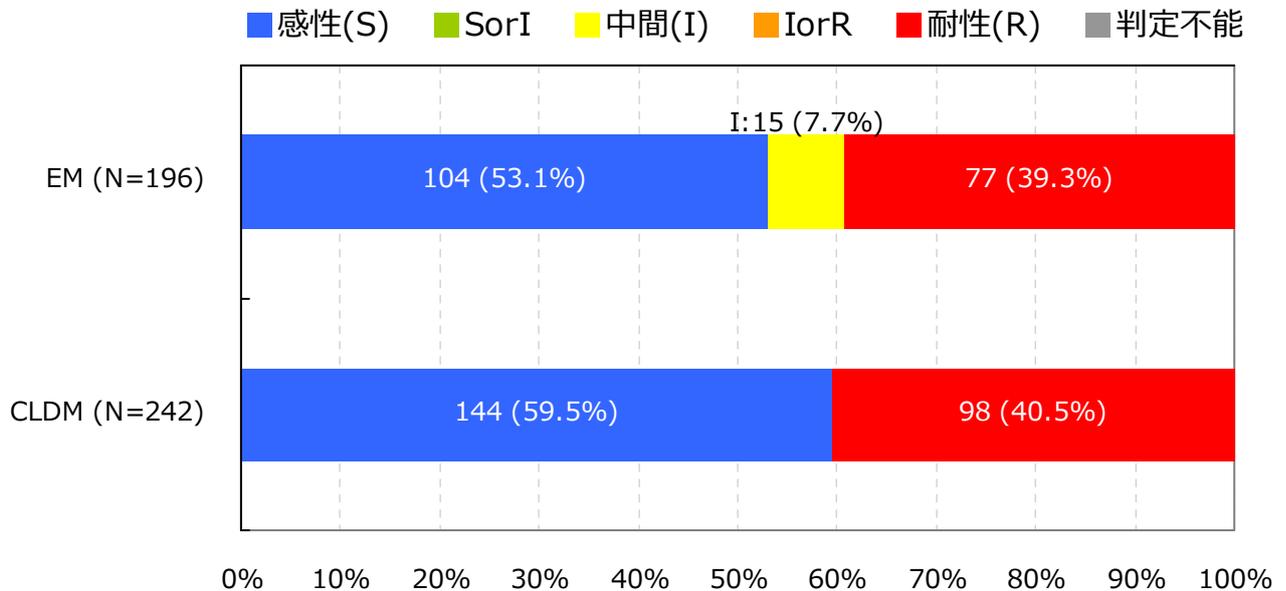
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



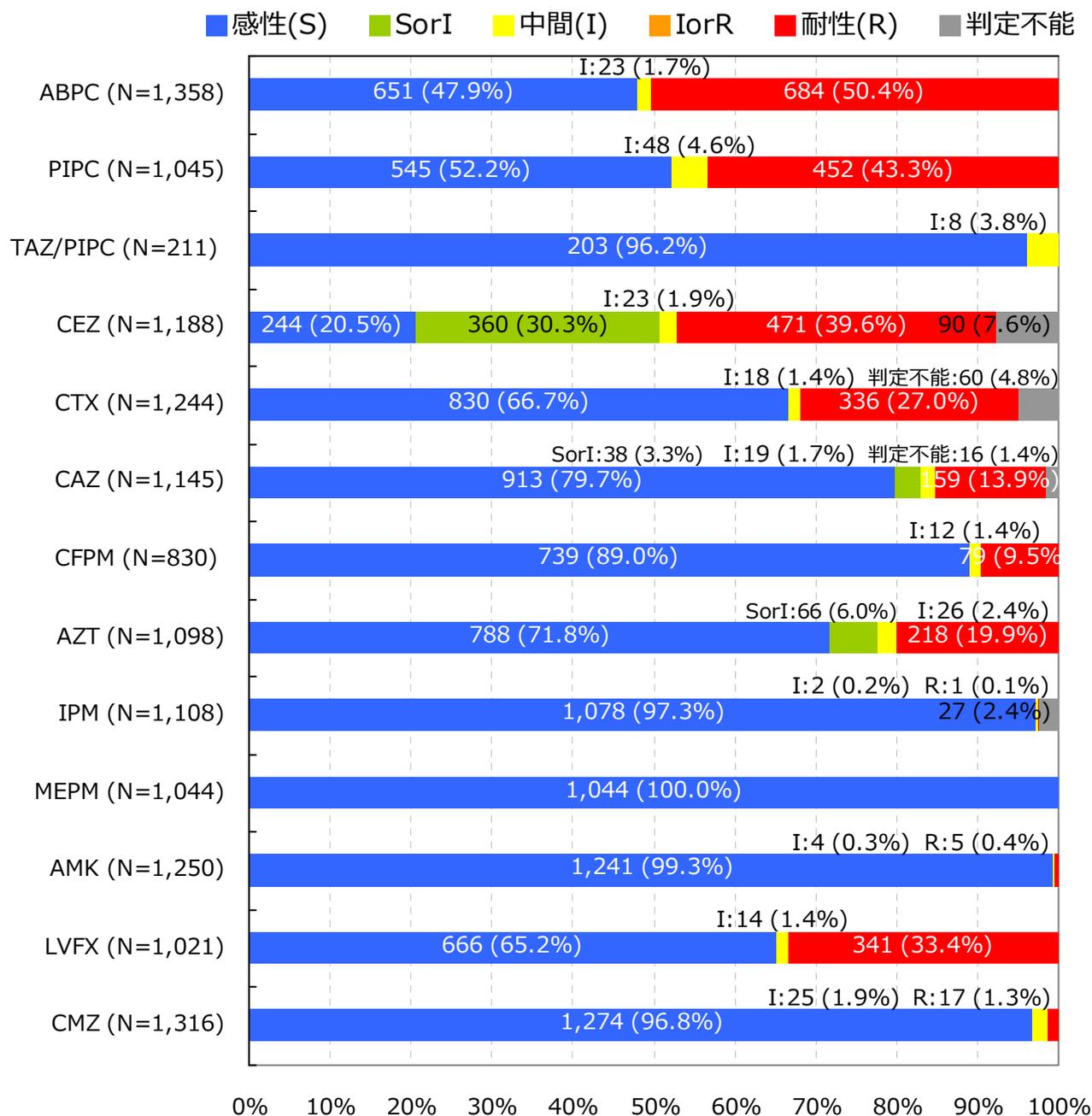
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

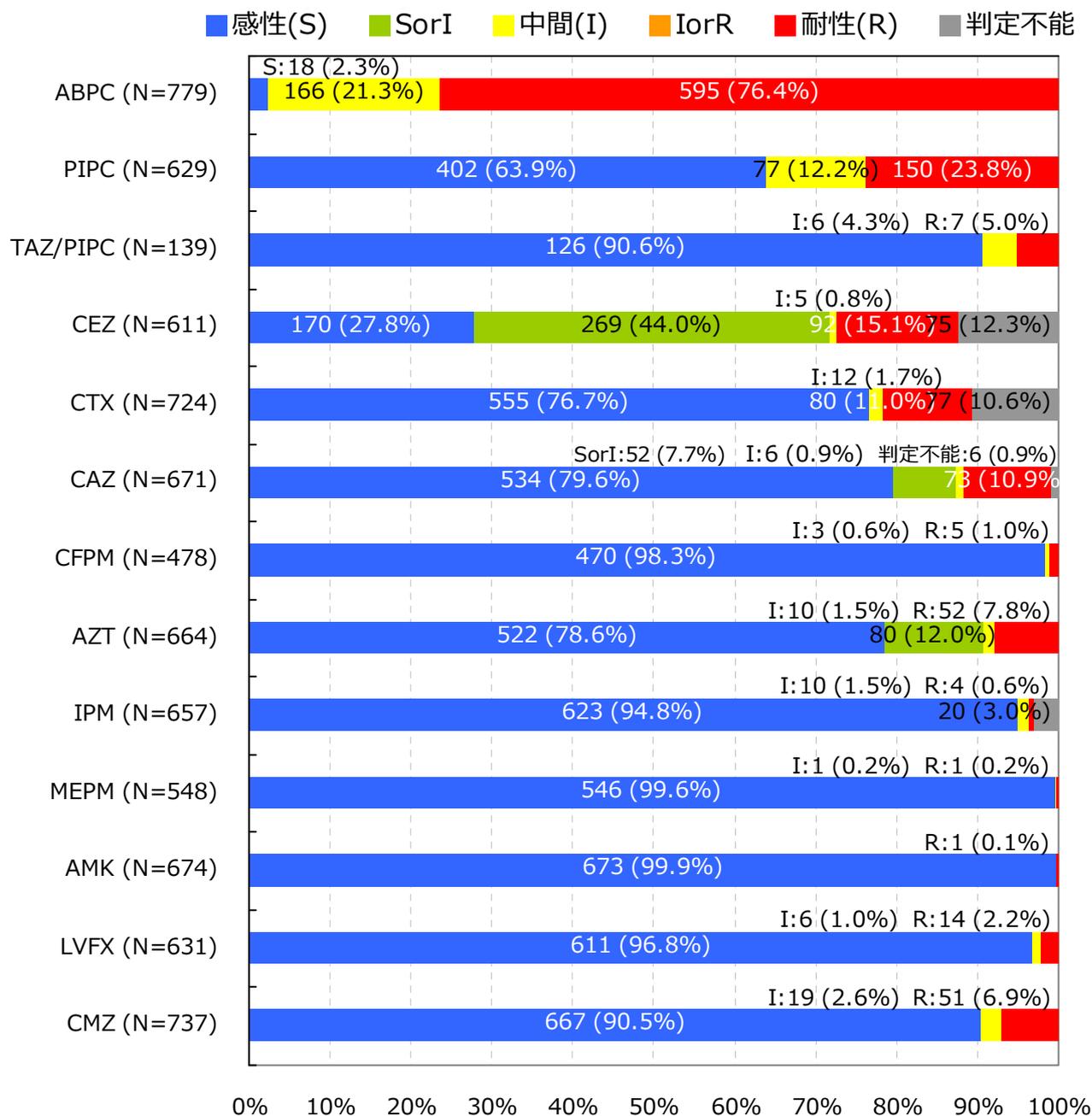
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

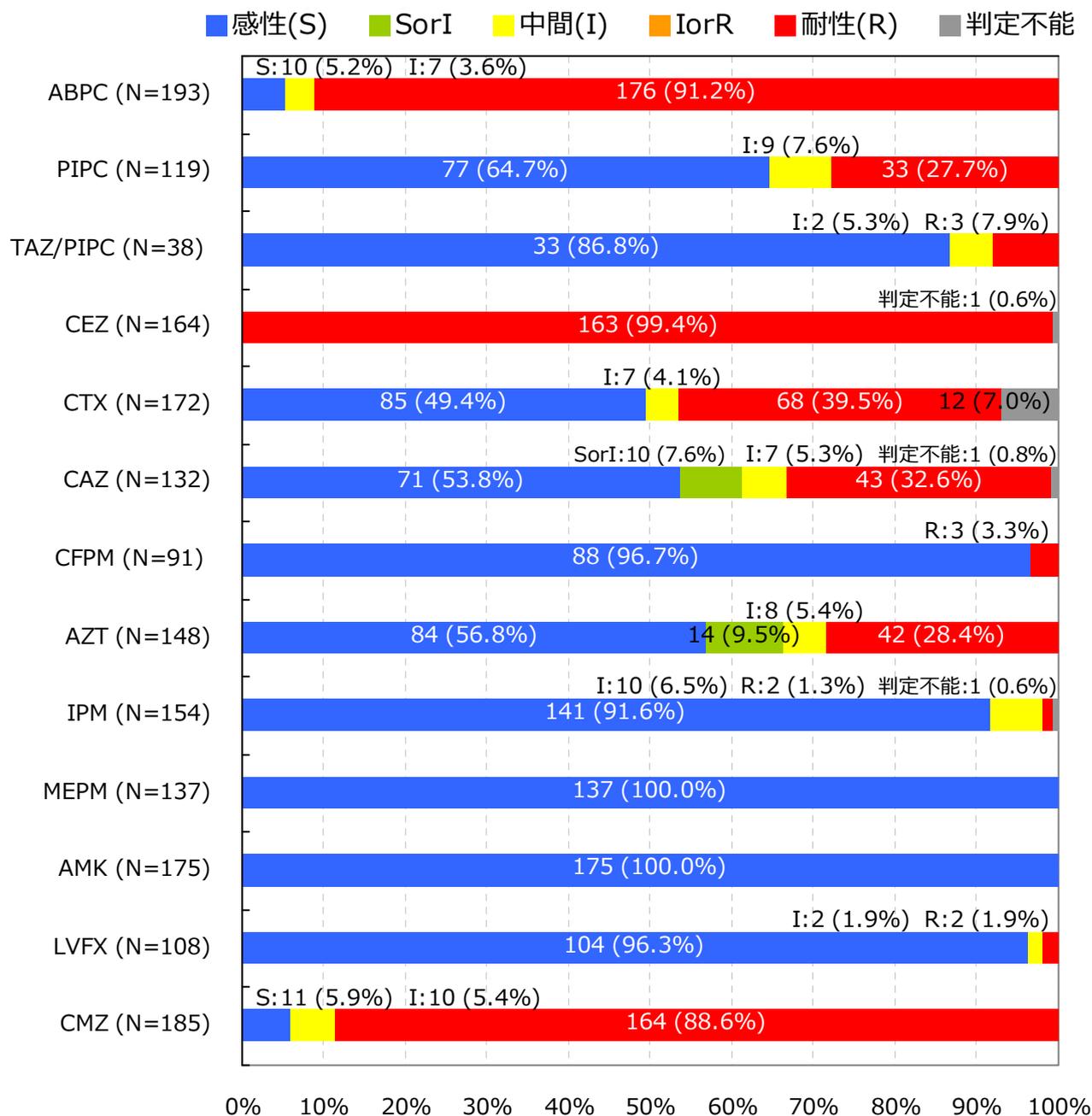
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

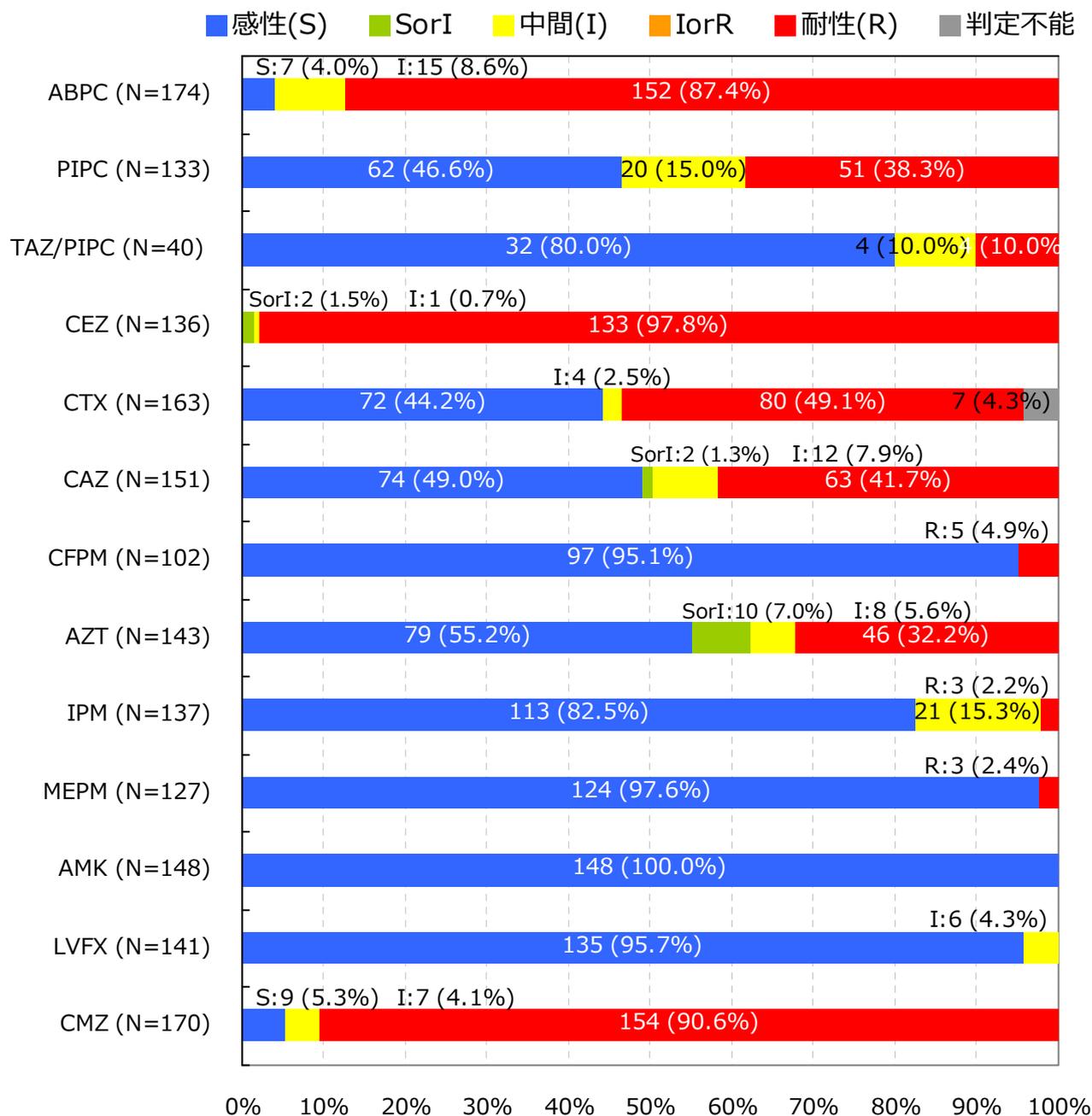
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

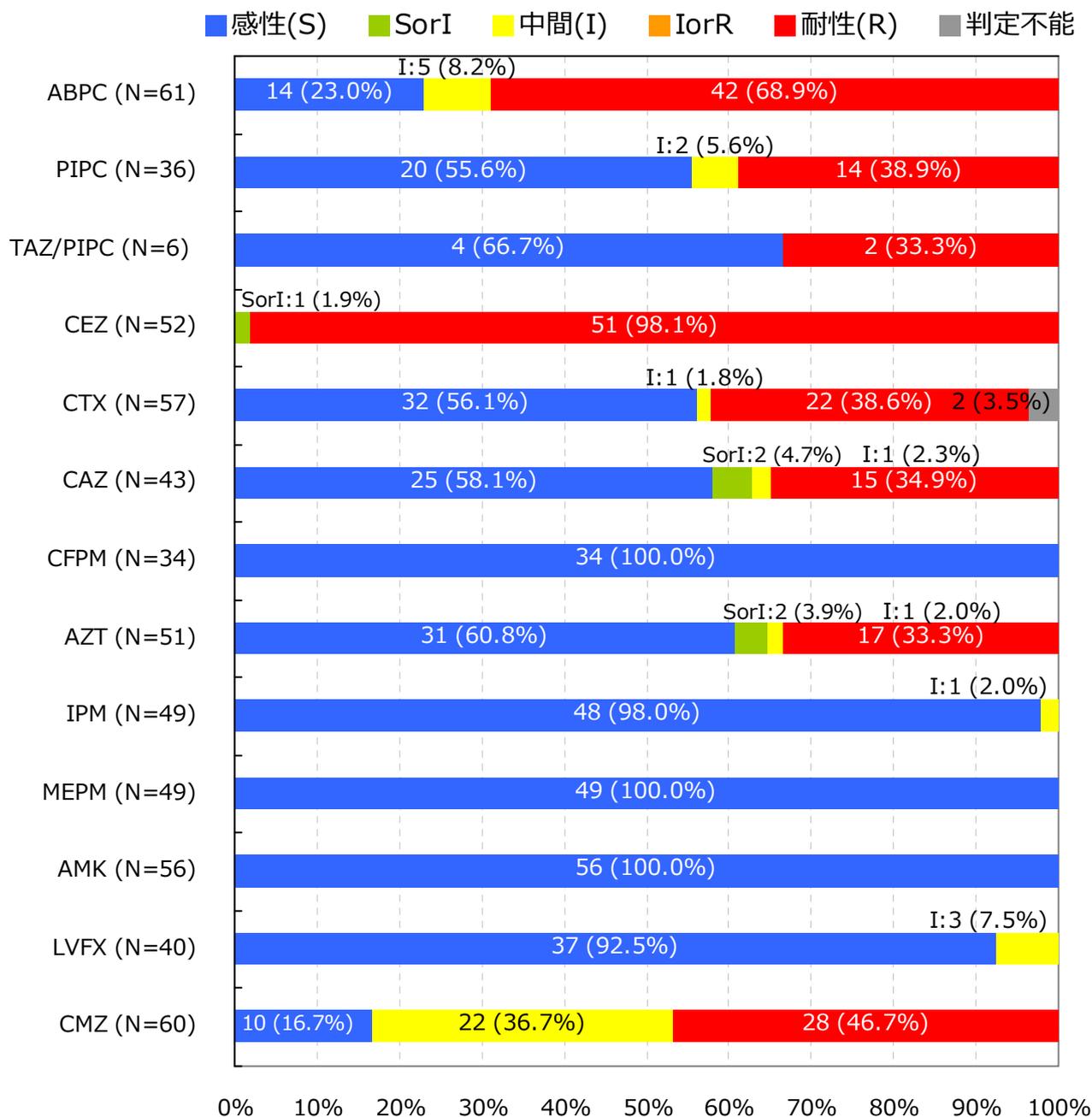
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

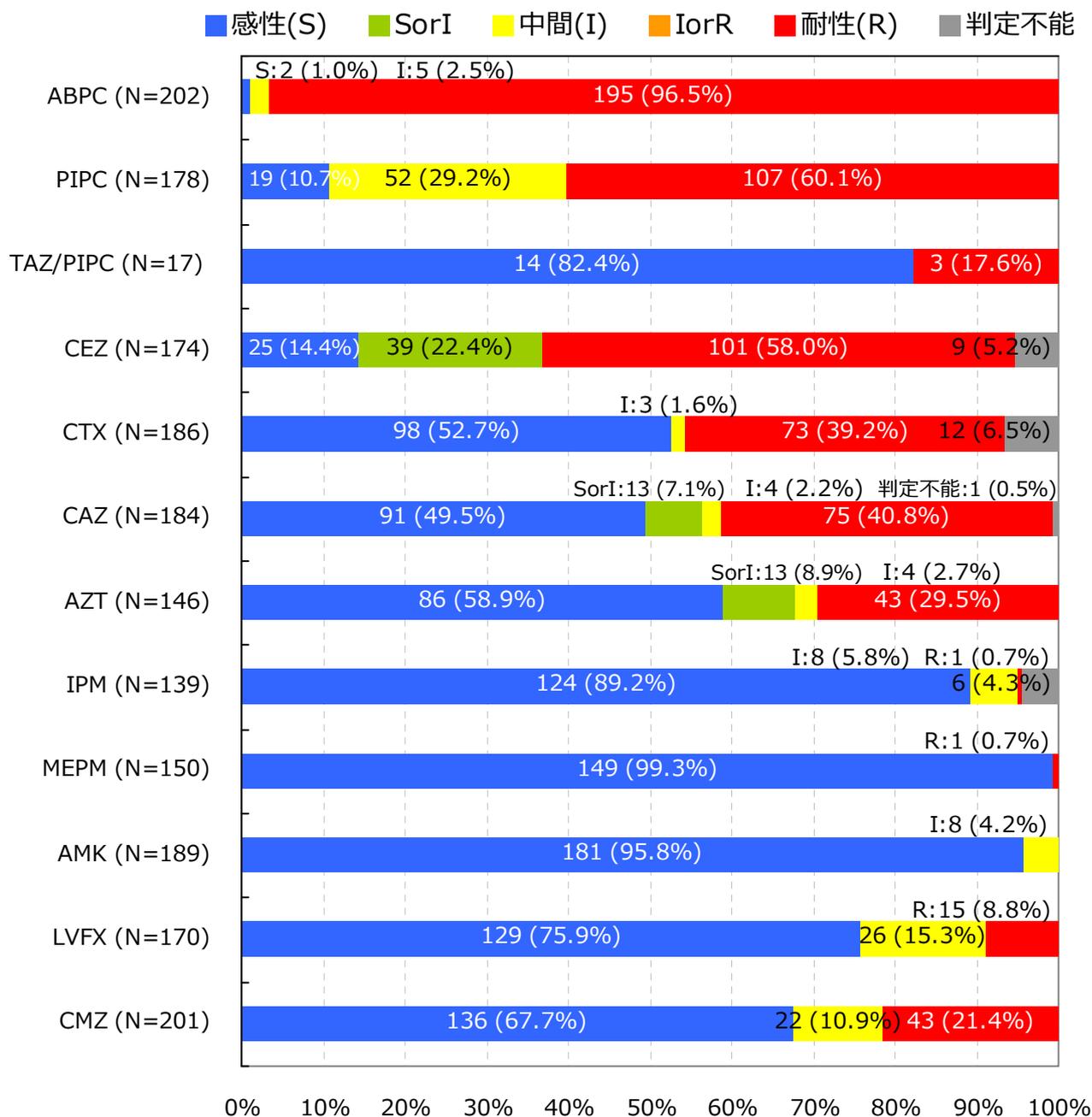
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

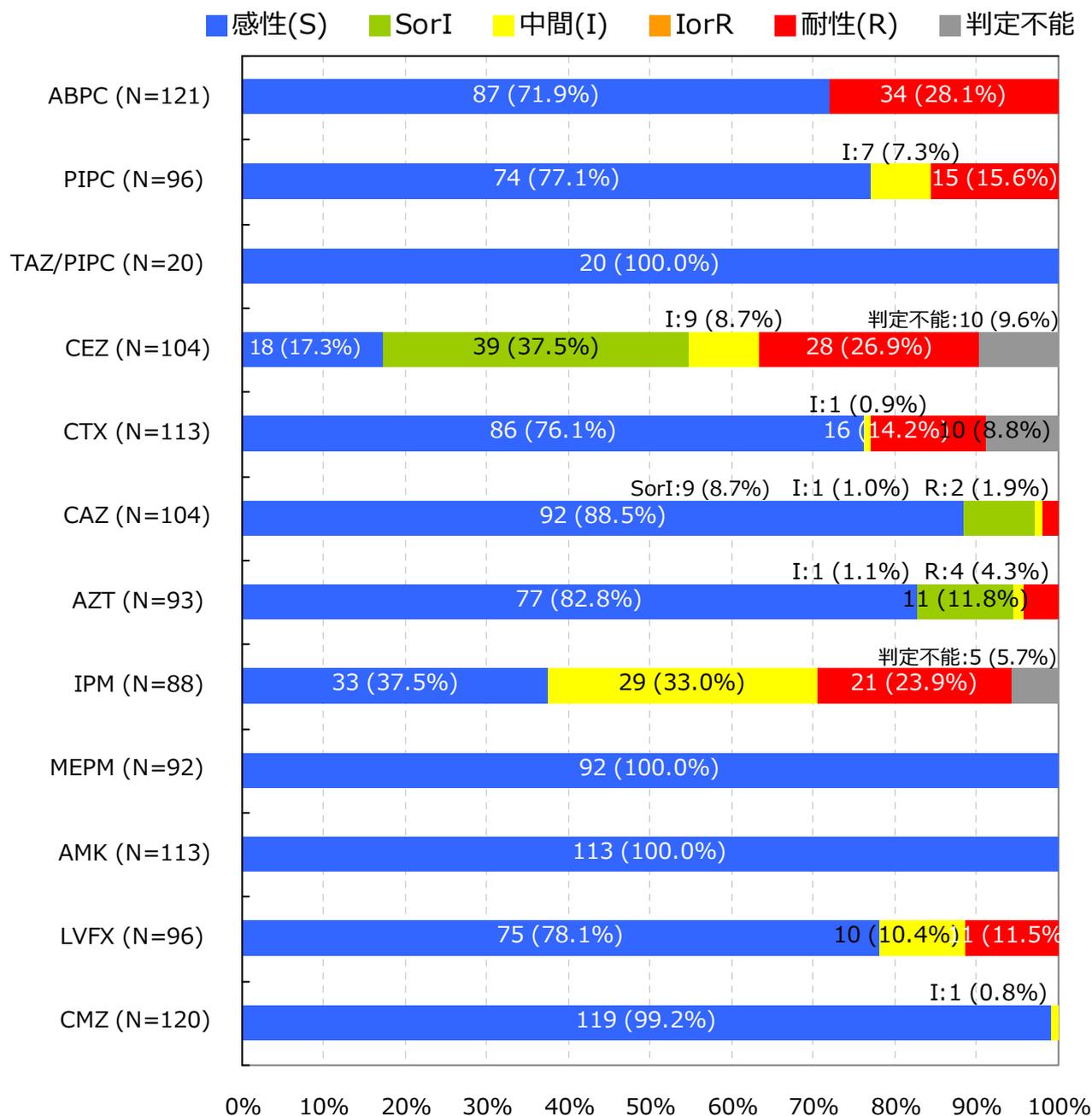
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

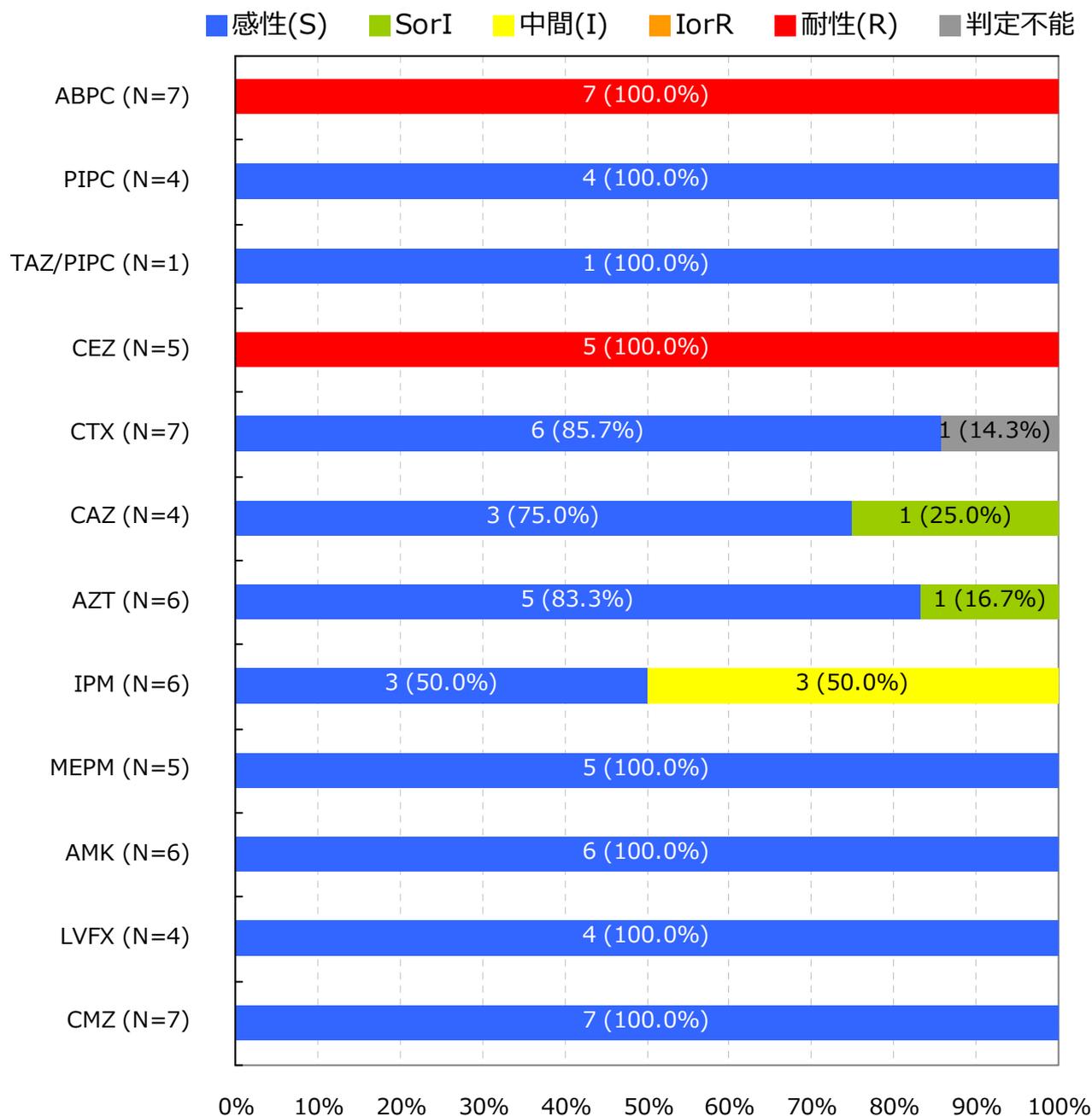
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

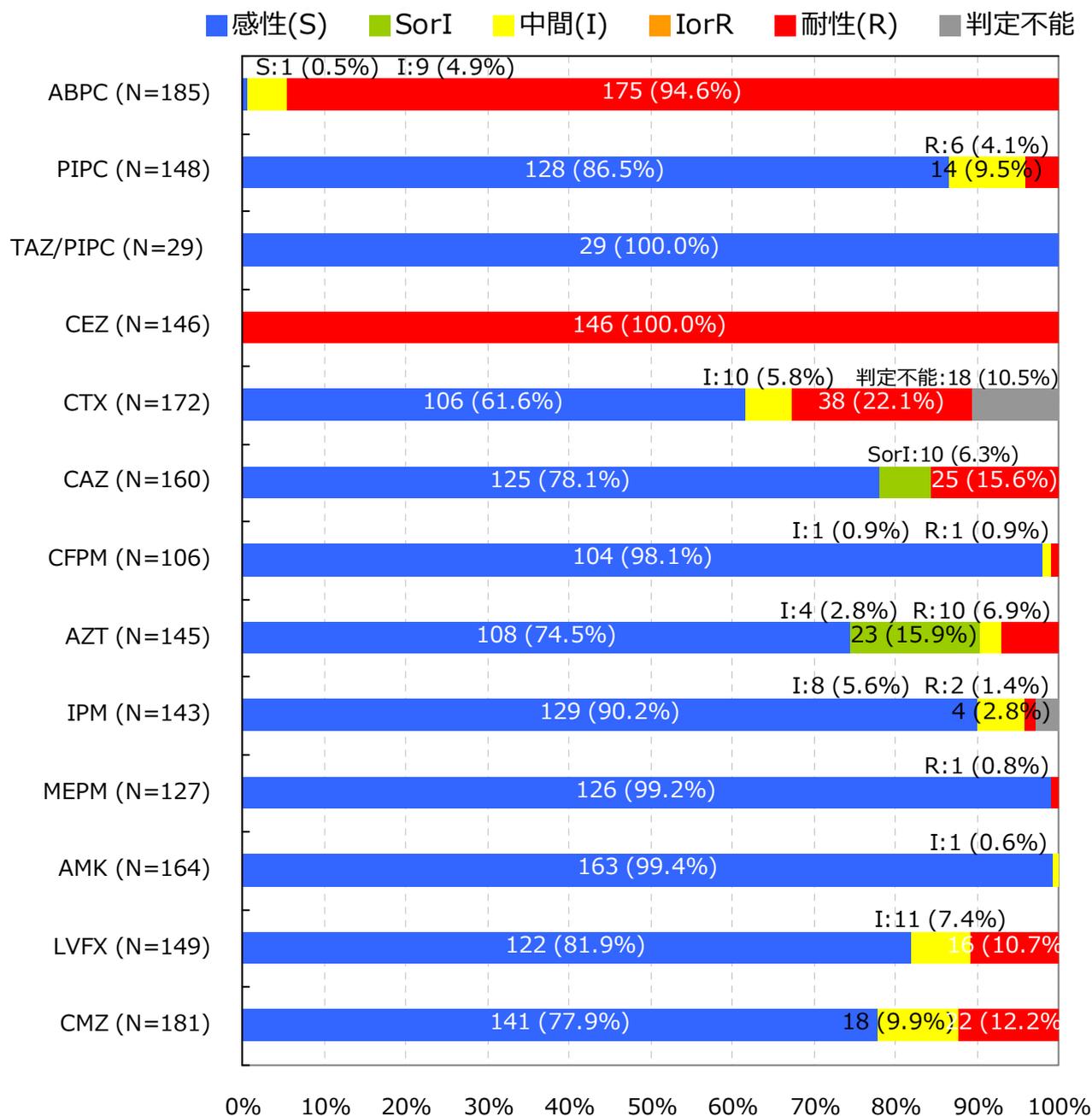
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

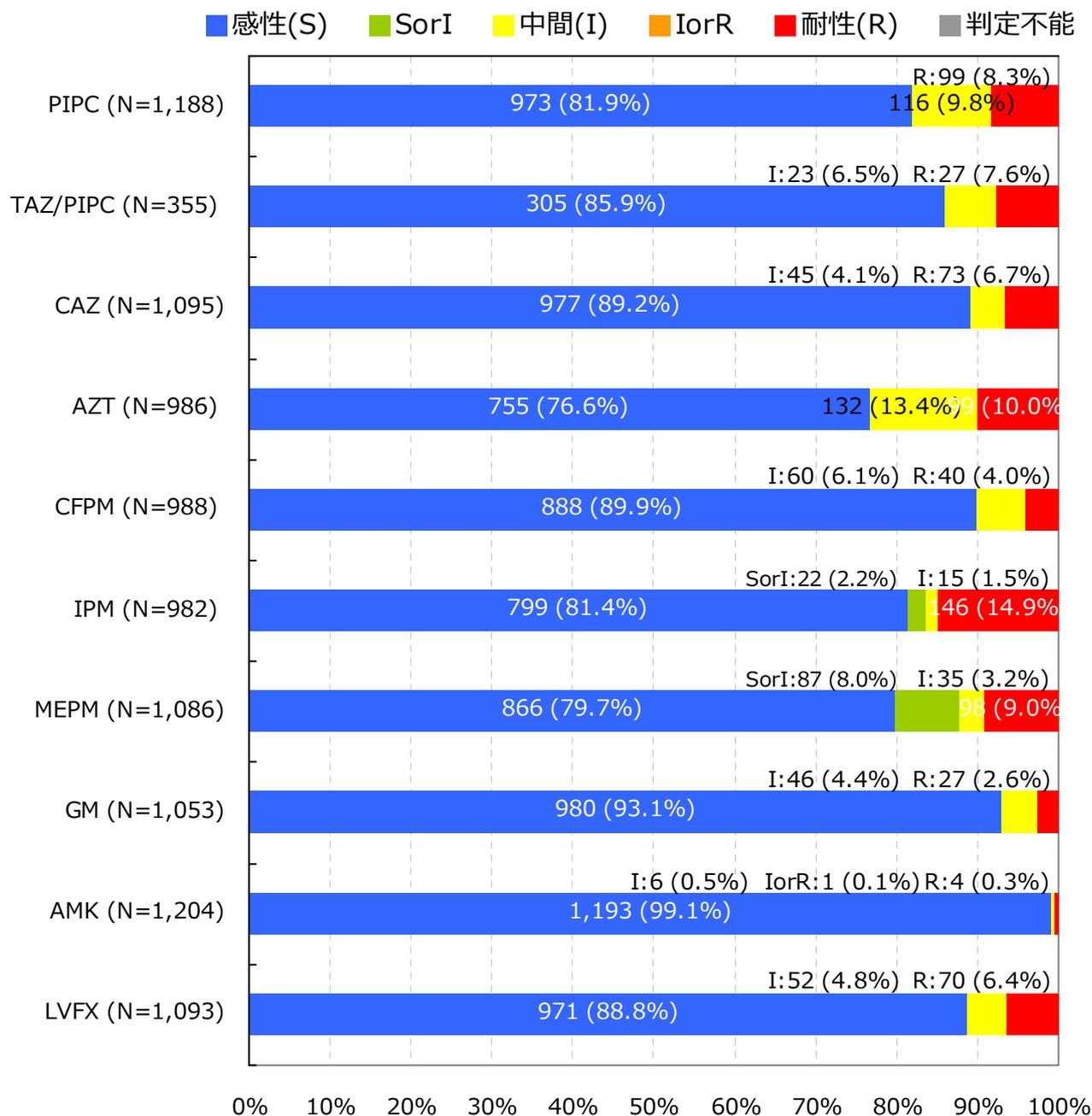
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

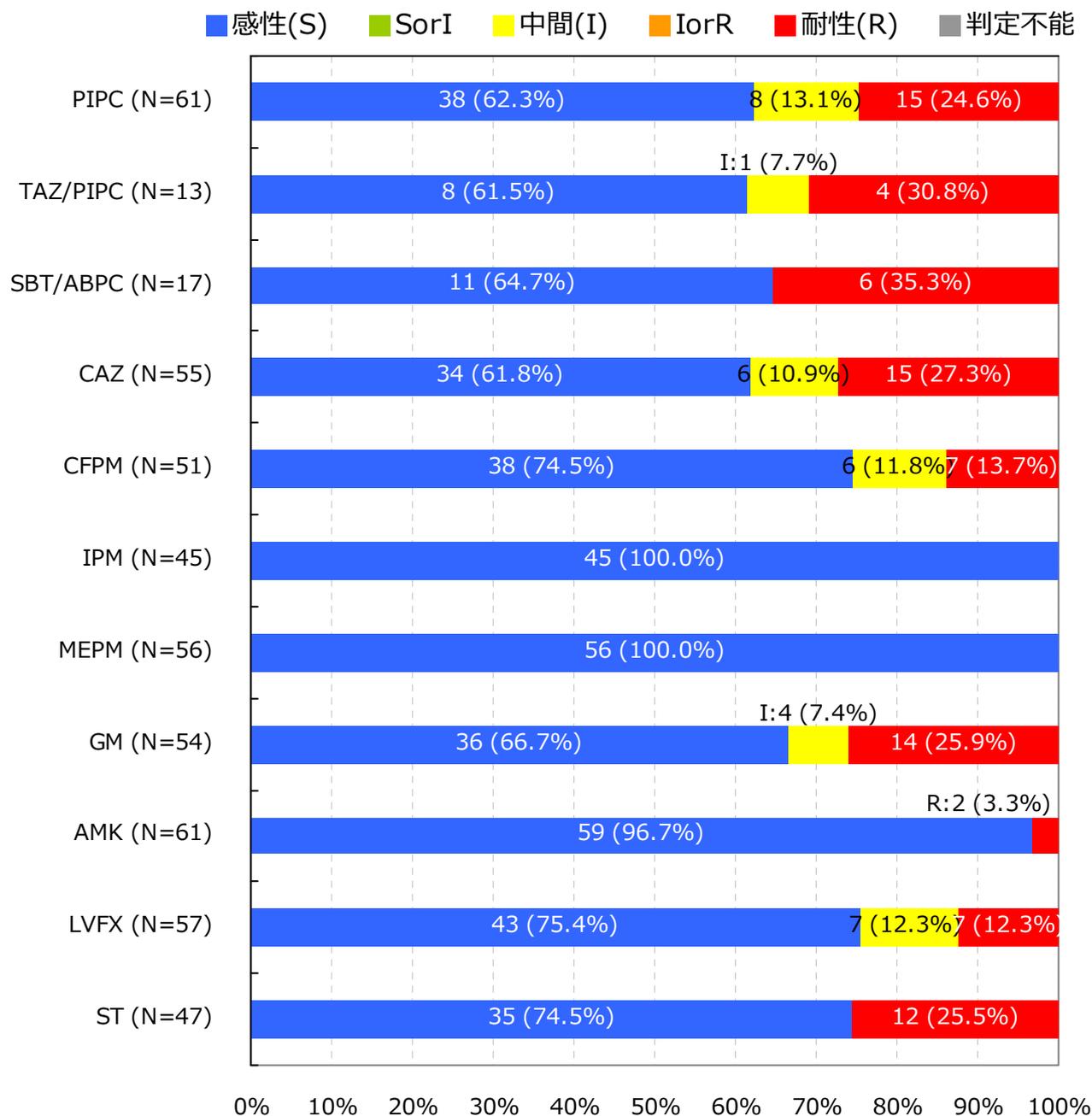
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

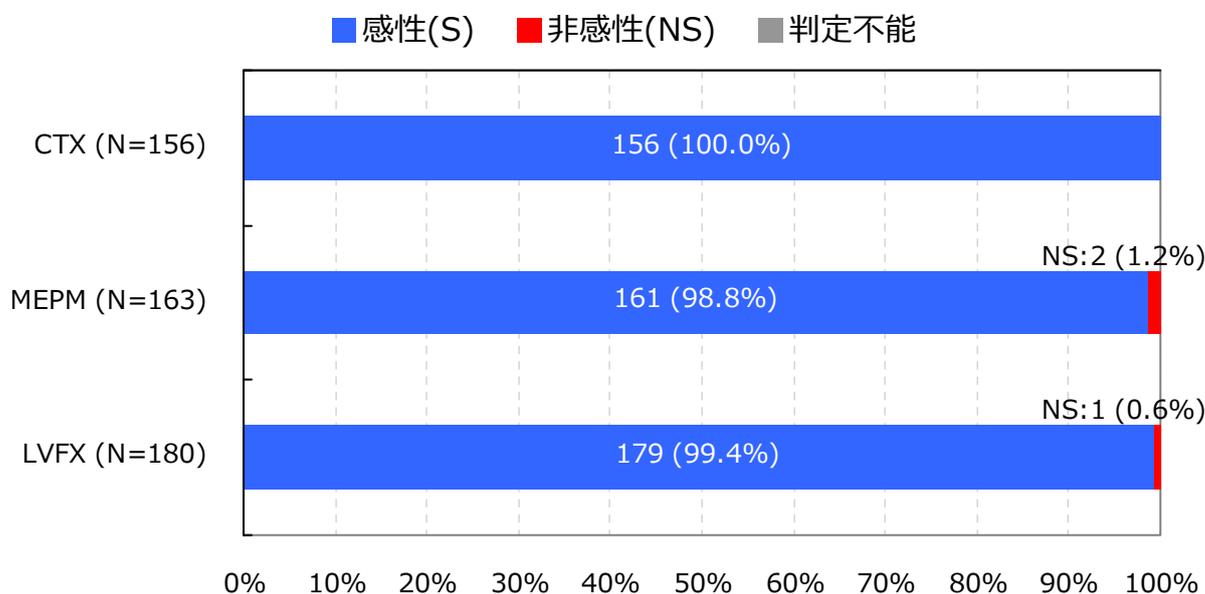
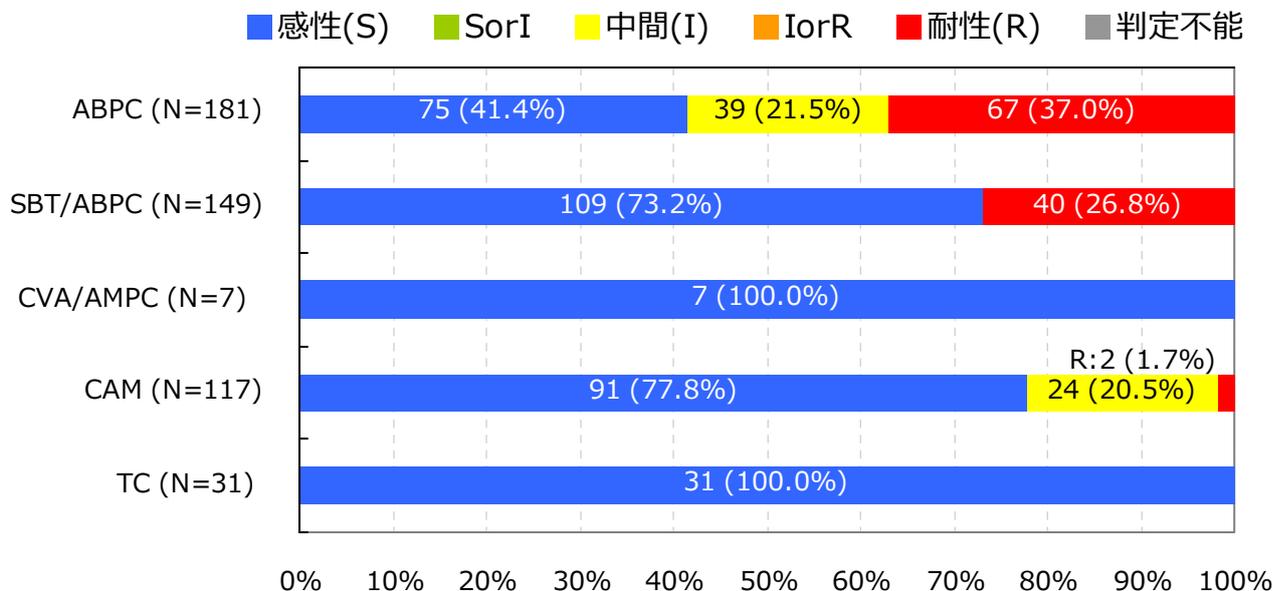
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

### 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

| 菌名 †                       | 概要*  | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0                                   |
|----------------------------|--|--|---|
| MRSA                       | MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌   | MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$   | 1301,1303                                       |
| VRSA                       | VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>   | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 1301,1303-1306                                  |
| VRE                        | 下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp.<br>・ VCM が微量液体希釈法で耐性 †<br>・ 選択培地で VRE と確認された菌<br>(注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く  | VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 1201,1202,1205,<br>1206,1209,1210,<br>1213-1217 |
| PRSP                       | PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>  | PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †   | 1131  |
| MDRP                       | 下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i><br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 †<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R” | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 4001  |
| MDRA                       | 下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp.<br>1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R”<br>2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 †<br>3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”                               | 1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ †<br>3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$   | 4400-4403                                       |
| CRE                        | 下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科<br>1. MEPM が耐性 †<br>2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”   | 1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ †<br>2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ<br>CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$  | 2000-2691,<br>3150-3151                         |
| カルバペネム<br>耐性緑膿菌            | IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>   | IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †<br>MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †  | 4001  |
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>肺炎桿菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>   | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2351  |

| 菌名 †                      | 概要*   | 微量液体希釈法<br>MIC 値   | 菌名コード Ver.4.0 |
|---------------------------|---|--|---------------|
| 第三世代セファロ<br>スポリン耐性<br>大腸菌 | CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>                               | CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$<br>CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$  | 2001-2007     |
| フルオロキノロン<br>耐性大腸菌         | フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i> | NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、<br>OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、<br>CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ | 2001-2007     |

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生動向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

MRSA : Methicillin-Resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

VRSA : Vancomycin-Resistant *Staphylococcus aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌

VRE : Vancomycin-Resistant *Enterococci* バンコマイシン耐性腸球菌

PRSP : Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌

MDRP : Multidrug-Resistant *Pseudomonas aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌

MDRA : Multidrug-Resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属

CRE : Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae* カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

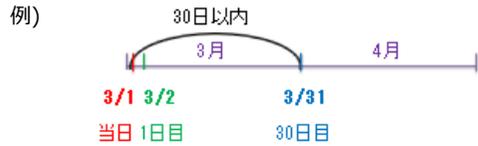
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

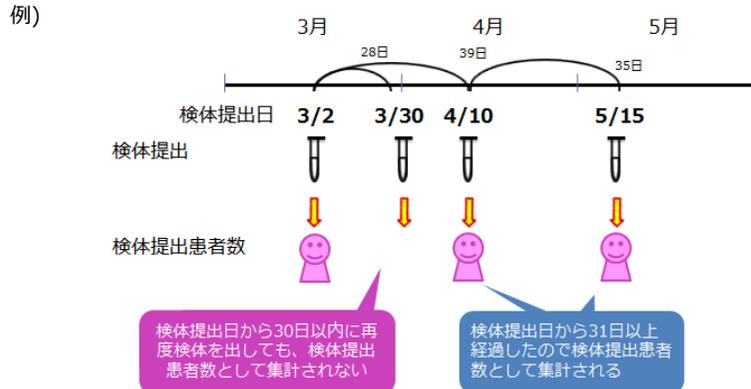
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



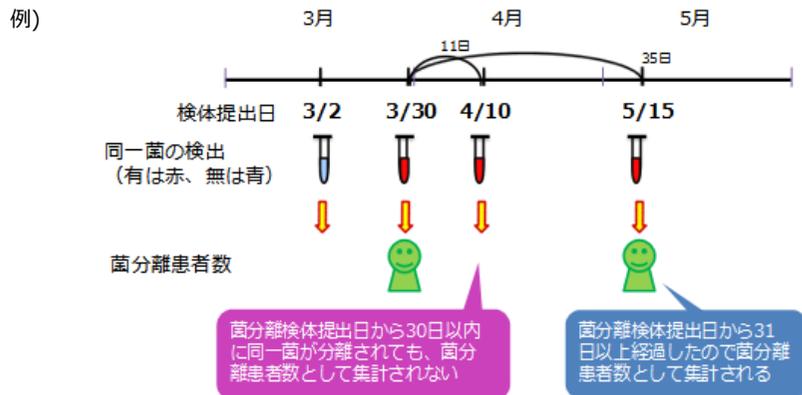
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



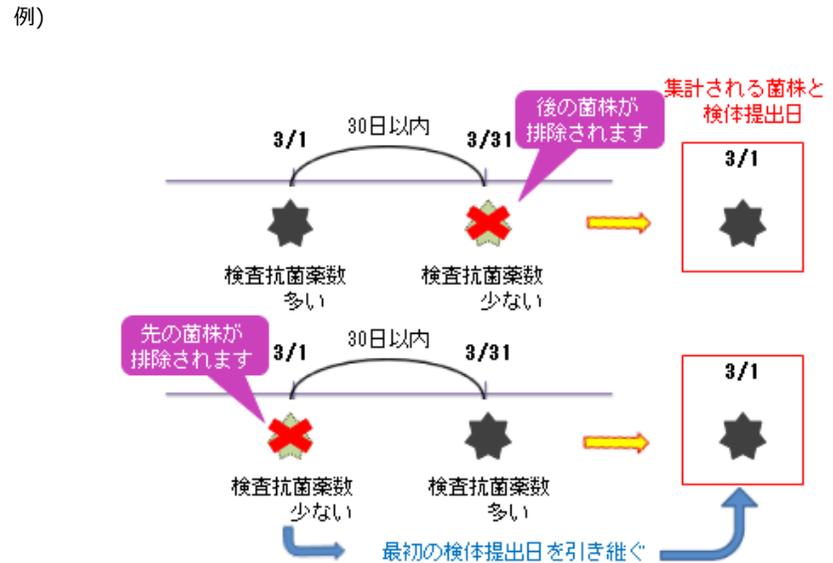
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC  $\geq$  4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC  $\leq$  16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

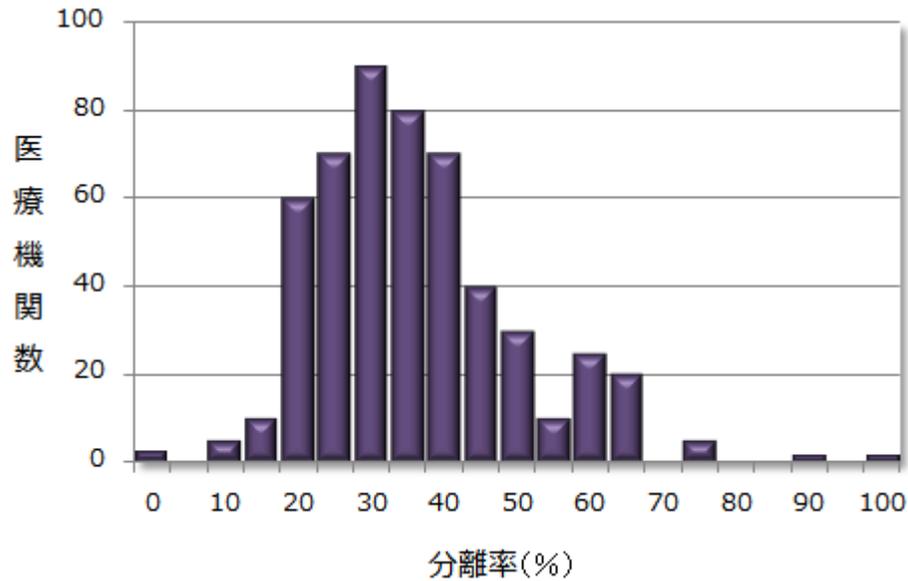
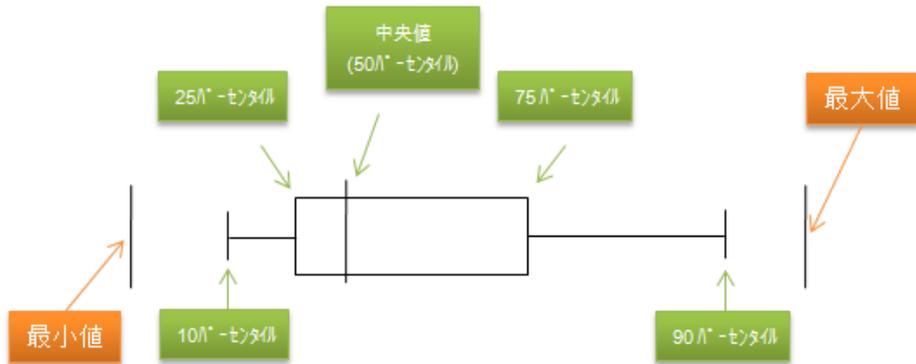
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図



|                      |                      | 集計対象医療機関の分離率 (%)の分布 |             |
|----------------------|----------------------|---------------------|-------------|
| 2010年 *              | 2011                 |                     |             |
| 1,069,216人           | 1,309,993人           |                     |             |
| 175,145人<br>(16.38%) | 210,382人<br>(16.06%) | 2.43                | 15.96 46.06 |
| 47,523人<br>(4.44%)   | 64,588人<br>(4.93%)   | 0.00                | 3.21 37.54  |